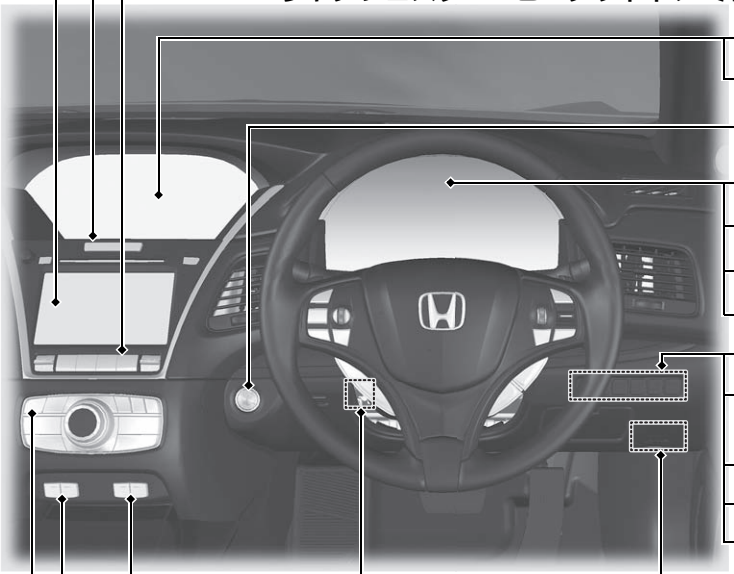
HONDA

Legend

オーナーズマニュアル

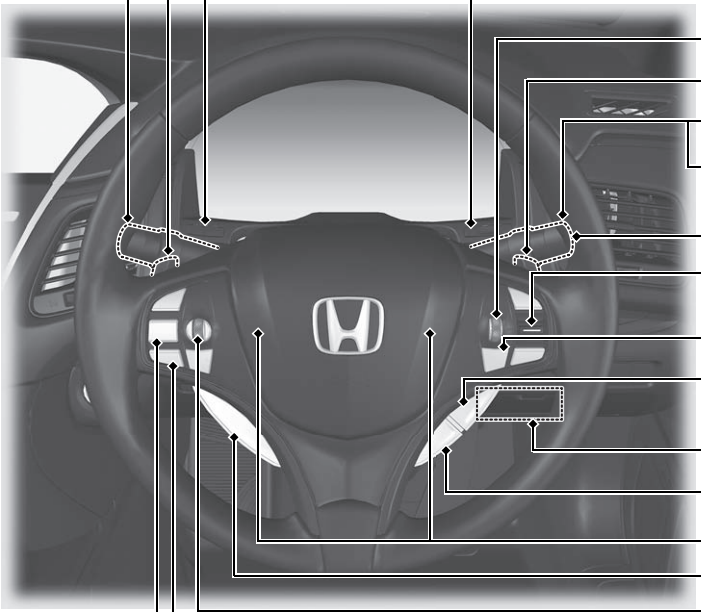
クイックガイド
安全なドライブ
計器の見かた
各部の操作
オーディオ
運転
メンテナンス
万一の場合には
資料
索引

ビジュアル目次



- オンデマンド・マルチユース・ディスプレイ P. 194
- オートエアコン P. 192
- 非常点滅表示灯（ハザードスイッチ）
- リヤデフロスター/ ヒーテッドドアミラー/ フロントガラス熱線スイッチ P. 161
- オーディオ/インフォメーション画面※
- Honda インターナビシステム※
- POWER スイッチ P. 146
- メーター P. 101
- 警告灯 P. 66
- 表示灯 P. 79
- マルチインフォメーションディスプレイ P. 103
- (VSA OFF)スイッチ P. 227
- 衝突軽減ブレーキ（CMBS）OFF スイッチ P. 244
- (車両接近通報 OFF)スイッチ P. 225
- パーキングセンサースイッチ P. 334
- 路外逸脱抑制スイッチ P. 300
- ボンネット解除ノブ P. 363
- ハンドル位置調節スイッチ P. 164
- フロントシートヒーター/ ベンチレーションスイッチ P. 190
- (カメラ)スイッチ P. 338

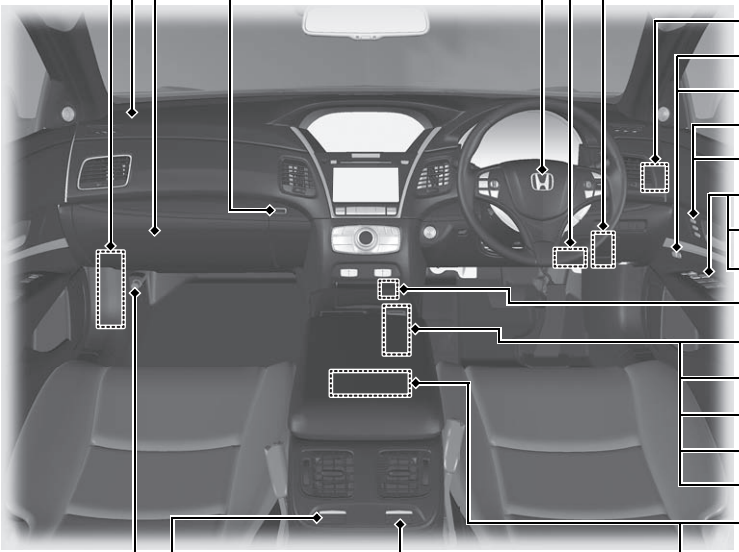
※：別冊の「Honda インターナビシステム」取扱説明書を参照してください。



- ワイパー/ ウォッシャースイッチ P. 156
- シフトスイッチ(シフトダウン) P. 222
- イルミネーションコントロールボタン P. 159
- ヘッドアップディスプレイボタン P. 160
- インフォメーション(i)ホイール P. 103
- シフトスイッチ(シフトアップ) P. 222
- 方向指示器(ウィンカー)/ ライトスイッチ P. 149, 150
- フォグライトスイッチ P. 152
- (CAMERA)スイッチ P. 337
- 渋滞追従機能付 ACC(アダプティブクルーズコントロール)スイッチ P. 257
- TRIP ボタン P. 104
- ディスタンススイッチ P. 267
- ETC 車載器 ※2
- LKAS スイッチ P. 274
- ホーンスイッチ(周辺)
- ステアリングヒーター P. 189
- オーディオリモートコントロールスイッチ ※1
- 発話スイッチ ※1
- 取り消しスイッチ ※1

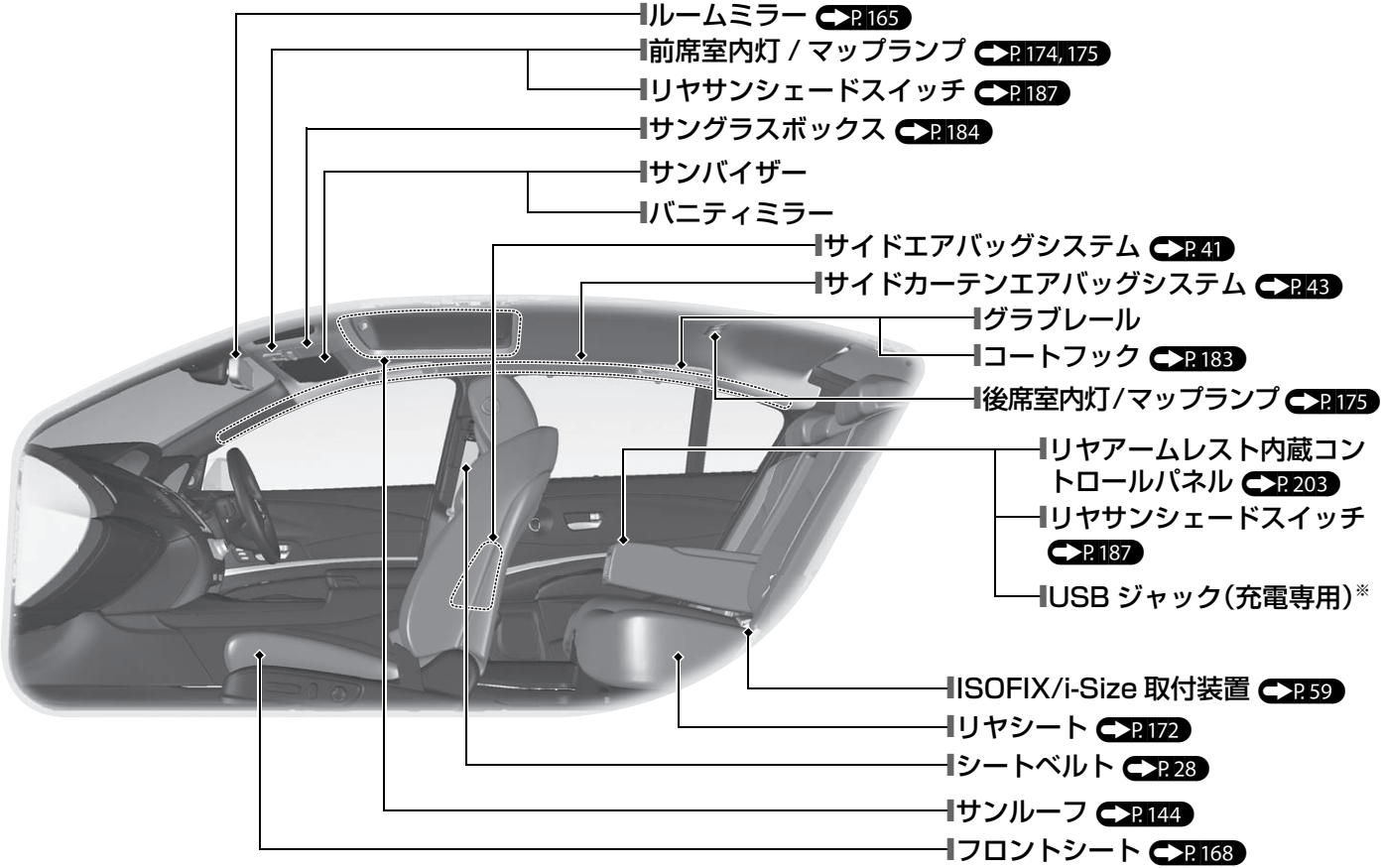
※1 ： 別冊の「Honda インターナビシステム」取扱説明書を参照してください。
※2 ： 別冊「ETC 車載器」を参照してください。

ビジュアル目次



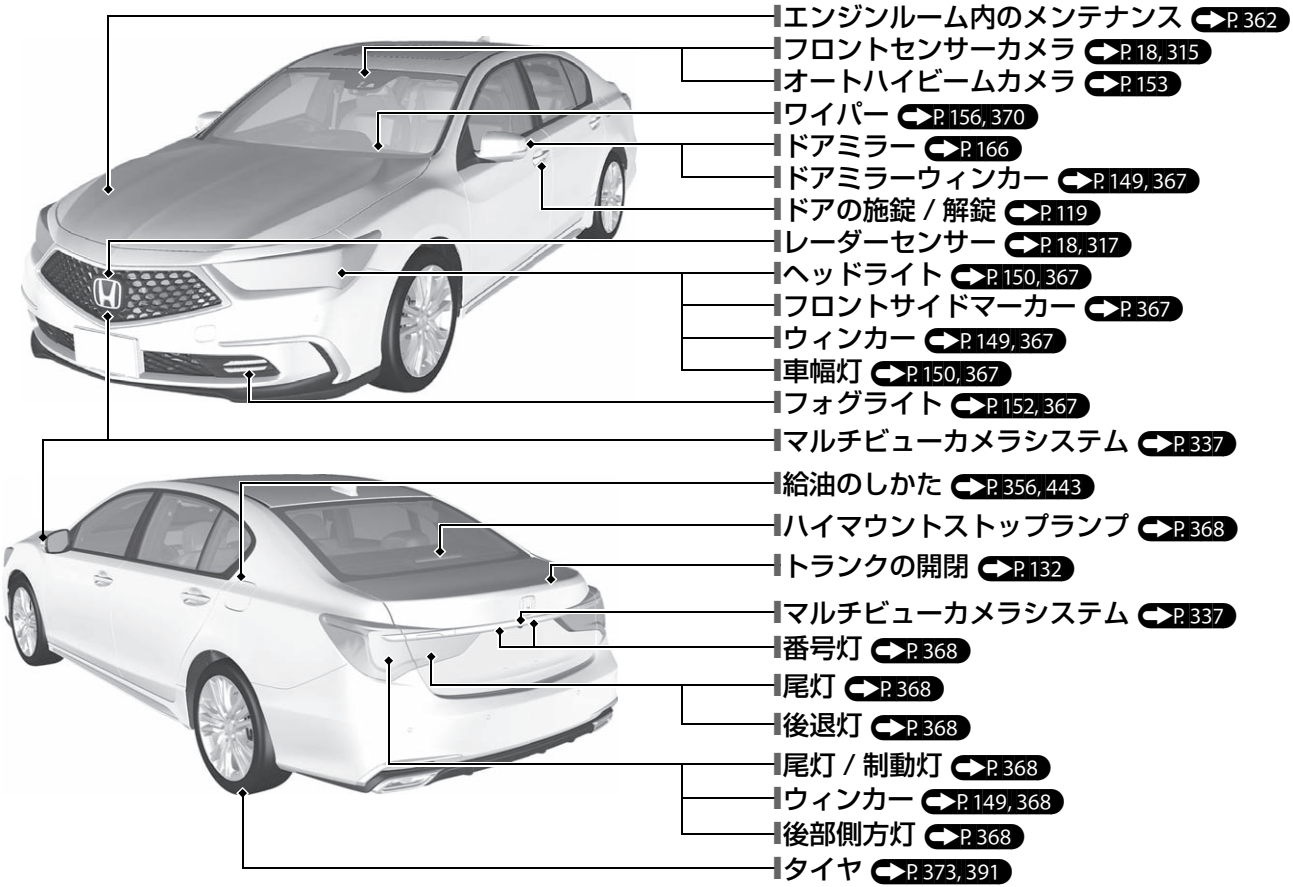
- 室内助手席側ヒューズボックス P. 438
- SRS エアバッグシステム（助手席用） P. 36
- グローブボックス P. 176
- グローブボックスボタン P. 176
- SRS エアバッグシステム（運転席用） P. 36
- 運転席 ニーエアバッグ P. 39
- 室内運転席側ヒューズボックス（A） P. 436
- 室内運転席側ヒューズボックス（B） P. 437
- トランクオープナー P. 133
- フューエルリッドオープナー P. 356
- メモリーボタン P. 163
- セットボタン P. 163
- ドアミラー調節スイッチ P. 166
- マスタードアロックスイッチ P. 129
- パワーウィンドースイッチ P. 141
- アクセサリーソケット P. 182
- パーキングスイッチ P. 217
- オートマチックブレーキホールドスイッチ P. 321
- SPORT スイッチ P. 223
- シフトポジションスイッチ P. 217
- パーキングブレーキスイッチ P. 318
- アクセサリーソケット P. 182
- AUX ジャック ※
- USB ジャック ※
- HDMI® ジャック ※
- リヤシートヒータースイッチ P. 191
- 発炎筒 P. 390

※：別冊の「Honda インターナビシステム」取扱説明書を参照してください。



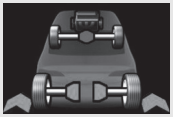
※：別冊の「Honda インターナビシステム」取扱説明書を参照してください。

ビジュアル目次


エンジンルーム内のメンテナンス P. 362
フロントセンサーカメラ P. 18, 315
オートハイビームカメラ P. 153
ワイパー P. 156, 370
ドアミラー P. 166
ドアミラーウィンカー P. 149, 367
ドアの施錠 / 解錠 P. 119
レーダーセンサー P. 18, 317
ヘッドライト P. 150, 367
フロントサイドマーカー P. 367
ウィンカー P. 149, 367
車幅灯 P. 150, 367
フォグライト P. 152, 367
マルチビューカメラシステム P. 337
給油のしかた P. 356, 443
ハイマウントストップランプ P. 368
トランクの開閉 P. 132
マルチビューカメラシステム P. 337
番号灯 P. 368
尾灯 P. 368
後退灯 P. 368
尾灯 / 制動灯 P. 368
ウィンカー P. 149, 368
後部側方灯 P. 368
タイヤ P. 373, 391

SPORT HYBRID SH-AWD (Super Handling All Wheel Drive)

SPORT HYBRID SH-AWD は、モーターとガソリンエンジンを搭載しており、その両方を動力源として使用します。そして、モーターは高電圧バッテリーから供給された電力により作動します。

走行モード	EV 走行(発進加速時)	エンジン走行	EV 走行(低速クルーズ時)	ハイブリッド走行
走行状態	発進加速時 • リヤモーターの動力のみで走行	ゆるやかな加速時 • エンジンの動力のみで走行	低速クルーズ時 • リヤモーターの動力のみで走行	しっかりとした加速時 • エンジンとモーターの動力で走行
パワーフローモニター※1				
フロントモーター	停止	発電 / 出力なし	停止	発電 / 作動
リヤモーター	作動	出力なし	作動	作動
エンジン	停止	作動	停止	作動
高電圧バッテリー	放電	充電 / 放電	放電	充電 / 放電

※1 ： 上段 : ヘッドアップディスプレイ、下段 : オーディオ / インフォメーション画面

走行モード	エンジン走行	回生	AWD モード
走行状態	高速クルーズ走行中 • エンジンの動力のみで走行	減速中 • モーターが回生ブレーキで得た電力を高電圧バッテリーへ供給します。	滑りやすい状況 • エンジンとモーターの動力で走行しつつ、リヤモーターで発電
パワーフローモニター※1			
フロントモーター	発電 / 出力なし	回生	発電
リヤモーター	出力なし	回生	作動
エンジン	作動	停止	作動
高電圧バッテリー	充電 / 放電	充電	充電 / 放電

※1 ：上段：ヘッドアップディスプレイ、下段：オーディオ / インフォメーション画面

エネルギー効率について

通常のガソリンエンジン搭載車と同じように、この車の燃費や航続可能距離は、運転のしかたによって変わります。急加速をおこなうと、動力源がエンジンへ切り換わりやすくなります。また暖房負荷や冷房負荷が高いとき、航続可能距離が変わります。いずれの場合も高電圧バッテリーの残量は早く低下します。

バッテリーのタイプ

2 種類のバッテリーが装備されています。エアバッグ、ライト類や電気アクセサリーを使用するための 12V バッテリーと、モーターの駆動と 12V バッテリーを充電する高電圧バッテリーです。

回生エネルギーと回生ブレーキ

減速時または下り坂では、モーターは発電機として働き、加速時に使った電力を回生エネルギーとして取り戻します。
この回生ブレーキ機能は、エンジンブレーキと同じような働きをします。

ハイブリッド車について

高電圧部位や高電圧配線部は電磁シールド構造になっています。
従来の車や家電製品と比べて電磁波が多いということはありません。

エンジンの自動停止・始動

車の状態に応じて、エンジンが自動的に停止、始動します。停車時は、エンジンが停止状態から始動することがあります。
ただし、以下の状態では自動的に停止しないことがあります。
●急加速、登坂、高速走行時など、瞬間的に駆動力が足りず補助が必要なとき
●暖房負荷や冷房負荷が高いとき
●高電圧バッテリーの温度が高いとき、または低いとき
●高電圧バッテリーの充電量が低いとき
●SPORT モードスイッチを ON しているときP. 223
これらの状態以外でも、エンジンが自動的に停止しない場合があります。

次のようなときは、エンジンが自動的に始動することがあります。
●シフトポジションが P のまま、運転席のシートベルトをはずし、運転席ドアを開けたとき

• ハイブリッド車特有の音について

パワーシステム起動時や走行中に、次のような音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

聞こえるとき	状況
エンジンの始動・停止時	トランスミッションの作動音が車両前方から聞こえます。
加速時	モーター作動音、エンジン作動音がエンジンルーム内、車両後方から聞こえます。
減速時	エネルギーを回生するために、モーター回生動作音がエンジンルーム内、車両後方から聞こえます。 また、低速走行でブレーキを踏んだときやブレーキシステムが切り換わるときにブレーキ装置から、音が聞こえることがありますが、異常ではありません。
エアコン、ヒーター作動時	コンプレッサーやヒーターシステムの作動音がエンジンルーム内から聞こえます。

ご使用時の注意

冷却風取り入れ口をふさがない

冷却風取り入れ口がふさがれると高電圧バッテリーの温度が上昇するおそれがあります。高電圧バッテリーを保護するために出力が制限され、パワーシステム警告灯や 12V バッテリー充電警告灯が点灯することがあります。

高電圧システムには触れない

高電圧システムの分解や配線取り外しなどを行うと感電するおそれがあります。点検・修理は、必ず Honda 販売店にご相談ください。

事故が起きたとき

●感電に注意する

▶ 車体が大きく破損・変形するような事故が起きたときは、感電するおそれがあります。高電圧部位やそれらを接続する配線（オレンジ色）には、絶対に触れないでください。

●高電圧バッテリー液に触れない

▶ 高電圧バッテリー液がもれているときは、バッテリー液が目や皮膚に付くとその部分が侵されますので、十分に注意してください。万一付着したときは、すぐに清浄な水で数分間洗浄した後、ただちに医師の診察を受けてください。

●火災が発生したら電気火災用消火器を使用する

▶ 少量の水での消火は、かえって危険な場合がありますので、水はかけないでください。

●Honda 販売店で修理を受ける。

▶ 車体が損傷を受けたときは、必ず Honda 販売店で修理を受けてください。

高電圧遮断システム

事故などにより車体が衝撃を受けたときに、高電圧遮断システムが作動する場合があります。システムが作動すると、高電圧システムが自動的に OFF になり、走行可能状態になりません。高電圧システムを再始動するには、Honda 販売店にご連絡ください。

高電圧バッテリーは、リチウムイオンバッテリーを使用しています。廃棄処分については特別な取り扱いが必要です。廃車するときは、必ず下記にご相談ください。

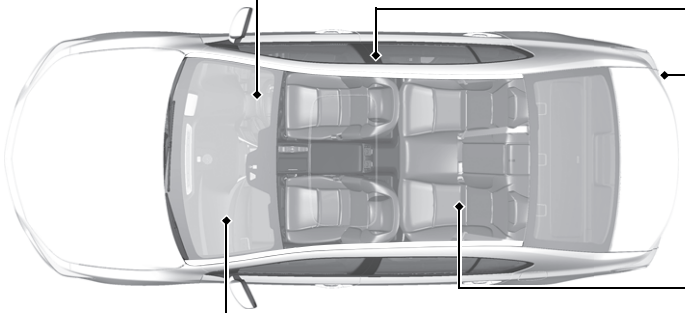
ホンダバッテリー回収窓口 0120-910574（フリーダイヤル）

安全なドライブ P. 26

●正しい運転姿勢でシートベルトを着用してください。
●同乗者にも必ずシートベルトを着用させます。
●妊娠中のかたは腹部を圧迫しないようにシートベルトを着用してください。

運転を始める前の確認 P. 208

●運転前にフロントシートの位置、ヘッドレスト、ハンドルの位置、ミラー類の角度を調節します。



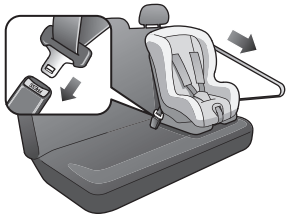
シートベルト P. 28

排気ガスについて P. 64

●車の排気ガスには有害な一酸化炭素が含まれているため、ガレージなどの密閉された場所ではパワーシステムを起動しないでください。

お子さまの安全 P. 49

●シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。



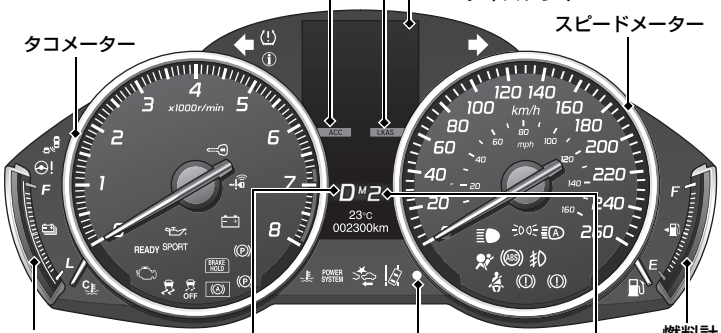
エアバッグ P. 36

●万一の衝突の際に、乗員への衝撃を緩和するために、エアバッグが装備されています。

計器の見かた P.65

警告灯 P.66/ 表示灯 P.79/ メーター P.101/ マルチインフォメーションディスプレイ P.103/ ヘッドアップディスプレイ P.109

ヘッドアップディスプレイ



警告灯 / 表示灯

- ブラインドスポットインフォメーション警告灯
- EPS システム警告灯
- PGM-FI 警告灯
- 油圧警告灯
- SPORT　SPORT モード表示灯
- VSA 警告灯
- VSA OFF 警告灯
- イモビライザーシステム表示灯
- Honda スマートキーシステム警告灯
- 12V バッテリー充電警告灯
- BRAKE HOLD　オートマチックブレーキホールドシステム表示灯
- オートマチックブレーキホールド表示灯
- 電子制御パーキングブレーキシステム警告灯
- 電子制御パーキングブレーキ作動警告灯

警告灯 / 表示灯

- タイヤ空気圧警報システム警告灯
- インフォメーション表示灯
- 路外逸脱抑制機能警告灯

警告灯 / 表示灯

- ライト点灯表示灯
- ハイビーム表示灯
- フォグライト点灯表示灯

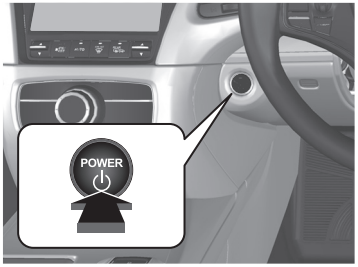
警告灯 / 表示灯

- 方向指示器表示灯
- エアバッグシステム警告灯
- ABS 警告灯
- ブレーキ警告灯(レッド)
- ブレーキシステム警告灯(オレンジ)
- CMBS 警告灯
- 燃料残量警告灯
- オートハイビーム表示灯
- 高水温警告灯
- 低水温表示灯
- シートベルト非着用警告灯
- READY　READY 表示灯
- POWER SYSTEM　パワーシステム警告灯

各部の操作 P.117

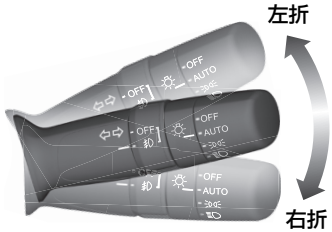
POWER スイッチ P.146

スイッチを押すと、パワーモードが切り換わります。



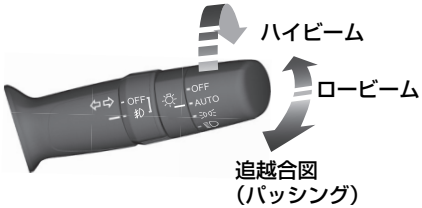
ウィンカー P.149

方向指示器(ウィンカー)スイッチ



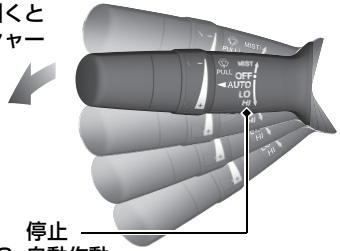
ライト P.150

ライトスイッチ



ワイパー P.156

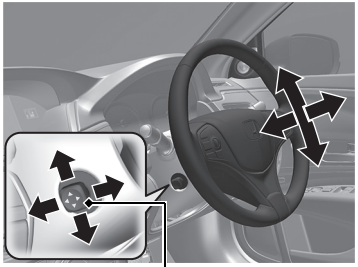
ワイパー/ ウォッシャースイッチ



- OFF　停止
- AUTO　自動作動
- LO　低速
- HI　高速

ハンドル位置の調節 P. 164

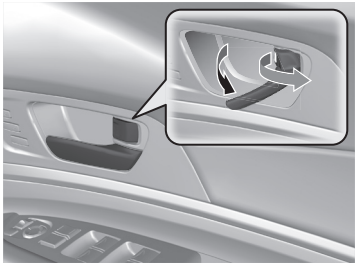
●調節スイッチを押し、ハンドルの位置を調節します。



調節スイッチ

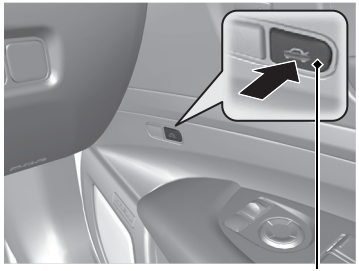
運転席ドアハンドルでの解錠 P. 129

●運転席ドアは、内側のハンドルを引くと施錠していてもドアが開きます。



トランク P. 132

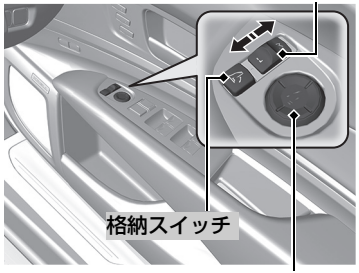
●トランクは、運転席ドアにあるトランクオープナーを押すか、キーレスエントリーのトランク解錠ボタン、トランクオープンスイッチを押して開きます。



トランクオープナー

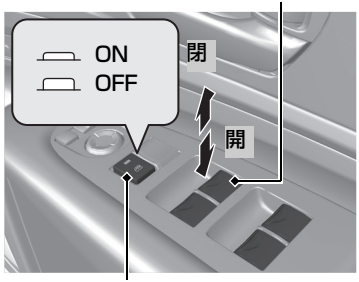
ドアミラー P. 166

●パワーモードが ON モードのとき、左右のドアミラーの格納または角度の調節ができます。



パワーウィンドー P. 141

●パワーモードが ON モードのとき、ウィンドーの開閉ができます。

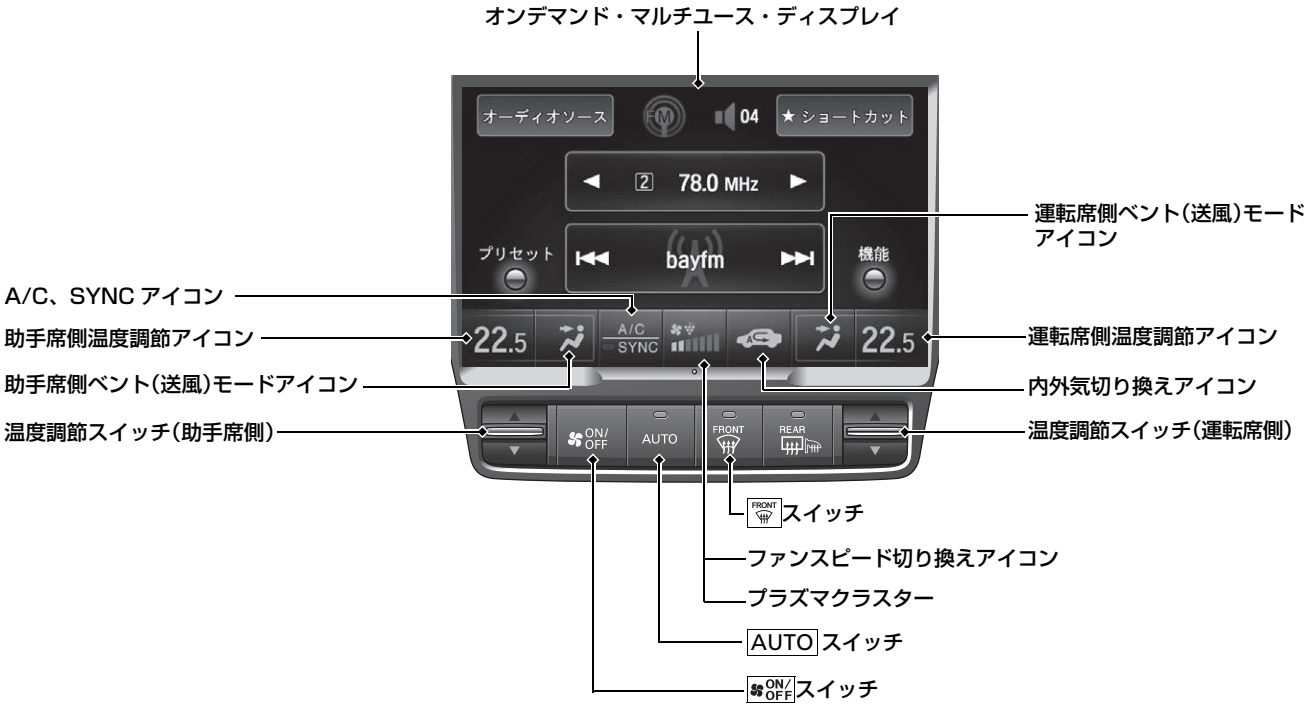


パワーウィンドーロックボタン

- ON　運転席以外のウィンドーが非作動
- OFF　全てのウィンドーが作動

エアコン P.192

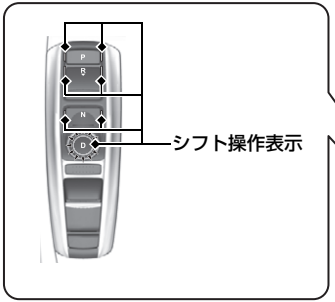
●AUTO を押すと、オートエアコンが作動します。
●ON/OFFを押すと、止まります。
●前面ガラスの曇りを取るには、FRONTを押します。



運転 P. 207

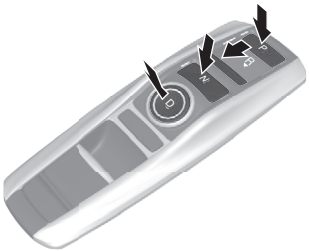
電子制御シフトポジションスイッチ P. 217

●パーキングスイッチを押し、ブレーキを踏みながらパワーシステムを起動します。
●シフトポジションの選択



シフトポジション表示灯
選択されたシフトポジションと現在のギアポジションが表示されます。

シフトポジション表示灯



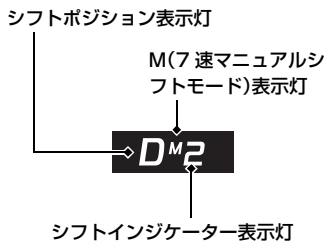
P パーキング
駐車またはパワーシステムを起動するとき

R リバース
車を後退

N ニュートラル
駆動力が伝達されない状態

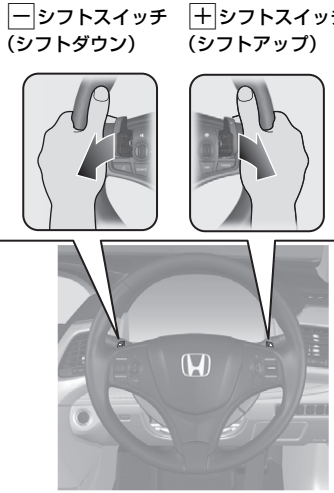
D ドライブ
- 通常走行
- 一時的に 7 速マニュアルシフトモードにするとき
- 7 速マニュアルシフトモードにするとき （SPORT モード走行時）

7 速マニュアルシフトモード P. 222



シフトポジションが D で、SPORT モードスイッチが OFF のとき

- ハンドルから手を放さずシフトスイッチを引いて、シフト操作ができます。
- ハンドルにあるシフトスイッチを引くと、一時的に 7 速マニュアルシフトモードになります。シフトインジケーターにギヤ位置が表示されます。



シフトポジションが D で、SPORT モードスイッチが ON のとき

- ハンドルにあるシフトスイッチを引くと、7 速マニュアルシフトモードになります。M(7 速マニュアルシフトモード)表示灯が点灯し、シフトインジケーターにギヤ位置が表示されます。

CMBS の ON と OFF

P. 244

- CMBS は、運転者のブレーキ操作を支援し、衝突を回避したり追突の衝撃を軽減する装置です。
- パワーシステムを起動すると自動的に CMBS は ON になります。
- CMBS を停止(OFF)状態にするには、CMBS OFF を「ピーッ」とブザーが鳴るまで押します。再度、使用(ON)にするには CMBS OFF を「ピーッ」とブザーが鳴るまで押します。

VSA の ON と OFF

P. 226

- VSA とは、急激な車両の挙動変化を抑制しようとする装置です。
- パワーシステムを起動すると自動的に VSA は ON になります。
- VSA を停止(OFF)状態にするには、を「ピッ」とブザーが鳴るまで押します。再度、使用(ON)するにはを「ピッ」とブザーが鳴るまで押します。

タイヤ空気圧警報システム（TPMS）

P. 233

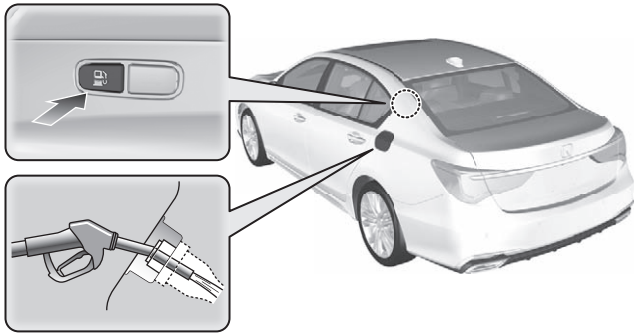
- TPMS はタイヤの空気圧を監視します。
- TPMS はパワーシステムを起動するごとに自動的に作動します。

ガソリンを入れる

P. 355

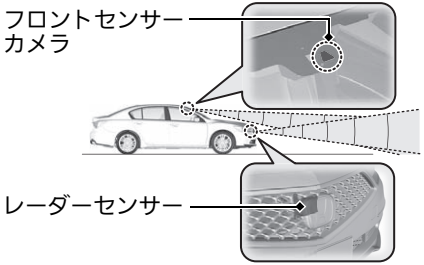
指定燃料：
無鉛プレミアムガソリン
プレミアムバイオ混合ガソリン(E10/ETBE22)
タンク容量：57 リットル

1. 運転席ドアにあるフューエルリッドオープナーを押してリッドを開ける。
2. 給油ノズルの自動停止後、約5秒待ってから給油ノズルを抜く。



ホンダセンシング P. 236

フロントグリル内に設置したレーダーセンサーと、フロントウインドウ内上部に設置したフロントセンサーカメラの、特性の異なる 2 種類のセンサーで構成された運転支援システムです。



衝突軽減ブレーキ（CMBS） P. 240

自車が、前方の車両のほぼ真後ろから追突するおそれがあるときや、対向車に正面から衝突するおそれがあるときおよび歩行者に衝突するおそれがあるときに、運転者のブレーキ操作を支援し、衝突を回避したり衝撃を軽減するシステムです。

誤発進抑制機能 P. 248

停車時や約 10km/h 以下で走行しているとき、自車のほぼ真正面に車両などの障害物があるにもかかわらず、アクセルペダルを踏み込んだ場合に、パワーシステム出力を抑制し、急な発進を防止して衝突時の衝撃を軽減する機能です。

歩行者事故低減ステアリング P. 251

歩行者と白線（黄線）を検出し、ステアリング操作を支援することにより運転者の衝突回避操作を促します。

渋滞追従機能付 ACC（アダプティブクルーズコントロール） P. 257

先行車との車間距離を測定して、高速道路の渋滞時に適切な加減速を行い、設定車間距離を保持しながら、運転者がアクセルやブレーキを操作せずに走行、停車出来るよう支援するシステムです。

LKAS（車線維持支援システム） P. 271

左右の白線（黄線）をとらえ、電動パワーステアリングの動きをアシストし、車線維持走行を補助するためのシステムです。

トラフィックジャムアシスト（渋滞運転支援機能）

P. 282

前走車と左右の白線（黄線）をとらえ、前走車の車速変化に合わせ、車間距離を保ちながら車線の中央を走行するようにハンドル操作をアシストし、高速道路の渋滞時に車線維持走行を補助するための機能です。

路外逸脱抑制機能 P. 297

車両の車線逸脱の可能性を検知すると、車線逸脱を回避するように運転を支援し警告で知らせる機能です。

先行車発進お知らせ機能

P. 304

信号待ちなどで、先行車が発進したことに気づかず停止し続けたときに、音と表示で運転者に知らせるシステムです。

標識認識機能 P. 308

走行中に認識した道路標識情報をマルチインフォメーションディスプレイまたはヘッドアップディスプレイに表示し、運転者にお知らせする機能です。

オートハイビーム P. 153

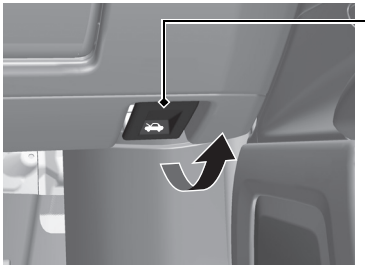
オートハイビームは夜間走行時に前方の状況によってヘッドライトのハイビームとロービームを自動的に切り換えるシステムです。

メンテナンス P. 358

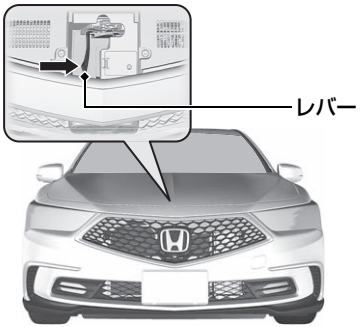
エンジンルーム P. 362

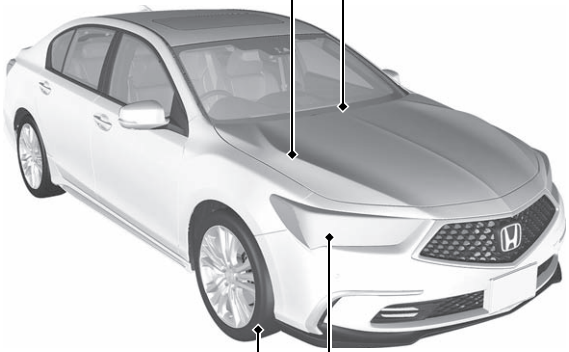
●冷却水、ウォッシャー液の補給を行います。
●12V バッテリーを点検します。

❶ 運転席足元のボンネット解除ノブを引く。



❷ レバーを右に押してボンネットを開ける。





ワイパーブレード P. 370

●拭きムラがある場合は、ワイパーブレードラバーを交換します。

タイヤ P. 373

●タイヤ、ホイールを点検します。
●降雪地域では、スノータイヤ、タイヤチェーンが必要です。

ライト P. 367

●ヘッドライト、フォグライト電球などの点検、交換は Honda 販売店に依頼してください。
●ヒューズの交換については、「万一の場合には」を参照してください。

万一の場合には P. 389

パンクした P. 391

●安全な場所に停車し、タイヤパンク応急修理キットで応急修理します。

パワーシステムが起動しない P. 416

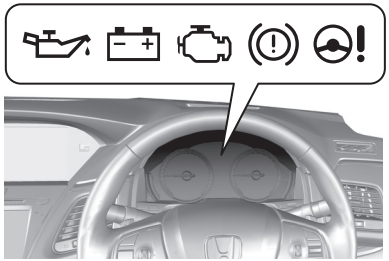
●バッテリーあがりが考えられます。救援車のバッテリーを利用してパワーシステムを起動します。

オーバーヒートした P. 423

●安全な場所に停車し、蒸気が出ていなければボンネットを開けてください。

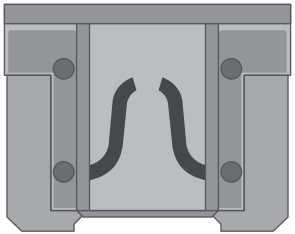
警告灯が点灯した P. 425

●詳細を確認し、取扱説明書にしたがってください。



ヒューズが切れた P. 432

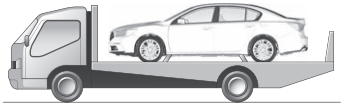
●室内とエンジンルーム内にヒューズボックスがあります。切れているヒューズを取り換えます。



けん引してもらいたい

P. 440

●必ず専門業者に依頼してください。



こんなときは

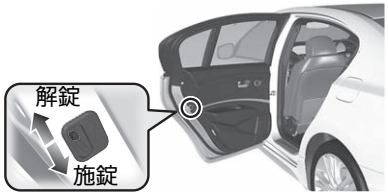
Q ブレーキペダルを踏んだらガタガタと振動した

A
- ブレーキペダルを踏んだとき、ペダルが小刻みに動くことがあります。これは ABS が作動しているときの現象で異常ではありません。そのまま、ブレーキペダルを強く踏み続けてください。

▶ ABS（アンチロックブレーキシステム） P. 324

Q 後席ドアが車内から開けられない

A
- チャイルドプルーフが施錠の位置になっていませんか？
後席ドアを外から開け、チャイルドプルーフのレバーを解錠の位置にしてください。



Q ドアを解錠したはずなのに施錠されている

A
- キーレスエントリー、Honda スマートキーで解錠してから、約 30 秒以内にドアを開けなかった場合は、自動的に再度施錠されます。

Q 運転席ドアを開けるとブザーが鳴る

A
- パワーモードをアクセサリー モードにしていませんか？
- ライトを消し忘れていませんか？

Q 走行するとブザーが鳴る

A
- 運転席または助手席シートベルトを着用していますか？

Q 走行中にブレーキを踏むと金属的な摩擦音がする	**A** • ブレーキパッドが摩耗して使用限界になっているおそれがあります。Honda 販売店で点検を受けてください。
Q パーキングブレーキスイッチを押してもパーキングブレーキが解除できない	**A** • ブレーキペダルを踏んでスイッチを操作していますか？
Q アクセルペダルを踏んでもパーキングブレーキが自動で解除できない	**A** • 運転席シートベルトを着用していますか？ • シフトポジションが、 P 、 N 以外になっていますか？
Q 車を後退させるとき、後方を確認するために運転席ドアを開けるとシフトポジションが P になって車が停止した	**A** • 運転席シートベルトを着用していますか？ 運転席ドアを閉めて、改めてシフト操作を行ってください。 ▶ ドア Open 自動パーキング選択制御 P. 219
Q プレミアム(ハイオク)ガソリン仕様車にレギュラーガソリンを使用しても大丈夫ですか？	**A** • プレミアムガソリンが入手できないときはレギュラーガソリンをお使いになることもできますが、この場合、本来のエンジン性能を発揮できません。

安全に関する表示

「運転者や他の人が傷害を受ける可能性のあること」を回避方法と共に、下記の表示で記載しています。これらは重要ですので、しっかりお読みください。

⚠危険	指示にしたがわないと、死亡または重大な傷害に至るもの
⚠警告	指示にしたがわないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの
⚠注意	指示にしたがわないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の表示

下記の表示を使って記載しています。

アドバイス
お車が故障や破損することを防ぐためのアドバイスや、環境への配慮のために守っていただきたいこと。

サービス診断記録装置について

この車には、システムを制御するためのコンピューターが搭載されており、次の内容をデータとして記録します。

- エアバッグシステムの故障診断情報
- エアバッグの作動に関する情報
- 運転席および助手席のシートベルト着用の有無（E- プリテンショナー装備車）
- 動力伝達機構の状態
- 運転状態

HondaおよびHondaが委託した第三者は、記録されたデータを技術的な診断や Honda の車両の研究開発のために、取得、利用することがあります。
なお、会話等の音声や映像は記録されません。

データの開示について

HondaおよびHondaが委託した第三者は、取得したデータを以下の場合を除き、第三者へ開示、提供することはありません。

- お車の所有者または使用者の同意がある場合
- 裁判所命令等、法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行う等、使用者や車が特定できないように加工したデータを、研究機関等に提供する場合

目次

安全なドライブ P.26

安全なドライブのために 27　シートベルト 28　エアバッグ 36
ポップアップフードシステム 46　お子さまの安全 49　排気ガスの危険性 64

計器の見かた P.65

警告灯と表示灯 66　メーターとインフォメーションディスプレイ 101

各部の操作 P.117

時刻の設定 118　ドアの施錠と解錠 119　トランクの開閉 132　セキュリティシステム 138
ウィンドーの開閉 141　サンルーフの開閉 144　ハンドルまわりのスイッチ操作 146
ミラー類の調節 165　シートの調節 168　室内灯 / 室内装備品 174
エアコン 192

オーディオ P.205

オーディオ装置 206

運転 P.207

運転の前に 208　運転操作 210　ホンダセンシング 236　ブレーキ操作 318
駐停車操作 327　給油 355

メンテナンス P.358

メンテナンスの前に 359　エンジンルーム内のメンテナンス 362　電球の交換 367
ワイパーブレードラバーの点検と整備 370　タイヤの点検と整備 373　Honda スマートキー 378
エアコンのお手入れ 380　清掃 382　アクセサリーと改造 387

万一の場合には P.389

工具、発炎筒 390　パンクしたとき 391　ジャッキの取り扱い 414
パワーシステムが起動しない 416　ジャンプスタート 420　オーバーヒート 423
警告灯の点灯 / 点滅 425　ヒューズ 432　けん引 440
フューエルリッドが解錠できないとき 441　トランクが開かないとき 442
給油 443

資料 P.444

仕様 445

車の仕様などの変更により、この本の内容と実車が一致しない場合がありますのでご了承ください。

安全なドライブ

この章には、安全運転のために必要な重要情報が記載されています。
運転を始める前によくお読みいただき、運転者と同乗者の安全を
確保してください。

安全なドライブのために 27
シートベルト
シートベルトについて 28
シートベルトの着用..... 32
シートベルトの点検..... 35
シートベルトのアンカーポイント 35
エアバッグ
エアバッグの種類 36
SRS エアバッグ 36
運転席ニーエアバッグ 39
サイドエアバッグ 41
サイドカーテンエアバッグ..... 43
エアバッグシステム警告灯..... 45
エアバッグのお手入れ 45
ポップアップフードシステム
ポップアップフードシステムのしくみ 46
ポップアップフードシステムのお手入れ..... 48
お子さまの安全
お子さまの安全を守るために 49
乳幼児の安全 50
大きなお子さまの安全 62
排気ガスの危険性
一酸化炭素について..... 64

安全のための確認事項

安全なドライブのために、走行前に下記の項目を確認してください。

- ドア、トランクは完全に閉まっているか？
  ▶ すべてのドア、トランクが完全に閉まり、正しく施錠されていることを確認してください。
  ➔ **車内での施錠 / 解錠** P.128
- 運転しやすい姿勢にシート位置を調節しているか？
  ▶ 正しい運転姿勢がとれるよう、シート位置やヘッドレストの調節をしてください。
  ➔ **フロントシート** P.168
- 同乗者のシートも、安全が保たれるよう調節しているか？
  ▶ ダッシュボードからできるだけ離れた位置までシートを下げてください。
  ➔ **フロントシート** P.168
- 乗員全員が正しくシートベルトを着用しているか？
  ▶ 運転者と乗員が正しくシートベルトを着用していることを確認してください。
  ➔ **シートベルトの着用** P.32
- エアバッグシステム警告灯などが点灯していないか？
  ▶ エアバッグに関する説明をあらかじめお読みいただき、シートの位置などを調節してください。
  ➔ **エアバッグ** P.36
- お子さまの安全を守るために、チャイルドシートやシートベルトを着用しているか？
  ▶ お子さまが同乗する場合は、お子さまの年齢や身長・体重に応じてチャイルドシートやシートベルトなどで安全を確保するようにしてください。
  ➔ **お子さまの安全** P.49
- 坂道で駐車するときは、パーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にしているか？
  ▶ さらにタイヤに輪留めをすると効果があります。
  ➔ **シフト操作** P.217

安全のための確認事項

ドアやトランクが開いていたり、完全に閉まっていないと警告表示がマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

ドア、トランクをもう一度正しく閉め直してください。警告表示は消灯し、正常な状態に戻ります。

➔ **ドア / トランク開閉警告** P.87

シートベルトについて

シートベルトは、シートに体を固定することで安全を確保するための安全装置です。

■三点式シートベルト

体の動きに合わせて伸縮し、強い衝撃を受けるとベルトが自動的にロックします。すべての席に三点式シートベルトが装備されています。

■シートベルトの着用

シートベルトの着用にあたっては、以下の点に注意してください。

- 運転者は正しい運転姿勢で、シートベルトを必ず着用
- 同乗者にも必ずシートベルトを着用
- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、必ずチャイルドシートを使用
- 1本のシートベルトを2人以上で使用しない
- ベルトにはクリップや洗たくばさみなどでたるみをつけない

シートベルトについて

⚠警告

シートベルトは乗員全員が必ず正しく着用する。

シートベルトを正しく着用しないと、エアバッグが装備されていても、衝突したときに重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

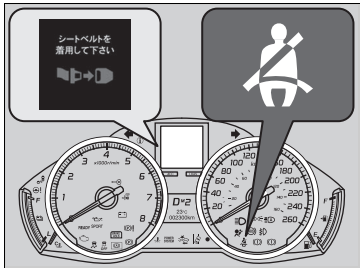
乗車中は正しい姿勢を保つ。

正しい姿勢ですわらないと、衝突したときに傷害を受ける危険性が高くなります。

シートベルトを着用した状態で事故にあったときは、Honda 販売店で点検を受け、ベルトが破損していたり、正しく作動しない場合は、ベルトを交換してください。

シートベルトがロックした場合、一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ベルトをゆっくり引き出してください。

■シートベルトリマインダー



■フロントシート

パワーモードをONモードにしたときや走行したとき、運転席または助手席のシートベルトを着用するまでシートベルトリマインダーが作動し、ブザーと警告灯でお知らせします。
マルチインフォメーションディスプレイにも警告が表示されます。

■リヤシート

リヤシートのシートベルト使用状況をマルチインフォメーションディスプレイに表示します。

インフォメーション(ⓘ)ホイールを回して画面を表示します。

車両の状況に応じて、警告等が点灯することがあります。

次ページに続く

シートベルトリマインダー

- 運転席または助手席のシートベルトを着用せずに走行した場合、停車するとブザーは止まります。また、走行している場合でも一定時間を超えるとブザーは止まります。
- シフトポジションを R に入れたときは後退位置警報装置のチャイムが鳴るため、シートベルト非着用の警告ブザーは鳴りません。
- 助手席シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅しブザーが鳴ることがあります。
- 助手席にお子さまや小柄な方を乗せたりクッションなどを使用すると、センサーが乗員を検知せず正常に作動しないことがあります。

■シートベルトプリテンショナー

フロントシートにはシートベルトプリテンショナーを装備しています。
シートベルトプリテンショナーは、一定以上の前方向や側面からの衝撃を受けると自動的にシートベルトを引き込み、拘束します。

シートベルトプリテンショナー

⚠注意

シートベルト引き込み装置の取り外し、分解などはしない。
誤作動や故障の原因となります。

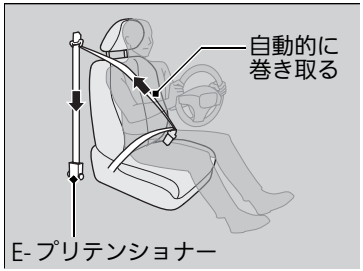
シートベルトプリテンショナーは、一度作動すると使用できません。
衝突によりシートベルトプリテンショナーが作動するとエアバッグシステム警告灯が点灯します。
衝突したときは、Honda 販売店で点検を受け、作動済みの場合は交換してください。

側面からの衝突により、シートベルトプリテンショナーが作動します。

SRS エアバッグとシートベルトプリテンショナーはかならずしも同時に作動しません。

■ E- プリテンショナー

CMBS や電子制御ブレーキアシスト、VSA 横滑り抑制機能と連動して、モーターでシートベルトを巻き取ります。
また、システムが緊急回避操舵や衝撃を検知した場合にも作動します。作動後は、巻き取ったシートベルトをもとの状態に戻します。



E- プリテンショナー

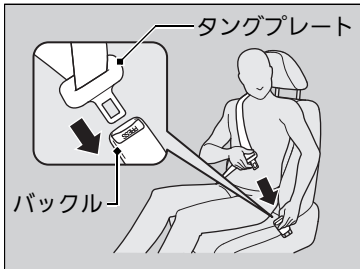
E-プリテンショナーのみが作動したときは、交換する必要はありません。

VSA 警告灯が点灯しているときは、E- プリテンショナーは作動しません。

シートベルトの着用

1. 正しい姿勢でシートにすわる。

2. シートベルトをゆっくり引き出す。



3. タングプレートをバックルに差し込む。

▶ このとき、ベルトにねじれや引っかかりがないようにしてください。

▶ 運転席もしくは助手席のバックルにタングプレートを挿入すると、シートベルトが自動的に巻き取られます。

シートベルトの着用

⚠注意

肩ベルトは腕の下に通したり、首の後ろに回さない。

シートベルトを正しく着用しないと、本来の機能を果たさず衝突時などに、けがをするおそれがあります。

シートベルトを外すには、バックルの赤色の PRESS を押してください。

そのとき、ベルトが完全に収納されるようベルトに手を添えてください。

シートベルトを十分に機能させるため、バックルおよび自動巻き取り装置の内部に異物を入れないようにしてください。

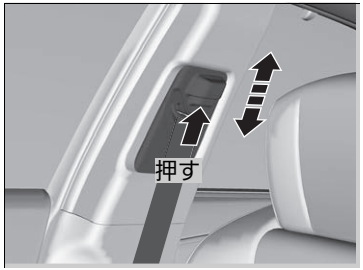
シートベルトの分解、改造はしないでください。正常に作動しないおそれがあります。

4. シートベルトが正しく着用できているか確認する。
- ▶ 肩ベルトは鎖骨の中心を通るように合わせ、首やあごに当たらないようにしてください。
- ▶ 腰ベルトは腰骨のできるだけ低い位置に合わせてください。
- ▶ ベルトにたるみやねじれがないようにしてください。

5. ベルトを引っ張り、バックルが固定されていることを確認する。

次ページに続く

■ショルダーアンカーの高さ調節

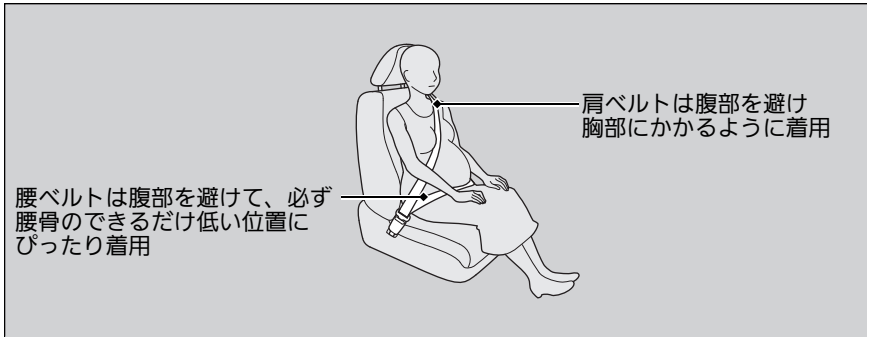


フロントシートのシートベルトは、座高に合わせて、ショルダーアンカーの高さを調節してください。

1. ショルダーアンカーの解除ボタンを押しながら、アンカーを上下に動かす。
2. ちょうどよい高さで解除ボタンを離し、ショルダーアンカーを固定する。

■妊娠中のかたのシートベルト着用のしかた

妊娠中のかたが運転または同乗するときは、ご自身と赤ちゃんを守るために、常に三点式シートベルトを着用してください。



≫ショルダーアンカーの高さ調節

⚠注意

調節後は、ショルダーアンカーが確実に固定されているか確認する。

安全性を高めるため、肩ベルトが肩から胸にかかっていることを確認してください。

ベルトが首やあごに当たるときは、下げて調節してください。

≫妊娠中のかたのシートベルト着用のしかた

⚠注意

妊娠中のシートベルト着用は、医師に確認する。
万一のとき、腹部、胸部、肩部などに圧迫を受けることがあります。

妊娠中のかたは以下の点を注意してください。万一の衝突時にフロントエアバッグによって、ご自身と赤ちゃんが傷害を受ける危険性が軽減されます。

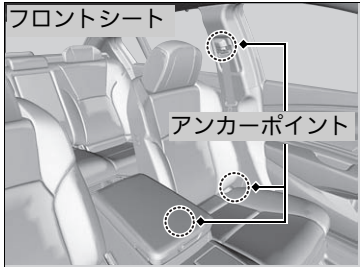
- 運転するときは上体を起こして、運転に支障のない範囲でシートをなるべく後ろに下げる
- 助手席にすわる場合も、シートはできるだけ後ろに下げる

シートベルトの点検

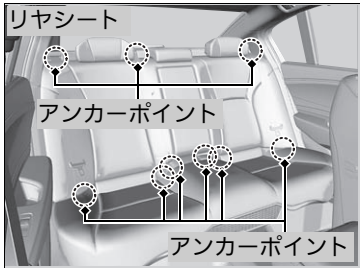
シートベルトを安全にお使いいただくために、定期的な点検を行ってください。点検の確認ポイントは下記のとおりです。

- すべてのベルトをいっぱいまで引き出し、ほつれ、破れ、焼けこげ、すり切れがないか？
- バックルが確実に固定されるか？
- ベルトがスムーズに巻き取られるか？

シートベルトのアンカーポイント



シートベルトを交換する場合、図の中で示されるアンカーポイントを使用してください。
フロントシートには三点式シートベルトが使われています。



リヤシートには三点式シートベルトが使われています。

シートベルトの点検

ベルトがスムーズに巻き取られない場合、ベルトが汚れていないことを確認してください。
ベルトが汚れているとスムーズに巻き取られない場合があります。まず、ベルトに汚れがないか確認してください。汚れを落とすと動きが元に戻ることがあります。

ベルトが破損していたり、正しく作動しない場合は、ベルトを交換してください。

エアバッグの種類

エアバッグは、パワーモードがONモードのときに車体が衝突による衝撃を受けると膨らみ、運転者および同乗者の受ける衝撃を緩和させます。
エアバッグには下記の種類があり、衝突の方向や条件などにより作動が異なります。

- **SRS エアバッグ：**フロントシートの前方向エアバッグ
- **運転席ニーエアバッグ：**ハンドルの下にあるエアバッグ
- **サイドエアバッグ：**フロントシートの横方向エアバッグ
- **サイドカーテンエアバッグ：**窓側の天井部両側についたエアバッグ

SRS エアバッグ

運転席と助手席についています。前方向からの衝突により、SRS エアバッグが膨らんで運転者と助手席の同乗者の頭と胸部への衝撃を緩和します。

SRS：サプリメンタルレストレイントシステム(Supplemental Restraint System)の略で、シートベルトの補助拘束の意味。

■格納場所

運転席側はハンドルの中央、助手席側はダッシュボードに SRS エアバッグが格納されています。どちらも「SRS AIRBAG」と表示されています。

■作動のしくみ

SRS エアバッグが作動するのは、一定以上の衝撃で前方向から衝突したときです。このとき、センサーが衝突による急激な減速を検知し、コントロールユニットのはたらきにより運転席と助手席の SRS エアバッグが膨らみます。

≫エアバッグの種類

⚠警告

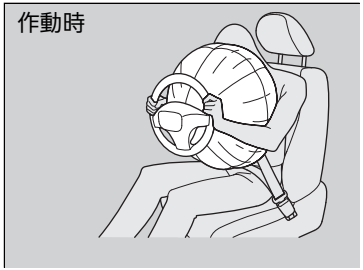
エアバッグ装備車でもシートベルトは必ず使用する。
エアバッグは、衝撃を緩和するためのシステムで、シートベルトの補助拘束具です。エアバッグ装備車であっても、必ず正しくシートベルトを着用してください。シートベルトを着用しないと、衝突時にエアバッグの効果が十分に発揮されず、重大な傷害や死亡などの危険性が高くなります。

⚠注意

エアバッグが膨らんだ直後は、構成部品に触れない。
エアバッグの構成部品が熱くなっているため、やけどなどの思わぬけがをすることがあります。

エアバッグは非常に速い速度で膨らみます。
エアバッグとの接触により、すり傷、やけど、打撲などを受けることがあります。

■ SRS エアバッグの作動



前方向から衝突すると、シートベルトが乗員の下半身と胴体を拘束し、SRSエアバッグが頭と胸部を保護します。

運転者の視界を妨げたり、ハンドル操作の邪魔にならないように、SRSエアバッグは膨らんだあとすぐにしぼみます。

SRS エアバッグは、次のような場合に作動します。

- 20～30km/h 以上の速度で、きわめて厚い固定されたコンクリートの壁に真正面から衝突したときと同等か、それ以上の衝撃を受けたとき
- 車両の前方左右約 30 度以内の方向から強い衝撃を受けたとき

衝撃を吸収できるもの(車やガードレールのように変形するもの)に衝突した場合、作動するときの車速は高くなります。

次のような場合、車両下部に強い衝撃を受け、SRS エアバッグが作動することがあります。

- 縁石や地面の突起物に衝突したとき
- 深い溝や穴に落ちたとき
- 高いところから落ちたとき

次ページに続く

SRS エアバッグの作動

⚠警告

インストルメントパネルに手をついたり頭や胸を近づけた状態で乗車しない。
SRS エアバッグが膨らむ際、強い衝撃を受け重大な傷害を受けるおそれがあります。

⚠注意

ハンドルやインストルメントパネル上面に、ステッカーを貼ったり、ものを置いたりしない。
SRSエアバッグが正常に機能しなくなったり、エアバッグが膨らんだときに置いたものが飛んで運転者や同乗者がけがをする原因になります。

エアバッグが膨らむときに、空中に粉が舞うことがあります。
この粉は無害ですが、場合によっては一時的に不快感をおぼえることがあります。
安全を確認後、ただちに車外に出てください。

エアバッグの作動は、衝突状況とシートベルト着用の有無により異なります。
そのため、運転席または助手席のエアバッグが片側のみ作動することがあります。

次のような場合、SRS エアバッグが作動しないことがあります。
- 電柱、立ち木などへの衝突
- トラックなどへの潜り込み
- 部分的な衝突や斜め方向からの衝突

車体の部位によって衝撃の吸収度合いが異なりますので、損傷状態の大小と SRS エアバッグの作動は必ずしも一致しません。

シートベルトだけで乗員を保護できるような低い速度での衝突や次のような場合、乗員保護の効果がないので作動しません。
- 横方向からの衝突
- 後部からの衝突
- 横転または転覆

事故の状況、形態によっては、SRS エアバッグが作動することがあります。

SRS エアバッグの作動

⚠注意

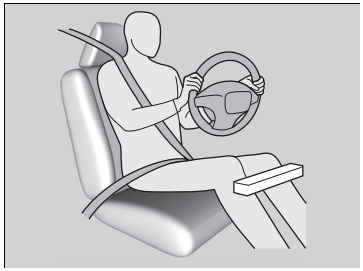
SRS エアバッグの分解、取り外しはしない。
不適切な取り扱いは故障や誤作動の原因となります。

車体が衝撃を十分に吸収できた場合、システムは作動しません。

運転席ニーエアバッグ

運転席の膝の前にあるエアバッグです。前方向からの衝突により、エアバッグが膨らみ、運転者の衝撃緩和を補助します。

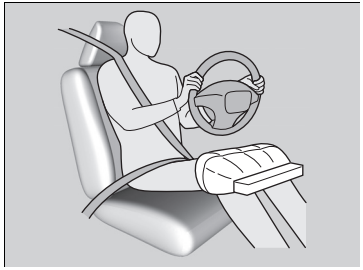
■格納場所



ニーエアバッグは、運転席のハンドル下側に格納されています。

「SRS AIRBAG」と表示されています。

■作動のしくみ



運転席のSRSエアバッグが膨らむと、ニーエアバッグも膨らみます。

衝突がSRSエアバッグを展開するほどの衝撃でなくとも、ニーエアバッグだけ膨らむことがあります。

次ページに続く

運転席ニーエアバッグ

⚠注意

運転席のインストルメントパネル下部にステッカーを貼ったり、アクセサリーをつけたりしない。

ニーエアバッグが正常に機能しなくなったり、エアバッグが膨らんだ時にものが飛んでけがをする原因になります。

■作動条件

次のような場合、車両下部に強い衝撃を受け、ニーエアバッグが作動することがあります。

- 縁石や地面の突起物に衝突したとき
- 深い溝や穴に落ちたとき
- 高いところから落ちたとき

次のような場合、ニーエアバッグが作動しないことがあります。

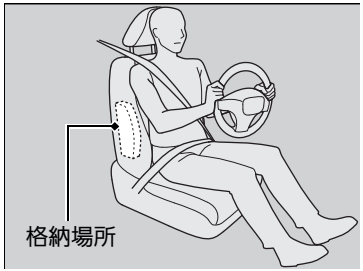
- 電柱、立ち木などへの衝突
- トラックなどへの潜り込み
- 部分的な衝突や斜め方向からの衝突

車体の部位によって衝撃の吸収度合いが異なりますので、損傷状態の大小とニーエアバッグの作動は必ずしも一致しません。

サイドエアバッグ

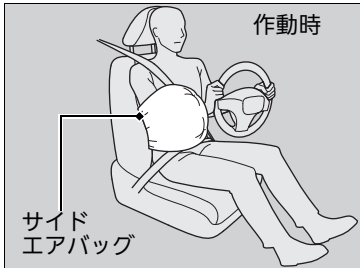
フロントシートの背もたれの外側にあるエアバッグです。
側面からの衝突により、エアバッグが膨らみ、運転者と助手席の同乗者の胸部への衝撃を緩和します。

■格納場所



運転席、助手席ともにシートの背もたれ外側に格納されています。
どちらも「SIDE AIRBAG」と表示されています。

■作動のしくみ



サイドエアバッグは、約 30km/h 以上の速度で自車と同等の車が真横から衝突したときと同等か、それ以上の衝撃を受けたときに運転席または助手席のサイドエアバッグが膨らみます。

車両側面に斜めから衝突された場合、サイドエアバッグが作動するときの車速は高くなります。

次ページに続く

サイドエアバッグ

⚠注意

ドアやその周辺にアクセサリーなどを取り付けたり、ものを置いたりしない。
正常に作動しなかったり、作動時にこれらのものが飛ぶことがあります。

サイドエアバッグ収納部に衝撃や無理な力を加えない。

サイドエアバッグは、シートベルトを着用し上体を起こしてシートに深く腰かけているときに保護効果を発揮します。
サイドエアバッグの保護効果を維持するために、シートベルトは正しく着用してください。

サイドエアバッグがシートカバーによっては、正常に機能できなくなります。
フロントシートへのシートカバー装着にあたってはHonda販売店にご相談ください。

■作動条件

次のような場合、車両下部に強い衝撃を受け、サイドエアバッグが作動することがあります。

- 縁石や地面の突起物に衝突したとき
- 深い溝や穴に落ちたとき
- 高いところから落ちたとき

次のような場合、サイドエアバッグが作動しないことがあります。

- 乗員付近以外の側面への衝突

サイドエアバッグは乗員の受ける衝撃の大きさによって作動するようになっていますので、車両の損傷状態の大小とサイドエアバッグの作動は必ずしも一致しません。

低い速度での衝突や次のような場合、乗員保護の効果がないので作動しません。

- 正面衝突
- 後部からの衝突
- 横転または転覆

事故の状況、形態によっては、サイドエアバッグが作動することがあります。

サイドエアバッグ

⚠注意

ドアに寄りかからない。
サイドエアバッグの格納部に手や顔を必要以上に近づけない。
後席の同乗者は、フロントシートの背もたれを抱えない。
サイドエアバッグが膨らむ際、強い衝撃を受け傷害を受けるおそれがあります。

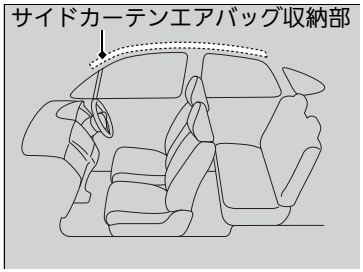
サイドエアバッグの分解、取り外しはしない。
不適切な取り扱いは故障や誤作動の原因となります。

エアバッグが膨らむときに、空中に粉が舞うことがあります。
この粉は無害ですが、場合によっては一時的に不快感をおぼえることがあります。
安全を確認したら、ただちに車外に出てください。

サイドカーテンエアバッグ

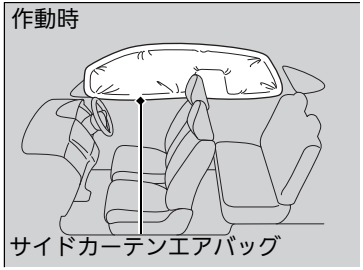
窓側の天井部にあるエアバッグです。側面からの衝突により、エアバッグが膨らみ、乗員の頭部への衝撃を緩和します。

■格納場所



運転席側、助手席側ともに窓側の天井部に格納されています。
どちらも「SIDE CURTAIN AIRBAG」と表示されています。

■作動のしくみ



サイドカーテンエアバッグが作動するのは、一定以上の衝撃で側面方向から衝突したときです。運転席側または助手席側のサイドカーテンエアバッグが膨らみます。

■作動条件

サイドカーテンエアバッグの作動条件は、サイドエアバッグと同じ条件です。

➡ **作動条件** P.42

次ページに続く

サイドカーテンエアバッグ

⚠注意

サイドカーテンエアバッグが正常に作動しなかったり、作動時にものが飛んだりすることがあるので、以下のことに注意する。

- フロントガラス、ドアガラス、フロント、センター、リヤの各ピラーまわりにアクセサリーなどを取り付けない
- グラブレールにものをかけない
- コートフックに重いものやとがったものをかけない

サイドカーテンエアバッグは衝撃を受けた側のみ作動します。
サイドカーテンエアバッグは側面からの衝突に対して作動するため、衝撃を受けた側のみ作動します。また、助手席側が衝撃を受けた場合は、助手席側に乗員がいないときでもサイドカーテンエアバッグが作動します。

サイドカーテンエアバッグは、シートベルトを着用し上体を起こしてシートに深く腰かけているときに保護効果を発揮します。
サイドカーテンエアバッグの保護効果を維持するために、シートベルトは正しく着用してください。

■前方向から衝突したときの作動

前方向からの衝突時、横方向に一定以上の力がかかると、SRS エアバッグが膨らんだあと必要な側のサイドカーテンエアバッグが膨らみます。

サイドカーテンエアバッグ

⚠注意

サイドカーテンエアバッグ収納部に衝撃を加えない。

収納部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、Honda 販売店で交換してください。

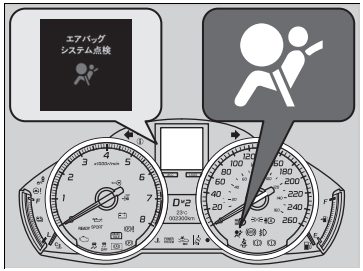
サイドカーテンエアバッグの分解、取り外しはしない。

不適切な取り扱いは故障や誤作動の原因となります。

エアバッグシステム警告灯

エアバッグやシートベルトプリテンショナーの異常などを、警告灯やマルチインフォメーションディスプレイで知らせます。

■エアバッグシステム警告灯



■パワーモードを ON モードにしたとき

パワーモードを ON モードにすると、エアバッグシステム警告灯が数秒間点灯し、消灯すれば正常です。

■異常が発生したとき

エアバッグシステムまたはプリテンショナーシステムに異常があるときに点灯します。

エアバッグのお手入れ

エアバッグシステムは、メンテナンスを必要とせず、部品交換の必要もありません。 ただし、以下の場合は Honda 販売店で点検を受けてください。

■エアバッグが作動し、膨らんだとき

一度作動したエアバッグは、コントロールユニットやその他の関連部品とともに必ず交換する必要があります。
また、シートベルトプリテンショナーも同様に、一度作動した場合は新品と交換する必要があります。

エアバッグシステム警告灯

⚠警告

エアバッグシステム警告灯を無視しない。
エアバッグシステム警告灯を無視すると、エアバッグシステム、プリテンショナーシステムが正しく機能せず、重大な傷害を受けたり死亡したりするおそれがあります。
エアバッグシステム警告灯が点灯する場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

エアバッグシステム警告灯が点灯状態のときは、Honda 販売店で点検を受けてください。
パワーモードを ON モードにしたときにエアバッグシステム警告灯が点灯しない場合も、エアバッグシステムまたはプリテンショナーシステムに異常がある可能性があります。ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

エアバッグのお手入れ

エアバッグ関連部品の再利用はしないでください。

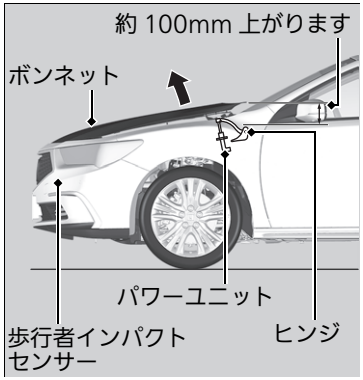
ポップアップフードシステムのしくみ

ポップアップフードシステムは前方向からの衝突時にボンネットを持ち上げてエンジンルーム内の空間を確保し、歩行者の頭部への衝撃緩和を補助します。

■作動のしくみ

設定速度以上の走行時に車両が歩行者やその他の物体に衝突したときに作動します。

■どのように作動するか



歩行者インパクトセンサーが一定以上の衝撃を検知すると、ポップアップフードシステムが作動し、ボンネットの後部が持ち上がります。

ポップアップフードシステムのしくみ

⚠警告

ポップアップフードシステムが作動した後は、パワーユニットが非常に熱くなっているため、やけどをするおそれがあります。冷めるまではパワーユニットに触れないでください。

ポップアップフードシステムが作動した後はボンネットを開けないでください。システム作動後、持ち上がったボンネットが視界の妨げにならないことを確認した後、速度を落とし十分に注意して運転してください。

ボンネットが完全に閉まっていないと、十分な効果を得られない場合があります。
走行前にボンネットが完全に閉まっていることを確認してください。

システムは以下の状況でも作動することがあります。
- 車両下側に大きな衝撃を受けたとき
- 高速で突起物の上を乗り越えたとき、または深い溝の上を乗り越えたとき
- 歩行者インパクトセンサーに物がぶつかったとき

システムは以下の状況では作動しないことがあります。
- 後部または横方向からの衝突
- 横転または転覆
- 斜め方向や横からの歩行者との衝突

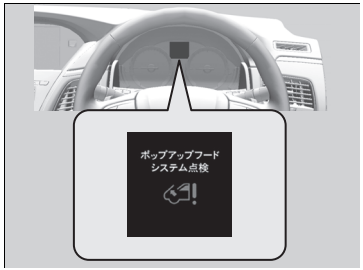
ポップアップフードシステムは、衝突時の位置、角度、車速などその他の条件によって作動しないことがあります。

ポップアップフードシステムのしくみ

ポップアップフードシステムが正常に機能するために、以下のことをお守りください。
- 四輪とも同一指定サイズのタイヤをお使いください。サイズの異なるタイヤを使用すると、システムが車両速度を誤認識することがあります。
- パワーユニットに荷重を加えないでください。ボンネットを激しく閉めるとパワーユニットが損傷するおそれがあります。
- フロントバンパー内の歩行者インパクトセンサーに衝撃を与えないでください。

次ページに続く

■ポップアップフードシステム警告表示



■パワーモードをON モードにしたとき

ポップアップフードシステムに異常があると考えられる場合、マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されます。

ポップアップフードシステムのお手入れ

ポップアップフードシステムは、お客様自身でのメンテナンスを必要とせず、部品交換の必要もありません。

ただし、ポップアップフードシステムが作動したときは、Honda 販売店でコントロールユニットやその他の関連部品の交換を依頼してください。

≫ポップアップフードシステム警告表示

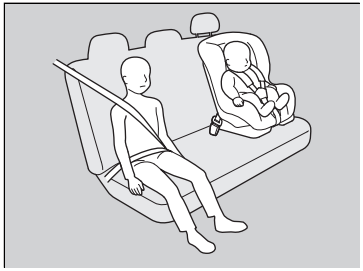
⚠警告

警告表示を無視すると、ポップアップフードシステムの異常につながることがあります。
異常が発生すると、歩行者との衝突時に、歩行者の深刻な傷害や死亡につながるおそれがあります。
ポップアップフードシステムの警告が表示されたときはすみやかに Honda 販売店で点検を受けてください。

フロントバンパー周辺を損傷したときは、システムが作動していなくても Honda 販売店で点検を受けてください。

お子さまの安全を守るために

お子さまが乗車するときは、下記の注意点を確認し、お子さまの安全を確保してください。



- お子さまはリヤシートに乗せる
  ▶ お子さまを助手席に乗せると、不意の動作が気になったり、スイッチ類をいたずらしたりするなど運転の妨げになるおそれがあります。
  また、SRS エアバッグが膨らむ際、強い衝撃があります。
- お子さまにも必ずシートベルトを着用させる
  ▶ お子さまを抱えたり、ひざの上に乗せないでください。衝突したときに支えることができません。 正しい着用方法でお子さまにもシートベルトをしてください。
- 乳幼児にはチャイルドシートを使用する
  ▶ 乳幼児を乗せるときは、必ずチャイルドシートを使用します。
- 車外に手や顔、ものを出さない
  ▶ 走行中や一時停止時などに、お子さまが車外に手や顔、ものなどを出さないようにしてください。思わぬ障害物により事故のおそれがあります。
- ドア、ウィンドー、シートなどの操作は必ず大人が行う
  ▶ 思わぬけがの原因となりますので、お子さまにはドア、ウィンドー、シートなどの操作をさせないでください。
- 車を離れるときは、お子さまを連れて出る
  ▶ お子さまだけを車内に残さないでください。特に、炎天下の車内は高温になります。また、お子さまのいたずらにより、車の発進、火災などの思わぬ事故につながるおそれがあります。

»お子さまの安全を守るために

⚠警告

チャイルドシートは後席に設置する。
助手席に設置するとSRSエアバッグが作動したときの衝撃で、重大な傷害を受けたり、死亡するおそれがあります。

⚠警告

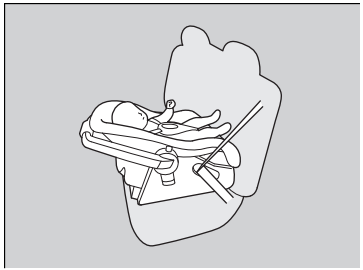
シート前方の作動可能なエアバッグで保護されたシートには、後ろ向きチャイルドシートを絶対に取り付けないでください。
お子さまが死亡、または重大な傷害を受けるおそれがあります。

お子さまを助手席に乗せることをおすすめしない理由は下記の通りです。
- お子さまが助手席のシートに正しく乗車できないと、SRSエアバッグが膨らんだときに重大な傷害を負うおそれがある
- お子さまの体の一部がサイドエアバッグの作動範囲に入ると、サイドエアバッグが膨らんだときに重大な傷害を負うおそれがある

乳幼児の安全

■乳児のチャイルドシート

首のすわっていない乳児は、乳児用のチャイルドシートを正しく固定し、乗せてください。



■後ろ向きのチャイルドシートの設置場所

リヤシートに設置することができます。

▶ 推奨するのは、助手席の真後ろの席への設置です。その場合、助手席には人を乗せず助手席のシートをできるだけ前に出してください。

▶ 設置したチャイルドシートとフロントシートが接触していないことを確認してください。

⇒乳児のチャイルドシート

⚠警告

後ろ向きのチャイルドシートを前向きにして使わない。

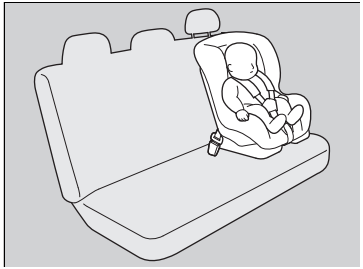
前向きにして使うと前方から衝突したときに、乳児が重大な傷害を負うおそれがあります。

後ろ向きのチャイルドシートは助手席に設置しない。

助手席の SRS エアバッグが膨らんだときに、チャイルドシートの背面にエアバッグが当たり、乳児が重大な傷害を負ったり死亡したりするおそれがあります。

■幼児のチャイルドシート

チャイルドシートメーカーが指定する範囲内の幼児は、前向きのチャイルドシートを正しく固定し、乗せてください。



■前向きのチャイルドシートの設置場所

リヤシートへの設置を推奨します。

次ページに続く

幼児のチャイルドシート

⚠警告

助手席に前向きのチャイルドシートを設置しない。

助手席に前向きのチャイルドシートを設置すると、助手席のシートが前に出すぎていたり、衝突したときに幼児の頭が前に投げ出されるとSRSエアバッグで強い衝撃を受けるため、重大な傷害を負ったり死亡したりするおそれがあります。

やむをえず助手席に前向きのチャイルドシートを設置する場合は、助手席のシートをできるだけ後ろに下げて設置してください。

■チャイルドシートの選びかた

チャイルドシートを購入するときは、シートベルト固定タイプチャイルドシートまたは ISOFIX/i-Size チャイルドシートをお選びください。
シートベルト固定タイプチャイルドシートは、シートベルトを用いて座席に固定します。
ISOFIX/i-Sizeチャイルドシートは、リヤシート外側2座席に付属しているロアアンカレッジとトップテザーアンカレッジまたはサポートレッグで固定するため取り付けが簡単です。

■チャイルドシート選択の条件

チャイルドシートが適切な保護効果を発揮するためには、以下の3つの条件を満たしている必要があります。

- チャイルドシートが一覧表に案内されているお子さまに合ったタイプとサイズであること
  ➔ **シートベルト固定タイプチャイルドシート** P.57, 54
- チャイルドシートが取り付ける車の座席にあったものであること
- チャイルドシートが安全基準に適合したものであること
  UN-ECE R44/R129 に適合したチャイルドシートをお勧めします。

■チャイルドシートの規格

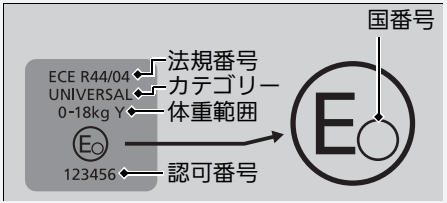
UN 基準の認可を受けたシートベルト固定タイプチャイルドシートまたは ISOFIX/i-Size チャイルドシートには、認可マークが表示されています。チャイルドシートについている認可マークを確認してください。

≫チャイルドシートの選びかた

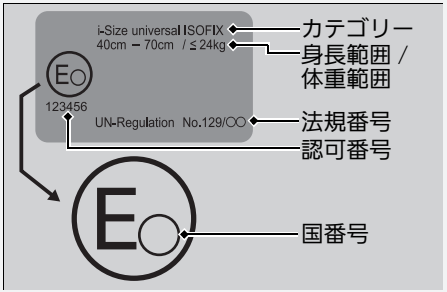
ISOFIX/i-Sizeチャイルドシートは取り付けが簡単です。
ISOFIX/i-Sizeチャイルドシートは取り付けを簡単にすることで、不適切な取り付けが原因で起きる傷害を減らすために開発されたものです。

Honda 純正のチャイルドシートをご用意しています。ご購入、ご使用に際しては Honda 販売店にご相談ください。

UN-ECE R44 認可表示(例)



UN-ECE R129 認可表示(例)



■ ISOFIX/i-Size チャイルドシートについて

この車のリヤシートの外側 2 座席には、ISOFIX/i-Size チャイルドシートを取り付けるためのロアアンカレッジとトップテザーアンカレッジを装備しています。
次ページの表を参照して、それぞれの着席位置で、どのチャイルドシートが使用できるかを選択してください。

ISOFIX/i-Size チャイルドシートについて

Honda 純正品のチャイルドシートをご用意しています。ご購入、ご使用に際しては Honda 販売店にご相談ください。

次ページに続く

■ISOFIX チャイルドシート

詳しくはチャイルドシートに付属の取扱説明書をご覧ください。

重量区分	サイズ等級	固定具	座席位置 前席 助手席	座席位置 後席 左席	座席位置 後席 右席	座席位置 後席 中央席	推奨チャイルドシート ※1
キャリコット	F	ISO/L1	X	X	X	X	—
	G	ISO/L2	X	X	X	X	—
0 ～ 10kg	E	ISO/R1	X	IL	IL	X	Honda ISOFIX Neo(後ろ向き)
0＋ ～ 13kg	E	ISO/R1	X	IL	IL	X	Honda ISOFIX Neo(後ろ向き)
	D	ISO/R2	X	IL	IL	X	Honda ISOFIX Neo(後ろ向き)
	C	ISO/R3	X	IL	IL	X	Honda ISOFIX Neo(後ろ向き)
I 9kg ～ 18kg	D	ISO/R2	X	IL	IL	X	—
	C	ISO/R3	X	IL	IL	X	—
	B	ISO/F2	X	IUF	IUF	X	Honda ISOFIX Neo(前向き)
	B1	ISO/F2X	X	IUF	IUF	X	Honda ISOFIX Neo(前向き)
	A	ISO/F3	X	IUF	IUF	X	Honda ISOFIX Neo(前向き)
II 15kg ～ 25kg	—	—	X	X	X	X	—
III 22kg ～ 36kg	—	—	X	X	X	X	—

ISOFIX/i-Size チャイルドシートについて

チャイルドシートをご購入する際は、ISOFIX サイズ等級に一致したものをお選びください。

固定具	お子さまの大きさ	使用の向き	形状、大きさ
ISO/L1	乳児	左	寝台式
ISO/L2	乳児	右	寝台式
ISO/R1	乳児	後ろ	—
ISO/R2	幼児	後ろ	小型
ISO/R3	幼児	後ろ	大型
ISO/F2	幼児	前	低型
ISO/F2X	幼児	前	低型
ISO/F3	幼児	前	全高

Honda 純正 Honda Baby ISOFIX または Honda ISOFIX Neo のご購入は Honda 販売店にご相談ください。

記号の説明

IUF ：汎用（ユニバーサル）ISOFIX チャイルドシートを前向きに備えることができることを示す。

IL ：表中に記載された特定 ISOFIX 幼児拘束装置（CRS）が備えることができることを示す。この ISOFIX CRS は「特定」「限定」または「準汎用」カテゴリーのものである。

X ：ISOFIX チャイルドシートを装備できないことを示す。

※1 ：ホンダ推奨の純正チャイルドシートです。詳しくは販売店にお問い合わせください。
他のチャイルドシートも使用に適しているものもありますが、チャイルドシートメーカーにご確認ください。

■i-Size チャイルドシート

	着席位置				推奨チャイルドシート ※1
	前席	後席			
	左席	左席	右席	中央席	
i-Size チャイルドシート	X	i-U	i-U	X	Honda Baby&Kids i-Size

記号の説明

i-U ：前向き及び後ろ向きの i-Size「汎用」幼児拘束装置に適している。

X ：i-Size「汎用」幼児拘束装置には適さない着席位置

※1 ：ホンダ推奨の純正チャイルドシートです。詳しくは販売店にお問い合わせください。
他のチャイルドシートも使用に適しているものもありますが、チャイルドシートメーカーにご確認ください。

次ページに続く

■シートベルトで固定するチャイルドシートについて

この車には様々なタイプのチャイルドシートが利用可能ですが、すべてのタイプが適当であるというわけではありません。
次の表を参照して、それぞれの着席位置で、どのチャイルドシートが使用できるかを選択してください。

シートベルトで固定するチャイルドシートについて

チャイルドシートに関する国連の安全基準である UN-ECE R44 に適合しているチャイルドシートには、シートベルトで固定する機構が付いています。

チャイルドシートをご購入する際は、重量グループに一致したものをお選びください。

チャイルドシートの種類や取り付けの向きにより固定金具(ロッキングクリップ)が必要になる場合があります。

詳しくはチャイルドシートに付属の取扱説明書をご覧ください。

■シートベルト固定タイプチャイルドシート

詳しくはチャイルドシートに付属の取扱説明書をご覧ください。

重量区分	座席位置				推奨チャイルドシート ※1
	前席	後席			
	助手席	左席	右席	中央席	
グループ 0 ～ 10kg	X	U	U	U	Honda スタンダード
グループ 0 ＋ ～ 13kg	X	U	U	U	Honda スタンダード
グループ I 9kg ～ 18kg	UF※2	U	U	U	Honda スタンダード
グループ II 15kg ～ 25kg	UF※2	U	U	U	Honda ジュニアシート
グループ III 22kg ～ 36kg	UF※2	U	U	U	Honda ジュニアシート

記号の説明

U　：汎用（ユニバーサル）チャイルドシートを備えることができることを示す。

UF　：汎用（ユニバーサル）チャイルドシートを前向きに備えることができることを示す。

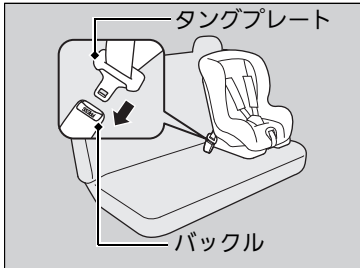
X　：チャイルドシートを装備できないことを示す。

※1　：ホンダ推奨の純正チャイルドシートです。詳しくは販売店にお問い合わせください。
他のチャイルドシートも使用に適しているものもありますが、チャイルドシートメーカーにご確認ください。

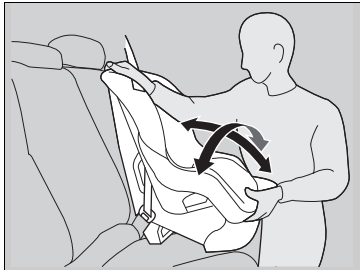
※2　：シートの前後位置を最後方位置に調整し、シートバックを最も前のロック位置に調節すること。

次ページに続く

■シートベルトでの取り付け



1. チャイルドシートを座席に置く。
2. シートベルトをチャイルドシートに通し、タングプレートをバックルに差し込む。
   ▶ このとき、バックルが「カチッ」という音がするまできちんと差し込んでください。



3. チャイルドシートに付属の取扱説明書にしたがって取り付ける。
4. チャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかり固定されていることを確認する。

■チャイルドシートの取り外し

バックルを外し、シートベルトをチャイルドシートから引き抜きます。

シートベルトでの取り付け

⚠注意

チャイルドシートが確実に固定されているか確認する。

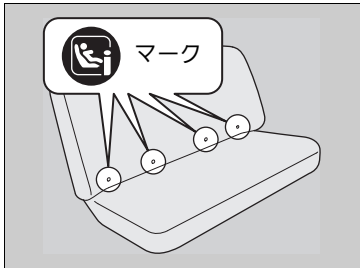
確実に固定されていないと、ブレーキや衝突のときなどにチャイルドシートが飛び出し、傷害を受けるおそれがあります。

チャイルドシートに付属の取扱説明書をよく読んでください。

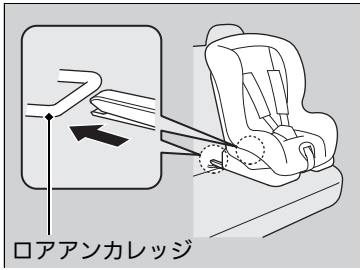
チャイルドシートの種類によりシートベルトの固定に固定金具(ロッキングクリップ)が必要になります。

■ ISOFIX/i-Size 対応アンカレッジでの取り付け

ISOFIX/i-Size チャイルドシートは、リヤシート外側 2 座席に設置できます。チャイルドシートは、ロアアンカレッジとトップテザーアンカレッジで固定します。



1. マークの下にあるシートの切れ目からロアアンカレッジを確認する。



2. チャイルドシートを座席に置き、チャイルドシートの取扱説明書にしたがってロアアンカレッジに取り付ける。

▶ 取り付けの際に、異物やシートベルトなどがロアアンカレッジにかみ込まないようにしてください。

次ページに続く

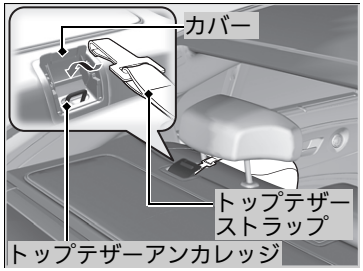
ISOFIX/i-Size 対応アンカレッジでの取り付け

⚠注意

ロアアンカレッジ周辺に、異物やシートベルトのかみ込みがないか確認する。
異物やシートベルトをかみ込むとチャイルドシートが確実に固定されず、ブレーキや衝突のときなどにチャイルドシートが飛び出し、傷害を受けるおそれがあります。

ISOFIX/i-Sizeチャイルドシートは、シートベルトで固定する必要はありません。

チャイルドシートに付属の取扱説明書をよく読んでください。



3. ヘッドレストの後ろにあるカバーを開ける。

4. ヘッドレストを調節して最上段で固定し、トップテザーストラップをヘッドレストの下に通す。

▶ このときトップテザーストラップがねじれないように注意してください。

5. トップテザーストラップをトップテザーアンカレッジに引っかけ、ストラップを締める。

6. チャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかり固定されていることを確認する。

ISOFIX/i-Size 対応アンカレッジでの取り付け

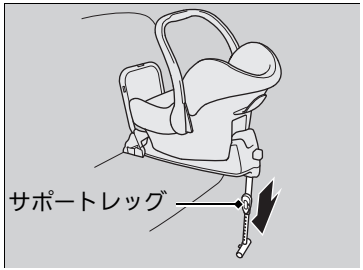
⚠注意

チャイルドシートが確実に固定されているか確認する。

確実に固定されていないと、ブレーキや衝突のときなどにチャイルドシートが飛び出し、傷害を受けるおそれがあります。

⚠注意

トップテザーアンカレッジシンボルが無いフックに、トップテザーストラップを使用しないでください。



サポートレッグ付きチャイルドシート

サポートレッグをチャイルドシートの取扱説明書にしたがってフロア につくまで伸ばす。

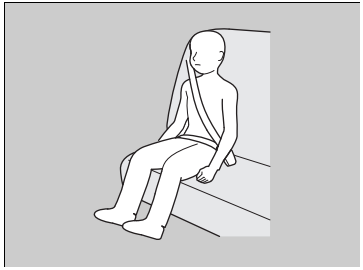
▶ サポートレッグを設置するフロア面は水平な面であることを確認してください。サポートレッグの設置フロア面が水平ではない場合、安定しないことがあります。

▶ 設置したチャイルドシートとフロントシートが接触していないことを確認してください。

大きなお子さまの安全

■シートの使用について

幼児用のチャイルドシートの使用条件を超えるお子さまは、リヤシートに乗せて三点式シートベルトを着用させてください。お子さまをシートに深くすわらせ、以下の確認項目でひとつでも適合しない場合、ジュニアシートの使用が必要です。



■確認項目

- お子さまのひざがシートの前端で無理なく曲がっているか？
- 肩ベルトがお子さまの首と腕の間にかかっているか？
- 腰ベルトが低い位置にあり、お子さまの太ももに触れているか？
- 乗車中、無理なくすわっていられるか？

≫大きなお子さまの安全

⚠警告

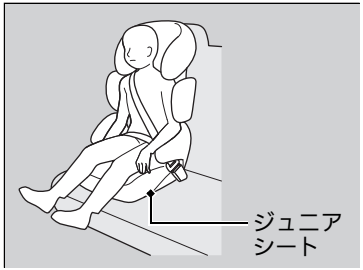
お子さまは助手席に乗せない。

お子さまを助手席に乗せると、SRS エアバッグが膨らんだときに、重大な傷害を負うおそれがあります。

やむをえず、助手席にお子さまを乗せる場合は、できるだけシートを後方に下げ、必要ならばジュニアシートを使用し、適切にシートベルトを着用してすわらせてください。

やむをえずお子さまを助手席に乗せる場合は、次ページの注意事項を厳守してください。

■ジュニアシートについて



三点式シートベルトを使用できず、ジュニアシートを用いる必要があるお子さまは、ジュニアシートをリヤシートに設置して使用してください。
安全のため、お子さまがジュニアシートの使用に適した範囲に入っているか確認してください。

■やむをえず、お子さまを助手席に乗せる場合

正しい姿勢ですわる、走行中にシートベルトを着用するなどの規則をお子さまが守ることができ、お子さまを助手席に乗せても安全と判断した場合、下記の項目を守ってお子さまを乗車させてください。

- 取扱説明書をよく読み、シートベルトに関する指示と安全に関して十分に理解する
- 助手席を一番後ろまで下げる
- 上体を起こし、シートに深く腰かけるように指示する
- お子さまのシートベルトが正しい位置で、しっかり固定されているか確認する

ジュニアシートについて

ジュニアシートの取り付けについては、ジュニアシートに付属の取扱説明書をよく読み、正しく取り付けてください。

ジュニアシートには、座高の高いものと低いものがあります。お子さまが適切にシートベルトを着用できるものを選択してください。

一酸化炭素について

車の排気ガスには一酸化炭素が含まれています。車をきちんと保守していれば、一酸化炭素が車内に入ることはありません。
以下の場合は、排気ガスのもれがないか Honda 販売店で点検を受けてください。

■点検が必要な場合

- 排気音に異常を感じたとき
- 車が衝突し、排気システムが損傷した可能性があるとき

一酸化炭素について

⚠警告

一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業を避ける。
一酸化炭素は有毒です。一酸化炭素を吸い込むと意識不明になったり、死亡したりするおそれがあります。
密閉された場所での作業や、一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業はしないでください。

降雪時や積雪のある場所では、パワーシステムを起動したままにしない。
周囲に積もった雪により排気ガスが滞留し車内に入ってくると、重大な傷害や死亡にいたるおそれがあります。
エンジンが始動している場合は、車両の周囲の雪を取り除くなどしてください。

ガレージなどの密閉された場所は、一酸化炭素が急に充満するおそれがあります。
ガレージのドアを閉めたままパワーシステムを起動させないでください。ドアが開いている場合でも、ガレージから車を出す直前にパワーシステムを起動するようにしてください。

計器の見かた

この章では、運転中に使用するスイッチや警告灯・表示灯、
メーター類に関する情報を記載しています。

警告灯と表示灯
警告灯 66
表示灯 79
マルチインフォメーションディスプレイのメッセージ 83
メーターとインフォメーションディスプレイ
メーター 101
マルチインフォメーションディスプレイ..... 103
ヘッドアップディスプレイ..... 109

警告灯

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	ブレーキ警告灯(レッド)	• パワーモードを ON モードにすると数秒点灯したあと、消灯 • ブレーキフルード量が低下したときに点灯 • ブレーキシステムが異常のときに点灯	• 走行中に点灯するときは、ブレーキフルードを点検し、下限より減っている場合はただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 • ABS 警告灯と同時に点灯した場合も、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 ➔ **ブレーキ警告灯(レッド)が点灯した** P.427 • ブレーキシステム警告灯(オレンジ)と同時に点灯した場合は、ただちに安全な場所に停車し、Honda 販売店で点検を受けてください。 • このとき、ブレーキペダルの操作が重くなることがありますので、ブレーキペダルをしっかり踏んでください。	ブレーキ液量低下 ブレーキ システム点検

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	ブレーキシステム警告灯(オレンジ)	• パワーモードを ON モードにすると数秒点灯したあと、消灯 • オートマチックブレーキホールドシステムが異常のときに点灯 • 回生ブレーキシステム、電動サーボブレーキシステム、ヒルスタートアシストシステムのいずれかが異常のときに点灯 • ブレーキに関係するシステムが異常のときに点灯	• 常時点灯する場合は、高速走行や急停止を避けて、ただちにHonda販売店で点検を受けてください。 • 運転中に点灯したときは、ただちにHonda販売店で点検を受けてください。なお、点灯の場合でも通常のブレーキ機能としての性能は確保されています。	

次ページに続く

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
Ⓟ	電子制御パーキングブレーキ作動警告灯	• パワーモードを ON モードにすると数秒点灯したあと、消灯(パーキングブレーキをかけているときは点灯)	• 電子制御パーキングブレーキが異常のとき、電子制御パーキングブレーキシステム警告灯の点灯と同時に点滅することがあります。この場合、パーキングブレーキが作動しないことがあります。	パーキングブレーキを解除して下さい Ⓟ
		• 走行中、パーキングスイッチを引き続けたとき	• パーキングブレーキを解除してください。 ➡ **電子制御パーキングブレーキ** P.318	
		• ブレーキペダルを踏まずにパーキングブレーキスイッチを押したとき点灯	• ブレーキペダルを踏んでパーキングブレーキスイッチを押してください。 ➡ **電子制御パーキングブレーキ** P.318	パーキングブレーキ解除方法: ブレーキを踏み スイッチを押す
		• パワーモードが OFF モードのとき、パーキングブレーキスイッチを引くと約 15 秒間点灯し消灯 • パーキングブレーキがかかっていると、パワーモードを OFF モードにしたとき、約 15 秒間点灯し消灯	—	—
Ⓟ!	電子制御パーキングブレーキシステム警告灯	• パワーモードを ON モードにすると数秒点灯したあと、消灯 • 電子制御パーキングブレーキが異常のときに点灯	• 点灯したときは、パーキングブレーキを使用せずに、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 ➡ **電子制御パーキングブレーキシステム警告灯が点灯した** P.429	パーキングブレーキシステム点検 Ⓟ!

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
POWER SYSTEM	パワーシステム警告灯	• パワーモードをONモードにすると数秒点灯したあと、消灯 • パワーシステムが異常のときに点灯	• **走行中に点灯**＝ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。	パワーシステム点検 POWER SYSTEM
	油圧警告灯	• パワーモードをONモードにすると点灯し、パワーシステム起動で消灯 • エンジン回転中、エンジン内部を潤滑しているオイルの圧力が低下すると点灯	• **走行中に点灯**＝ただちに安全な場所に車を停車し、対処してください。 ➡ **油圧警告灯が点灯した** P.425	エンジン油圧異常
	PGM-FI 警告灯	• パワーモードをONモードにすると点灯し、パワーシステム起動で消灯 パワーシステムを起動していないときは数十秒後消灯 • エンジンの排気ガス制御システムに異常があると点灯 • エンジン各気筒の失火状態を検知したときに点滅	• **走行中に点灯**＝高速走行を避けてただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 • **走行中に点滅**＝枯草などの可燃物のない安全な場所に停車し、10 分以上パワーモードをOFFモードにして冷えるのをお待ちください。 ➡ **PGM-FI 警告灯が点灯 / 点滅した** P.426	エンジン システム点検
	12V バッテリー充電警告灯	• パワーモードをONモードにすると点灯し、パワーシステム起動で消灯 • 12Vバッテリーが充電されていないと点灯	• **走行中に点灯**＝電気の消費量を減らすため、エアコンやリヤデフロスターなどを OFF にし、対処してください。 ➡ **12V バッテリー充電警告灯が点灯した** P.425	12V充電 システム点検

次ページに続く

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	トランスミッション警告灯	• トランスミッションが異常のときに選択しているシフトポジションが点滅	• 点滅した場合は、急発進、急加速を避けて、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。	トランスミッション点検
		• 全てのシフトポジションが数秒間点灯し消灯	• 全てのシフトポジションが点灯した場合は、ただちに安全な場所に車を停車してください。 • 異常がなければ消灯しますが、Honda 販売店で点検を受けてください。	—
		• トランスミッションの異常で走行できないとき、選択しているシフトポジションもしくは全てのシフトポジションが同時に点滅	• ただちに安全な場所に車を停車してください。 **非常時のけん引** P.440 • Honda 販売店で点検を受けてください。	トランスミッション点検：安全な場所に車両を停車して下さい
		• トランスミッションの異常が発生し、シフトポジションを P にできないとき、選択しているシフトポジションもしくは全てのシフトポジションが同時に点滅	• 応急的にパワーシステムを起動できる場合があります。 **トランスミッション警告灯が点滅しメッセージが表示した** P.431 • 停車するときはパーキングブレーキをかけてください。 • ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。	トランスミッション点検：停車時はパーキングブレーキを確実にかけて下さい

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	シートベルト 非着用警告灯	• 運転席または助手席のシートベルトを着用しないと点灯 • パワーモードをONモードにしたときに、運転席のシートベルトを着用していないとブザーが鳴り、ブザーが鳴っている間は警告灯が点滅 • 走行中に運転席または助手席のシートベルトを着用していないとブザーが鳴り、ブザーが鳴っている間は警告灯が点滅	• シートベルトを正しく着用するとブザーがやみ、警告灯が消灯します。 • シートベルトを正しく着用していても警告灯が点灯する場合は、センサーの誤検知などの要因が考えられます。 ➔ **シートベルトリマインダー** P.29	
		• パワーモードがONモードのときに、後席のシートベルトを外すと約 30 秒間点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージを表示	• シートベルトを正しく着用すると警告灯が消灯し、メッセージが消えます。 ➔ **シートベルトリマインダー** P.29	

	Honda スマートキーシステム
	警告灯
		• パワーモードをONモードにすると数秒点灯したあと、消灯
		• Honda スマートキーシステムが異常のときに点灯
			• 下記のような場合、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。
			  • 運転中に点灯した
			  • パワーシステム起動後も消灯しない
			  • パワーモードがOFFモードのときに数秒間点灯した
			  • パワーモードをOFFモードにしたときに数秒間点灯した	

次ページに続く

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	燃料残量警告灯	• 燃料の残量が少なくなると点灯 • 点灯するのは、タンクに残っている残量がおよそ 7 リットルになったときです • 燃料計に異常があるときは点滅	• 点灯したら早めに給油してください。 • 点滅したときは、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。	給油して下さい 燃料センサ点検
ACC	渋滞追従機能付ACC(アダプティブクルーズコントロール)警告灯(オレンジ)	• パワーモードを ON モードにすると数秒点灯したあと、消灯 • 渋滞追従機能付ACCシステムが異常のときに点灯	• 運転中に点灯したときは、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。	ACCシステム点検 ACC
		• フロントグリルが汚れてレーダーセンサーが前の車両を検知しにくいとき点灯	• 安全な場所に停車してフロントグリルの汚れをふき取ってください。 • 汚れが落ちるとシステムは復帰します。 ➡ **レーダーセンサー** P.317	運転支援システムの一部が使用できません レーダーが汚れています RADAR
LKAS	LKAS(車線維持支援システム)警告灯(オレンジ)	• パワーモードを ON モードにすると数秒点灯したあと、消灯 • LKAS が異常のときに点灯	• 常時点灯する場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。	LKASシステム点検 LKAS

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
ABS	ABS（アンチロックブレーキシステム）警告灯	• パワーモードをONモードにすると数秒点灯したあと、消灯 • ABSが異常のときに点灯	• 点灯したときは、ただちにHonda販売店で点検を受けてください。なお、点灯の場合でも通常のブレーキ機能としての性能は確保されていますが、ABSは作動しません。 ➔ **ABS（アンチロックブレーキシステム）** P.324	アンチロック ブレーキ点検

	エアバッグシステム警告灯	• パワーモードをONモードにすると数秒点灯したあと、消灯
		• 下記のとき点灯
		  • エアバッグシステムの異常
		  • プリテンショナーシステムの異常
			• 常時点灯、あるいは全く点灯しない場合は、Honda販売店で点検を受けてください。	エアバッグ
				システム点検

	VSA（ビークルスタビリティアシスト）警告灯	• パワーモードをONモードにすると数秒点灯したあと、消灯 • VSAが作動しているときは点滅 • ブレーキアシストシステム、VSAシステムのいずれかが異常のときに点灯	• 運転中に点灯したときは、ただちにHonda販売店で点検を受けてください。なお、点灯の場合でも通常のブレーキ機能としての性能は確保されています。 ➔ **VSA（ビークルスタビリティアシスト）** P.226	VSAシステム点検
OFF	VSA OFF警告灯	• パワーモードをONモードにすると数秒点灯したあと、消灯 • VSAをOFFにすると点灯	➔ **VSA（ビークルスタビリティアシスト）** P.226	—

次ページに続く

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	EPS（電動パワーステアリング）システム警告灯	• パワーモードをONモードにすると点灯し、パワーシステム起動で消灯 • EPSシステムの機能に異常があると点灯	• 常時点灯、あるいは全く点灯しない場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 ➡ **EPS（電動パワーステアリング）システム警告灯が点灯した** P.428	パワーステアリング システム点検
	高水温警告灯	• パワーモードをONモードにすると数秒点灯したあと、消灯 • エンジンの冷却水の温度が上がると点滅し、さらに上がると点灯	• 走行中に点滅 = ゆっくり走行してください。	エンジン冷却水温 上昇中
			• 走行中に点灯 = ただちに安全な場所に車を停車し、エンジンを冷やしてください。 ➡ **オーバーヒート** P.423	エンジン冷却水高温

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	CMBS（衝突軽減ブレーキ）警告灯	• パワーモードをONモードにすると数秒点灯したあと、消灯 • CMBS を OFF にしているとき点灯 • CMBS に異常があるとき点灯	• OFFにしていないのに点灯する場合は、いくつかの理由が考えられます。 ➔ **衝突軽減ブレーキ（CMBS）** P.240	CMBSシステム点検
		• フロントガラス上部にあるカメラ内部の温度が高温になると点灯	• エアコンで室内温度を下げるなどしてカメラ内部の温度を下げてください。温度が下がるとシステムは復帰します。	運転支援システムの一部が使用できません カメラが高温です
		• フロントガラス上部にあるカメラ付近に汚れ、氷、霜などの遮蔽物があるとき点灯 雨、霧、雪など悪天候のときも点灯することがあります	• 走行中はウォッシャーとワイパーで汚れなどの遮蔽物を取り除いてください。 • 安全な場所に停車してカメラ付近のフロントガラスの汚れなどの遮蔽物をふき取ってください。 • 汚れが落ちるとシステムは復帰します。	運転支援システムの一部が使用できません フロントウインドウが汚れています
		• フロントグリルが汚れてレーダーセンサーが前の車両を検知しにくいとき点灯	• 安全な場所に停車してフロントグリルの汚れをふき取ってください。 • 汚れが落ちるとシステムは復帰します。 ➔ **レーダーセンサー** P.317	運転支援システムの一部が使用できません レーダーが汚れています

次ページに続く

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	タイヤ空気圧警報システム警告灯	• パワーモードをON モードにすると数秒点灯したあと、消灯 • いずれかのタイヤの空気圧が著しく低いときに点灯 • タイヤ空気圧警報システムに異常があるときに約1分間点滅したあと、点灯	• 走行中に点灯したときは、ただちに安全な場所に車を停車し、タイヤの空気圧を点検してください。 • タイヤの空気圧が低いときは、指定空気圧まで空気を補充してください。 ➡ **タイヤ空気圧の補充** P.400 • 点滅したあと点灯したときは、Honda 販売店で点検を受けてください。	

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	路外逸脱抑制機能警告灯	• パワーモードをON モードにすると数秒点灯したあと、消灯 • 路外逸脱抑制機能に異常があるときに点灯	• Honda 販売店で点検を受けてください。	路外逸脱抑制システム点検
		• フロントガラス上部にあるカメラ内部の温度が高温になると点灯	• エアコンで室内温度を下げるなどしてカメラ内部の温度を下げてください。温度が下がるとシステムは復帰します。	運転支援システムの一部が使用できませんカメラが高温です
		• フロントガラス上部にあるカメラ付近に汚れ、氷、霜などの遮蔽物があるとき点灯 雨、霧、雪など悪天候のときも点灯することがあります	• 走行中はウォッシャーとワイパーで汚れなどの遮蔽物を取り除いてください。 • 安全な場所に停車してカメラ付近のフロントガラスの汚れなどの遮蔽物をふき取ってください。 • 汚れが落ちるとシステムは復帰します。	運転支援システムの一部が使用できませんフロントウインドウが汚れています
		• フロントグリルが汚れてレーダーセンサーが前の車両を検知しにくいとき点灯	• 安全な場所に停車してフロントグリルの汚れをふき取ってください。 • 汚れが落ちるとシステムは復帰します。 ➔ **レーダーセンサー** P.317	運転支援システムの一部が使用できませんレーダーが汚れています

次ページに続く

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	ブラインドスポットインフォメーション警告灯	• パワーモードをON モードにすると数秒点灯したあと、消灯 • ブラインドスポットインフォメーションの設定を OFF すると点灯	**ブラインドスポットインフォメーション** P.230	ブラインドスポット システム OFF
		• 泥、雪あるいは氷がセンサー周辺にたまると点灯	• センサー周辺の付着物を取り除いてください。	ブラインドスポット システムが 使用できません
		• ブラインドスポットインフォメーションに異常があるときに点灯	• 点灯したときはただちに Honda 販売店で点検を受けてください。	ブラインドスポット システム点検

表示灯

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	方向指示器 表示灯	• 方向指示器と対応し、左右どちらかが点滅 • 非常点滅表示灯スイッチを押すと、左右同時に点滅	• 点滅しない / 点滅の周期が速いときは、方向指示器の電球が切れています。ただちに電球を交換してください。 ➔ **電球の交換** P.367, 368	—
	ハイビーム表示灯	• ヘッドライトを上向きにしたときに点灯	—	—
	ライト点灯 表示灯	• ライトスイッチが OFF 以外のときに点灯（AUTO のときは車幅灯点灯時に点灯）	• ライトを点灯したままパワーモードを OFF モードにすると、運転席のドアを開けたときにライト消し忘れ警告ブザーが鳴ります。	—
	フォグライト 点灯表示灯	• フォグライトを点灯させると点灯	—	—
D	シフト ポジション 表示灯	• 現在のポジションで点灯	➔ **シフト操作** P.217	—
2	シフトインジケーター表示灯	• 7 速マニュアルシフトモードのとき、ギヤ位置を表示	➔ **シフト操作** P.217	—
		• シフト操作しても変速しないと点滅		—

次ページに続く

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
M	M（7 速マニュアルシフトモード）表示灯	• SPORT モードのときに 7 速マニュアルモードにすると点灯	➔ シフト操作 P.217	—
	低水温表示灯	• パワーモードをON モードにすると数秒点灯したあと、消灯 • エンジン冷却水の温度が低いときに点灯	• 暖機を十分にした状態で、表示灯が点灯したままのときは、温度センサーなどの異常が考えられます。Honda 販売店で点検を受けてください。	—
	イモビライザーシステム表示灯	• パワーモードをONモードにすると一瞬点灯し、すぐに消灯 • イモビライザーシステムがキーの情報を認識できないと点滅	• 一瞬の点灯は異常ではありません。 • 点滅しているときは、パワーシステムを起動することはできません。パワーモードをいったんOFF モードにしてから、もう一度 ON モードにしてください。 • 頻繁に表示灯の点滅を繰り返す場合は、システムの異常が考えられますのでHonda 販売店で点検を受けてください。 • POWER スイッチのそばに、別のキーや金属があるとイモビライザーシステムがキーの情報を読み取れないことがあります。	—

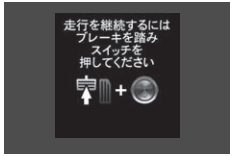
表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	インフォメーション表示灯	• パワーモードをON モードにすると数秒点灯したあと、消灯 • 異常を検知すると警告音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、同時に点灯	• メッセージが表示されたときは、表示灯、警告灯の該当ページを参照して、必要な処置を行ってください。 • メッセージは、警告が解除されるか、インフォメーション(ⓘ)ホイールを回すまで通常表示に戻りません。 • 点灯しているときにインフォメーション(ⓘ)ホイールを回すと、メッセージを再表示させる事ができます。	—
表示灯	セキュリティアラームシステム作動表示灯	• セキュリティアラームシステムがセットされているときに点滅	**➔ セキュリティアラームシステム** P.138	—
ACC	渋滞追従機能付ACC(アダプティブクルーズコントロール)表示灯(グリーン)	• MAIN スイッチを押すと点灯	**➔ 渋滞追従機能付 ACC(アダプティブクルーズコントロール)** P.257	—
LKAS	LKAS(車線維持支援システム)表示灯(グリーン)	• MAIN スイッチを押すと点灯	**➔ LKAS(車線維持支援システム)** P.271 **➔ トラフィックジャムアシスト(渋滞運転支援機能)** P.282	—

次ページに続く

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	オートハイビーム表示灯	• パワーモードをON モードにすると数秒点灯したあと、消灯 • オートハイビームの動作条件がすべて揃った時に点灯	**オートハイビーム** P.153	—
READY	READY 表示灯	• 走行の準備が完了すると点灯	**パワーシステムの起動** P.210	READY TO DRIVE
SPORT	SPORT モード表示灯	• パワーモードをONモードにすると数秒点灯したあと、消灯 • パワーモードが ON モードのとき、SPORT モードスイッチを押すと点灯	**SPORT モードスイッチ** P.223	—
BRAKE HOLD	オートマチックブレーキホールドシステム表示灯	• パワーモードをONモードにすると数秒点灯したあと、消灯 • オートマチックブレーキホールドシステムが ON のとき点灯	**オートマチックブレーキホールド** P.321	ブレーキホールド システム STANDBY BRAKE HOLD
	オートマチックブレーキホールド表示灯	• パワーモードをON モードにすると数秒点灯したあと、消灯 • オートマチックブレーキホールドが作動しているとき点灯	**オートマチックブレーキホールド** P.321	—

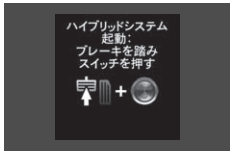
マルチインフォメーションディスプレイのメッセージ

下記のメッセージはマルチインフォメーションディスプレイにのみ表示されます。
再表示させるときはインフォメーション(❶)ホイールを回してください。

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• 通常走行ができないときに表示	• ただちに安全な場所に車を停車してください。
	• 車両の異常で停車時に車が動いてしまうおそれがあるときに表示	• 停車したときはパーキングブレーキをかけてください。 ➡ **電子制御パーキングブレーキ** P.318 • Honda 販売店で点検を受けてください。
	• 車両の異常で、シフトポジションを N にしないとシステム起動できないときに表示	• 応急的にパワーシステムを起動できる場合があります。 ➡ **トランスミッション警告灯が点滅しメッセージが表示した** P.431 • Honda 販売店で点検を受けてください。
	• パワーモードを再度 ON モードにすることで、走行を続けられるときに表示	➡ **パワーシステムの起動** P.210

次ページに続く

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• パワーモードが ON モードのときに、外気温が 3 ℃以下になると 1 回のみ表示	—
	• シートベルトを着用しないで、パワーモードを ON モードにすると表示	• 運転するときは、シートベルトを正しく着用してください。
	• ドアオープン自動パーキング選択制御により自動で P になった後、ドアを閉めずにシートベルトを装着しないままシフト操作し、ブレーキペダルを離すと表示	➔ P.
	• エンジンの冷却システムが異常のときに表示	• ただちにHonda販売店で点検を受けてください。
	• オートライトコントロールシステムに異常があると表示	• 運転中に表示された場合は、ライトの点灯、消灯は手動で行い、Honda販売店で点検を受けてください。 ➔ **ライトスイッチ** P.150
	• ルート案内の際に、交差点案内表示が表示	➔ **別冊の Honda インターナビシステム取扱説明書**

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• パワーモードがアクセサリーモードのときに運転席のドアを開けると表示	• パワーモードを OFF モードにしてください。 ➡ **POWER スイッチ** P.146
	• パワーモードがアクセサリーモードまたは ON モードのときに表示	➡ **パワーシステムの起動** P.210
	• パワーモードがアクセサリーモードのときに表示	—
	• パワーモードが ON モードで、Honda スマートキーを車外に持ち出し、ドアを閉めたときに、警告音と同時に表示	• Honda スマートキーを車内に戻してドアを閉めると表示が消えます。 ➡ **Honda スマートキー持ち去り警告** P.148
	• Honda スマートキーの電池残量が少なくなったときに、警告音と同時に表示	➡ **Honda スマートキーの取り扱いと電池交換** P.378

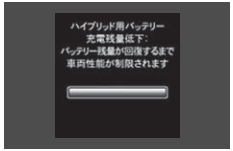
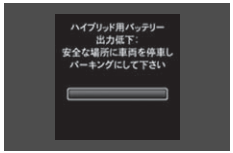
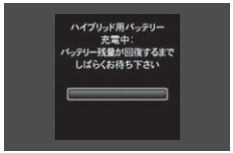
次ページに続く

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• 衝突の可能性があるときブザーが断続的に鳴り警告が点滅	➔ **衝突軽減ブレーキ（CMBS）** P.240 ➔ **渋滞追従機能付 ACC（アダプティブクルーズコントロール）** P.257
	• 以下のとき、マルチインフォメーションディスプレイのカスタマイズ設定をすると表示 • シフトポジションが P 以外のとき	➔ **別冊の Honda インターナビシステム取扱説明書**
	• ロービームヘッドライトの機能に異常があると表示	• 運転中に表示された場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。
	• オートハイビームに異常があると表示	• ヘッドライトスイッチを手動で操作してください。 • ハイビーム点灯中に表示された場合は、ロービームに切り替わります。
	• フロントガラスが汚れてオートハイビームが使用できなくなると表示	• フロントガラスの付着物を取り除いてください。 • 付着物を取り除いても表示が消えないときは、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• Honda　スマートキーの電池残量が少なくなったときや Honda スマートキーが車内にないときに、警告音と同時に表示	➡ **Honda スマートキーの電池が切れたとき** P.418
	• 12V バッテリーセンサーの機能に異常があると表示 • 12V バッテリーが充電されていないと表示	• ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 • **12V バッテリー充電警告灯が同時に点灯しているとき**＝電気の消費量を減らすため、エアコンやリヤデフロスターなどを OFF にし、対処してください。 ➡ **12V バッテリー充電警告灯が点灯した** P.425
	• 12 V バッテリー充電警告灯点灯後に表示	• 加速しにくくなります。また、上り坂などで発進が困難になる場合があります。 • ただちにHonda販売店で点検を受けてください。
	• ドア / トランクが完全に閉まっていないときに表示	• ドア / トランクを完全に閉めてください。

次ページに続く

メッセージ	表示される状況	アドバイス
パワートランクリッド 点検	• パワートランクリッドに異常があると表示	• 表示された場合は、トランクの開閉は手動で行い、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 ➡ **トランクの開閉** P.132
ポップアップフード システム点検	• ポップアップフードシステムに異常があると表示	• ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。
外気温が低いために 走行できません 暖気が完了するまで お待ち下さい	• 外気温の影響により高電圧バッテリーの温度が著しく低いときに表示（－ 30 ℃以下）	• 高電圧バッテリーの温度が上昇するまで走行できません。 • アクセルを踏んでもエンジン回転数はあがりません。 • 車内を暖房すると高電圧バッテリーが暖まり、走行可能になるまでの時間を短縮できます。
外気温が低いために 起動できません	• 高電圧バッテリーの温度が極端に低いとき（－40℃以下）	• バッテリーの温度が上がるまでお待ちください。または温度の高い所へ移動してください。 • 必要に応じて Honda 販売店にご相談ください。
ハイブリッド用バッテリー 温度異常： 温度が正常になるまで 車両性能が制限されます	• 継続した低速走行で、高電圧バッテリーの出力が弱くなったときに表示	• 低速走行を続けると発電量の低下により高電圧バッテリーの残量が低下します。

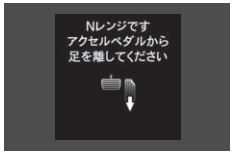
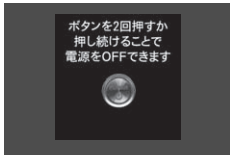
メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• 継続した低速走行により発電量が低下し、高電圧バッテリーの残量が著しく低下したときに表示	—
	• さらに高電圧バッテリーの容量が低下し、充電するために停車が必要になったときに表示	• 安全な場所に停車し、シフトポジションを P にして、アイドリング状態で高電圧バッテリーを充電します。 ➡ **12V バッテリー充電警告灯が点灯した** P.425
	• 高電圧バッテリーの容量が少ないため、停車後、アイドリングによる充電中のときに表示	• READY TO DRIVE が表示されるまで車を発進させないでください。 ➡ **READY 表示灯** P.82
	• 車両接近通報システムに異常があると表示	• ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。
	• トランスミッションの温度が高温になり、通常走行ができないときに表示	• 加速しにくくなる場合や、上り坂などでの発進が困難になる場合があります。 • ただちに安全な場所に車を停車してください。 • メッセージが消えるまでアイドリングでトランスミッションを冷やしてください。 ➡ **駐停車操作** P.327

次ページに続く

メッセージ	表示される状況	アドバイス
シフト操作: エンジンを始動 してください	• シフトポジションの P とそれ以外のポジション切り換え操作を短時間のあいだに繰り返すと表示	• しばらく時間をおいてからシフトポジションを切り換えてください。
トランスミッション異常 リバースギアが 使用できません	• トランスミッションに異常が発生し、シフトポジションを R にできないときに表示	• Honda 販売店で点検を受けてください。
トランスミッション 調整中... 出力が制限されます	• トランスミッションを調整しているときに全てのシフトポジションが点灯	• 点灯中は一時的に加速ができません。 • 異常がなければ数秒後に消灯します。 • 消灯後は通常通り走行できます。
スターティング システム点検	• スターターシステムが異常のときに表示	• ブレーキを踏んだまま、 POWER をパワーシステムが起動するまでおよそ 15 秒間押し続けてください。消灯しないときや再び点灯した場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。
ハイブリッド システム起動: セレクトポジションを パーキングにして下さい P	• パワーシステムを起動するときに P 以外のシフトポジションが選択されているときに表示	• パーキングスイッチを押してください。

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• ブレーキペダルを踏まずに、シフトポジションの P N から他のシフトポジションを選択したときに表示	• ブレーキペダルを踏んで、シフトポジションの操作を行ってください。
	• アクセルペダルから足を離さずに、シフトポジションの P N から他のシフトポジションを選択したときに表示	• アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んで、シフトポジションの操作を行ってください。
	• 停車させずにパーキングスイッチを押したとき • 走行中、停車させずに進行方向と反対のシフトポジションを選択したときに表示	• シフトポジションを操作する時は、はじめに停車させてください。
	• 電気系統に失陥の可能性があると表示 • 走行中にパワーモードを OFF モードにすると表示	• ただちに安全な場所に車を停車してパーキングブレーキをかけてください。 • メッセージが消えれば異常はありません。 • 異常があるとトランスミッション警告灯が点灯 / 点滅します。 ➡ **トランスミッション警告灯** P.70

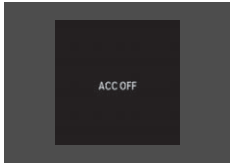
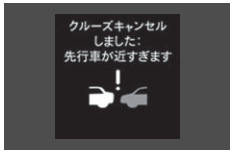
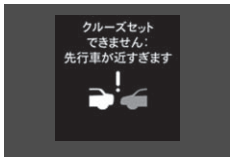
次ページに続く

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• 車両が停止中に運転者がシートベルトを外し、車両が動く可能性があるときに表示	• 停車中や車外に出るときは、ブレーキペダルから足をはなす前にパーキングスイッチを押してください。
	• シフトポジションが N のときにアクセルペダルを踏むと表示	• アクセルペダルから足を離してください。 走行するときは、ブレーキペダルを踏んで、シフトポジションの操作を行ってください。
	• シフトポジションの P とそれ以外のポジション切り換え操作を短時間のあいだに繰り返すと表示	• しばらく時間をおいてからシフトポジションを切り換えてください。
	• 走行中に POWER を押したときに表示	➔ **緊急時のパワーシステム停止方法** P.419

メッセージ	表示される状況	アドバイス
パーキングセンサー システム点検	• パーキングセンサーシステムが異常のときに表示	• センサー周辺に泥、氷、雪などの付着物がないか確認してください。付着物を取り除いても表示される場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。
ブレーキペダルを 踏んで下さい	• オートマチックブレーキホールドが作動中に、自動的にオートマチックブレーキホールドが停止したときに表示 • 警報音が鳴ることがあります	• ただちにブレーキペダルを踏んでください。 • 異常があるときは、電子制御パーキングブレーキ警告灯が点灯します。 ➔ **電子制御パーキングブレーキシステム警告灯が点灯した** P.429
ブレーキホールド システム OFF BRAKE HOLD	• オートマチックブレーキホールドスイッチを押して、オートマチックブレーキホールドシステムをOFF にすると表示	➔ **オートマチックブレーキホールド** P.321
ブレーキホールド システムSTANDBY: シートベルト着用後 スイッチを押す + BRAKE HOLD	• 運転席のシートベルトを着用せずに、オートマチックブレーキホールドスイッチを押すと表示	• 運転席のシートベルトを着用してください。 ➔ **オートマチックブレーキホールド** P.321
ブレーキホールド システムOFF: ブレーキを踏み スイッチを押す + BRAKE HOLD	• オートマチックブレーキホールドが作動中に、ブレーキペダルを踏まずにオートマチックブレーキホールドスイッチを押すと表示	• ブレーキペダルを踏みながらオートマチックブレーキホールドスイッチを押してください。 ➔ **オートマチックブレーキホールド** P.321

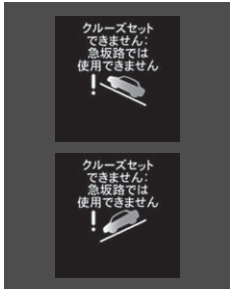
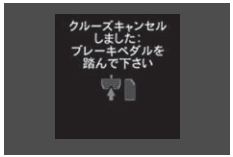
次ページに続く

メッセージ	表示される状況	アドバイス
パーキングブレーキ システムが 作動しました Ⓟ	• オートマチックブレーキホールドが作動中に、自動的にパーキングブレーキがかかったときに表示	➡ **オートマチックブレーキホールド** P.321 ➡ **電子制御パーキングブレーキ** P.318
ハイブリッドシステム 温度低下: 一時的に車速が 制限されます	• リヤモーターオイルの温度が著しく低いときに表示	• オイルの温度が正常に戻ると、警報は消えます。
SH-AWD システム点検 POWER SYSTEM	• ハイブリッドシステムまたは駆動力配分システムの異常により、SH-AWD 四輪駆動力自在制御システムに異常があるときに表示	• パワーモードをいったん OFF モードにしてから、もう一度ONモードにしてください。メッセージが再び表示される場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。
クルーズセット できません: 車速が高すぎます	• 車速が高すぎて渋滞追従機能付 ACC がセットできないときに表示	• 車速を下げてから渋滞追従機能付 ACC をセットしてください。 ➡ **渋滞追従機能付 ACC(アダプティブクルーズコントロール)** P.257
クルーズキャンセル しました: 車速が高すぎます	• 車速が高すぎて渋滞追従機能付 ACC の作動が解除されたときに表示	• 車速を下げてから渋滞追従機能付 ACC を再度セットしてください。 ➡ **渋滞追従機能付 ACC(アダプティブクルーズコントロール)** P.257

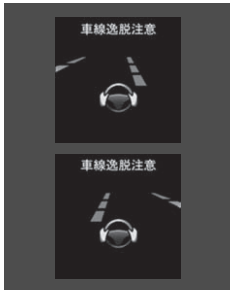
メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• 渋滞追従機能付 ACC の作動が自動的に解除されたときに表示	• 渋滞追従機能付 ACC が自動解除になった原因が解決された場合、RES/+/SET/- スイッチを上に押すことにより、元の設定速度に戻すことができます。 ➡ **渋滞追従機能付 ACC（アダプティブクルーズコントロール）** P.257
	• 停車中に先行車が発進し、レーダーセンサーの検知範囲からいなくなって渋滞追従機能付 ACC の作動が解除されたときに表示	• 先行車がいる状態または車速 30km/h 以上で走行して渋滞追従機能付 ACC をセットしてください。 ➡ **渋滞追従機能付 ACC（アダプティブクルーズコントロール）** P.257
	• 車速 30km/h 未満で先行車がいなくてセットできないときに表示	• 先行車がいる状態または車速 30km/h 以上で走行して渋滞追従機能付 ACC を再度セットしてください。 ➡ **渋滞追従機能付 ACC（アダプティブクルーズコントロール）** P.257
	• 先行車との車間距離が接近しすぎて渋滞追従機能付 ACC の作動が解除されたときに表示	• 先行車との車間距離をとってから渋滞追従機能付 ACC を再度セットしてください。 ➡ **渋滞追従機能付 ACC（アダプティブクルーズコントロール）** P.257
	• 先行車との車間距離が接近しすぎてセットできないときに表示	• 先行車との車間距離をとってから渋滞追従機能付 ACC を再度セットしてください。 ➡ **渋滞追従機能付 ACC（アダプティブクルーズコントロール）** P.257

次ページに続く

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• 運転席のシートベルトが着用されておらずセットできないときに表示	• 運転席のシートベルトを着用してから渋滞追従機能付ACCをセットしてください。 ➔ **渋滞追従機能付 ACC(アダプティブクルーズコントロール)** P.257
	• シフトポジションが D 以外でセットできないときに表示	• シフトポジションを D にしてから渋滞追従機能付ACCをセットしてください。 ➔ **渋滞追従機能付 ACC(アダプティブクルーズコントロール)** P.257
	• 急な坂道で停車して渋滞追従機能付 ACC の作動が解除されたときに表示	• 坂道が緩やかになってから渋滞追従機能付 ACC を再度セットしてください。 ➔ **渋滞追従機能付 ACC(アダプティブクルーズコントロール)** P.257

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• 急な坂道で停車していてセットできないときに表示	• 坂道が緩やかになってから渋滞追従機能付ACCを再度セットしてください。 ➡ **渋滞追従機能付 ACC(アダプティブクルーズコントロール)** P.257
	• パーキングブレーキがかかっていてセットできないときに表示	• パーキングブレーキを解除してから渋滞追従機能付 ACC をセットしてください。 ➡ **渋滞追従機能付 ACC(アダプティブクルーズコントロール)** P.257 ➡ **電子制御パーキングブレーキ** P.318
	• 走行中にブレーキペダルを操作していてセットできないときに表示	• ブレーキペダルを操作していない状態で渋滞追従機能付 ACC をセットしてください。 ➡ **渋滞追従機能付 ACC(アダプティブクルーズコントロール)** P.257
	• 渋滞追従機能付ACCによって自車が自動的に停止しているとき、渋滞追従機能付ACCの作動が解除されたときに表示	• ただちにブレーキペダルを踏んでください。 ➡ **渋滞追従機能付 ACC(アダプティブクルーズコントロール)** P.257

次ページに続く

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• 渋滞追従機能付ACCによって自車が自動的に停止しているとき、先行車が発進したときに表示	• RES/+/SET/- スイッチを上か下に押す、またはアクセルペダルを踏むと発進できます。 ➡ **渋滞追従機能付 ACC（アダプティブクルーズコントロール）** P.257
	• フロントグリルが汚れてレーダーセンサーが前の車両を検知しにくくなり、CMBS、渋滞追従機能付 ACC、トラフィックジャムアシスト、路外逸脱抑制機能、歩行者事故低減ステアリングが使用できなくなると表示	• 安全な場所でレーダーセンサーのカバーの遮蔽物を拭き取ってください。 ➡ **レーダーセンサー** P.317
	• 車線を越えそうになるとハンドルの振動による警告と同時に表示	• ハンドル操作をして、車線の中央を走行してください。しばらくすると、警告メッセージが消えます。
	• ハンドルから手を放したまま走行すると警告音と同時に点滅	• ハンドルを操作すると、警告メッセージが消えます。

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• LKAS システムに異常が起こり LKAS の作動が解除されたとき、またはLKAS システムに異常がある場合にLKAS スイッチを押したときに警告音と同時に表示	• VSA警告灯、ABS警告灯、ブレーキシステム警告灯が同時に点灯した場合は、ただちにHonda販売店で点検を受けてください。
	• フロントセンサーカメラの温度が異常に上がり、CMBS、渋滞追従機能付 ACC、トラフィックジャムアシスト、LKAS、路外逸脱抑制機能、歩行者事故低減ステアリングが使用できなくなると表示	• エアコンを使用して車内の温度を下げてください。 ➡ **フロントセンサーカメラ** P.315
	• フロントガラスに遮蔽物があるとき、CMBS、渋滞追従機能付 ACC、トラフィックジャムアシスト、LKAS、路外逸脱抑制機能、歩行者事故低減ステアリングが使用できなくなると表示 • 雨、霧、雪など悪天候のときも表示することがあります	• 安全な場所でフロントガラスの遮蔽物を取り除いてください。 ➡ **フロントセンサーカメラ** P.315
	• E- プリテンショナーシステムが異常のときに表示	• ただちにHonda販売店で点検を受けてください。

次ページに続く

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• ウィンドウォッシャー液量が少なくなると表示	• ウォッシャー液を補給してください。 ➔ **ウィンドウォッシャー液の補給** P.366
	• パワーモードをONモードにすると約30秒間表示 • パワーモードが ON モードのときに、リヤシートベルトを着用または外すと表示 • パワーモードが ON モードのときに、後席ドアを開閉すると表示	➔ **シートベルトリマインダー** P.29
	• ETC が利用できないときに表示	• ETC 車載器の詳細は、別冊のメーカーオプション「ETC 車載器」取扱説明書をお読みください。

メーター

メーターには、スピードメーター、燃料計などの種類があります。
パワーモードが ON モードのとき表示されます。

■スピードメーター

走行速度を km/h および mph で表示します。

■燃料計

燃料タンクに残っている、燃料の量を表示します。
パワーモードが ON モードのとき表示されます。

■タコメーター

1 分間あたりのエンジン回転数を表示します。

次ページに続く

燃料計

燃料計が E に近づいたら、早めに給油してください。
燃料がなくなるとエンジンが点火しなくなり、触媒装置を損傷することがあります。

実際の燃料残量と、メーターに表示される量は異なる場合がありますので、ご注意ください。

タコメーター

エンジン故障の原因となりますので限界回転数以上(レッドゾーン)に入らないよう運転してください。
特に、高速走行時にシフトダウンするときには、注意してください。

シフトポジションが R のときや、空ぶかしをしたときは、エンジンの限界回転数より低い回転数でも、トランスミッション保護のため燃料供給が停止されます。

■高電圧バッテリー残量計

高電圧バッテリー内の充電量を表示します。

高電圧バッテリー残量計

次のような場合は、高電圧バッテリー残量表示が下がることがあります。

- 12V バッテリーを交換したとき
- 12V バッテリーの端子を外したとき
- 高電圧バッテリー制御システムが残量の誤差を補正したとき

高電圧バッテリーの温度が変化すると、充電容量が上下することがあります。そのため充電量が変わらなくても、高電圧バッテリー残量計の表示が変化することがあります。

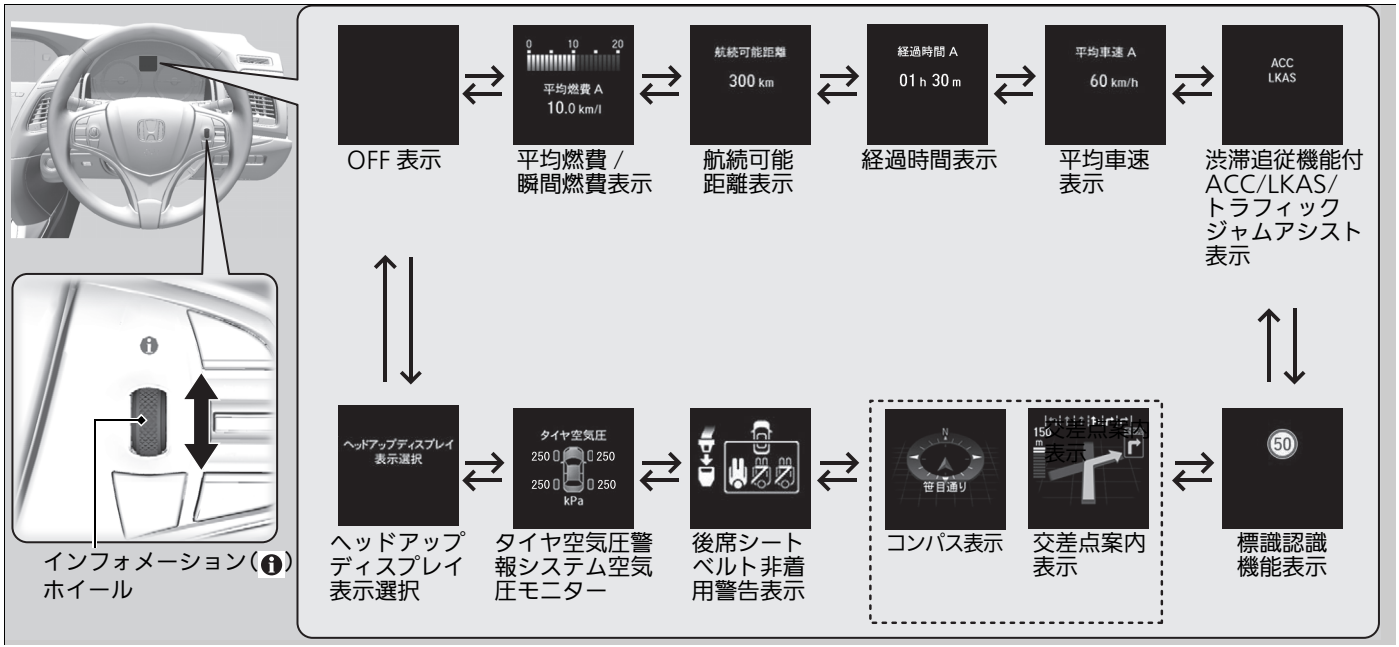
マルチインフォメーションディスプレイ

マルチインフォメーションディスプレイには、オドメーター、トリップメーター、外気温表示、燃費情報などが表示されます。
また、異常を検知すると警告メッセージが表示されます。

■表示の切り換えかた

メインディスプレイ

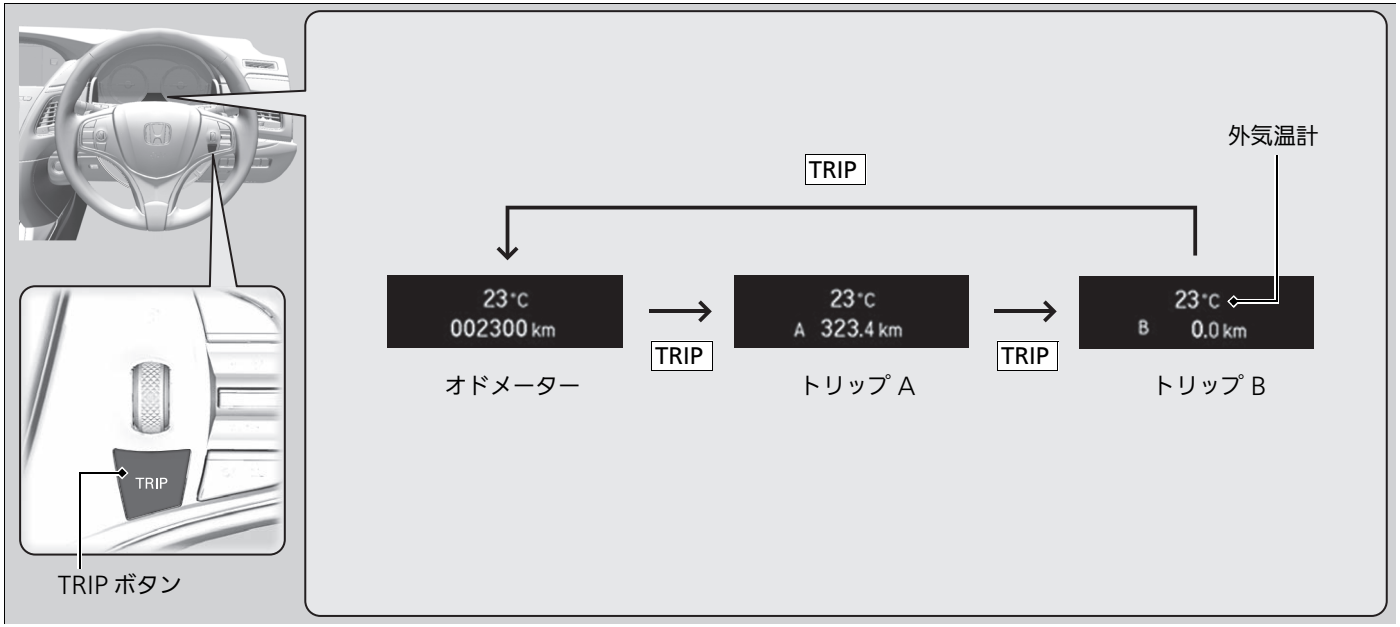
インフォメーション(ⓘ)ホイールを回すごとに画面が切り換わります。



次ページに続く

ロアディスプレイ

TRIP ボタンを押すごとに画面が切り換わります。



■オドメーター

走行距離の累計を km で表示します。

■トリップメーター

リセットしてからの走行距離を km で表示します。
トリップメーターA と、トリップメーターB があり、それぞれ独立して計測するため 2 つの走行距離を知ることができます。

■トリップメーターをリセットするには

リセットしたいトリップメーターが表示されている状態で、 TRIP ボタンを押し続けてください。トリップメーターが 0.0 にリセットされます。

■平均燃費表示 / 瞬間燃費表示

■平均燃費

トリップメーターA、B と連動し、それぞれの平均燃費を一定時間ごとに更新して km/l で表示します。
トリップメーターA、B をリセットすると、平均燃費表示A、B、平均車速表示A、B、経過時間表示 A、B も同時にリセットされます。

■瞬間燃費

瞬間燃費をバーグラフに km/l で表示します。

トリップメーター

トリップメーターは走行距離が 9999.9km を超えると、0.0km に戻ります。

トリップメーターA とトリップメーターB は、 TRIP ボタンを押して切り換えられます。

平均燃費表示 / 瞬間燃費表示

表示される平均燃費は、実際に走行した燃費とは異なる場合があります。

トリップメーターA、B と平均燃費表示 A、B を給油と連動させて自動的にリセットさせることができます。

➡ 別冊の Honda インターナビシステム取扱説明書

次ページに続く

■航続可能距離表示

高電圧バッテリーの残量と燃料、平均燃費をもとに推定航続可能距離を km で表示します。

■経過時間表示

トリップメーターA、B と連動し、ハイブリッドシステムを起動してから停止するまでの時間を表示します。

■平均車速表示

トリップメーターA、B をリセットしてからの平均車速を km/h で表示します。

■渋滞追従機能付 ACC(アダプティブクルーズコントロール)/ LKAS/ トラフィックジャムアシスト (渋滞運転支援機能) 表示

渋滞追従機能付ACC/LKAS/トラフィックジャムアシストの現在の状態を表示します。

■標識認識機能表示

走行中に認識した最高速度、はみ出し通行禁止、一時停止、車両進入禁止の道路標識情報を表示します。

➡ **標識認識機能** P.308

航続可能距離表示

表示される航続可能距離は、実際に航続可能な距離とは異なる場合があります。

車両停止状態でも EV 航続可能距離が変動する場合があります。

経過時間表示

経過時間表示は 99 時間 59 分まで表示できます。

トリップメーターA、B と経過時間表示 A、B を給油と連動させて自動的にリセットさせることができます。

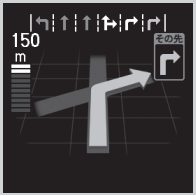
➡ **別冊の Honda インターナビシステム取扱説明書**

平均車速表示

トリップメーターA、B と平均車速表示 A、B を給油と連動させて自動的にリセットさせることができます。

➡ **別冊の Honda インターナビシステム取扱説明書**

■交差点案内表示 / コンパス表示



ナビゲーションシステムと連動して、交差点での曲がる方向や交差点までの距離を表示します。

➡ 別冊のHondaインターナビシステム取扱説明書

■タイヤ空気圧警報システム空気圧モニター

タイヤの空気圧を表示します。

➡ タイヤ空気圧警報システム（TPMS） P.233

■ヘッドアップディスプレイ表示選択

ヘッドアップディスプレイの表示内容選択画面を表示します。

➡ 表示内容の切替 P.112

交差点案内表示 / コンパス表示

交差点案内表示を選択しているとき、案内する項目がない場合はコンパスが表示されます。

交差点案内表示の ON/OFF を選択することができます。

➡ 別冊の Honda インターナビシステム取扱説明書

次ページに続く

■外気温表示

外気温を測定し表示します。

■外気温表示を補正するには

外気温とメーターの表示温度に差がある場合、±3 ℃の範囲で補正することができます。

補正するには、オーディオ / インフォメーション画面のカスタマイズ機能を使用します。

➔ 別冊の Honda インターナビシステム取扱説明書

外気温表示

温度センサーはフロントバンパー付近に付いています。

速度がおよそ30km/h以下のときは、表示される温度が、路面の熱、エンジンの熱、周囲の車の排気ガスの影響を受けることがあります。
また、温度の読み取り値が安定するまで更新されないため、温度表示の更新に数分かかることがあります。

外気温表示の補正は、温度が安定してから行ってください。

ヘッドアップディスプレイ

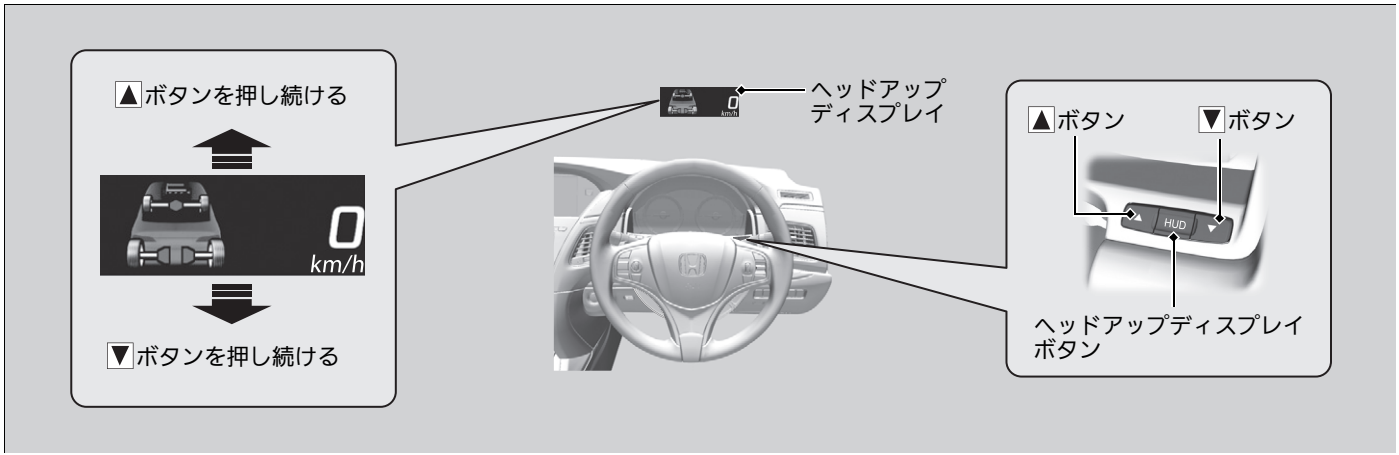
ヘッドアップディスプレイは、スピードメーター、駆動力配分表示、渋滞追従機能付ACC/LKAS/トラフィックジャムアシストの現在の状態、タコメーター、シフトインジケーター/ M (7 速マニュアルシフトモード)、標識認識機能表示、交差点案内表示 / コンパス表示を表示できます。パワーモードが ON モードのときに表示され、表示内容はマルチインフォメーションディスプレイで選択します。

ヘッドアップディスプレイを ON/OFF するには：ヘッドアップディスプレイボタンを押します。

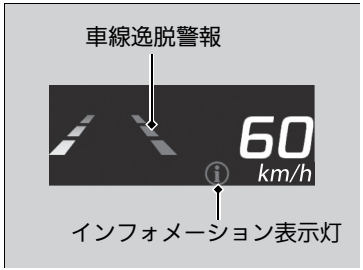
画面は目の高さに合わせて上下に移動できます。
ヘッドアップディスプレイの表示位置を上下に移動させるには：好みの位置になるまで、▲または▼ボタンを長押しします。

ヘッドアップディスプレイ

画面の高さは、Honda スマートキーで解錠して運転席ドアを開けると、DRIVER1 のキーと DRIVER2 のキーを判別して、記憶した位置に自動調節されます。



次ページに続く



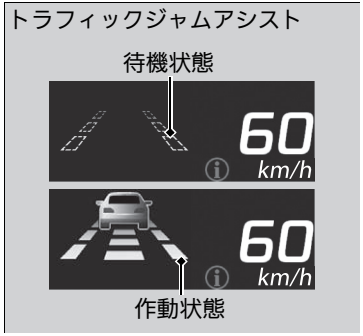
車両情報のほか、以下が表示されます。

- インフォメーション表示灯：異常を検知すると、マルチインフォメーションディスプレイの警告メッセージと同時に表示されます。

  ➔ **マルチインフォメーションディスプレイのメッセージ** P.83

- 車線逸脱警報：車線を越えそうになるとハンドルの振動による警告と同時に表示されます。

  ➔ **LKAS（車線維持支援システム）** P.271



- トラフィックジャムアシスト：待機状態のとき、車線表示（点線）が表示されます。
  車線中央付近を走行中にカメラが両側の白線（黄線）を検知し、レーダーセンサーとカメラにより前走車を検知すると作動状態となり、車のアイコンと車線が表示されます。

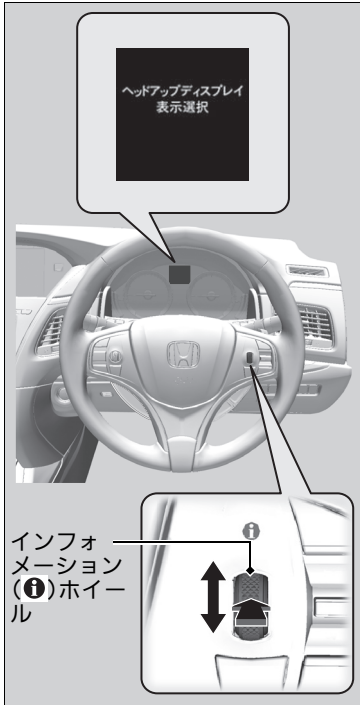
  ➔ **トラフィックジャムアシスト（渋滞運転支援機能）** P.282

- ヘッドアップワーニング
  CMBS が作動し、マルチインフォメーションディスプレイに が表示されると点滅します。
  ➡ **衝突軽減ブレーキ（CMBS）** P.240
  渋滞追従機能付 ACC が作動し、マルチインフォメーションディスプレイに が表示されると点灯します。
  ➡ **渋滞追従機能付 ACC（アダプティブクルーズコントロール）** P.257

次ページに続く

■表示内容の切替

ヘッドアップディスプレイに車速とともに表示される車両情報を変更するには、以下の操作を行います：



1. インフォメーション(ⓘ)ホイールを回して「ヘッドアップディスプレイ表示選択」を選択し、インフォメーション(ⓘ)ホイールを押して決定する。

表示の切り換えかた P.103

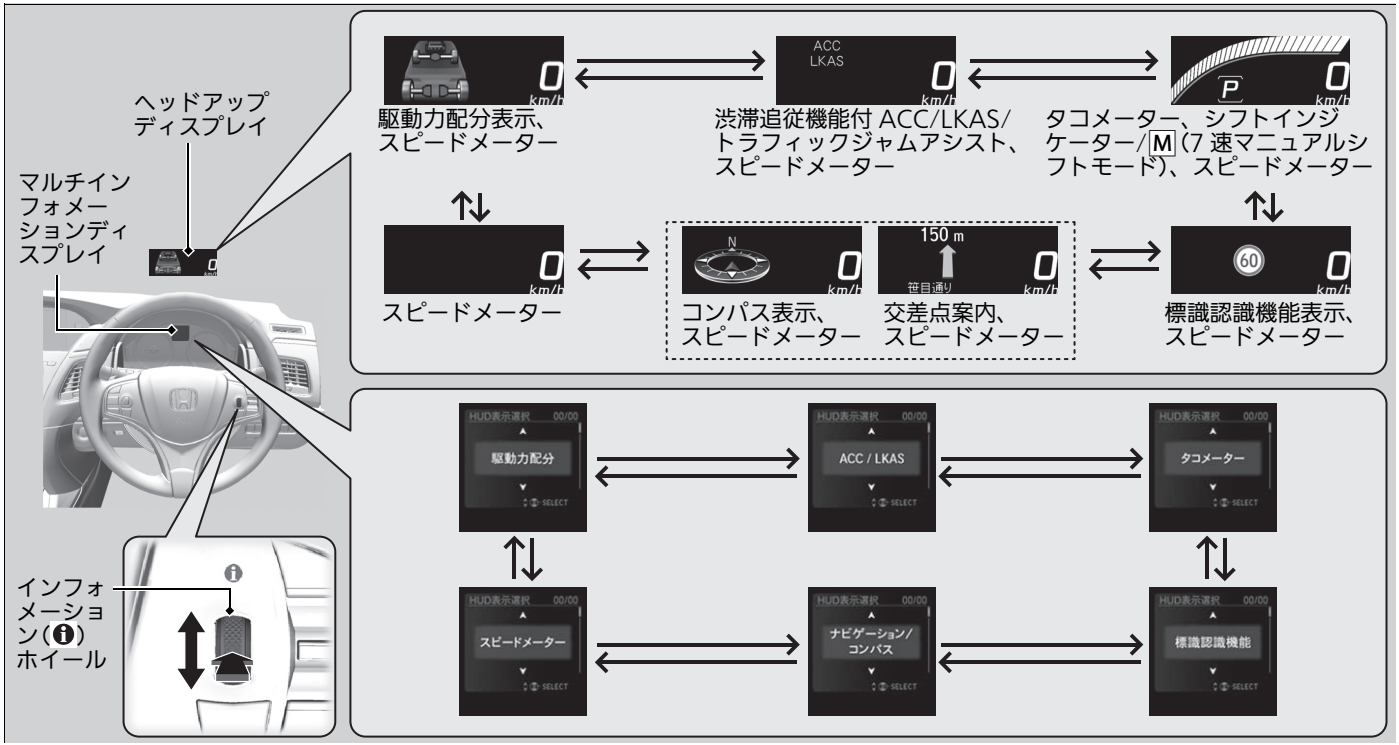
表示内容の切替

マルチインフォメーションディスプレイの「ヘッドアップディスプレイ表示選択」を選ぶには、「ヘッドアップディスプレイ ON」にしてください。

「ヘッドアップディスプレイ表示選択」は、マルチインフォメーションディスプレイに「車両設定」以外の画面が表示されているときに、インフォメーション(ⓘ)ホイールを押しても選ぶことができます。

2. インフォメーション(ⓘ)ホイールを回して表示させたい車両情報を選択し、インフォメーション(ⓘ)ホイールを押して決定する。

- マルチインフォメーションディスプレイで決定した車両情報が、ヘッドアップディスプレイに表示されます。



次ページに続く

■スピードメーター

走行速度を km/h で表示します。

■渋滞追従機能付 ACC(アダプティブクルーズコントロール)/ LKAS/ トラフィックジャムアシスト (渋滞運転支援機能) 表示

渋滞追従機能付ACC、LKASおよびトラフィックジャムアシストの現在のモードを表示します。

➡ **渋滞追従機能付 ACC(アダプティブクルーズコントロール)** P.257
➡ **LKAS(車線維持支援システム)** P.271
➡ **トラフィックジャムアシスト(渋滞運転支援機能)** P.282

■タコメーター/ シフトインジケーター / M (7 速マニュアルシフトモード)表示

タコメーター：エンジン回転数をバーグラフで表示します。
シフトインジケーター/ M (7 速マニュアルシフトモード)：現在のシフトポジションを表示します。

■交差点案内表示 / コンパス表示

ナビゲーションシステムによるルート案内の際に、交差点や分岐点などで進路案内を表示します。

➡ **別冊の Honda インターナビシステム取扱説明書**

交差点案内表示 / コンパス表示

交差点案内表示を選択しているとき、案内する情報がない場合はコンパスが表示されます。

交差点案内表示の ON/OFF を選択することができます。

➡ **別冊の Honda インターナビシステム取扱説明書**

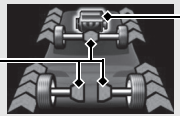
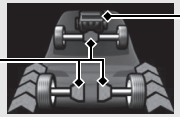
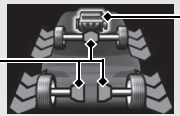
■標識認識機能表示

走行中に認識した最高速度、はみ出し通行禁止、一時停止、車両進入禁止の道路標識情報を表示します。

➡ **標識認識機能** P.308

■駆動力配分表示

駆動力配分表示は、モーターとエンジンのどちらの動力をタイヤに伝達しているか、およびバッテリーへの入出力状態のフローを表示します。

走行状態	ヘッドアップディスプレイ	パワーフロー色
ハイブリッド走行	パワーフローインジケーター  エンジンアイコン（エンジンON）	ブルー
EV 走行	パワーフローインジケーター  エンジンアイコン（エンジンOFF）	ブルー
エンジン走行	パワーフローインジケーター エンジンアイコン（エンジンON）	ブルー
回生	パワーフローインジケーター  エンジンアイコン（エンジンON）	グリーン

次ページに続く

駆動力配分表示

駆動力配分表示は、オーディオ / インフォメーション画面に表示させることもできます。

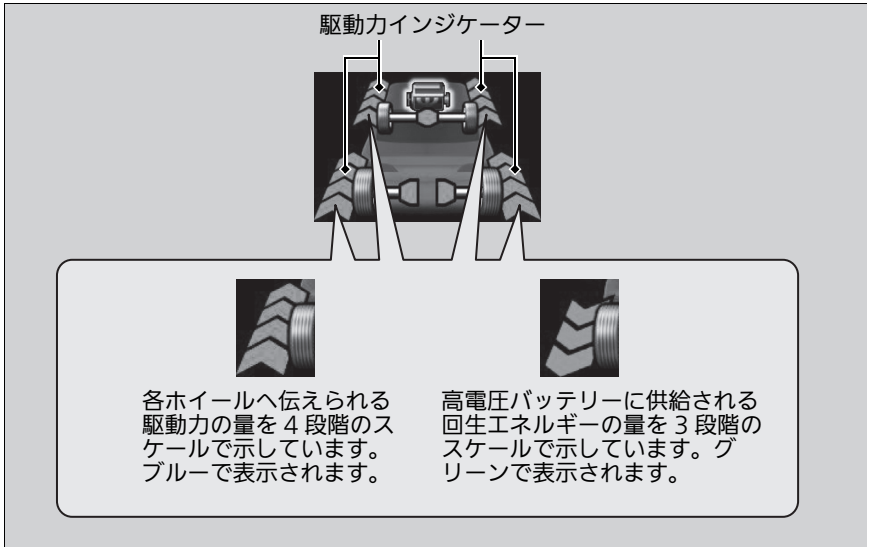
➡ **別冊の Honda インターナビシステム取扱説明書**

アイドリング中で、高電圧バッテリーを充電していないとき下記が表示されます。

■ SH-AWD 駆動力配分表示

画面表示は、各タイヤへ伝えられる駆動力の量、または高電圧バッテリーに供給される回生エネルギーの量を表示します。

➔ SPORT HYBRID SH-AWD（Super Handling All Wheel Drive）P.229

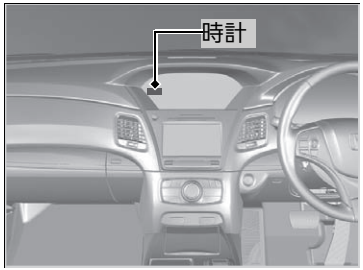


各部の操作

この章では、運転に必要な各部の操作方法について記載しています。

時刻の設定 118
ドアの施錠と解錠
キーの種類と機能 119
Honda スマートキーの微弱電波 121
車外でのドアの施錠 / 解錠 122
車内での施錠 / 解錠 128
チャイルドプルーフ 130
衝撃感知ドアロック解除システム 131
オートドアロック/オートドアアンロック 131
トランクの開閉 132
セキュリティシステム
イモビライザーシステム 138
セキュリティアラームシステム 138
超音波センサー 140
ウィンドーの開閉 141
サンルーフの開閉 144
ハンドルまわりのスイッチ操作
POWER スイッチ 146
方向指示器(ウィンカースイッチ) 149
ライトスイッチ 150
フォグライト 152
オートハイビーム 153
ワイパー/ ウォッシャー 156
イルミネーションコントロール 159
リヤデフロスター/ ヒーテッドドアミラー/ フロントガラス熱線スイッチ 161
ドライビングポジションシステム 162
ハンドルの調節 164
ミラー類の調節 165
シートの調節
フロントシート 168
ヘッドレスト 171
アームレスト 173
室内灯 / 室内装備品 174
エアコン
エアコンの吹き出し口 192
オートエアコンの使いかた 193
オートエアコンのセンサー 204

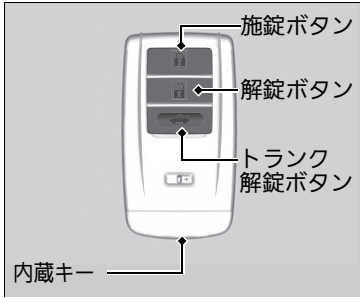
時刻の設定



時計は人工衛星からの情報を利用していますので、時刻合わせは不要です。

キーの種類と機能

この車には、以下のキーが付いています。



パワーシステムの起動、停止のほかに、すべてのドア、トランクの施錠・解錠に使用できます。
また、キーについているボタンで、すべてのドア、トランクの施錠 / 解錠の操作ができます。

キーの種類と機能

キーの故障を防ぐため、下記の点をお守りください。

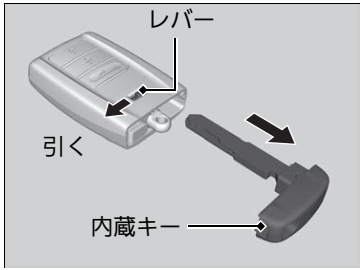
- 直射日光が当たる場所、高温、多湿の場所に置かない
- キーを落としたり、重いものをのせない
- キーに液体をかけない
- 砂や埃を避ける
- 分解をしない
- 火であぶらない
- テレビ、オーディオなど磁気を帯びた機器の近くに置いたりしない

すべてのキーには、イモビライザーシステムがついています。イモビライザーシステムは、車両を盗難から守るためのシステムです。
➡ **イモビライザーシステム** P.138

キーの電子部品が故障すると、パワーシステムの起動やリモート発信が作動しなくなることがあります。
キーが正常に作動しなくなった場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。

次ページに続く

■内蔵キー

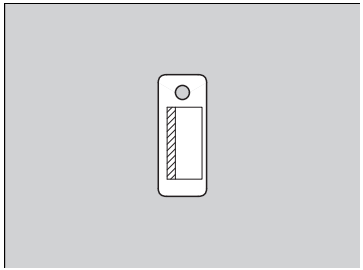


Honda スマートキーの電池が切れたときや車の 12V バッテリーがあがったときは、内蔵キーを使用してください。
内蔵キーは、レバーを引きながら取り出します。

収納するときは、「カチッ」と音がするまで差し込みます。

Honda スマートキーの電池の消耗や故障したときのことを考慮して、内蔵キーは Honda スマートキーに収納しておいてください。

■キーナンバータグ



キーナンバータグには、キーを購入する際に必要となる番号が記載されています。

キーの種類と機能

Honda スマートキーは、特定小電力無線設備の技術基準適合証明を受けています。以下のことをお守りください。

- 日本国内でのみ使用する
- 電池交換時以外は分解しない
- 改造しない
- キーの内部にある技術基準適合表示を故意に消去、改ざんしない

分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。

Honda スマートキーの電池が切れたとき
P.418

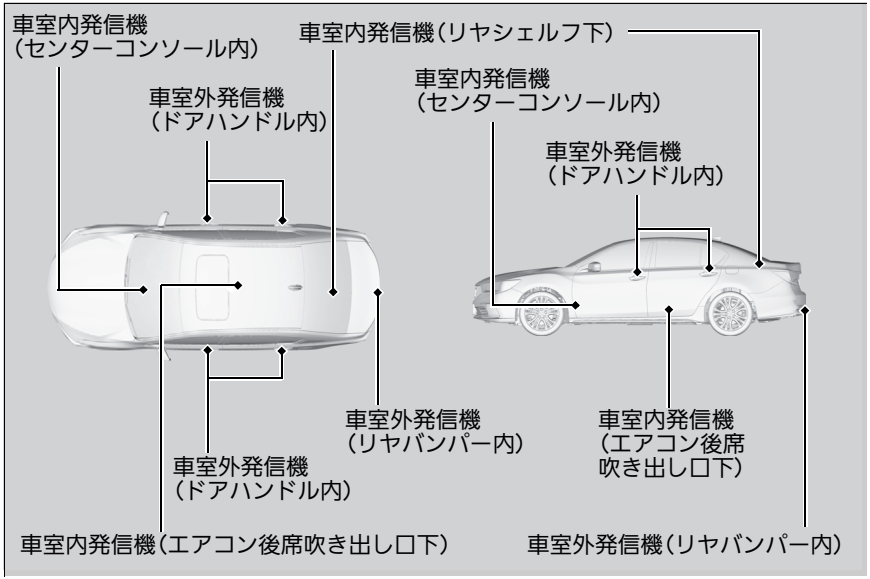
キーナンバータグ

キーナンバータグは、キーとは別に車両以外の場所に大切に保管してください。
キーナンバータグには、キーを購入する際に必要となる番号が記載されています。キーと一緒に保管せず、車両以外の場所に大切に保管してください。キーを紛失したときや、追加購入したいときは、Honda 販売店に依頼してください。

Honda スマートキーの微弱電波

Honda スマートキーを使用してドア、トランクの施錠 / 解錠操作をするときやパワーモードを ON モードにするとき、Honda スマートキーとの電子照合を行うために車両から電波が発信されます。
そのため、次のような場合正常に作動しなかったり、不安定な動作となったりすることがあります。

- 近くに強い電波を発する設備があるとき
- 携帯電話や無線機などの通信機器やノートパソコンと一緒に Honda スマートキーを携帯しているとき
- Honda スマートキーが金属物に触れていたり覆われていたりするとき



Honda スマートキーの微弱電波

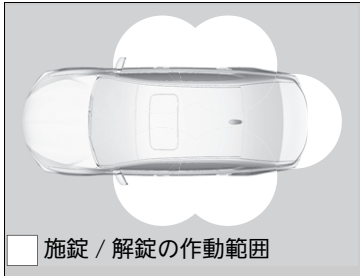
⚠注意

植え込み型心臓ペースメーカおよび植え込み型除細動器を使用しているかたは、車両に搭載されている発信機から 22cm 以内に近づかない。
Honda スマートキーシステムで発信されている電波が、機器の作動に影響を与える可能性があります。医療用電子機器を使用しているかたは、医師や医療用機器製造者に影響を確認してからご使用ください。

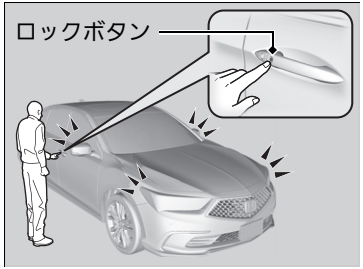
Honda スマートキーは車両との通信のために常時受信動作をしているため、常に電池を消耗しています。電池寿命は、使用状況により異なりますが約 2 年間です。
また、強い電波を受信し続けると電池を著しく消耗することがあります。テレビやパソコンなどの電化製品の近くには置かないでください。

車外でのドアの施錠 / 解錠

■ Honda スマートキーシステムでの施錠 / 解錠



Honda スマートキーを携帯し、ロックボタン、ドアハンドルを操作することでドア、トランクの施錠や解錠ができます。
ドア、トランクの施錠 / 解錠が作動するのは、ドアハンドル、トランクオープンスイッチから周囲約 80cm 以内です。



■施錠するには

ドアハンドルのロックボタンを押します。

▶「ピッ」というアンサーバックブザーが鳴り非常点滅表示灯が1回点滅し、すべてのドア、トランクが施錠されます。

車外でのドアの施錠 / 解錠

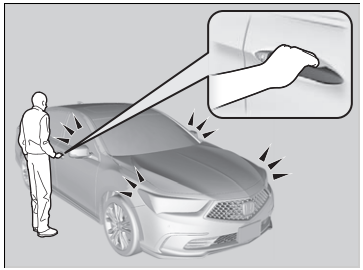
ドアを解錠すると、室内灯が点灯します。
室内灯のスイッチがドアと連動する位置にあるとき、解錠すると室内灯が点灯します。
約 30 秒点灯し、徐々に暗くなります。30 秒以内にドアを施錠すると、室内灯は直ちに消灯します。
➡ **室内灯** P.174

Honda スマートキーシステムでの施錠 / 解錠

30 秒以内にドア、トランクを開けてください。Honda スマートキーシステムで解錠操作をした場合、30 秒以内にドア、トランクを開けないと、再び自動的に施錠されます。

パワーモードが OFF モード以外のときは Honda スマートキーシステムによる施錠解錠はできません。

- Honda スマートキーは運転者が携帯し、車内に残したまま降車しないでください。
- 同じ作動範囲に Honda スマートキーを携帯している人がいるときは、携帯していない人でもロックボタンやドアハンドル、トランクオープンスイッチで施錠 / 解錠操作ができます。



■解錠するには

ドアハンドルを握ります。

▶「ピピッ」というアンサーバックブザーが鳴り非常点滅表示灯が2回点滅し、すべてのドア、トランクが解錠されます。

Honda スマートキーシステムでの施錠 / 解錠

- 革製やスキー用の手袋などを着用しているときは、ドアハンドルでの解錠操作が遅れたりできなかったりすることがあります。
- 作動範囲内に Honda スマートキーがあるときは、大雨や洗車などで大量の水がドアハンドルにかかると、解錠されることがあります。
- 施錠後約 2 秒間は、ドアハンドルを握っても解錠操作はできません。
- ドアハンドルを握った直後、もしくはトランクオープンスイッチを押した直後はドア、トランクが開かないことがあります。ドアハンドルを握りなおすか、トランクオープンスイッチを押しなおして解錠されていることを確認してから開けてください。
- ドアハンドル、トランクオープンスイッチより約 80cm 以内の距離でも、Honda スマートキーが地面の近くや高い位置にあるときは作動しないことがあります。
- ドアやドアガラス、トランクに近づきすぎていると作動しないことがあります。

次ページに続く

Honda スマートキーシステムでの施錠 / 解錠

カスタマイズ機能について

施錠 / 解錠時に鳴るアンサーバックブザーは、オーディオ / インフォメーション画面を使って音量を変えたりブザーが鳴らないようにすることができます。

➡ 別冊の Honda インターナビシステム取扱説明書

カスタマイズ機能	選択できる設定内容
アンサーバックブザー音量	大※、小
アンサーバックブザー作動	作動※、非作動

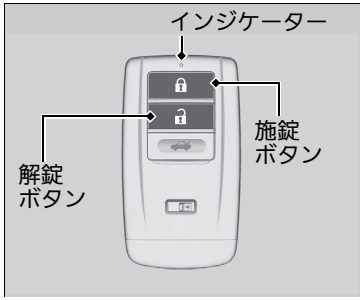
※：工場出荷時の設定

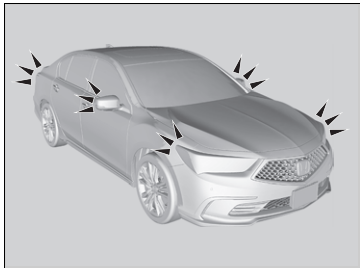
すべてのドアが施錠されているとき、Honda スマートキーを携帯し、Honda スマートキーシステムの作動範囲に入ると、すべてのドアのアウターハンドルのライトが約 30 秒点灯します。

数日間ドアが施錠されているときや、5 分以上作動範囲内にいたときは点灯しません。

ドアを解錠してから施錠し、再び作動範囲内に入るとアウターハンドルのライトが点灯します。

■キーレスエントリーシステムでの施錠 / 解錠





■施錠

施錠ボタンを押します。

▶ 非常点滅表示灯が1回点滅し、すべてのドアとトランクが施錠されます。

■解錠

解錠ボタンを押します。

▶ 非常点滅表示灯が2回点滅し、すべてのドアとトランクが解錠されます。

キーレスエントリーシステムでの施錠 / 解錠

パワーモードが OFF モード以外のときは、キーレスエントリーシステムによる施錠 / 解錠はできません。

30 秒以内にドアまたはトランクを開けてください。

キーレスエントリーシステムで解錠操作をした場合、30 秒以内にドアを開けないと、ドアは再び自動的に施錠されます。

➡ **別冊のHonda インターナビシステム取扱説明書**

キーレスエントリーシステムは微弱電波を使用しているため、周囲の状況により作動範囲が変化することがあります。

ドア、トランクが開いているときは、キーレスエントリーシステムで施錠できません。

作動距離が不安定になった場合は、電池の消耗が考えられます。

ボタンを押したときに、インジケーターが点灯しない場合は、電池切れです。

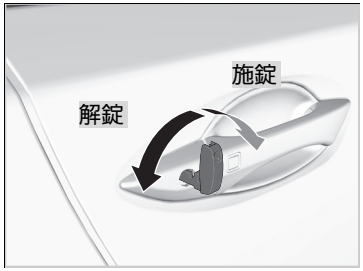
➡ **電池交換のしかた** P.378

次ページに続く

■キーを差し込んでの施錠 / 解錠

Honda スマートキーのボタンで施錠 / 解錠できない場合は内蔵キーを使用してください。

➡ **内蔵キー** P.120



キーを確実に差し込んで、回します。

キーを差し込んでの施錠 / 解錠

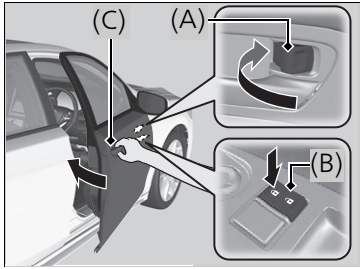
運転席ドアに内蔵キーを差し込んで施錠すると、ほかのすべてのドアとトランクが同時に施錠されます。

セキュリティシステムがセットされているとき、キーで解錠するとセキュリティシステムが作動します。

➡ **セキュリティアラームシステム** P.138

■キーを使わない施錠

キーが正常に作動しなくなったときや、キーを所持していないときに、キーを使わずに施錠することができます。



■運転席のドアの施錠

ノブ(A)を押し込むか、マスタードアロックスイッチ(B)を施錠のほうに押し、外側のドアハンドル(C)を引いたままドアを閉めます。

■運転席以外のドアの施錠

ノブを押し込み、ドアを閉めます。

■キー閉じ込み防止装置

Honda スマートキーが車内の作動範囲内に置いてあると、施錠できません。

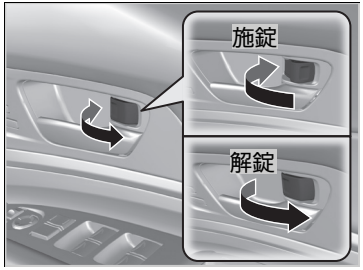
キーを使わない施錠

運転席ドアで施錠すると、ほかのすべてのドアとトランクも同時に施錠されます。

施錠の際は車内にキーを置き忘れないようにしてください。

車内での施錠 / 解錠

■ノブでの施錠 / 解錠



■施錠するには

ノブを押し込みます。

■解錠するには

ノブを引きます。

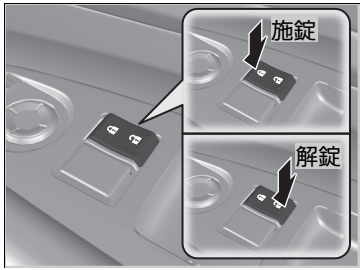
ノブでの施錠 / 解錠

運転席ドアのノブで施錠すると、ほかのすべてのドア、トランクも同時に施錠されます。

■運転席ドアハンドルでの解錠

運転席ドアは、内側のハンドルを引くと施錠していてもドアが開きます。

■マスタードアロックスイッチでの施錠 / 解錠



マスタードアロックスイッチを施錠 / 解錠のほうに押します。

運転席ドアハンドルでの解錠

走行中でも運転席の内側のハンドルを引くとドアが開きます。走行中はドアハンドルを操作しないでください。

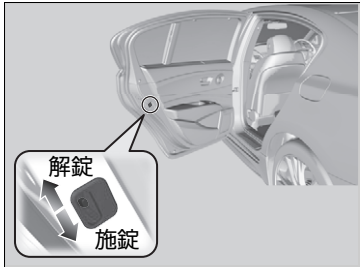
マスタードアロックスイッチでの施錠 / 解錠

運転席または助手席ドアのマスタードアロックスイッチで施錠 / 解錠すると、ほかのすべてのドア、トランクも同時に施錠 / 解錠されます。

チャイルドプルーフ

チャイルドプルーフとは、走行中などにお子さまが車外に放り出されることを防止するため、ノブの位置に関係なく、後席ドアを車内から開けることができないようにする機能です。
お子さまをリヤシートに乗せるときなどにお使いください。

■チャイルドプルーフのセット



後席ドアについているツマミを、施錠の位置にしてドアを閉めます。

■ドアを開ける場合

外側のハンドルで開けます。

チャイルドプルーフ

チャイルドプルーフセット時に車内から開けたい場合は、ノブを解錠状態にして後席ウィンドーを下げ、窓から手を出して外側のドアハンドルを引いてください。

衝撃感知ドアロック解除システム

車両に衝撃が加わったときに、自動的にすべてのドア、トランクを解錠するシステムです。
作動するのは以下の場合です。

- 正面からの衝撃：SRS エアバッグが作動したとき
- 側面からの衝撃：サイドエアバッグ/サイドカーテンエアバッグが作動したとき
- 後面からの衝撃：衝撃が大きいとき

いずれの場合も、安全性を考慮して衝撃を受けてから約 10 秒後に解錠します。

オートドアロック / オートドアアンロック

■オートドアロック

■車速連動

車速が約 15km/h 以上になるとすべてのドア、トランクが自動的に施錠される機能です。

■オートドアアンロック

■シフトポジション連動

ブレーキペダルを踏んでシフトポジションを P にすると、すべてのドア、トランクが自動的に解錠される機能です。

衝撃感知ドアロック解除システム

衝撃の加わりかたや大きさによっては解錠しない場合があります。

オートドアロック / オートドアアンロック

オーディオ / インフォメーション画面を使ってオートドアロック / オートドアアンロックの条件をカスタマイズすることができます。

➡ **別冊の Honda インターナビシステム取扱説明書**

トランク開閉時の注意

トランク開閉をするときは、下記の点に注意してください。

■トランクを開けているとき

- 風の強い日は、風にあおられて閉まらないように注意する。
- トランクを開けたまま走行しない。
  ▶ 車内に排気ガスが侵入するおそれがあります。

■トランクを閉めるとき

- Honda スマートキーを、トランク内に置き忘れないように注意する。

トランク開閉時の注意

⚠注意

トランクを開閉するときは、周囲の安全と車の上方や後方に十分なスペースがあることを確認し、頭をぶつけたり、手などをはさまないよう注意する。

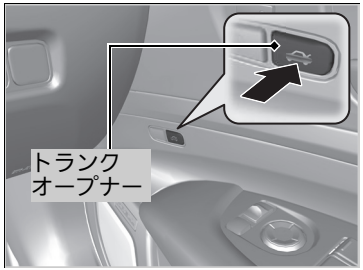
エンジンをかけた状態で手荷物を出し入れするときは、排気管の後方に立たないようにする。
やけどなどの思わぬけがをすることがあります。

トランクルーム内には、人を乗せない。
ブレーキや加速、衝突のときにけがをするおそれがあります。

トランク内にお子さまが入らないように注意する。
トランクは中から開けることはできません。

運転席ドアが施錠されているとき：
トランクを閉めると、トランクも施錠されます。
運転席ドアが解錠されているとき：
トランクを閉めても、施錠されません。

トランクオープナーで開ける



運転席ドアにあるトランクオープナーを押すと、トランクが解錠され全開します。

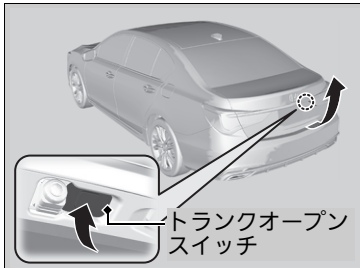
➡ **トランクが開かないとき** P.442

キーレスエントリーシステムで開ける

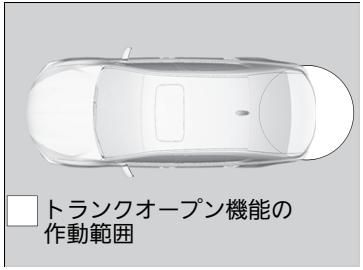
トランク解錠ボタンを約1秒押すと、トランクが解錠され全開します。

パワーモードが OFF モード以外のときは、キーレスエントリーの解錠ボタンでは開けられません。

トランクオープンスイッチで開ける



運転席ドアを解錠し、トランクオープンスイッチを押すとトランクが全開します。



Honda スマートキーを携帯して、トランクオープンスイッチを押すとトランクが解錠され全開します。このときアンサーバックブザーが「ピッ」と 1 回鳴ります。

トランクオープンスイッチで開ける

- Honda スマートキーは運転者が携帯し、トランク内に置かないようにしてください。
- 作動範囲内に Honda スマートキーを携帯している人がいるときは、携帯していない人でもトランクオープンスイッチでトランクを開けることができます。
- トランク内に Honda スマートキーを置いたままトランクを閉めると、ブザーが鳴りトランクが開きます。Honda スマートキーを取り出してから、再度トランクを閉めてください。
- トランクを閉めるときは、Honda スマートキーを後席に置かないでください。

パワートランク

パワートランクが全開のとき、パワートランクにあるクローズスイッチを押して、自動で閉めることができます。

パワートランク

⚠警告

パワートランクを閉めるときは、パワートランクの周囲の安全を十分確認する。
トランクが動いているときは触ったり、近づいたりしないでください。トランクに手や顔などをはさまれて重大な傷害を受けるおそれがあります。
特にお子さまには気をつけてください。

⚠注意

パワートランクを確実に閉め切るため、閉め切る直前の部分にはさみ込みを検知しないエリアがあります。指などをはさみ込まないように、注意してください。

パワートランクが自動的に作動しているときは、パワートランクを押したり引っ張ったりしないでください。
作動中に無理な力を加えるとパワートランクが歪む可能性があります。

次ページに続く

パワートランク

次のような場合はパワートランクが確実に閉まらないことがあります。

- 開閉中にエンジンを始動したとき
- 傾斜している場所
- 風が強いとき
- パワートランクに雪が積もっているとき（開閉する前に雪を取り除いてください）

すべてのドアがロックされているときにパワートランクを閉じると、自動的にロックします。

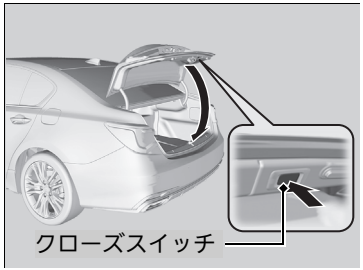
パワートランクが開いているときに12V バッテリーまたはヒューズを交換すると、パワートランクが無効になることがあります。 パワートランクを手動で閉じると再開します。

パワートランクに、この車専用（Honda 純正品）以外のアクセサリーや字光式ナンバープレートを取り付けないでください。
パワートランクが開閉できないことがあります。

走行する前にパワートランクが完全に閉じていることを確認してください。

パワートランクが開いているときに、パワーモードをONにしてトランスミッションを P 以外の位置に切り換えるとブザーが鳴ります。

■クローズスイッチで閉める



クローズスイッチを押すと、パワートランクが閉まります。このとき、「ピー」とブザーが鳴ります。
閉じている間にクローズスイッチを押すと、パワートランクが反対側に動きます。

■イージートランククローザー

手動でパワートランクを半ドア状態の位置まで閉めると、自動的に閉まります。

≫クローズスイッチで閉める

トランクが自動的に閉まっている間に障害物に接触するとブザーが鳴りパワートランクが反対側に動きます。

≫イージートランククローザー

アドバイス

イージートランククローザー作動中はトランクに無理な力を加えないでください。故障の原因となります。

イモビライザーシステム

イモビライザーシステムとは、キーに信号を発信する電子部品が組み込まれてあり、あらかじめ登録されたキーでないとモーターの駆動とエンジンの始動ができないようにしたシステムです。

イモビライザーシステムでは、車両とキーの電子照合を行うときに微弱な電波を使用します。パワーモードをアクセサリーモードにするときは、下記の点に注意してください。

- POWER スイッチの近くに強い電波を発するものを近づけない
- キーを金属に触れさせたり、覆ったりしない
- ほかの車両のイモビライザーシステムのキーを近づけない
- 磁気を帯びたキーホルダーなどをキーと一緒に取り付けない

イモビライザーシステム

システムの改造や追加をしないでください。
システムが故障するおそれがあります。

セキュリティアラームシステム

セキュリティアラームシステムは、キーレスエントリーシステムあるいはHonda スマートキーシステムを使わずにドア、トランク、ボンネットを開けると、警報装置が作動するシステムです。

■作動すると

ホーンが断続的に鳴り、非常点滅表示灯が点滅します。

■停止させるには

Honda スマートキーシステムまたはキーレスエントリーシステムで解錠するか、パワーモードをONモードにしてください。システムが停止し、ホーンと点滅も停止します。

セキュリティアラームシステム

システムの改造や追加をしないでください。
システムが故障するおそれがあります。

警報装置はセキュリティアラームシステムを停止させるまで、約５分間作動します。
ホーンおよび非常点滅表示灯は、1回の作動につき約 30 秒間作動し、その警報作動が 10 回行われます。
状況によっては、5分以上作動する場合があります。

■セットするには

セキュリティアラームシステムは、以下の条件が整うと自動的にセットされます。

- パワーモードが OFF モードになっている
- ボンネットが閉まっている
- Honda スマートキーシステムまたはキーレスエントリーシステム、内蔵キーですべてのドアとトランクが施錠されている

■セットされると

メーター内にある作動表示灯が点滅し、約 15 秒後に点滅間隔が長くなります。

■セットを解除するには

Honda スマートキーシステムまたはキーレスエントリーシステムで解錠するか、パワーモードをONモードにすると解除されます。同時に作動表示灯が消灯します。

セキュリティアラームシステム

車内に人が乗っているときやウィンドーが開いているときでも、セキュリティアラームシステムは作動します。警報装置の思わぬ作動を防ぐために、人が乗っていたりウィンドーが開いているときには、セキュリティアラームシステムをセットしないでください。

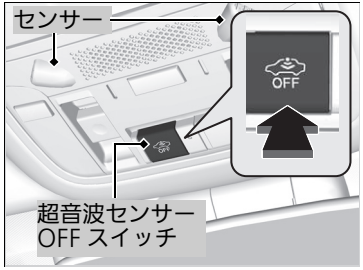
セキュリティアラームシステムをセットした後に 12V バッテリーがあがり、12V バッテリーの充電、交換をすると、警報装置が作動することがあります。

そのときは、Honda スマートキーシステムまたはキーレスエントリーシステムでドアを解錠し、セキュリティアラームシステムを解除してください。

セキュリティシステムがセットされているとき、内蔵キーで解錠するとセキュリティシステムが作動します。

超音波センサー

超音波センサーは、セキュリティアラームシステムをセットしたときに機能します。
不正に車内に入り込んだ侵入者の動きを超音波で検知し、警報装置を作動させるシステムです。ドアを開けず、ガラスを割って乗り込んだ侵入者なども検知できます。



■超音波センサーOFF 機能

セキュリティアラームシステムをセットした際に超音波センサー機能をOFFすることができます。

1. パワーモードを OFF モードにする。
2. 超音波センサーOFF スイッチを押す。
▶ OFF が赤色に点灯します。
▶ もう一度スイッチを押すと、OFF 機能は解除されます。
3. セキュリティアラームシステムをセットする。
➔ **セキュリティアラームシステム** P.138

セキュリティアラームシステムを解除する度に、超音波センサーOFF機能は解除されます。再び超音波センサーOFF機能を使用する場合は、毎回同様の操作を行ってください。

超音波センサー

以下のような場合、超音波センサーが車両の振動や騒音、車内の動きを検知し、セキュリティアラームシステムが作動することがあります。
- サンルーフや窓が開いているとき
- 機械式立体駐車場に駐車したとき
- フェリー、トレーラーなどで車両を運搬するとき
- 高圧洗浄機や自動洗車機などを使うとき
- マスコットやアクセサリーをぶら下げたり、コートフックに衣類がかけてあるなど、動きやすいものが車内にあるとき

超音波センサーを正しく作動させるために以下のことを守ってください。
- センサーの穴をふさがない
- センサーの穴に向かって、直接消臭スプレーなどを噴霧しない

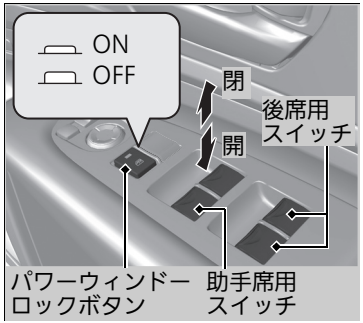
パワーウィンドーの開閉

パワーモードがONモードのときに、パワーウィンドーの開閉操作を行うことができます。開閉はそれぞれのドアにあるスイッチで行います。

運転席のスイッチでは、すべてのウィンドーの開閉操作を行うことができます。運転席以外のウィンドーの開閉は、運転席のパワーウィンドーロックボタンをOFFにしてから行います。パワーウィンドーロックボタンをOFFにすると、ボタンにある表示灯が消灯します。

パワーウィンドーロックボタンを ON(表示灯点灯)にしておくと、運転席以外のウィンドーは作動しません。お子さまを乗せているときなどは、パワーウィンドーロックボタンを ON にしておいてください。

■ウィンドーの開閉



■手動開閉

開けるとき：スイッチを軽く押す
閉めるとき：スイッチを軽く引き上げる
希望の位置で手を離すことで、窓の開閉を調節します。

■自動開閉

開けるとき：スイッチを強く押す
閉めるとき：スイッチを強く引き上げる
自動的に全開 / 全閉します。途中で止めるには、スイッチを反対側に軽く上げ / 下げします。

次ページに続く

パワーウィンドーの開閉

⚠警告

パワーウィンドーを閉めるときは、同乗者が窓から手や顔などを出していないことを確認する。
手や顔などをパワーウィンドーにはさむと、重大な傷害を負うおそれがあります。特にお子さまには気をつけてください。

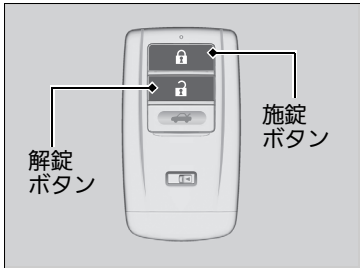
⚠注意

指などをはさみ込まないように注意する。
確実に閉めるため、閉め切る直前の部分に、はさみ込みを検知しないエリアがあります。

お子さまだけを車内に残さない。必ず Honda スマートキーを携帯しドアをロックしてお子さまと一緒に車外に出てください。

パワーモードを OFF にしても、約 10 分間はキーオフオペレーションによりパワーウィンドーを開閉できます。
この場合、運転席のドアを開閉すると、ウィンドーの開閉はできなくなります。

■キーレスエントリーでのウィンドーとサンルーフの開閉



キーレスエントリーを使用してウィンドーやサンルーフの開閉が行えます。

開けるとき： キーレスエントリーで解錠後、10 秒以内に再度、解錠ボタンを押し続ける

閉めるとき： キーレスエントリーで施錠後、10 秒以内に再度、施錠ボタンを押し続ける

希望の位置で手を離すことで、ウィンドーやサンルーフの開閉を調節します。ウィンドーやサンルーフの開閉中に停止したときは、再度同じ操作を繰り返してください。

パワーウィンドーの開閉

自動開閉機能付きのパワーウィンドーを自動で閉めているときに障害物を検知すると、はさみ込み防止機構によりウィンドーの動きが逆転し止まります。

故障などではさみ込み防止機構が作動し、自動でウィンドーを閉めることができなくなったときは、スイッチを軽く引き上げ続けると閉めることができます。

路面や走行条件による衝撃などで、はさみ込み防止機構が作動することがあります。

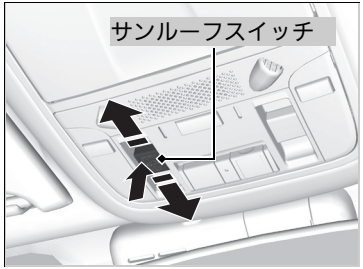
■キーシリンダーでウィンドーとサンルーフを閉めるとき

運転席ドアのキーシリンダーを使用してパワーウィンドーやサンルーフを閉めることができます。
運転席ドアのキーシリンダーに内蔵キーを差し込んで施錠後、内蔵キーを戻してから 10 秒以内に再度、施錠側いっぱいに内蔵キーを回したままにします。

希望の位置で手を離すことで、ウィンドーやサンルーフの位置を調節します。
ウィンドーやサンルーフを閉めている途中で停止させてしまったときは、再度同じ操作を繰り返してください。

■開閉

パワーモードがONモードのときに、サンルーフの開閉操作を行うことができます。開閉は前席の天井にあるスイッチで行います。



■手動開閉

開けるとき：スイッチを後ろ側へ軽く引く
閉めるとき：スイッチを前側へ軽く押す
希望の位置で手を離すことで、サンルーフの開閉を調節します。

■自動開閉

開けるとき：スイッチを後ろ側へ強く引く
閉めるとき：スイッチを前側へ強く押す
自動的に全開 / 全閉します。途中で止めるには、スイッチを軽く操作します。

■チルトアップ

開けるとき：スイッチを上へ押す
閉めるとき：スイッチを前側へ強く押すと自動で全閉
スイッチを前側へ軽く押したときは離した位置で停止

≫サンルーフの開閉

⚠警告

サンルーフを開閉するときは、手や顔などをはさまないよう注意する。
サンルーフにはさまれて、重大な傷害を負うおそれがあります。特にお子さまには気を付けてください。

⚠注意

指などをはさみ込まないように注意する。
確実に閉めるため、閉め切る直前の部分に、はさみ込みを検知しないエリアがあります。

走行中や停車中にルーフ開口部から頭や手、ものなどを出さない。
障害物や急ブレーキなどで思わぬ事故につながるおそれがあります。

お子さまだけを車内に残さない。必ず Honda スマートキーを携帯しドアをロックしてお子さまと一緒に車外に出てください。

パワーモードを OFF モードにしても、10 分間はキーオフオペレーションによりサンルーフを開閉できます。
この場合、運転席のドアを開閉すると、サンルーフの開閉はできなくなります。

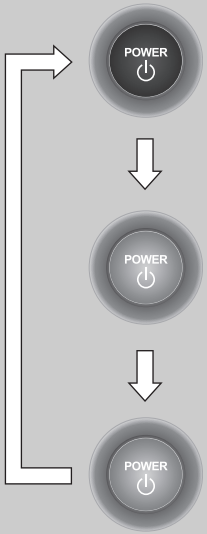
サンルーフの開閉

サンルーフを自動開閉中に障害物を検知すると、はさみ込み防止機構によりサンルーフの動きが逆転し止まります。

故障などではさみ込み防止機構が作動してしまい、サンルーフを閉めることができなくなる場合があります。スイッチを軽く閉方向に約 15 秒間押し続けると、応急処置としてはさみ込み防止機構が解除され、断続的にサンルーフを閉めることができます。サンルーフが完全に閉まるまで、スイッチを押し続けてください。応急処置後は Honda 販売店で点検を受けてください。

POWER スイッチ

■パワーモードの切り換えかた



OFF モード
- スイッチが消灯
- 全ての電源が OFF になります

アクセサリーモード
- スイッチが赤色で点滅
- パワーシステムを起動させずに、オーディオシステムなどのアクセサリーを使用するときの位置

ON モード
- スイッチが赤色で点滅
- すべてのアクセサリーが使用可能

（ブレーキペダルを踏んでいない状態）

⇨ スイッチを押す

POWER スイッチ

Honda スマートキーが車内にある場合パワーモードを ON モードにできます。Honda スマートキーをインストルメントパネル上、カーゴスペースやグローブボックス、ドアポケットなどの各種小物入れに置いた場合、電波状態によってはパワーモードのON機能が作動しないことがあります。

■ パワーモード ON の作動範囲

Honda スマートキーの電池が消耗した状態で POWER ボタンを押してもパワーモードがONにならない場合があります。その時は、下記ページを参照ください。

➔ **Honda スマートキーの電池が切れたとき**
P.418

Honda スマートキーが車外にあっても、ドアやドアガラスに近づきすぎていると、パワーモードをONモードにできることがあります。

■パワーモードオートオフ機能

シフトポジションが P でパワーモードがアクセサリーモードのときに 30 分〜60分経過すると、12V バッテリー保護のため自動的にパワーモードがOFF モードになります。

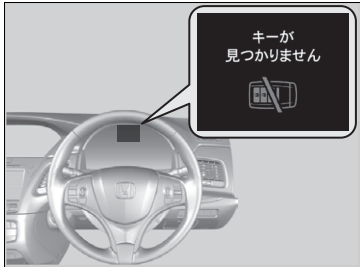
■パワーモード警告ブザー

次の状態で車を離れようとして運転席ドアを開けた場合、警告ブザーが鳴ります。

- パワーモードがアクセサリーモードのとき

次ページに続く

■ Honda スマートキー持ち去り警告



警告ブザーには、車内警告ブザー(ピーッピーッピーッピーッピーッピーッ)と車外警告ブザー(ピピピピピピ)の 2 種類があります。警告状態が続くときは、Honda スマートキーの携帯位置を変更してください。

■パワーモードが ON モードのとき

Honda スマートキーを車外に持ち出しドアを閉めると、メーター内に警告を表示するとともに、車内警告ブザーと車外警告ブザーが鳴ります。

■パワーモードがアクセサリーモードのとき

Honda スマートキーを車外に持ち出しドアを閉めると、車外警告ブザーが鳴ります。

Honda スマートキー持ち去り警告

パワーモード ON の作動範囲内に Honda スマートキーを戻してドアを閉めると、警告が解除されます。

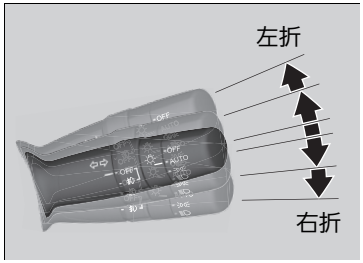
Honda スマートキーを持ち出した状態で、パワーモードをOFFモードにすると、パワーモードの操作ができなくなります。
パワーモードを操作するときは、Hondaスマートキーを持っていることを確認してください。

窓からの受け渡しでは、Hondaスマートキー持ち去り警告は作動しません。

Hondaスマートキーを、インストルメントパネル、グローブボックスなどに置いた場合、電波状態により警告ブザーが鳴ることがあります。

HondaスマートキーがパワーモードONの作動範囲内にあっても、周囲の環境や電波状態によりHondaスマートキー持ち去り警告が行われることがあります。

方向指示器（ウィンカースイッチ）

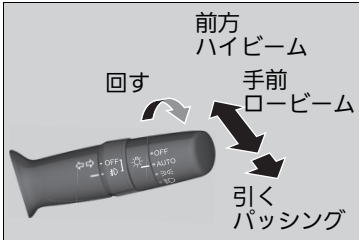


パワーモードが ON モードのときに使用できます。

■ワンタッチターンシグナル

レバーを軽く押し下げ / 押し上げて離すと、方向指示器と方向指示器表示灯が 3 回点滅します。

ライトスイッチ



AUTO パワーモードが ON モードのとき車外の明るさに応じて車幅灯、フロントサイドマーカーライト、尾灯、後部側方灯、番号灯、ヘッドライトが自動で点灯 / 消灯

車幅灯、フロントサイドマーカーライト、尾灯、後部側方灯、番号灯が点灯

ヘッドライト、車幅灯、フロントサイドマーカーライト、尾灯、後部側方灯、番号灯が点灯

スイッチを回すとパワーモードの状態に関係なく、点灯 / 消灯します。

■ハイビーム

「カチッ」と音がするまでレバーを前方に押します。

■ロービーム

ハイビームのときは、レバーを手前に引きます。

■追越合図（パッシング）

レバーを手前に引き、離します。

■ライトオフ

下記の場合にスイッチを OFF の位置に回すことでライトを消灯させることができます。

- シフトポジションを P にしたとき
- パーキングブレーキをかけているとき

再びライトを点灯させる場合は、ライトオフモードを解除するために、スイッチを OFF の位置に回してください。ライトオフモードが解除されない場合も下記の場合は自動でライトが点灯します。

- シフトポジションを P 以外にしたとき
- パーキングブレーキを解除したとき
- 車両が動きだしたとき

ライトスイッチ

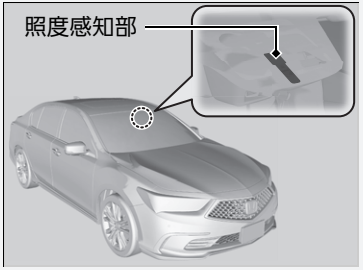
ライトを点灯したままパワーモードを OFF モードにすると、運転席のドアを開けたときにライト消し忘れ警告ブザーが鳴ります。

ライト類が点灯すると、メーター内の表示灯が点灯します。

➔ **表示灯** P.79

パワーシステムが停止しているときにライト類を点灯したままにしていると、12V バッテリーあがりの原因となります。

照度感知部は、図の位置にあります。



■ヘッドライトオートオフ機能

パワーモードを OFF モードにして、DOOR インジケータが点灯しているときに、Honda スマートキーシステム、およびキーレスエントリーシステムですべてのドアを施錠すると、ヘッドライト、フォグライト、車幅灯、フロントサイドマーカーライト、尾灯、後部側方灯、番号灯やインストルメントパネルの照明が消灯します。

▶ 運転席ドアを開けると再び点灯し、ライト消し忘れ警告ブザーが鳴ります。ライトスイッチを AUTO にしているときはパワーモードを OFF モードにすると消灯します。

次ページに続く

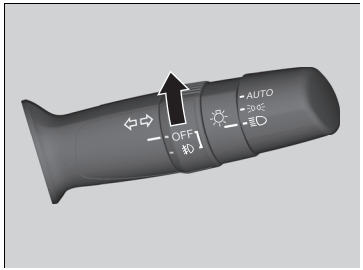
ライトスイッチ

感度設定	車外の明るさに応じてライトが点灯します。
MAX	明るい
HIGH	
MID	
LOW	
MIN	暗い

オートライトコントロールシステムの感度調整は、オーディオ / インフォメーション画面を使って変更することができます。

➡ 別冊のHonda インターナビシステム取扱説明書

フォグライト



インジケータが点灯しているときに、フォグライトスイッチを回して点灯することができます。

ライトスイッチ

重い荷物の積載時など、車両の姿勢の変化に応じてヘッドライト光軸の上下方向を自動的に調整するオートレベリング機能が付いています。

ヘッドライト光軸の異常を感じたときはHonda 販売店で点検を受けてください。

次の条件が揃ったとき、アクセサリーライトが点灯します。

- インジケータが消えているとき
- パワーモードが ON モードのとき
- パーキングブレーキが解除されているとき

停車中にライトスイッチを OFF の位置に回すとアクセサリーライトは消灯します。発進すると再び点灯します。

アクセサリーライトの点灯 / 消灯をカスタマイズすることができます。

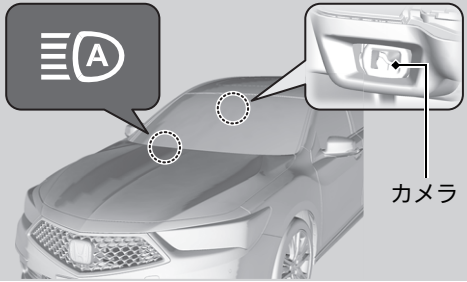
別冊の Honda インターナビシステム取扱説明書

オートハイビーム

オートハイビームは夜間走行時に前方の状況によってヘッドライトのハイビームとロービームを自動的に切り換えるシステムです。

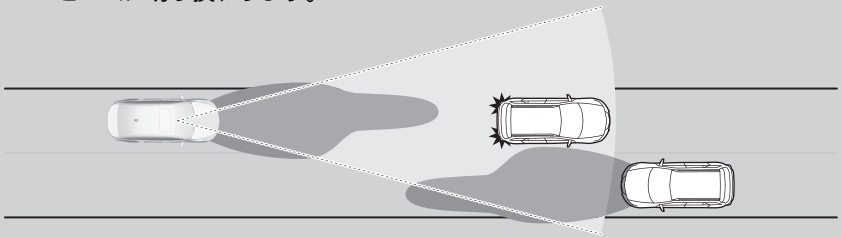
作動条件

- ライトスイッチが AUTO でレバーがロービームの位置
- システムが夜と判断してロービームが点灯
- 時速 30 km/h 以上で走行



作動

- 自車の前方に先行車や対向車がいないとき：ハイビームに切り換わります。
- 前方の先行車や対向車のランプ類を検知したとき：ロービームに切り換わります。



カメラが認識できる範囲や距離は周囲の状況により変化します。

次ページに続く

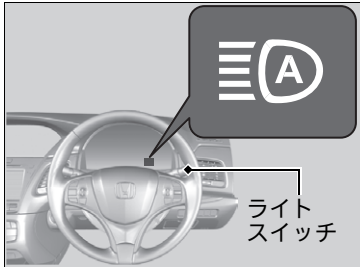
オートハイビーム

オートハイビームはあらゆる状況で作動する機能ではありません。あくまでも、運転者をアシストするための機能です。
常に周囲の状況を確認し、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切り換えてください。

オートハイビームは前方の発光する物体の明るさに応じてヘッドライトの切り換えを行います。次のような場合、タイミングが変化したり適切に切り換えが行われない場合があります。運転者の感覚に合わない場合は手動で操作を行ってください。

- 対向車や先行車のランプが明るい場合や暗い場合、片側点灯や無灯火の場合
- 天候の状況(雨、雪、霧、フロントガラスの霜など)
- 周囲に街灯、電光掲示、信号機などの光源があるとき
- 周囲の明るさが連続的に変わるとき
- カーブが多い道、起伏の激しい道路を走行しているとき
- 前方の車両が突然現れたり、適切な方向を向いていないとき
- トランクに重い荷物を積んで車が傾いているとき

■作動させるには



夜間にスイッチを AUTO にしてライトスイッチのレバーをロービームの位置にします。

➡ **ライトスイッチ** P.150

オートハイビーム表示灯が点灯します。

一時的に作動が解除となる条件

- 車速が 24km/h 未満でしばらく走行したとき
- 車速が 10km/h 未満になったとき
- ワイパーが HI（高速）で数秒間動作したとき
- 明るい場所で走行したとき

上記の状態から復帰した場合、ハイビームも復帰します。

以下の操作を行うと一時的に作動が解除され、オートハイビーム表示灯が消灯します。

- ライトスイッチレバーをハイビームの位置にしたときやパッシングしたとき
  ▶ オートハイビームを復帰させたい場合はレバーを数秒間引き続けてください。

オートハイビーム

- 車両前方に標識やミラーなどの光を強く反射するものがあるとき
- 中央分離帯、街路樹などで対向車が見え隠れするとき
- 対向車や先行車が二輪車、自転車などのとき

ヘッドライトスイッチが AUTO になっているときに機能を停止させることができます。
詳しくは Honda 販売店にご相談ください。

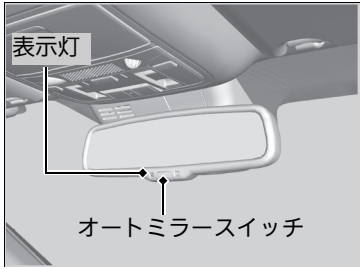
➡ **機能を停止、復帰させたいとき** P.155

オートハイビームを正しく動作させるために次のことをお守りください。

- インストルメントパネルの上に光を反射するものを置かない
- カメラ付近のガラスはきれいにしておく
- フロントガラスのお手入れのときは、ガラスクリーナーがレンズに付着しないようにする
- カメラ付近のガラスにアクセサリー、ステッカーやフィルムを取り付けない
- カメラのレンズに触れない

カメラに強い衝撃が加わったときやルームミラー周辺の修理を行うときは Honda 販売店にご相談ください。

■機能を停止、復帰させたいとき



パワーモードがONモードで車両が停止しているときに機能を停止することができます。

停止状態(OFF)にする：オートミラースイッチを約21秒以上押し続けます。このとき表示灯が2回点滅します。
2回点滅後にスイッチから手を放します。

作動可能(ON)にする：オートミラースイッチを約18秒以上押し続けます。このとき表示灯が1回点滅します。
1回点滅後にスイッチから手を放します。

オートハイビーム

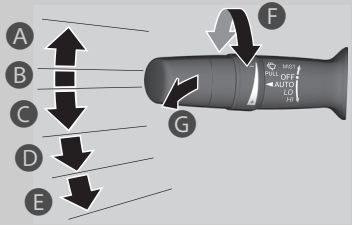
マルチインフォメーションディスプレイに「オートハイビームシステムが機能しません フロントウィンドウの汚れを取り除いてください」が表示される場合は、安全な場所に駐車し、フロントガラスの汚れを落としてください。フロントガラスの汚れを落とし、しばらく走行した後でもメッセージが消えない場合は、Honda販売店で点検を受けてください。

機能を停止、復帰させたいとき

オートハイビームが停止状態のとき、エンジンを再始動しても停止状態になっています。

ワイパー/ ウォッシャー

■フロントワイパー/ ウォッシャー



Ⓐ MIST：（レバーを操作している間作動）

Ⓑ OFF：停止

Ⓒ AUTO：自動作動

Ⓓ LO：低速（普通の雨量のとき）

Ⓔ HI：高速（雨量が多いとき）

Ⓕ センサー感度の調節

Ⓖ ウォッシャー

パワーモードが ON モードのときに使用できます。

■MIST

レバーを押し上げている間、高速で作動します。
霧や小雨のときに使用します。

■ワイパースイッチ（OFF、LO、HI）

雨量に応じてワイパースイッチを切り換えて使用します。

■自動作動（AUTO）

➔ **オートワイパー** P.157

■ウォッシャースイッチ

レバーを手前に引くと、ウォッシャー液が噴射します。
レバーを 1 秒以上引くとワイパーが作動します。レバーを離すと数回ワイパーが作動して止まります。

≫ワイパー/ ウォッシャー

⚠注意

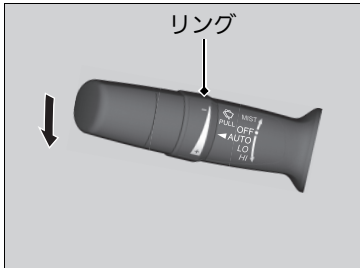
寒冷時はフロントガラスが暖まるまでウォッシャー液を噴射させない。
ウォッシャー液が凍りついて視界の妨げとなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

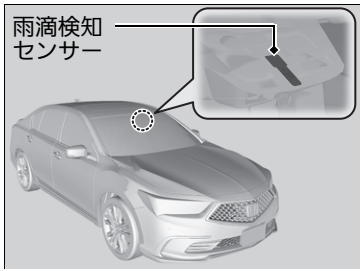
ワイパーを乾拭きさせないでください。
ガラスが傷付いたりブレードラバーを傷めたりします。
ウォッシャー液が出ないときは、スイッチを切ってください。
ポンプ故障の原因となります。

寒冷時、凍結によりワイパーブレードがガラスに張りつくことがあります。
ワイパー故障の原因となりますので、デフロスターやフロントガラス熱線でフロントガラスを暖めてから、ワイパーを作動させてください。

■オートワイパー



レバーを AUTO の位置にするとワイパーが 1 回作動し、その後は自動作動に切り換わります。フロントガラス上部にある雨滴検知センサーが検出した雨滴量に応じて、停止、間欠作動、低速作動、高速作動のいずれかの作動をします。



■センサー感度の調節

リングを回して、雨滴検知センサーの感度を調節します。

鈍感： 雨滴に対して、より鈍感に反応してワイパーを作動します。

敏感： 雨滴に対して、より敏感に反応してワイパーを作動します。

次ページに続く

ワイパー/ ウォッシャー

⚠注意

フロントガラスのお手入れをするときは、レバーを必ず OFF にしてください。
パワーモードが ON モードでレバーが AUTO のとき、雨滴センサー上部のガラス面に手で触れたり、布で拭き取ったりすると、ワイパーが作動することがあり、手をけがしたりワイパーが損傷するおそれがあります。

ワイパー作動中に雪などがたまりワイパーが停止したときは、安全な場所に停車してください。
ワイパースイッチを OFF、パワーモードをアクセサリーモードまたは OFF モードにしてから、ワイパーが作動できるように障害物を取り除いてください。

ワイパーモーターには、保護機能としてブレーカーを内蔵しています。
ワイパーモーターの負荷が大きい状態が続いたときなどは、ブレーカーが作動し一時的にワイパーが停止することがあります。
数分経過すると、ブレーカーが復帰し、通常通り使用できるようになります。

ワイパー/ ウォッシャー

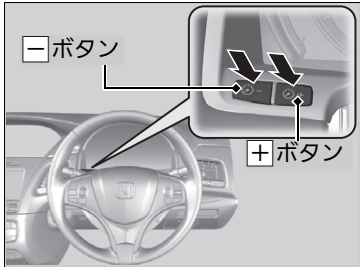
レバーを AUTO の位置にしたときのワイパーの作動を以下のようにカスタマイズすることが可能です。

- オート：フロントガラスへの雨滴量に応じて間欠 / 低速 / 高速作動を自動で調整します。
- 車速連動：間欠時間はリングをまわして調節できます。また、車速が速くなると間欠時間が停止時より数秒短くなります。
- 間欠動作：間欠時間をリングをまわして調節できます。

別冊の Honda インターナビシステム取扱説明書

イルミネーションコントロール

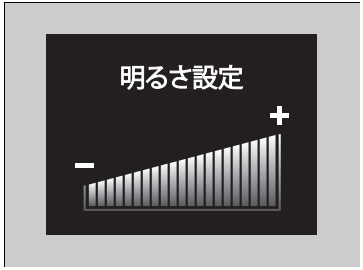
■インストルメントパネル



パワーモードが ON モードのときに、＋/−ボタンでインストルメントパネルの明るさを調節することができます。

明るくする：＋ボタンを押す
暗くする：−ボタンを押す

明るさが最大になるまで＋ボタンを押し続けると電子音が鳴ります。この場合、インジケータが点灯するとインストルメントパネル照明の減光が解除されます。



■明るさ調節表示

＋/−ボタンを押すとマルチインフォメーションディスプレイが明るさ調節表示に切り換わります。
目盛が右に増えていくほど、インストルメントパネル照明が明るくなります。

イルミネーションコントロール

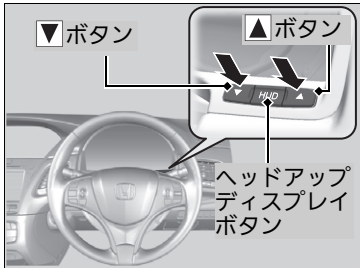
インジケータが点灯しているとき、まぶしさを軽減するため、インストルメントパネル照明が減光します。

減光時に目盛が全て表示されるまで、＋ボタンを押すと、「ピッ」という音がして減光が解除されます。

インジケータが消灯しているときに目盛が全て表示されなくなるまで−ボタンを押すと、明るさ表示が最小になります。このとき、走行したり、インジケータを点灯させると明るさ最小の状態が解除され、元の明るさに戻ります。

次ページに続く

■ヘッドアップディスプレイ

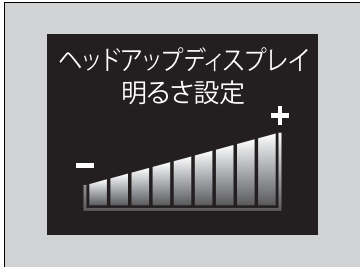


ヘッドアップディスプレイがONのときに、ヘッドアップディスプレイの明るさを調節することができます。マルチインフォメーションディスプレイに明るさ調整表示が表示されるまでヘッドアップディスプレイボタンを長押しします。

明るくする：▲ボタンを押す

暗くする：▼ボタンを押す

明るさの調節後、数秒経過するとマルチインフォメーションディスプレイが元の表示に戻ります。



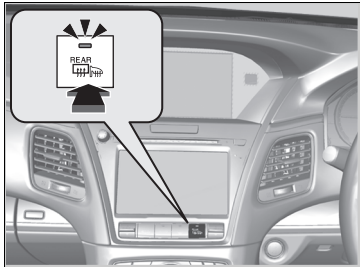
■明るさ調節表示

目盛が右に増えていくほど、ヘッドアップディスプレイが明るくなります。

ヘッドアップディスプレイ

インフォメーション(i)ホイールを操作すると、画面が切り替わります。

リヤデフロスター/ ヒーテッドドアミラー/ フロントガラス熱線スイッチ



パワーモードが ON モードのときにスイッチを押すと、リヤガラスとドアミラーを暖めて、曇りをとることができます。
また、フロントガラスの下端を暖め、雪の固着や凍結によるワイパーブレードラバーの損傷を防ぐことができます。

外気温に応じて約 10 ～ 30 分経過すると、システムは自動的に停止します。ただし、外気温が 0 ℃以下のときは自動的に停止しません。

リヤデフロスター/ ヒーテッドドアミラー/ フロントガラス熱線スイッチ

アドバイス

リヤガラスの内側を清掃するときは、電熱線を傷付けないよう注意してください。
必ず、デフロスターの電熱線とアンテナ線に沿って左右方向に拭いてください。

この装置は消費電力が大きいので、曇りが取れたら OFF にしてください。
また、パワーシステムが停止しているときに長時間使わないでください。12V バッテリー容量が低下し、パワーシステムの起動に影響することがあります。

パワーモードをON モードにしたとき、外気温が 5 ℃以下の場合、ヒーテッドドアミラーのみ約 10 分間作動することがあります。

外気温が 4 ℃以下の場合、フロントデフロスターを作動させると、フロントガラス熱線が作動することがあります。
フロントガラス熱線は、フロントデフロスターを停止するか、外気温が 6 ℃以上になると自動的に停止します。

ドライビングポジションシステム

シート(ランバーサポート以外)、ハンドルおよびドアミラーの位置を2種類記憶させ、それぞれの位置に自動で調節させることができます。

Honda スマートキーで解錠して運転席ドアを開けると、DRIVER1 のキーと DRIVER2 のキーを判別して、マルチインフォメーションディスプレイに表示し、記憶したシートおよびドアミラー位置に自動で調節されます。

DRIVER1 で解錠して運転席ドアを開けたとき：メモリーボタン 1 で記憶したドライビングポジションに自動調節

DRIVER2 で解錠して運転席ドアを開けたとき：メモリーボタン 2 で記憶したドライビングポジションに自動調節

乗車や降車をしやすくするため、以下の条件のときに運転席が後ろに下がります。

- 停車したとき
- シフトポジションを P にしたとき
- パワーモードを OFF モードにしたとき
- 運転席ドアを開けたとき
- メモリーボタン(1 または 2)の記憶位置が最後部以外のとき

パワーモードをアクセサリーモードにすると、シートとハンドルは記憶された DRIVER1 または 2 の位置に調節されます。

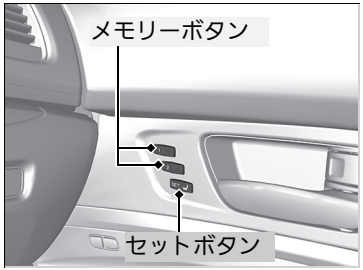
ドライビングポジションシステム

カスタマイズ機能について

オーディオ / インフォメーション画面を使ってドライビングポジションシステムの作動をカスタマイズすることができます。

➡ 別冊の Honda インターナビシステム取扱説明書

■記憶のさせかた



1. パワーモードを ON モードにし、運転席シート、ハンドルおよびドアミラーを希望の位置に調節します。

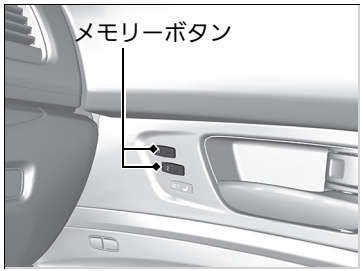
2. セットボタンを押す。

▶「ピッ」と音が鳴り、メモリーボタンの表示灯が点滅します。

3. セットボタンを押してから5秒以内にメモリーボタンの1か2を「ピッピッ」と音が鳴るまで押す。

▶ 記憶されると押したボタンの表示灯が点灯します。

■記憶の呼び出しかた



1. シフトポジションを P にする。

2. メモリーボタン(1 または 2)を押す。

▶「ピッ」と音が鳴り、表示灯が点滅します。

記憶させた位置までシート、ハンドルおよびドアミラーが自動的に移動し、移動が完了すると「ピッピッ」と音が鳴り、表示灯が点灯します。

記憶のさせかた

セットボタンを押した後、以下のような状況になったときは記憶操作がキャンセルされます。

- 5 秒経過してもメモリーボタンを押さなかったとき
- シート位置、ハンドルおよびドアミラーを調節したとき
- パワーモードを ON モード以外にしたとき

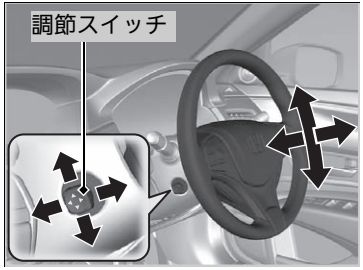
記憶の呼び出しかた

自動でシートが移動しているときに、以下のような操作を行うとシートの移動が止まります。

- セットボタン、またはメモリーボタン(1 または 2)を押したとき
- シート位置、ハンドルおよびドアミラーを調節したとき
- シフトポジションを P 以外にしたとき

ハンドルの調節

適切な運転姿勢で無理なくハンドルを握れるように、ハンドルの位置を調節することができます。



調節スイッチを押し続けると、ハンドルが上下前後方向に移動します。

調節した位置で、メーターや表示灯が見えることを確認してください。

ハンドルの調節

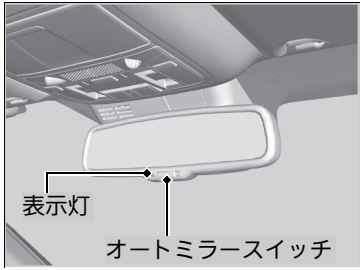
⚠注意

走行中にハンドル位置を調節しない。
走行中に調節すると、ハンドル位置が動き、正確なハンドル操作ができないことがあり、衝突して重大な傷害を負うおそれがあります。ハンドルの調節は、必ず停車中に行ってください。

ルームミラー

ルームミラーの角度は、正しい運転姿勢ですわった位置でミラーを調節してください。

■自動防眩ミラー/ ドアミラー



夜間走行時、後続車のヘッドライトの反射を自動的に弱くできます。

パワーモードがONモードで、オートミラースイッチがONのときに作動します。スイッチを押すごとに ON、OFF が切り換わります。
ONにすると表示灯が点灯します。

ミラー類の調節

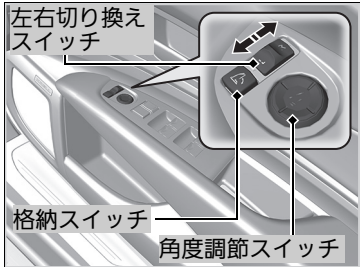
ミラー類の調節は走行前に行ってください。

ルームミラーおよびドアミラーが汚れている場合は、ミラーを清掃してください。

自動防眩ミラー/ ドアミラー

シフトポジションを R に入れているときは、自動防眩ミラー/ ドアミラーは解除されます。

ドアミラー



	格納スイッチの状態	ミラーの状態
ON		
OFF		

パワーモードが ON モードのときに行います。

■角度調節

左右切り換えスイッチ：右か左を選択するスイッチです。角度調節後、中央の位置に戻します。

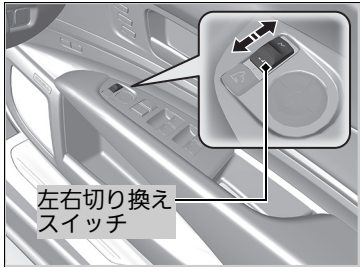
角度調節スイッチ：上下左右に鏡面を動かすスイッチです。

■格納

格納スイッチを押すごとに ON と OFF が切り換わります。

■リバース連動ドアミラー

後退時、車両の側面の視界をよりよく確保するため、シフトポジションの R と連動して左右どちらかのドアミラーが自動的に下向きになります。



パワーモードが ON モードで、ドアミラーの左右切り換えスイッチが左右どちらかにあることを確認します。

シフトポジションを R の位置にすると、ドアミラーが下向きになります。

シフトポジションを R 以外の位置にすると元の位置に戻ります。

■オートリトラミラー

キーレスエントリーシステムや Honda スマートキーシステムでのドアの施錠や解錠に連動して、パワーモードが OFF モードの状態でも、ドアミラーの格納や元の状態への復帰が行えます。

格納するとき：

- Honda スマートキーの施錠ボタンを押す。
- Honda スマートキーを携帯し、ドアハンドルのロックボタンを押す。

元の位置に戻すとき：

- Honda スマートキーの解錠ボタンを押す。
- Honda スマートキーを携帯し、ドアハンドルを握る。
- パワーモードを ON モードにする。

リバース連動ドアミラー

次の場合にも、ミラーが元の位置に戻ります。

- 左右切り換えスイッチを中央の位置にしたとき
- パワーモードを ON モード以外にしたとき

リバース連動ドアミラーは、ドアミラーの左右切り換えスイッチが中央の位置にあるときは作動しません。作動させるには左右切り換えスイッチを左右どちらかにしてください。

オートリトラミラー

オーディオ / インフォメーション画面を使ってオートリトラミラー機能をカスタマイズすることができます。

➡ **別冊の Honda インターナビシステム取扱説明書**

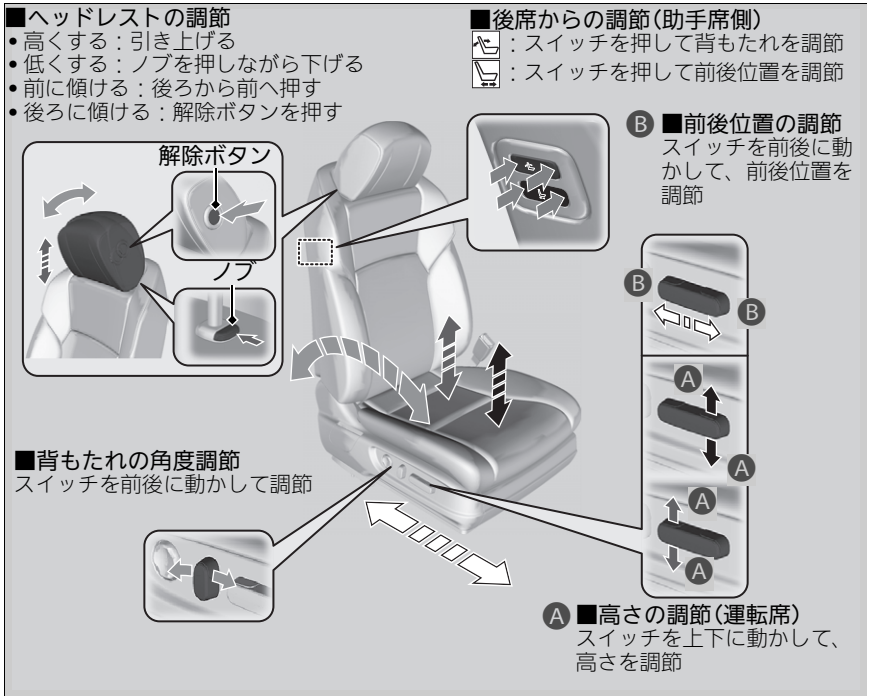
格納スイッチを押してドアミラーを格納した場合、オートリトラミラー機能ではドアミラーを元の位置に戻せません。

ロックノブまたはマスタードアロックスイッチを使用し、車両内側から施錠した場合、オートリトラミラー機能は作動しません。

フロントシート

運転者は、正しい運転姿勢がとれるようにシートを調節します。
正しい運転姿勢とは、シートに深く腰かけた状態で、背もたれから背を離すことなくペダルを十分に踏み込め、ハンドル操作が楽にできる姿勢をいいます。

■シートの動かしかた



シートの動かしかた

⚠注意

走行中にシートの調節はしない。
走行中に調節すると思わぬ事故につながるおそれがあります。調節は走行前に行ってください。

シートを操作するときは、手や足などをはさまないように十分注意する。

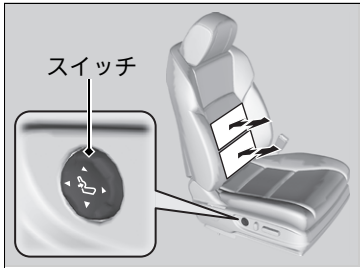
フロントシートの下にものを置かない。
物がはさまってシートが固定されず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

フロントシートは、エアバッグからなるべく離れた位置に調節してください。

同乗者もシートに深く腰かけ、背もたれから背を離さないようにしてください。

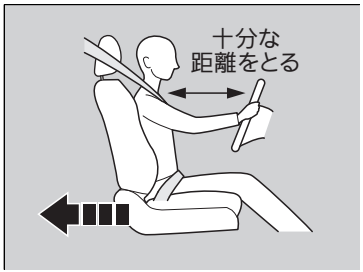
フロントシートに純正以外のシートカバーを取り付けないでください。

■運転席ランバーサポートの調節



シート腰部の固さを調節できます。
上部を硬くする：スイッチを上側に押す
下部を硬くする：スイッチを下側に押す
▶ 上部はやわらかくなります。
全体を硬くする：スイッチを前側に押す
全体をやわらかくする：スイッチを後側に押す

■フロントシートの調節



■シート位置の調節

運転者とハンドルとの間に十分な距離をとれるように、シートをできるだけ後ろに下げます。

助手席の同乗者のシートも同様に、ダッシュボードのSRSエアバッグからできるだけ離れた位置までシートを下げます。

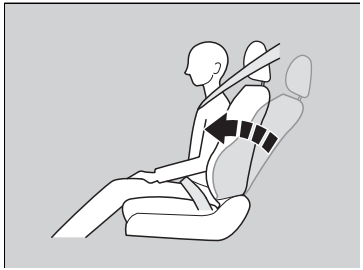
次ページに続く

≫フロントシートの調節

⚠警告

SRS エアバッグからできるだけ離れた位置までシートを下げる。
ハンドルやダッシュボードに近づきすぎると、フロントエアバッグが膨らむ際に重大な傷害を受けたり、死亡したりするおそれがあります。

背もたれを必要以上に倒さない。
背もたれを必要以上に倒すと、衝突したときに重大な傷害を受けたり、死亡したりするおそれがあります。



■背もたれ角度の調節

シートに深く腰かけ、楽な姿勢ですわれるように背もたれを起こし調節します。

助手席の同乗者のシートも同様に、楽な姿勢ですわれるように背もたれ角度を調節します。

フロントシートの調節

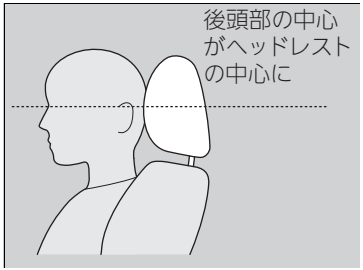
⚠警告

背もたれと背中の間にクッションなどを入れない。

正しい運転姿勢がとれません。また、シートベルトなどの効果が十分に発揮されません。

ヘッドレスト

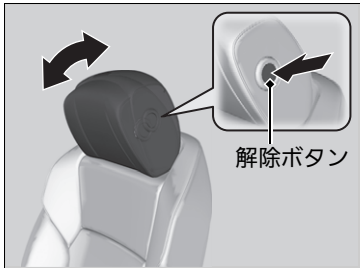
■フロントシート、リヤシート(外側)ヘッドレストの調節



後頭部の中心が、ヘッドレストの中心に来るようにヘッドレストの高さを調節します。

高くするとき：ヘッドレストを引き上げます。
低くするとき：ノブを押しながら下げます。

■ヘッドレストの傾き調節



フロントシートのヘッドレストは、姿勢に合わせ傾きを調節してください。

前方へ調節するとき：ヘッドレストを後ろから前へ押します。
後方へ調節するとき：ヘッドレストの後ろを手で支えながら解除ボタンを押します。

次ページに続く

ヘッドレスト

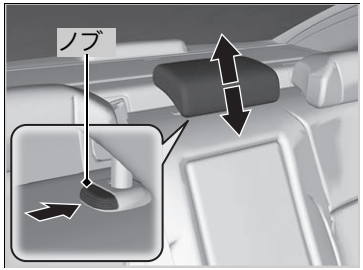
⚠警告

ヘッドレストは必ず正しい位置に調節する。
ヘッドレストの高さが適切でないと、ヘッドレストの効果が低くなり、衝突したときに重大な傷害を受けるおそれがあります。

ヘッドレストを外した状態で走行しない。
衝突したときに重大な傷害を受けるおそれがあります。

ヘッドレストのステーにテーブル、テレビなどの用品を取り付けない。
万一追突されたときにアクティブヘッドレストの機能が損なわれるおそれがあります。

■リヤシート(中央)ヘッドレストの位置変更



乗車するときは、走行する前にヘッドレストを引き上げて、確実に固定します。

高くするとき：ヘッドレストを引き上げます。
低くするとき：ノブを押しながら下げます。

■ヘッドレストの取り外しと取り付け

ヘッドレストは、掃除や修理のために取り外すことができます。

ヘッドレストの取り外し：
ヘッドレストを引き上げ、ノブを押して取り外します。

ヘッドレストの取り付け：
ヘッドレストの脚を元の位置に差し込んでください。ノブを押しながらヘッドレストの位置を適切な位置に合わせてください。ヘッドレストを軽く上下させ、確実に固定します。

リヤシート(中央)ヘッドレストの位置変更

⚠警告

ヘッドレストを下げた状態で走行しない。
衝突したときに重大な傷害を受けるおそれがあります。

アームレスト

■リヤシートアームレストの操作

前に倒して使用します。

アームレスト

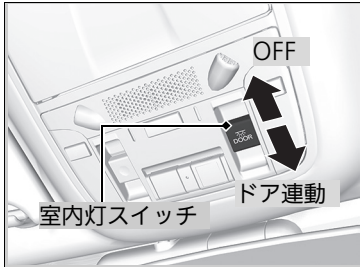
⚠警告

シートベルト着用時にアームレストに引っかけない。
万一のときにシートベルトの機能が発揮できず、重大な傷害を負うおそれがあります。

アドバイス
アームレストに腰をかけたり荷物を載せるなどの大きな力を加えないでください。
アームレストが破損するおそれがあります。

室内灯

■室内灯スイッチ



■ON

ドアの開閉に関係なく室内灯が点灯。

■ドア連動

以下のときに室内灯が点灯

- いずれかのドアを開けたとき
- 運転席ドアを解錠したとき
- パワーモードを OFF モードにしたとき

■OFF

ドアの開閉に関係なく室内灯が消灯。

≫室内灯

ドア連動で室内灯が点灯している場合は、ドアを閉めると約 30 秒後に減光しながら消灯します。

以下の場合も約 30 秒後に消灯します。

- ドアを解錠してドアを開けなかったとき
- パワーモードをOFFモードにしてドアを開けなかったとき

室内灯の消灯する時間をカスタマイズすることができます。

➡ **別冊の Honda インターナビシステム取扱説明書**

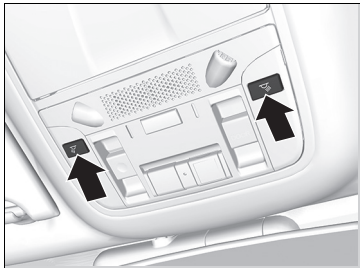
また、以下の操作を行うと室内灯はすぐに消灯します。

- 運転席のドアを施錠したとき
- パワーモードがOFFモード以外の状態でドアを閉めたとき
- パワーモードを ON モードにしたとき

パワーモードが OFF モードのときにいずれかのドアを開けたままにすると、約 15 分後に室内灯は消灯します。

12V バッテリーが上がる恐れがあるため、エンジンが停止しているとき、またはパワーモードが OFF モードのときは室内灯を長時間点灯させないでください。

■マップランプ



夜間、車を停めて地図を見るときなどに使用するライトです。

■フロントシート用マップランプ

スイッチを押すと点灯し、もう一度押すと消灯します。

■リヤシート用マップランプ

スイッチを押すと点灯し、もう一度押すと消灯します。

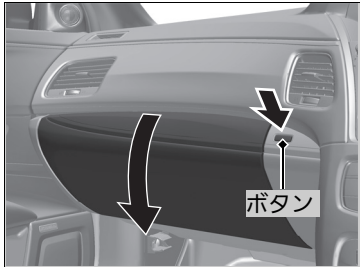
マップランプ

以下のときスイッチを押しても消灯できません。

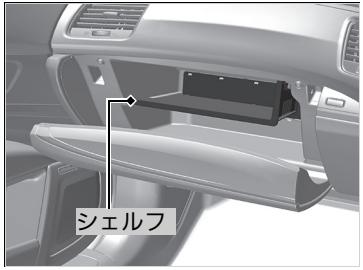
- 室内灯スイッチが ON のとき
- 室内灯スイッチがドア連動のときで、ドアが開いているとき

室内装備品

■グローブボックス

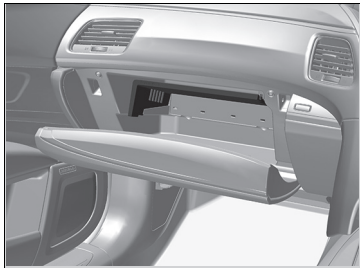


ボタンを押すと開きます。



■シェルフ

グローブボックス内にあるシェルフは、手前に引き抜いて取り外すことができます。



取り外したシェルフは反対向きにして取り付けることもできます。

グローブボックス

⚠警告

走行中は必ずグローブボックスを閉める。
グローブボックスが開いていると、衝突したときに同乗者が重大な傷害を負うおそれがあります。

インジケータが点灯しているとき、グローブボックス照明灯が点灯します。

■バレット機能

オンデマンド・マルチユース・ディスプレイからパスワードを入力して、グローブボックス、トランクやナビシステムをロックすることができます。

ロックする：

1. ショートカットを選択する。
2. バレットを選択する。
3. ロックエリアからパスワードで保護させたい項目を選択し、決定を選択する。

次ページに続く

バレット機能

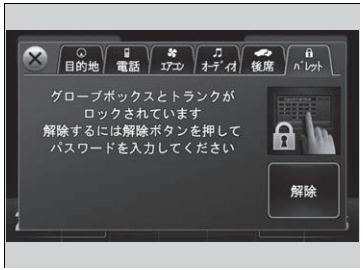
他人にキーを渡す必要があるときは、リヤシート（中央）の背もたれ内のカバーをロックして、内蔵キーを取り出したスマートキーをバレットキーとして渡してください。

➡ **トランクが開かないとき** P.442

4. 前回のパスワードが表示されるので、決定を選択する。
▶ 確認メッセージがディスプレイに表示されますので、決定を選択します。

初めてパスワードを入力するとき、またはパスワードを変更したいとき：

1. ショートカットを選択する。
2. バレットを選択する。
3. ロックエリアからパスワードで保護させたい項目を選択し、決定を選択する。
4. 4桁のパスワードを入力し、 決定を選択する。
5. 同じパスワードを再入力し、決定を選択する。
▶ 確認メッセージがディスプレイに表示されますので、決定を選択します。



解錠する：

1. バレットを選択する。
2. 解錠を選択する。
3. 設定した4桁のパスワードを入力し、決定を押す。

バレット機能

以下のボタンを押したときにも、パスワード入力画面が表示されます。

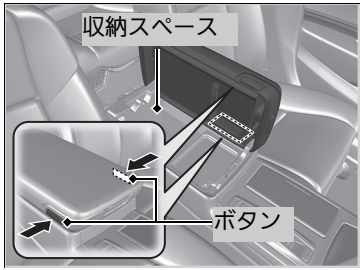
- グローブボックスオープンボタン
- 運転席ドア、トランク、またはスマートキー(グローブボックスまたはトランクがパスワード保護されている場合)のトランク解錠ボタン

ナビゲーション、電話、オーディオの項目をロックすると、パワーモードがアクセサリーモードのときにパスワード入力画面が表示されます。

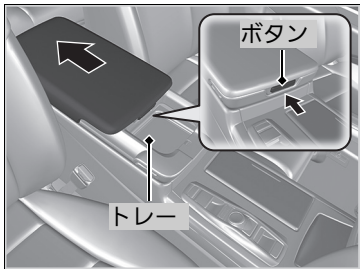
パスワードを忘れたときは：
グローブボックス、またはトランクをロックしたときは、トランクをトランク解錠ハンドルで開けると、すべての項目のバレット機能を解除できます。
トランクが開かないとき P.442

ナビゲーション、電話、オーディオの項目のみをロックしたときは、トランク解錠ハンドルではバレット機能を解除できません。パスワードを忘れた場合は、Honda 販売店にご相談ください。

■スリーアクセスコンソール



収納スペース、トレーがあります。
左右にボタンがあります。開きたい方のボタンを押してフタを開けます。



トレーに小物をおくことができます。
前側のボタンを押すとフタが開きます。
もう一度押すと自動的に閉まります。

次ページに続く

≫スリーアクセスコンソール

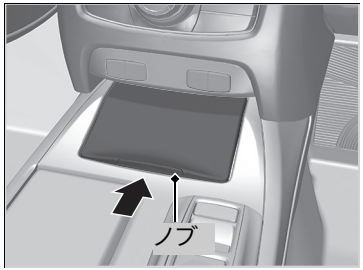
⚠警告

走行中は必ずスリーアクセスコンソールを閉める。
スリーアクセスコンソールが開いていると、衝突したときに同乗者が重大な傷害を負うおそれがあります。

ヒント インジケータが点灯しているとき、コンソールボックス照明灯が点灯します。

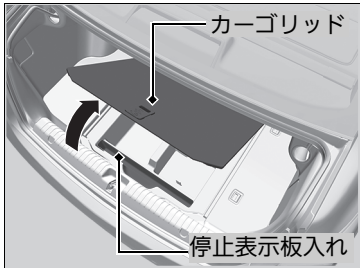
アームレストとして使用することもできます。

■センターポケット



ノブを押してフタを開けます。
再度ノブを押し込むと自動的に戻ります。

■停止表示板入れ



カーゴリッドの下に停止表示板入れがあります。

≫センターポケット

⚠注意

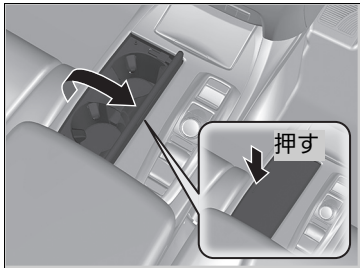
灰皿として使用しない。
灰皿として使用すると、タバコなどの火により、車両火災につながるおそれがあります。

≫停止表示板入れ

収納可能な停止表示板のサイズは以下の通りです。

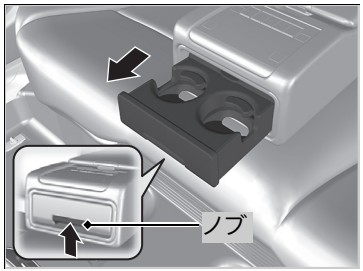
- 長さ …550mm 以下
- 高さ …97mm 以下
- 幅 …33mm 以下

■ドリンクホルダー



■フロントシート用ドリンクホルダー

矢印部を押すとフタが開きます。
下に押して閉めます。



■リヤシート用ドリンクホルダー

リヤシートアームレストにあります。
ノブを押し込むと自動的に出てきます。

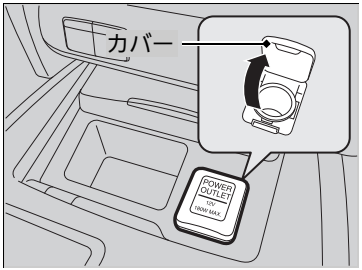
次ページに続く

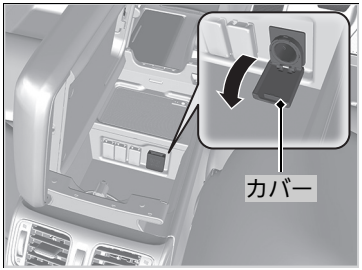
ドリンクホルダー

⚠注意

飲みものなどを電装品にこぼさないように注意する。
スイッチなどの電装品に飲みものがかかると故障の原因となったり車両火災につながったりするおそれがあります。

■アクセサリーソケット





パワーモードがアクセサリーモードまたはON モードのときに使用できます。

■センターポケットのアクセサリーソケット

センターポケットのフタを開けてからカバーを開けて使います。

➔ **センターポケット** P.180

■スリーアクセスコンソールのアクセサリーソケット

スリーアクセスコンソールのフタを開けてからカバーを開けて使います。

➔ **スリーアクセスコンソール** P.179

アクセサリーソケット

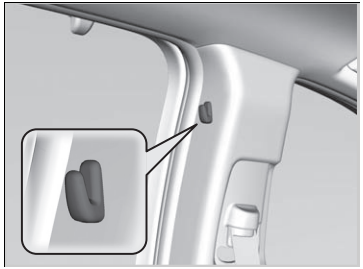
消費電力 180W(15A)以下のアクセサリーに、直流 12V の電源を供給します。

シガレットライターは差し込まないでください。
発熱するおそれがあります。

12V バッテリーあがりを防ぐため、パワーシステムが起動している状態でご使用ください。

■コートフック

リヤシート両側のグラブレールに付いています。
回転させて使います。



両側のドアピラーに付いています。

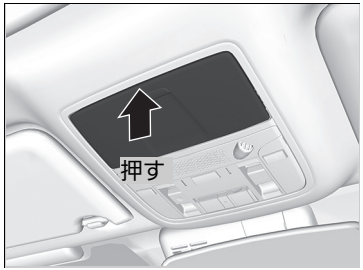
次ページに続く

コートフック

⚠注意

グラブレールにものをかけたり、コートフックに重いものやとがったものをかけたりしない。
サイドカーテンエアバッグが正常に作動しなかったり、作動時にものが飛んだりしてけがをするおそれがあります。

■サングラスボックス



矢印部を押すと開きます。
もう一度押すと格納されます。

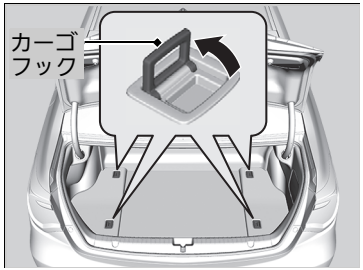
サングラスなどを入れることができます。

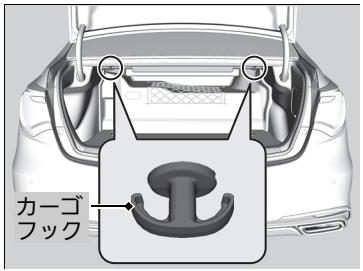
サングラスボックス

炎天下での駐車は高温になりますので、メガネなどを入れたままにしないでください。
レンズやフレームが、変形やひび割れをおこすことがあります。

開閉は停車中に行い、走行中は必ず閉めておいてください。

■カーゴフック





カーゴフックは市販のカーゴネットを使用して、収納したものを固定しておくときに便利です。

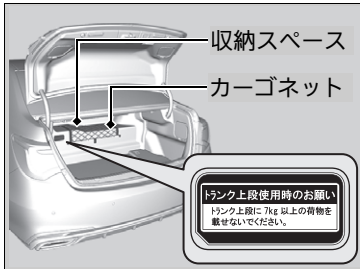
カーゴフック

アドバイス

重い荷物はできるだけ前に積んでください。荷物を積むとき、荷重が1か所に集中しないように配置してください。

次ページに続く

■収納スペース



トランク内に収納スペースがあります。

カーゴネットは収納スペース内のものを固定しておくときに使用します。

≫収納スペース

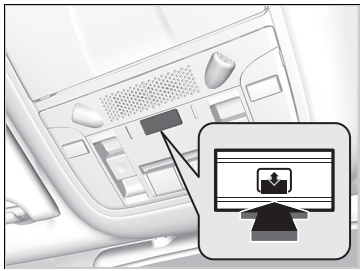
アドバイス

収納スペースが破損するおそれがありますので、重いもの(約7kg以上)や転がりやすいものを置かないでください。

■電動リヤサンシェード

パワーモードがONモードのとき、スイッチを押すごとに上昇 / 下降します。
シフトポジションを R にすると自動的にリヤサンシェードが下降します。

▶ 15km/h 以上で走行、またはシフトポジションを P にすると、サンシェードは元の位置に戻ります。



パワーモードをOFFモードにしても、約1分間はサンシェードを操作できます。

次ページに続く

電動リヤサンシェード

⚠警告

リヤサンシェードに手をかけない。
巻き込まれてけがをするおそれがあります。また、故障の原因となり、後方の視界を確保できなくなるおそれがあります。

アドバイス

リヤシェルフの上に荷物を置いたり、リヤサンシェードに無理な力を加えないでください。
故障の原因になります。

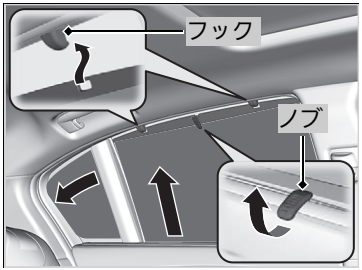
リヤサンシェードの操作中に、途中で止まった場合は、障害物の有無を確認してください。

頻繁に上昇 / 下降を繰り返すと、一時的に作動が停止することがあります。
故障ではありませんので、数秒後にスイッチを押して操作を再開してください。

お手入れの際は、フレームやスクリーンを強く引っ張らないように汚れを落としてください。

リヤサンシェードが動かなくなった場合はHonda販売で点検を受けてください。

■リヤドアサンシェード



ノブを持って引き上げて使います。
フックにかけます。

≫リヤドアサンシェード

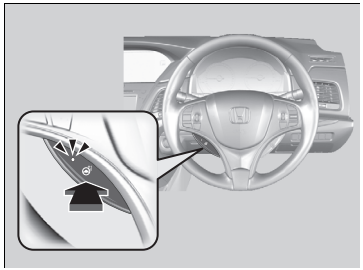
⚠注意

リヤドアサンシェードは、ウィンドーを開けたまま使用しない。
風にあおられるなどしてリヤドアサンシェードがフックから外れて、けがをするおそれがあります。

サンシェードを戻すときは、ノブを持ってゆっくり収納してください。

サンシェードは上方向以外に引っ張らないでください。

■ステアリングヒーター



パワーモードが ON モードのときに使用できます。
スイッチを押すと表示灯が点灯し、ハンドルを暖めることができます。停止するときは、再度スイッチを押し、表示灯を消します。

次ページに続く

ステアリングヒーター

⚠注意

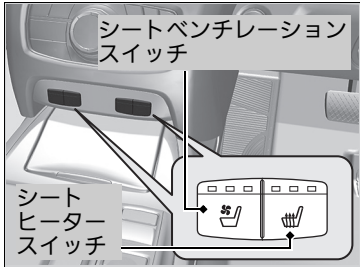
低温やけどに注意する。
次のようなかたは、低温やけどに十分注意してください。

- 乳幼児、お年寄り、体の不自由なかた
- 皮膚の弱いかた
- 疲労の激しいかた

この装置は消費電力が大きいので、エンジンをかけた状態で使用してください。
12V バッテリーの容量が低下し、パワーシステムの起動に影響することがあります。

■フロントシートヒーター/ ベンチレーション

パワーモードが ON モードのときに使用できます。
シートヒーター：シート暖めたいときに使用します。
シートベンチレーション：シートから涼感を得たいときに使用します。



スイッチを押すたびに設定が切り替わります。
1 回目 - 強 / 高：インジケーターが 3 個点灯
2 回目 - 中 / 中：インジケーターが 2 個点灯
3 回目 - 弱 / 低：インジケーターが 1 個点灯
4 回目 -OFF：インジケーターが消灯

フロントシートヒーター/ ベンチレーション

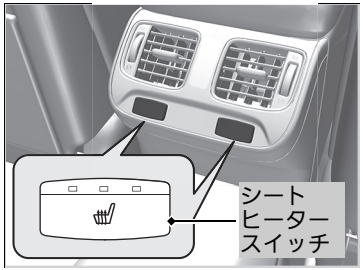
⚠注意

低温やけどに注意する。
次のようなかたは、低温やけどに十分注意してください。
- 乳幼児、お年寄り、体の不自由なかた
- 皮膚の弱いかた
- 疲労の激しいかた

また、毛布などの保温性の高いものをかけて使用すると低温やけどをすることがあります。

この装置は消費電力が大きいので、パワーシステムが停止しているときは長時間使わないでください。
12V バッテリーの容量が低下し、パワーシステムの起動に影響することがあります。

■リヤシートヒーター(左右席)



パワーモードが ON モードのときに使用できます。

中央のリヤシートにはヒーターが付いていません。
スイッチを押すたびに設定が切り替わります。

1 回目 - 高：インジケーターが 3 個点灯
2 回目 - 中：インジケーターが 2 個点灯
3 回目 - 低：インジケーターが 1 個点灯
4 回目 -OFF：インジケーターが消灯

リヤシートヒーター(左右席)

⚠注意

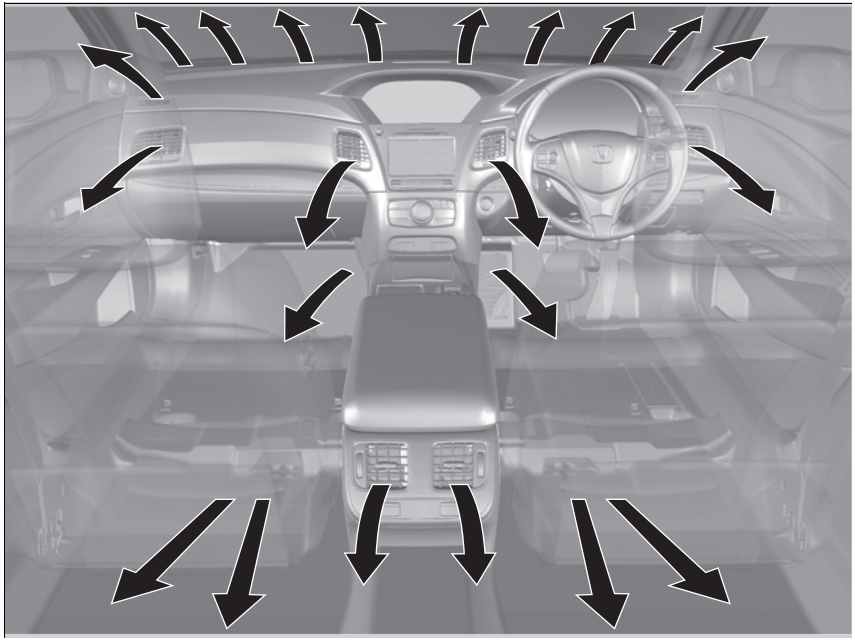
低温やけどに注意する。
次のようなかたは、低温やけどに十分注意してください。

- 乳幼児、お年寄り、体の不自由なかた
- 皮膚の弱いかた
- 疲労の激しいかた

また、毛布などの保温性の高いものをかけて使用すると低温やけどをすることがあります。

この装置は消費電力が大きいので、パワーシステムが停止しているときは長時間使わないでください。
12V バッテリーの容量が低下し、パワーシステムの起動に影響することがあります。

エアコンの吹き出し口



エアコン

音声操作の詳細は、別冊の「Honda インターナビシステム」取扱説明書をご覧ください。

オートエアコンの使いかた

パワーシステムを起動した状態で使用します。

1. AUTO を押す。

2. 運転席側 / 助手席側温度調節スイッチで温度を設定する。

3. 停止するときは、ON/OFFを押す。

オンデマンド・マルチユース・ディスプレイの画面からも操作ができます。

次ページに続く

オートエアコンの使いかた

オート（AUTO）で使用中いずれかのスイッチを押すと、押したスイッチの機能が優先されます。

このとき「AUTO」の表示灯は消灯しますが、押したスイッチ以外の機能は自動制御されます。

外気温が低いときは、冷風の吹き出しを防ぐため、 AUTO を押してもすぐにファンが回転しないことがあります。

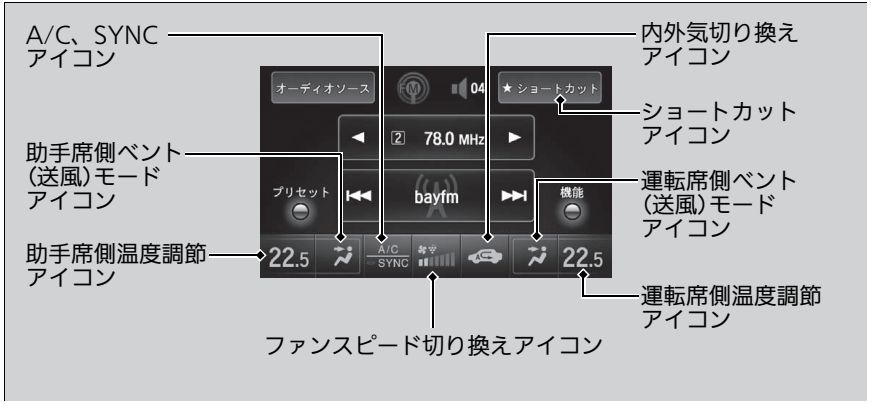
炎天下に駐車していたときは、窓を開けて熱気を追い出しながら、冷房を開始してください。

ON/OFFを押すたびに ON や OFF に切り換わります。ON すると OFF する前の状態に戻ります。

Honda スマートキーで解錠すると、Driver 1のキーとDriver 2のキーを判別し、パワーモードをONモードにすると記憶したエアコン設定に自動で調整されます。

高電圧バッテリーの充電量が低下すると、エアコンの効きが弱くなることがあります。

■オンデマンド・マルチユース・ディスプレイ



オートエアコンの使いかた

エアコン設定を 2 種類記憶させ、オンデマンド・マルチユース・ディスプレイを使ってそれぞれの設定を呼び出すことができます。
また、後席エアコンの温度設定もできます。

➔ **ショートカット** P.199

■温度設定の変えかた

運転席側または助手席側の温度調整アイコンを選択します。
以下の方法で設定してください。

温度調節バー：希望の温度設定の位置を選択
左に行くほど温度が低く、右に行くほど温度が高くなる。
▲/▼: 1 回押すごとに 0.5 ℃ずつ温度が上昇 / 下降
▲/▼を押し続けると、温度が連続して上昇 / 下降
MAX COOL ON/OFF：急速に室内を冷やしたいときに選択
▶ AUTO　スイッチのインジケーターが点灯します。再度選択すると、前の設定に戻ります。
MAX HEAT ON/OFF：急速に室内を暖めたいときに選択
▶ AUTO　スイッチのインジケーターが点灯します。再度選択すると、前の設定に戻ります。

次ページに続く

オートエアコンの使いかた

設定温度表示で Lo は最大冷房を、Hi は最大暖房を示します。

MAX COOL/MAX HEAT を選択したときは、それぞれ MAX COOL/MAX HEAT が表示されます。

■ベント(送風)モードの切り換えかた

1. 運転席側または助手席側のベント(送風)モードアイコンを選択します。

2. 希望のベント(送風)モードアイコンを選択します。

運転席MODE AUTO/助手席MODE AUTOを選択すると、最適な送風モードへ自動的に切り替わる

: 上半身送風、センターコンソールボックス後部から送風

: 足元送風、上半身送風、センターコンソールボックス後部から送風

: 足元送風、センターコンソールボックス後部から送風

: 足元送風、窓ガラスの曇り取り(運転席側のみ)、センターコンソールボックス後部から送風

ベント(送風)モードの切り換えかた

エアコンを AUTO にすると、運転席 MODE AUTO または助手席 MODE AUTO が選択されます。

■A/C(エアコン)の ON と OFF の切り換えかた

1. A/C を選択する。
2. A/C の ON または OFF を選択する。

■連動作動(シンクロ)モードの切り換えかた

1. SYNC を選択する。
2. 連動作動モードにするには SYNC の ON を、独立モードにするには OFF を選択する。
▶ 連動作動モードにすると、助手席側の設定温度とベント(送風)モードが運転席側と同じ設定になります。
3. 運転席側の温度を調節するか、ベント(送風)モードを変更する。

連動作動(シンクロ)モードの切り換えかた

FRONT ボタンを押すと、連動作動モードに切り換わります。

独立モードの場合は、エアコンの設定温度とベント(送風)モードを運転席側と助手席側で個別に設定できます。

助手席側の設定温度を変更する、またはベント(送風)モードを切り換えた場合も、独立モードになります。

室内の温度は、オートエアコンの各センサーと人工衛星の情報を利用して調節されます。

次ページに続く

■ファンスピードの切り換えかた

ファンスピードレベル
インジケーター

1. を選択する。
2. 以下の方法で設定する。
   ▶ファンスピードレベルインジケーター：ファンスピードを調節します。希望のスピードレベルを選択します。インジケーターが小さいほど遅く、大きいほど速くなります。
   +/−：押すごとにレベルが増減する
3. ファン AUTO を選択すると、最適なファンスピードに自動的に切り換わります。

■プラズマクラスター

エアコンもしくは送風に連動してプラズマクラスターも作動し、マークが点灯します。

ファンスピードの切り換えかた

エアコンを AUTO にすると、ファン AUTO が選択されます。

プラズマクラスター

プラズマクラスターマークおよびプラズマクラスター、Plasmaclusterはシャープ株式会社プラズマクラスターの登録商標です。

■内気／外気の切り換えかた

状況に合わせて、内外気切り換えアイコンを選択します。

（内気循環モード）：トンネルや渋滞などで、汚れた空気を車内に入れたくない場合

（オートモード）：室外の排ガスの状況に合わせて、内気循環と外気導入を自動的に切り換える場合

気温が低いときは窓ガラスの曇りを防ぐために、内気循環に切り換わらない場合があります。

（外気導入モード）：換気を行う場合

■ショートカット

好みのエアコン設定（温度、ファンスピード、送風モード）をショートカットに登録することができます。エアコン設定は2 種類登録することができます。

また、後席エアコンの温度を設定することができます。

次ページに続く

内気／外気の切り換えかた

エアコンをAUTOにすると、 が選択されます。

ショートカット

12V バッテリーの交換や消耗などで電源が切れた場合、プリセットメモリーは消去されます。

■前席エアコン

編集するには：

1. 好みの設定に調節する。
2. ショートカットを選択する。
3. エアコンを選択する。
4. 編集を選択する。
5. 追加を選択する。
6. プリセット 1 またはプリセット 2 を選択する。

設定を呼び出すには：

1. ショートカットを選択する。
2. エアコンを選択する。
3. プリセット 1 またはプリセット 2 を選択する。

プリセットを消去するには：

1. ショートカットを選択する。
2. エアコンを選択する。
3. 編集を選択する。
4. 消去を選択する。
5. プリセット 1 またはプリセット 2 を選択する。

≫前席エアコン

手順3の後、プリセット番号を押し続けても、設定を登録することができます。

設定温度表示で Lo は最大冷房を、Hi は最大暖房を示します。

■後席エアコン

セットするには :

1. ショートカットを選択する。

2. 後席を選択する。

3. 後席側の操作をロックする場合はONを、解除する場合は OFF を選択する。

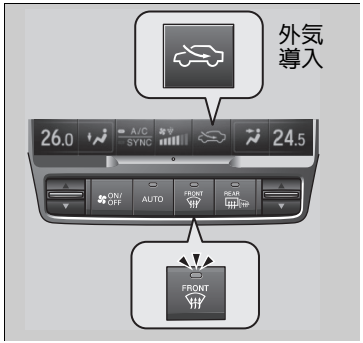
4. エアコンの温度を調節する。

▲/▼ : 1回押すごとに0.5℃ずつ温度が上昇 / 下降

▲/▼を押し続けると、温度が連続して上昇 / 下降

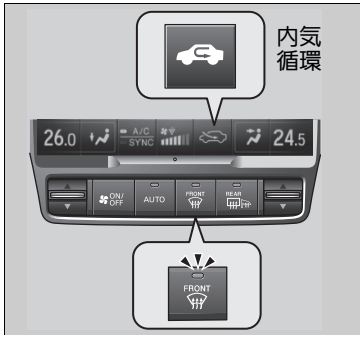
次ページに続く

■前面・側面ガラスの曇り止め(デフロスター)の使いかた



FRONTを押すとエアコンが作動し、自動的に外気導入に切り換わります。

FRONTをもう一度押すと曇り止めが停止し、前の状態に戻ります。



■急速に霜を取りたいとき

1. FRONTを押す。
2. を選択する。

➡ **内気／外気の切り換えかた** P.199

前面・側面ガラスの曇り止め(デフロスター)の使いかた

安全のため、運転する前に視界が確保されていることを確認してください。

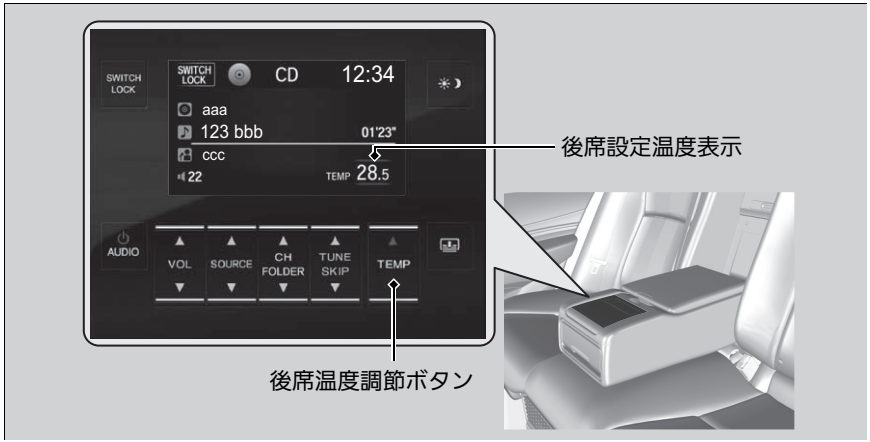
設定温度を最大冷房付近にしないでください。
冷風が前面ガラスに当たると、ガラスの外側が曇ることがあります。

側面ガラスが曇ったときは、吹き出し風が側面ガラスに当たるよう、側面吹き出し口を調節してください。

急速に霜を取りたいとき

霜が取れたら、ただちに外気導入またはオートモードに切り換えてください。
内気循環で使い続けると車内の湿気で窓ガラスが曇り、視界の妨げになります。

■リヤアームレスト内蔵コントロールパネル



前席のエアコンが ON のときに使用できます。

1. 後席温度調節ボタンで温度設定する。

2. 停止するときは、前席エアコンを OFF にする。

リヤアームレスト内蔵コントロールパネル

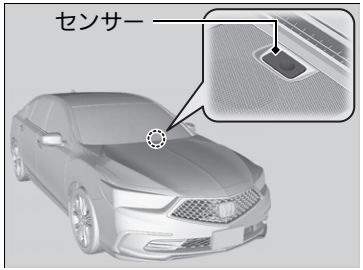
後席の温度調節は独立で制御することができます。

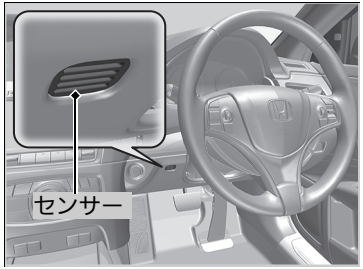
リヤアームレスト内蔵コントロールパネルは、エアコンのほかに電動リヤサンシェードやオーディオの操作ができます。

➡ **電動リヤサンシェード** P.187

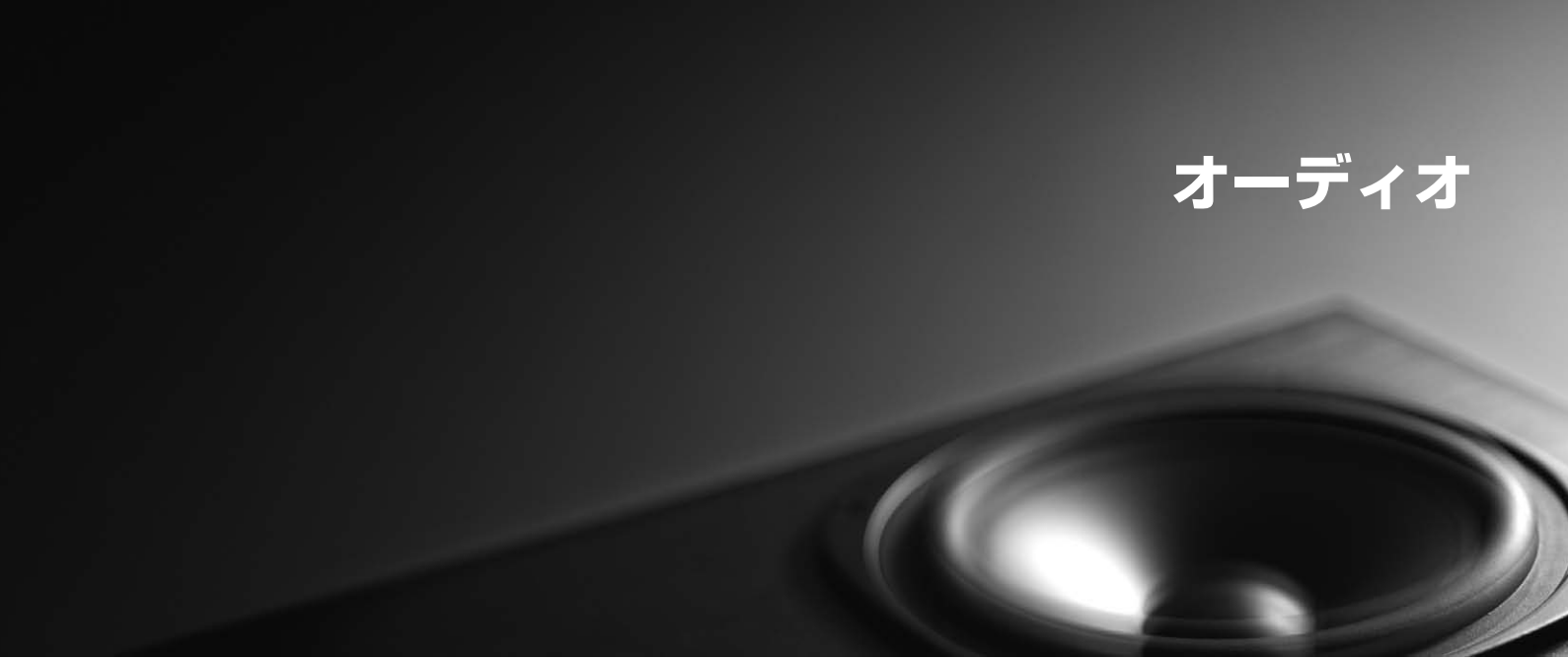
オーディオ操作の詳細は、別冊の「Honda インターナビシステム」取扱説明書をご覧ください。

オートエアコンのセンサー





オートエアコンには、センサーが付いています。センサーの上にものを置いたり、水をかけたりしないでください。



オーディオ

オーディオ装置 206

オーディオ装置

オーディオ・テレビ・DVD の取り扱いについては、別冊の「Honda インターナビシステム」取扱説明書をご覧ください。

運転

この章では、運転操作、給油などについて記載しています。

運転の前に 208
運転の準備..... 208
運転操作
パワーシステムの起動..... 210
走行時の注意点 213
デュアルクラッチトランスミッションについて 216
シフト操作..... 217
SPORT モードスイッチ 223
リアクティブフォースペダル..... 224
車両接近通報装置..... 225
VSA（ビークルスタビリティアシスト）... 226
アジャイルハンドリングアシスト..... 228
SPORT HYBRID SH-AWD（Super Handling All Wheel Drive）..... 229
ブラインドスポットインフォメーション.. 230
タイヤ空気圧警報システム（TPMS）...233
高電圧バッテリーの特性.....235
ホンダセンシング
衝突軽減ブレーキ（CMBS）.....240
誤発進抑制機能 248
歩行者事故低減ステアリング.....251
渋滞追従機能付ACC（アダプティブクルーズコントロール）.....257
LKAS（車線維持支援システム）.....271
トラフィックジャムアシスト（渋滞運転支援機能）.....282
路外逸脱抑制機能.....297
先行車発進お知らせ機能.....304
標識認識機能.....308
フロントセンサーカメラ.....315
レーダーセンサー.....317
ブレーキ操作
ブレーキシステム 318
ABS（アンチロックブレーキシステム）..... 324
電子制御ブレーキアシスト..... 325
エマージェンシーストップシグナル .. 326
駐停車操作
駐車する 327
後退出庫サポート 329
パーキングセンサーシステム 333
マルチビューカメラシステム 337
給油
指定燃料について 355
給油のしかた 356

運転の準備

運転を始める前に下記の項目を確認してください。

■車外での確認項目

- 窓やミラーの視界、灯火器類の光をさえぎるものがないか？
  ▶ 霜、雪、氷が付着している場合は取り除きます。
  ▶ 屋根に雪が積もっている場合は、走行時に滑り落ちて視界をさえぎる可能性があるため取り除きます。
  氷結しているときは、氷が溶けてから取り除いてください。
  ▶ 足回りに氷塊が付着している場合は、部品を損傷しないよう注意しながら取り除きます。
- ボンネットは完全に閉まっているか？
  ▶ 走行中にボンネットが開くと、視界がさえぎられて危険です。
- タイヤは正常か？
  ▶ 空気圧、亀裂、損傷や異常な摩耗がないか確認します。
  ➡ **タイヤの点検と整備** P.373
- 車の周囲に子供はいないか？
  車の周りに障害物はないか？
  ▶ 運転席から見えない死角や、バックミラーでは確認できない死角がありますので、乗車する前に確認します。

■車内での確認項目

- フロアマットがペダルに引っかかっていないか？
- フロアマットが固定されているか？
- フロアマットを重ねていないか？
  ▶ ブレーキやアクセルの操作が確実にできないおそれがあり危険です。

≫車外での確認項目

アドバイス

ドアが凍結しているときは、無理にはがさずお湯をかけて溶かしてください。
無理にはがすと、ドアまわりのゴムがはがれます。お湯をかけた後は、凍結防止のため、水分をよく拭き取ってください。

ドアのキー穴部には、お湯をかけないでください。
凍結すると、キーが差し込めなくなります。

エンジンルーム内に可燃物の置き忘れや、燃えやすいものがないか確認してください。
車両を長期間使用しなかった場合や、メンテナンスの後は、特に注意してください。火災などの思わぬ事故につながるおそれがあります。

≫車内での確認項目

運転者は、携帯電話を走行中に使用しないでください。
運転者が運転中にハンズフリー以外の携帯電話を使用することは、法律で禁止されています。 運転中の使用により周囲の状況に対する注意が不十分になると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

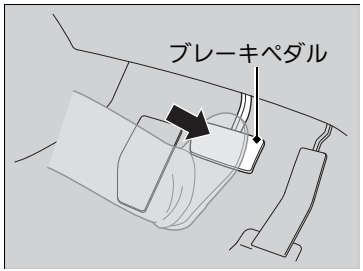
車に合ったフロアマットをお使いください。

- フロントシートの足元にものを置いていないか？
- 荷物はシートの高さを越えていないか？
  ▶ 後方視界を妨げたり急ブレーキのときに荷物が飛び出したりするおそれがあり危険です。
- 積み込んだ荷物が適切に固定されているか？
  ▶ 不適切な荷物の積み込みは、タイヤに負担をかけたり走行中のバランスを維持できず危険です。
- 動物を乗せるときは、動きまわらないようにしているか？
  ▶ 運転の妨げになったり、急ブレーキのときなどに思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- シート位置などが適切に調節されているか？
  ▶ 不適切なシート位置での走行は危険です。
  ➔ **シートの調節** P.168
- ルームミラー、ドアミラー、ハンドルは適切に調節したか？
  ▶ 正しい運転姿勢ですわり、それぞれ適切な位置に調節します。
  ➔ **ミラー類の調節** P.165
  ➔ **ハンドルの調節** P.164
- すべての乗員がシートベルトを締めているか？
  ▶ すべての乗員は必ずシートベルトを着用します。
  ➔ **シートベルトの着用** P.32
- ドア、トランクが確実に閉まっているか？
  ▶ 走行前にすべてのドア、トランクが完全に閉まり、正しく施錠されていることを確認します。
  ➔ **車内での施錠 / 解錠** P.128
- パワーシステムを起動したとき、メーターに異常を示す警告灯などが点灯していないか？
  ▶ 異常を示す警告灯の異常を解決してから走行します。
  ➔ **警告灯** P.66

パワーシステムの起動

1. パーキングブレーキスイッチをゆっくりと確実に引き上げる。

▶ パーキングブレーキがかかっていると、電子制御パーキングブレーキ作動警告灯が約 15 秒間点灯します。



2. 右足でブレーキペダルを踏む。

パワーシステムの起動

⚠警告

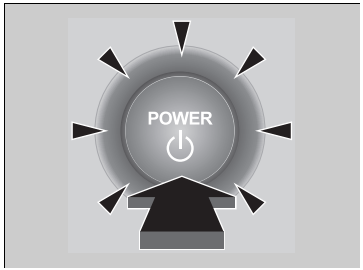
12V バッテリー液が不足しているときは、パワーシステムを起動しない。
12V バッテリーが破裂するおそれがあります。

⚠注意

パワーシステムを起動するときは、ブレーキペダルをしっかりと踏む。

寒いときのパワーシステムの起動は、すべての電気アクセサリーをOFFにしてから行います。
寒いときのパワーシステムの起動は、12V バッテリーの消耗を防ぐためライト類、エアコン、リヤデフロスターなどの電気アクセサリーをすべて OFF にしてから行ってください。

車を盗難から守るため、イモビライザーシステムのキーを採用しています。そのため、あらかじめ登録されたキーでないとパワーシステムの起動ができません。
イモビライザーシステム P.138



3. アクセルペダルを踏まずに、 POWER を押す。

▶ パワーシステムが起動すると、ブザー音がなり、マルチインフォメーションディスプレイに「READY TO DRIVE」が表示され、運転することができます。

▶ 外気温が極端に低いときは、条件が整うまで走行することができません。このとき、「READY TO DRIVE」のメッセージが表示されず、代わりに警告メッセージが表示されます。

➡ **マルチインフォメーションディスプレイ** P.103

■パワーシステムの停止

車が完全に停止しているとき、パワーシステムを停止することができます。

1. シフトポジションを P にする。

2. POWER を押す。

パワーシステムの起動

Honda スマートキーの電池が切れたときは、キーで POWER に触れてください。

➡ **Honda スマートキーの電池が切れたとき** P.418

パワーシステムが起動しない場合は、30 秒以上待ってから操作してください。

パワーモードをONモードにしたとき、ブレーキペダルが押し込まれる感じを受けることがありますが、ブレーキ装置の作動によるものであり、異常ではありません。

排気音が変わったり、車内でガソリンや排気ガスのにおいが消えないときは、排気系や燃料系の異常が考えられます。

Honda 販売店で点検を受けてください。

POWER は、エンジンが始動するまで押し続ける必要はありません。

次ページに続く

■発進時の操作

1. 右足でブレーキペダルを踏んだまま、シフトポジションを D にする。
▶ 後退する場合は R にします。

2. パーキングブレーキをかけたまま、ブレーキペダルを離して、アクセルペダルをゆっくりと踏む。
▶ 電子制御パーキングブレーキ作動警告灯が消灯したことを確認してください。
▶ 運転席シートベルトを装着していないと、発進時でも電子制御パーキングブレーキは自動解除されません。

➡ **電子制御パーキングブレーキ** P.318

■ヒルスタートアシストシステム

急な坂道からの発進をするときに、ブレーキペダルから足を離した後、ブレーキ力を約1 秒間保持することで車両の後退を緩和し、発進を容易にするシステムです。

発進時の操作

パーキングブレーキスイッチの操作で解除することもできます。
下り坂の場合、アクセルペダルを踏まずにパーキングブレーキを手動で解除すると、よりスムーズに発進することができます。

ヒルスタートアシストシステム

緩やかな坂道ではシステムが作動しないことがあります。

走行時の注意点

■霧が出たときは

霧が出たときは視界が悪くなります。昼間でもヘッドライトを下向きで点灯し、中央線、ガードレール、前走車のテールランプなどを目安にして、速度を落として走行してください。

■風が強いときは

風が強く車が横に流されるようなときは、ハンドルをしっかり握り、速度を徐々に落として進路を立て直します。
トンネルの出口、橋、土手の上、山を削った切り通しの走行時や大型トラックの追い越し時などには、特に横風の影響を受けやすいため、十分に注意してください。

次ページに続く

走行時の注意点

走行中はパワーシステムを停止しないでください。
下記のような状態になり危険です。
- ブレーキの倍力装置が作動しないため、ブレーキの効きが悪くなる
- パワーステアリングのパワー装置が作動しないためハンドル操作が重くなる

走行中はシフトポジションを N にしないでください。
回生ブレーキが全く効かず、思わぬ事故の原因となります。

車を移動するときは、必ずパワーシステムを起動してください。
下り坂を利用しての移動などは、思わぬ事故の原因となります。

1,000km走行するまでは、エンジンや駆動系の保護のため急発進、急加速を避け、控えめな運転をしてください。

■雨が降っているときは

雨天時は路面が滑りやすくなっているため、急ブレーキ、急加速、急ハンドルを避け通常より注意深く運転してください。
わだちなどの水のたまりやすい場所ではハイドロプレーニング現象を起こしやすくなります。

冠水路などの深い水たまりは走行しないでください。エンジンや駆動系の破損、電装品の故障につながるおそれがあります。

≫雨が降っているときは

ハイドロプレーニング現象に注意してください。
ハイドロプレーニング現象とは、路面が水でおおわれているところを高速で走行したときに、タイヤと路面の間に水の膜ができ、タイヤが浮いてハンドルやブレーキが効かなくなる状態のことをいいます。

■その他の注意点

走行中、床下に強い衝撃を受けたときは、思わぬ事故につながるおそれがあるため、ただちに安全な場所に停車してブレーキフルードや燃料の漏れ、各部に損傷がないかを確認してください。

≫その他の注意点

⚠注意

シフトダウンする際の車速には、十分注意する。

滑りやすい路面では、急激なエンジンブレーキがタイヤのスリップを招くことがあります。

アドバイス

停車中や極低速のときハンドル操作を繰り返したり、ハンドルに力をかけ保持するなどして EPS(電動パワーステアリング)システムの温度が上昇すると、システム保護のためパワー装置のはたらきを制限するので、ハンドル操作が徐々に重くなります。

システムの温度が下がると復帰しますが、システム保護がはたらくような使いかたを断続的に繰り返すと、システム破損の原因となります。

デュアルクラッチトランスミッションについて

■クリープ現象

パワーシステムが起動しているとき、シフトポジションがP N以外に入っているとオートマチック装備のガソリン車と同様に、クリープ現象によりアクセルペダルを踏まなくても、車がゆっくり動き出します。

■キックダウン

シフトポジションがDで走行中にアクセルペダルを素早く踏み込むと低速ギヤにシフトダウンし、力強い加速を得ることができます。

クリープ現象

上り坂での停車時、クリープ現象による前進の力よりも、後退しようとする力のほうが大きくなり、車が後退する場合があります。
ブレーキペダルを踏み、パーキングブレーキをかけてください。

キックダウン

上り坂などでアクセルペダルを踏み込んだとき、キックダウンにより急にエンジン回転が上がり、速度が出すぎてしまうことがあります。
アクセルペダルは慎重に操作してください。滑りやすい路面やカーブでは、特に注意が必要です。

シフト操作

走行状態に応じてシフトポジションスイッチを押して切り換えます。

■シフトポジションの名称とはたらき

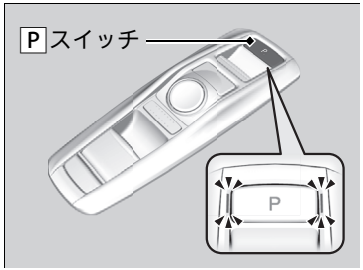
P パーキング
駐車またはパワーシステムを起動するとき

R リバース
車を後退

N ニュートラル
駆動力が伝達されない状態

D ドライブ
- 通常走行
- 一時的に 7 速マニュアルシフトモードにするとき
- 7 速マニュアルシフトモードにするとき（SPORT モード走行時）

■パーキングスイッチ



パワーモードが ON モードで車が停止しているとき、スイッチを押すとシフトポジションが P になり、スイッチのシフト操作表示が点灯します。

次ページに続く

シフト操作

R のポジションのときは、チャイム音が鳴り運転者にシフトポジションが R の位置になっていることを知らせます。

車を後退させるときは、トランスミッション保護のため、車速が制限されることがあります。

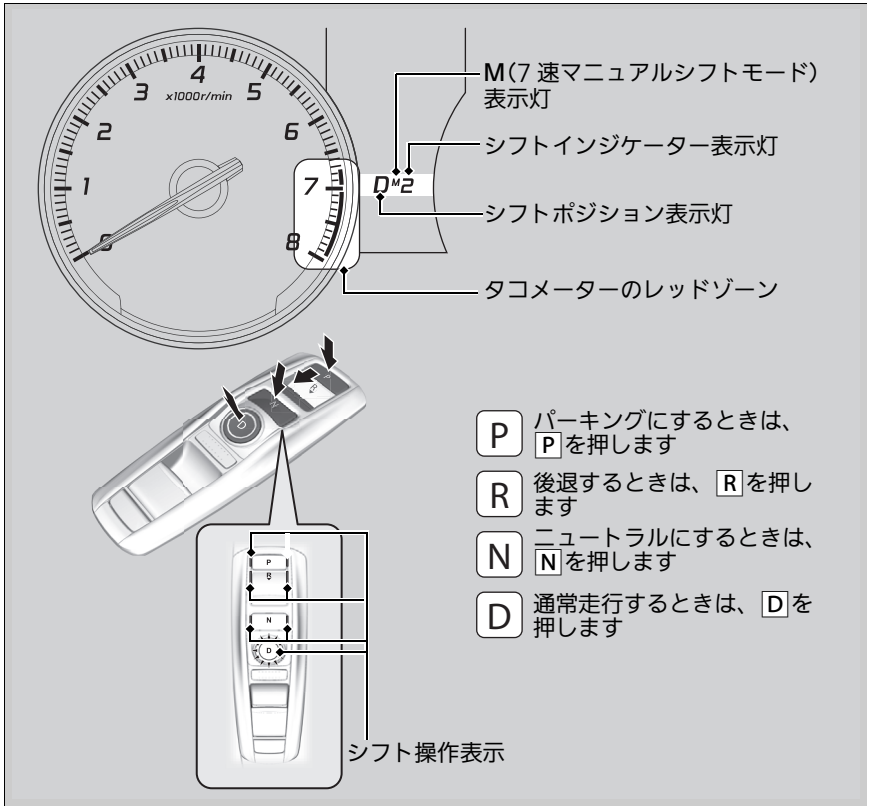
高電圧バッテリーの充電量が満充電に近い状態のとき、または高電圧バッテリーの温度が低いときは、回生ブレーキの効きが弱くなることがあります。

故障と予期しない作動を防止するため：
- シフトポジションスイッチに液体などをこぼさないでください。
- シフトポジションスイッチやまわりに、衝撃を与えたりものを落とさないでください。
- お子様や運転者以外の方がシフトポジションスイッチを操作しないようご注意ください。

高電圧バッテリ ー の充電状態が著しく低いとき、R を選択すると、車両が動き出すまでに通常より時間がかかることがありますが、故障ではありません。

外気温が非常に低い（マイナス 30 度以下）とき、シフトポジションの表示の切り替わりが少し遅れることがあります。走行前は必ずシフトポジションを確認してください。

■シフトポジションの操作



シフトポジションの操作

車両を完全に停止させ、ブレーキペダルを踏んだままシフトポジションをDからRまたはRからDに切り換えてください。

シフト操作をするまえに、シフトポジション表示灯とシフト操作表示を確認してください。

選択しているシフトポジションの表示灯が点滅しているときは急加速を避け、Honda 販売店で点検を受けてください。
全てのシフトポジションで、表示灯が点滅する場合は、ただちに安全な場所に車を停車してください。
異常なければ消灯しますが、Honda 販売店で点検を受けてください。

エンジンの回転をあやまってタコメーターのレッドゾーン(限界回転数)以上で運転した場合、エンジン保護装置により燃料供給が停止されます。
そのとき、軽い衝撃を感じることがありますが、異常ではありません。

N, P又はRを選択しているときに、エンジン回転数が高い状態が続くと、燃料供給が停止されることがあります。

■ドア Open 自動パーキング選択制御

パワーモードが ON モードで車が停止、または、車速が 2 k m/h 以下のときに、P 以外のシフトポジションのまま、運転席のシートベルトをはずし運転席ドアを開けるとシフトポジションが自動で P になります。

■パワーモード Off 自動パーキング選択制御

停止中にシフトポジションが P 以外のまま、パワーモードを OFF モードにすると、シフトポジションが自動で P になります。

ドア Open 自動パーキング選択制御

駐車をするときは、安全のために、運転席ドアを開ける前にシフトポジションを P にし、適切な方法により行ってください。

➔ **駐停車操作** P.327

この制御により P になった後、発進する場合は、ドアを閉めてシートベルトを装着し、シフト操作をしてください。

次ページに続く

■シフトポジションの選択制限

不正な操作をすると、安全のため、シフトポジションの選択が制限されます。

操作前のシフトポジション	1. 操作・走行状態	2. パーキングスイッチ・シフトポジションの操作	3. 操作後のシフトポジション	対処のしかた
P	ブレーキペダルを踏んでいない	他のシフトポジションを選択する	P	アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏む
	アクセルペダルを踏んでいる			
N	低速走行中で、ブレーキペダルを踏んでいない		N	
	低速走行中で、アクセルペダルを踏んでいる			
N D	前進している	R		停車する
R N	後退している	D		
R N D	走行中	P		
P N	READY 表示灯が点灯していない	P N以外を選択する	P N	READY 表示灯の点灯を確認する

■ 7 速マニュアルシフトモードとは

ハンドルにあるシフトスイッチで、ハンドルから手を離さずに手動で1～7速まで変速することができます。走行中にシフトスイッチを引くと、7 速マニュアルシフトモードへ切り換わります。エンジンブレーキが必要なときにも、使用してください。

■シフトポジションが D で、SPORT モードスイッチが OFF のとき

シフトスイッチを引くと、一時的に7 速マニュアルシフトモードとなり、シフトインジケーターが点灯します。
EV 走行中に 7 速マニュアルシフトモードにすると、自動的にエンジンが始動し、モード作動中はエンジンで走行します。
定速走行の状態になると、7 速マニュアルシフトモードは自動的に解除され、シフトインジケーターが消灯します。また、 + のシフトスイッチ(右側)を数秒間引き続けることでも解除することができます。カーブの手前など、一時的に減速したいときに便利です。

■シフトポジションが D で、SPORT モードスイッチが ON のとき

シフトスイッチを引くと、7 速マニュアルシフトモードとなり、M表示灯とシフトインジケーターが点灯します。
モードを解除する場合は、SPORT モードスイッチを押すか、 + のシフトスイッチ(右側)を数秒間引き続けてください。7 速マニュアルシフトモードが解除され、M 表示灯とシフトインジケーターが消灯します。

次ページに続く

7 速マニュアルシフトモードとは

以下の走行状態のときに、シフトスイッチを引くと変速せず表示灯が点滅します。
- 操作後のエンジン回転数が許容範囲外のとき
- 車速が各ギヤの許容範囲外のとき

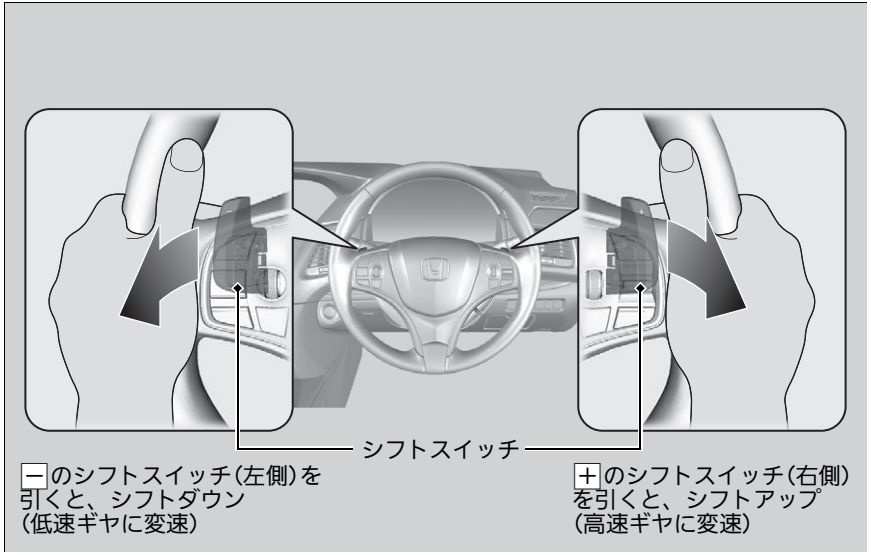
また、車両状態によって、変速ができないこともあります。

エンジンやトランスミッションを保護するために、自動的にシフトアップやシフトダウンすることがあります。このとき該当する表示灯が点灯します。

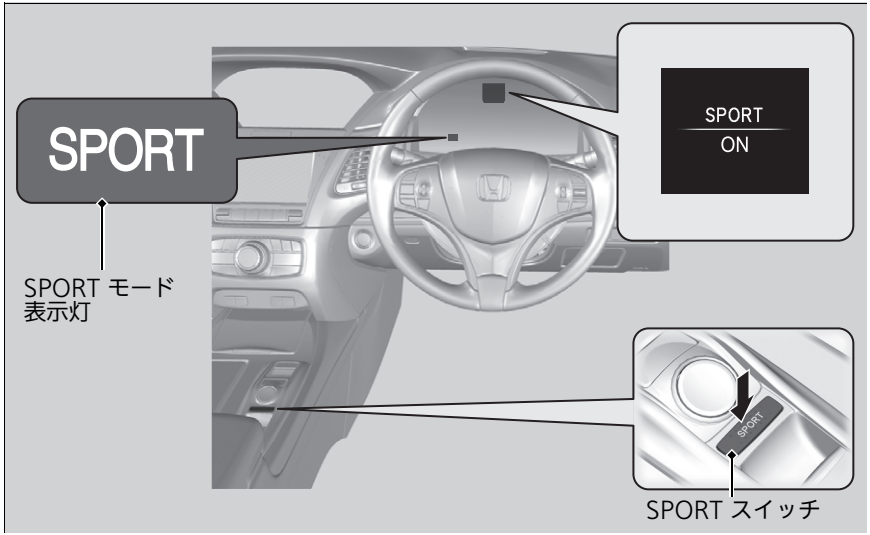
以下のとき、自動的に 7 速マニュアルシフトモードを解除することがあります。
- トランスミッション保護が必要なとき
- 高電圧バッテリーの残量が低下したとき
- モード作動中に、滑りやすい路面でタイヤがロックしたとき

■ 7 速マニュアルシフトモードの操作

1 回のシフトスイッチ操作で、ギヤは 1 段変速します。



SPORT モードスイッチ

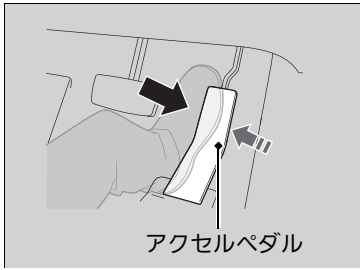


スイッチを押すとエンジン、トランスミッション、モーターの作動を制御して、素早い発進加速や力強く伸びのある走行を可能にします。

パワーモードが ON モード のときにスイッチを押すと、SPORT モードが ON になります。

パワーモードをアクセサリーモードまたは OFF モードにすると SPORT モードは自動的に OFF になります。

リアクティブフォースペダル



アクセルペダルを踏み込んだときに、条件によりアクセルをやや重くすること(反力)で、運転を補助するシステムです。

アクセルペダルを踏み込んだときに、加速に応じてアクセルペダルに反力をかけることにより、踏みすぎを抑制することで、省燃費運転を手助けします。

凍結、積雪や雨(激しい降雨)など滑りやすい路面では、アクセルペダルの踏みすぎを抑制することで、タイヤの空転を防ぎ、スムーズな発進を手助けします。

リアクティブフォースペダル

アクセルペダルの踏み込み操作を制限するシステムではありません。

衝突軽減ブレーキ(CMBS)、誤発進抑制機能、後退出庫サポートが車両などの衝突のおそれのある障害物を検知したとき、アクセルペダルに断続的に反力を発生させます。

➡ **衝突軽減ブレーキ(CMBS)** P.240
➡ **誤発進抑制機能** P.248
➡ **後退出庫サポート** P.329

SPORT モードが ON のときは、システムは作動しません。

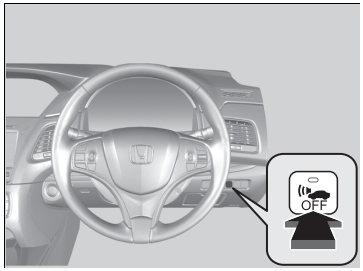
反力の強さを変更することができます。

➡ **別冊の Honda インターナビシステム取扱説明書**

車両接近通報装置

約 20km/h 以下で走行しているときに、歩行者に車両の接近を知らせるため、走行音を発生させるシステムです。

■車両接近通報装置の ON と OFF



車両接近通報を停止（OFF）状態にするには、OFFを押してください。
車両接近通報が停止状態になります。

再度使用（ON）するには、OFFを押します。

車両接近通報装置

前回の走行時に OFF にした場合でも、再度パワーシステムを起動させると自動的にONになります。

VSA（ビークルスタビリティアシスト）

VSA とは、ABS 機能、TCS 機能および横滑り抑制機能を総合的に制御し、急激な車両の挙動変化を抑制しようとする装置です。

■ABS（アンチロックブレーキシステム）機能 ➡ P.324

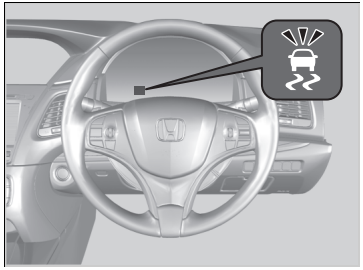
■TCS（トラクションコントロールシステム）機能

滑りやすい路面などでの駆動輪の無駄な空転を防止し、駆動力、操舵能力を確保しようとする機能です。

■横滑り抑制機能

急激なハンドル操作や滑りやすい路面などでの旋回時に、車輪の横滑りなどを抑制することで車両の安定性を確保しようとする機能です。
さらに、緊急制動時に運転者のブレーキ操作を補助する電子制御ブレーキアシストも装着しています。
➡ **電子制御ブレーキアシスト** P.325

■ VSA の作動と警告灯



TCS 機能または横滑り抑制機能作動中は、VSA 警告灯が点滅します。

VSA（ビークルスタビリティアシスト）

アドバイス

種類やサイズの異なるタイヤが混在していると、VSA が正常に機能しないことがあります。タイヤは必ず、同一指定サイズ、同一種類のタイヤを指定空気圧で使用してください。

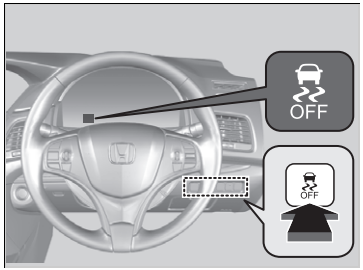
VSA 警告灯が運転中に点灯するときは、システムの異常が考えられます。
通常の運転には支障はありませんが、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

VSA が作動した状態でも車両の安定性の確保には限界がありますので、無理な運転はしないでください。
- カーブ手前では十分に速度を落とす
- 雪道、凍結路を走行するときは、スノータイヤまたはタイヤチェーンを装着し控えめな速度で運転する

新雪やぬかるみから脱出したいときに、でVSA を OFF にすると TCS 機能が制限され、低速で駆動輪が回転しやすくなるので効果的な場合があります。

新雪やぬかるみから脱出した後は、すみやかに VSA を ON にしてください。
VSA を OFF にしたままでの走行は、お勧めしません。

■ VSA の ON と OFF



VSA 機能を部分的に停止（OFF）状態にするには、を「ピッ」とブザーが鳴るまで押してください。
TCS機能が制限され、低速で駆動輪が回転しやすくなります。

再度使用（ON）するには、を「ピッ」とブザーが鳴るまで押します。

前回の走行時にOFFにした場合でも、再度パワーシステムを起動させると自動的に ON になります。

VSA（ビークルスタビリティアシスト）

パワーシステムの起動直後や走行中、システムチェックのためエンジンルームからモーター音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

アジャイルハンドリングアシスト

運転者のハンドル操作に応じて、4 輪それぞれに軽いブレーキをかけることで、車両の動きを滑らかにし、安定感のあるコーナリングを可能とする機能です。

アジャイルハンドリングアシスト

アジャイルハンドリングアシストはすべての走行条件で安定性を向上させるシステムではありません。
安全のために、カーブ走行時は状況に応じた適正な速度で、十分に車間距離をとって走行してください。

走行中に VSA 警告灯が点灯したままのときは、アジャイルハンドリングアシストが作動しません。

アジャイルハンドリングアシストが作動中、エンジンルームから音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

SPORT HYBRID SH-AWD（Super Handling All Wheel Drive）

SPORT HYBRID SH-AWD とは、運転状況に合わせて、エンジンやモーターの駆動力を制御して各車輪に伝達します。

SPORT HYBRID SH-AWD は、積雪地、砂地、ぬかるみ、急坂路など滑りやすい路面において、2WD 車（二輪駆動車）に比べて走破性にすぐれていますが、万能ではありませんので以下の点に注意してください。

- アクセル、ハンドル、ブレーキ操作は一般の車と同じく慎重に行う
- 滑りやすい路面では十分に車間距離をとって走行する

SPORT HYBRID SH-AWD（Super Handling All Wheel Drive）

冠水路などの深い水たまりは走行しないでください。

種類やサイズの異なるタイヤが混在していると、SPORT HYBRID SH-AWD が正常に機能しないことがあります。
タイヤは必ず、同一指定サイズ、同一種類のタイヤを指定空気圧で使用してください。
➔ **タイヤの点検** P.373

ブラインドスポットインフォメーション

隣接する車線後方の検知エリアに他の車両がいることを知らせ、運転者の車線変更などの操作の際の負担を軽減するシステムです。

ブラインドスポットインフォメーション

⚠警告

車線変更の際は、目視やミラーなどで確認する。

状況により、車両を検知できない場合があります。直接確認をせずに車線変更を行うと、思わぬ事故につながるおそれがあります。

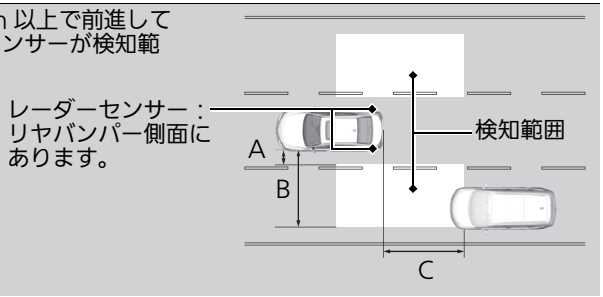
他の運転支援システムと同様に、ブラインドスポットインフォメーションには制限があります。

下記のような場合、ブラインドスポットインフォメーション警告灯が点灯しないことがあります。

- 他の車両が 2 秒以上検知範囲にいなかったとき
- 隣接する車線に駐車車両があるとき
- 自車が隣接する車線を走行する車両を約 10km/h 以上の速度差で追い越したとき
- レーダーセンサーによって検知されていないものに接近したり、通過したりしたとき
- 自車と隣接する車線を走行する車両が二輪自動車などの小型な車両のとき

■システムの作動条件

自車の車速が 20km/h 以上で前進しているとき、レーダーセンサーが検知範囲にいる車両を検知
検知範囲
A: 約 0.5m
B: 約 3m
C: 約 3m



ブラインドスポットインフォメーション

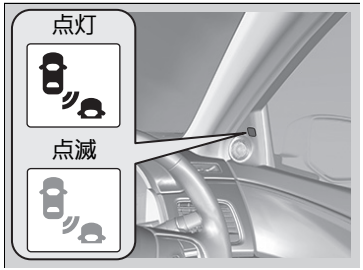
他の車両が検知範囲内にある場合でも、以下のように作動することがあります。

- 水しぶきなどにより、ブラインドスポットインフォメーション警告灯が点灯せず、マルチインフォメーションディスプレイに「ブラインドスポットシステム点検」と表示される
- マルチインフォメーションディスプレイに「ブラインドスポットシステム点検」と表示されていても、ブラインドスポットインフォメーション警告灯が点灯する

シフトポジションが R のときは、システムは作動しません。

次ページに続く

■システムが車両を検知したとき



ブラインドスポットインフォメーション警告灯：両側のピラーの横にあります。

ブラインドスポットインフォメーション警告灯が点灯する条件：

- 他の車両が、自車より車速約 50km/h 以下の車速差で追い越しのために後方から検知範囲に入ったとき
- 約20ｋｍ/ｈ以下の車速差で他の車両を追い越したとき

ブラインドスポットインフォメーション警告灯が点滅し、警報音が鳴る条件：検知範囲に他の車両があるときに、検知された車両がある方向に方向指示器（ウィンカースイッチ）を操作すると、警報音が 3 回鳴ります。

ブラインドスポットインフォメーション

警報音、警報表示の設定をカスタマイズすることができます。

➡ 別冊の Honda インターナビシステム取扱説明書

以下の場合、システムが影響を受け正確に表示しないなどの可能性があります。

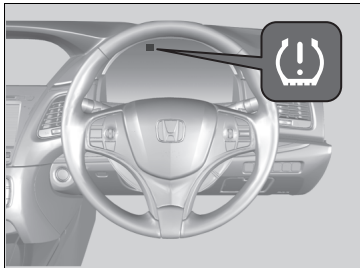
- 交差点を右左折しているとき
- 路側の設置物（ガードレール、電柱、木、駐車車両、建物、壁など）を検知したとき
- 二輪車が検知範囲に入ったときや、電波を反射しないものが検知範囲にあるとき
- カーブした道路を走行しているとき
- 他の車両が隣接する車線よりさらに外側から接近してきたとき
- 近くに強い電波を発する設備があるとき
- リヤバンパーやレーダーセンサー周辺が破損、変形しているとき
- 悪天候（雨、雪、霧など）のとき
- 旋回や路面の凸凹により車体が傾いているとき

システムを正しく作動させるために、必ず次のことをお守りください。

- リヤバンパーの側面部は常にきれいにしておく
- リヤバンパーの側面部にシールなどを貼り付けない

リヤバンパーやレーダーセンサー周辺に衝撃が加わったときや修理を行う際は、Honda 販売店にご相談ください。

タイヤ空気圧警報システム（TPMS）



タイヤ空気圧警報システムとは、走行中にタイヤの空気圧を監視するシステムです。空気圧が著しく下がっている場合は、タイヤ空気圧警報システム警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されます。

タイヤ空気圧警報システム（TPMS）

タイヤ空気圧警報システムが正常に機能しないことがあるので、タイヤを交換する場合は、同一指定サイズ、同一種類のタイヤを使用してください。

外気温が低いときや気圧の変化があるようなタイヤの空気圧に直接影響がある状況によっては、タイヤ空気圧警報システム警告灯が点灯する場合があります。

➡ **タイヤ空気圧警報システム警告灯が点灯 / 点滅した** P.430

タイヤ空気圧の変化について：

- 気温が高くなると、空気圧は高くなります
- 気温が低くなると、空気圧は低くなります

タイヤ空気圧警報システム警告灯は、指定より高い空気圧になっても点灯しません。
専用のタイヤ空気圧警報システムセンサーを装備したホイールを使用していますので、純正ホイールを使用してください。
タイヤ空気圧警報システムセンサーを装着せずに走行するとタイヤ空気警報システム警告灯が一定時間走行後に点滅した後に点灯します。

➡ **タイヤとホイールの交換** P.375

次ページに続く

■タイヤ空気圧警報モニター

タイヤ空気圧モニターを表示するには、パワーシステムを起動し、タイヤ空気圧画面が表示されるまで、インフォメーション（ⓘ）ホイールを回してください。

空気圧が著しく下がっている場合は、「タイヤの空気圧が低下しています」がマルチインフォメーションディスプレイに表示され、該当するタイヤが表示されます。

タイヤ空気圧警報モニター

マルチインフォメーションディスプレイに表示された空気圧は、空気圧測定器で測定した数値と異なることがあります。
測定した空気圧と表示された空気圧が極端に異なるときや指定空気圧になるまで空気を注入してもタイヤ空気圧警報システム警告灯とマルチインフォメーションディスプレイに表示されたメッセージが消えないときは、故障のおそれがあります。
Honda 販売店で点検を受けてください。

システムに異常があると、タイヤ空気圧警報システム点検がマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

高電圧バッテリーの特性

長期間駐車をすると、高電圧バッテリーは少しずつ放電をします。
バッテリーの性能を維持するために、少なくとも 3ヶ月に一度、30 分以上走行をしてください。走行によりバッテリーに充電されます。
長期間走行をしないと、高電圧バッテリー充電容量が低下したり、寿命が縮む原因となります。
バッテリーの寿命を長くするために、夏場は日陰への駐車をおすすめします。

フロントグリル内に設置したレーダーセンサーと、フロントウインドウ内上部に設置したフロントセンサーカメラの、特性の異なる2 種類のセンサーで構成された運転支援システムです。

ホンダセンシングには、次の機能があります。

■作動させるためにスイッチ操作が不要な機能

- 衝突軽減ブレーキ（CMBS） ➔ P.240
- 誤発進抑制機能 ➔ P.248
- 歩行者事故低減ステアリング ➔ P.251
- 路外逸脱抑制機能 ➔ P.297
- 先行車発進お知らせ機能 ➔ P.304
- 標識認識機能 ➔ P.308
- オートハイビーム ➔ P.153

■作動させるためにスイッチ操作が必要な機能

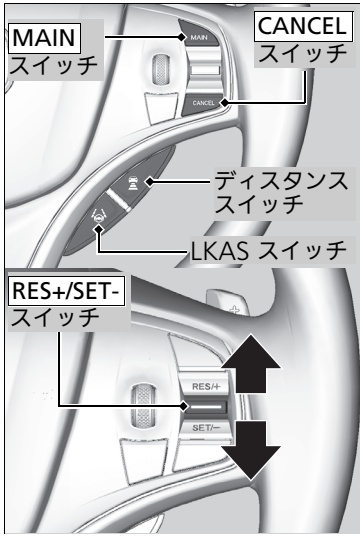
- 渋滞追従機能付 ACC（アダプティブクルーズコントロール） ➔ P.257
- LKAS（車線維持支援システム） ➔ P.271
- トラフィックジャムアシスト（渋滞運転支援機能） ➔ P.282

⚠警告

ホンダセンシングは、補助システムとして使用してください。
自動運転システムではありません。
あくまでも運転者をアシストするためのシステムです。
各機能の能力（認識能力・制御能力）には限界があります。
機能に頼った運転をすると衝突などの事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。常に周囲の状況を確認し、十分な車間距離を保ち安全運転を心がけ走行してください。

各機能を作動させるためのスイッチと表示

■ステアリングスイッチ



■MAIN スイッチ

渋滞追従機能付 ACC、LKAS およびトラフィックジャムアシストの待機状態の設定を行ないます。

■LKAS スイッチ

LKAS とトラフィックジャムアシストの ON と OFF の設定を行ないます。

■RES+/SET- スイッチ

渋滞追従機能付 ACC の車速のセットと復帰、設定車速の調整を行ないます。

■ディスタンススイッチ

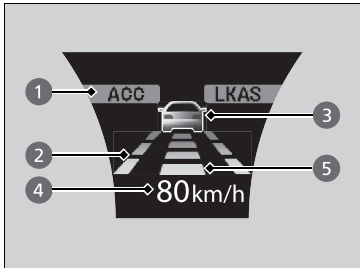
車間距離の設定を行ないます。

■CANCEL スイッチ

渋滞追従機能付 ACC の解除を行ないます。

次ページに続く

■マルチインフォメーションディスプレイの表示



渋滞追従機能付 ACC、LKAS およびトラフィックジャムアシストの現在の状態を表示します。

❶渋滞追従機能付 ACC、LKAS およびトラフィックジャムアシストの待機状態

❷LKAS とトラフィックジャムアシストの ON と OFF の状態と制御状態

❸前走車の検知状態

❹設定車速

❺設定車間

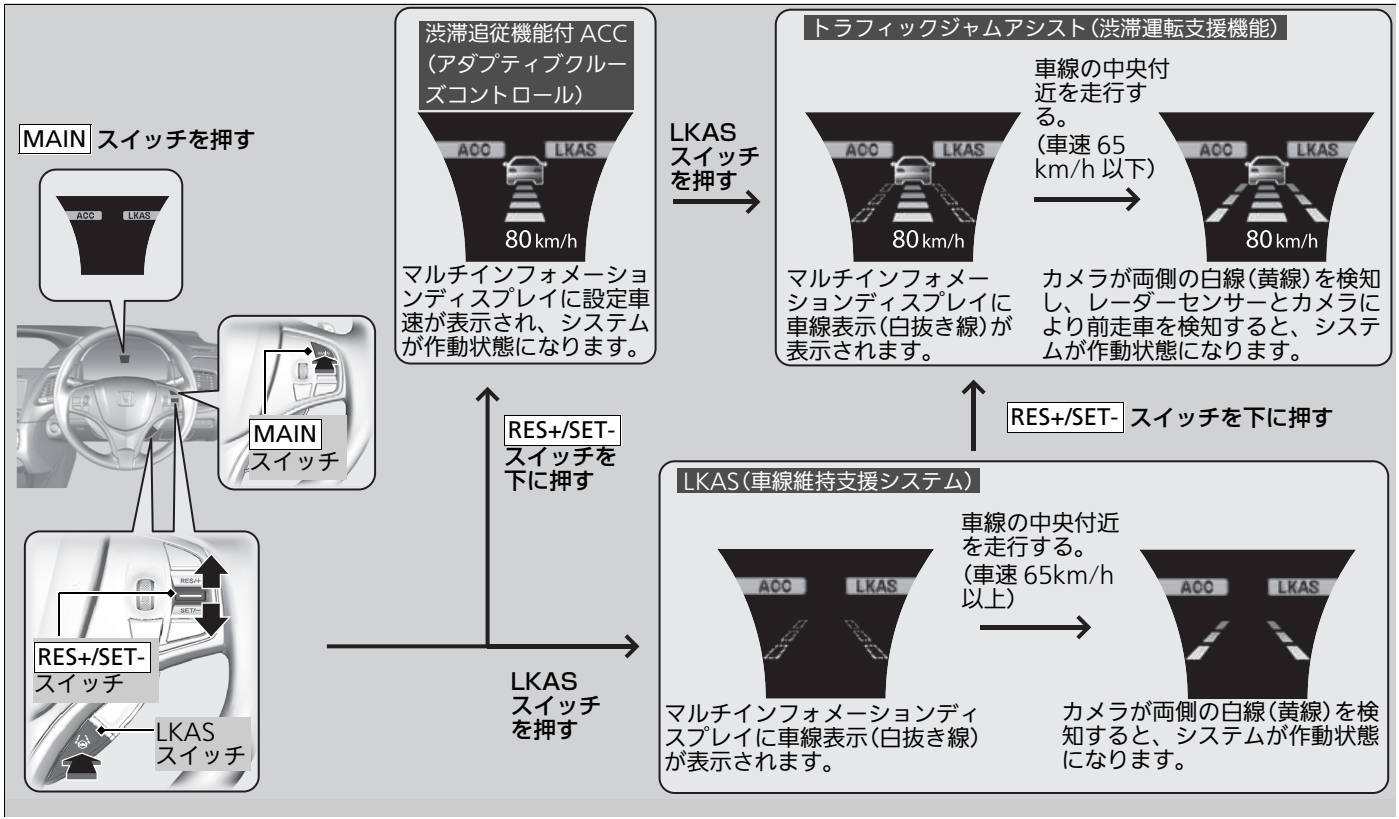
各機能を作動させるためのスイッチと表示

ヘッドアップディスプレイに各機能の現在の状態を表示させることができます。

➡ **ヘッドアップディスプレイ** P.109

■ステアリングスイッチの操作

渋滞追従機能付 ACC、LKAS、トラフィックジャムアシストは以下のスイッチ操作を行なうことで作動します。

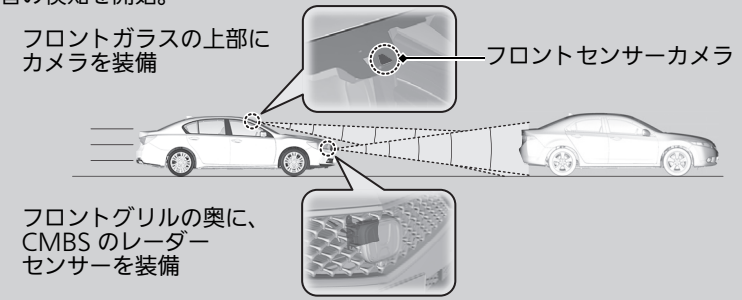


衝突軽減ブレーキ（CMBS）

自車が、前方の車両のほぼ真後ろから追突するおそれがあるときや、対向車に正面から衝突するおそれがあるときおよび歩行者に衝突するおそれがあるときに、運転者のブレーキ操作を支援し、衝突を回避したり衝撃を軽減するシステムです。

■システムの作動

自車の車速が約 5km/h 以上になるとレーダーセンサーとカメラが前方の車両や歩行者の検知を開始。



自車との速度差が約 5km/h 以上ある車両および歩行者に対して衝突のおそれがあるときに、CMBS が作動します。
対向車および歩行者に対しては、自車が約 80km/h 以下で走行中に衝突のおそれがあるときに、CMBS が作動します。
さらに、約 30 ～ 80km/h で走行中に対向車に対して CMBS が作動する状況では、ステアリング振動による警告も作動します。
CMBS が作動し、停車した後または衝突のおそれがなくなったと判断した後に、自動ブレーキは解除されます。

▶衝突軽減ブレーキ（CMBS）

⚠警告

衝突軽減ブレーキ（CMBS）は、あらゆる状況で衝突を回避できるシステムではありません。レーダーやカメラは天候や速度、路面状況によって検知しにくいことがあります。

取扱説明書に従い使用しないと、衝突などの事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

周囲の状況を確認し、十分な車間距離を保ち安全運転を行ってください。

レーダーセンサーの取り扱いについては下記を参照してください。
➔ **レーダーセンサー** P.317

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。
➔ **フロントセンサーカメラ** P.315

■CMBS の警告のしかた

以下の方法により、CMBS は衝突のおそれがあることを、運転者に知らせます。
- マルチインフォメーションディスプレイの警告やヘッドアップワーニングでの視覚への警告表示や警告ブザーに加え、アクセルペダルに断続的な反力、ステアリング振動による警告が発生します

CMBS の警報距離を Far・Normal・Near の 3 段階から選択することができます。

➡ 別冊の Honda インターナビシステム取扱説明書

Far は Normal に対して遠くで警告します。Near は Normal に対して近くで警告します。

■ステアリング振動による警告について

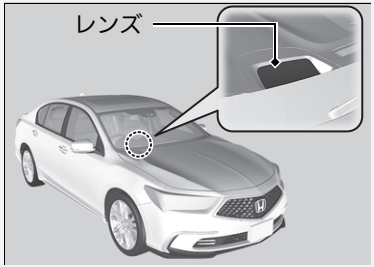
対向車に対して衝突のおそれがあるときは、視覚への警告に加え、ハンドルに短時間の弱い振動を発生させて運転者に注意を喚起します。

▶ ブレーキやハンドルを操作するなどの適切な行動で衝突を回避してください。

次ページに続く

衝突軽減ブレーキ（CMBS）

ヘッドアップディスプレイのレンズは、ダッシュボード前方にあります。
レンズを物でふさいだり、液体をこぼしたりしないでください。

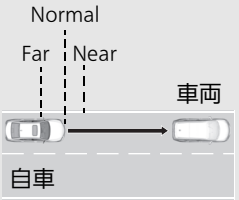
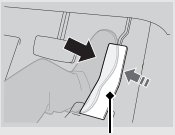


EPS 警告灯が点灯しているときは、ステアリング振動による警告は作動しません。

➡ **EPS（電動パワー ステアリング）システム警告灯** P.74

■ CMBS 作動の流れ

CMBSの作動には衝突の可能性に応じ3つの段階があります。しかし、状況によっては途中の段階から作動することがあります。

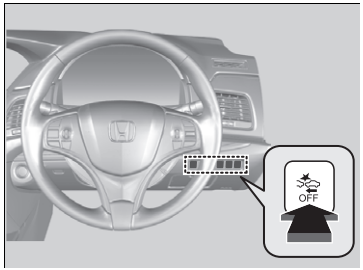
車両と自車の距離		状況	ブザーと表示による警告	ステアリング	E-プリテンショナー/リアクティブフォースペダル	ブレーキ
第 1 段階		車両への衝突のおそれができてきた状況	ヘッドアップワーニングと警告表示が 2 回点滅する さらに接近するとヘッドアップワーニング、警告表示およびブザーによる警報を行う ▶ 衝突警報距離を変更することができます。 ➡ **別冊の Honda インターナビシステム取扱説明書**	対向車の場合、ハンドルに短時間の弱い振動を発生	アクセルペダルに断続的な反力を発生  アクセルペダル	—

車両と自車の距離		状況	ブザーと表示による警告	ステアリング	E-プリテンショナー/リアクティブフォースペダル	ブレーキ
第 2 段階		衝突の危険が増し、衝突するまでの余裕が少なくなった状況	ヘッドアップワーニング、警告表示およびブザーによる警報を行う	—	運転席のシートベルトを数回軽く引き込み、注意をうながす	軽いブレーキ
第 3 段階		回避が困難な状況			運転席と助手席のシートベルトを強く引き込む	強いブレーキ

※：CMBS によるブレーキが作動しているときは制動灯が点灯します

次ページに続く

■ CMBS の ON と OFF



CMBS OFF スイッチを「ピーッ」とブザーが鳴るまで押すことで、システムの ON と OFF を切り換えます。

CMBS が OFF に切り換わったとき CMBS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに CMBS OFF とメッセージが表示されます。

CMBS を OFF にした状態でパワーモードを OFF にした場合でも、再度パワーモードを ON にすると自動的に ON になります。

衝突軽減ブレーキ（CMBS）

以下の場合、CMBS が自動的に停止し、警告灯が点灯することがあります。

- 山岳路や悪路を長時間走行したとき
- パーキングブレーキをかけて走行したとき
- 雨、霧、雪などの悪天候になったとき
- カメラの温度が高温になっているとき
- フロントグリルまたはフロントガラスがほこり、泥、落ち葉、湿った雪などで覆われているとき
- タイヤの異常を検出したとき

CMBS が作動できる状態になると、CMBS は自動復帰します。

車両の整備や検査の際に、シャシーダイナモやフリーローラーを使用するときは CMBS を OFF にしてください。

次のような場合、レーダーセンサーやカメラが車両、歩行者や路面状況を検知できず、CMBS が正常に作動しない場合があります。

■自車の状態によりレーダーセンサーやカメラが正しく検知できない事例

- フロントグリルが汚れているとき
- フロントガラスの曇り、雨粒、シールなどでカメラ前方が覆われているとき
- トランクやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- 適正なタイヤを使用していないとき
- タイヤチェーンを装着しているとき

■環境によりレーダーセンサーやカメラが正しく検知できない事例

- 雨、霧、雪などの悪天候
- 夜間やトンネル内などの暗いところ
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで明るさが変化したとき
- 逆光のとき
- 強い光が車両や歩行者、路面に反射しているとき
- 前方の車両による水しぶきや雪の巻上げがあるとき

■道路の状態によりレーダーセンサーやカメラが正しく検知できない事例

- カーブ、うねった道路、坂道などのとき
- 路面に水溜りや水膜があるとき
- 雪道や未舗装路などわだちのある道路のとき
- 狭い鉄橋を走行しているときなど、車両や歩行者の周囲に電波を強く反射する物があるとき

次ページに続く

衝突軽減ブレーキ（CMBS）

フロントグリルの周囲に強い衝撃を与えないようにしてください。

■前方の車両や対向車、歩行者の状態によりレーダーセンサーやカメラが正しく検知できない事例

- 前方の車両や歩行者との距離が極端に短いとき
- 自車の前方に車両が急に割り込んだとき
- 自車の前方に対向車や歩行者が飛び出したとき
- 歩行者の一部（頭や手足など）が荷物などによりかくれているとき
- 歩行者が背景に紛れて、カメラが歩行者を検知できないとき
- 歩行者が前かがみやしゃがんだ姿勢をとっているとき、手を挙げたり、走っているとき
- 歩行者の身長が約 1m 以下、または約 2m 以上のとき
- 歩行者が集団で前方にいるとき
- 暗がりで前方の車両が無灯火のとき

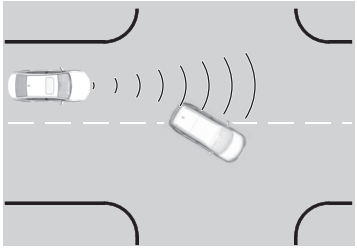
■その他、作動できない事例

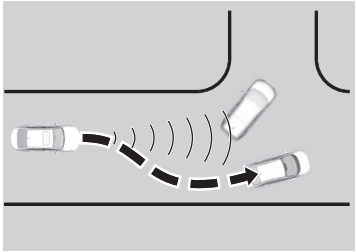
- 衝突を回避しようとして、運転者がブレーキやハンドルを操作したとき
- 急加速やハンドル操作をしながら、前方の車両や対向車、歩行者に接近したとき
- 前方の車両や対向車、歩行者が自車の正面にいないとき
- 前方の車両や歩行者との速度差が大きいとき
- 前方の車両が急減速したとき
- 自転車や二輪車、車いす、特殊な形状の車両などのとき
- 交差点などで自車の前方に車両が飛び出したとき
- 歩行者のかたちとしてカメラが正しく検知できないとき

■衝突の可能性のない場合の作動について

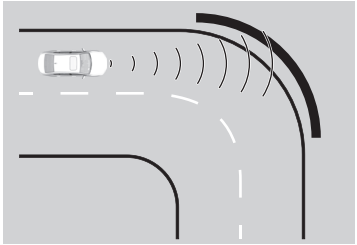
衝突の可能性がなくても、以下のとき、CMBS が作動することがあります。

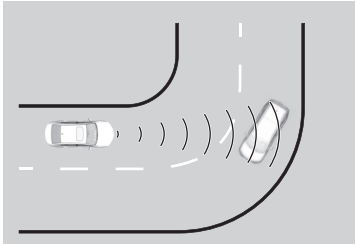
- 左折、または右折している前方車両がいるとき、または右左折待ちの車両がいるとき
- 前走車を追い越すときに車両に接近して走行する場合
- 交差点などで車両に接近して走行する場合





- 低いゲートや狭いゲートなどの間を規制速度を越えるような速度で通過しようとするとき
- 段差のある道路、線路、工事の鉄板などの上を走行するとき
- カーブ途中の道路脇に標識やガードレールなどがあるとき
- カーブ走行などで自車の正面に対向車がいるとき





- 駐車時など、停止している車両や壁に接近するとき

誤発進抑制機能

フロントグリルの奥に設置してあるレーダーセンサーとフロントガラス上部に設置してあるカメラによって、停車時や約 10km/h 以下で走行しているとき、自車のほぼ真正面に車両などの障害物があるにもかかわらず、アクセルペダルを踏み込んだ場合に、パワーシステム出力を抑制し、急な発進を防止するとともに、音と表示等で知らせる運転支援機能です。
なお、急な坂道やシフトポジションが P 、 R 、 N のときは、作動しません。

≫誤発進抑制機能

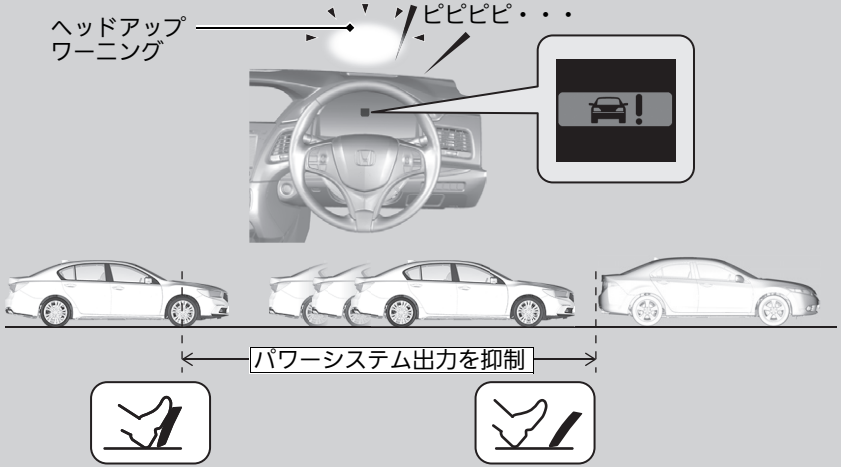
⚠警告

誤発進抑制機能はあらゆる状況でアクセルペダルの踏み間違いや踏みすぎによる衝突を軽減したり防止できるものではありません。
機能に頼った運転をすると衝突などの事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。
運転者がセレクトポジションやペダルの位置および周囲の状況を確認し、安全運転を心がけ走行してください。

誤発進抑制機能は、CMBS と同じセンサーを使用しています。CMBS を OFF にしているときは、誤発進抑制機能は作動しません。また、誤発進抑制機能を正常に作動させるために守ること、正常な作動ができない状況、衝突の可能性のない場合の作動やレーダーセンサーの取り扱いなどは、CMBS と同じです。

作動状態

機能作動中はブザー（ピピピ）がなり、マルチインフォメーションディスプレイおよびヘッドアップワーニングの警告が点滅すると同時に、アクセルペダルに元に戻そうとする力（断続的な反力）が発生します。



アクセルペダルの踏み間違いや踏みすぎによる急な発進を防止
アクセルペダルの踏み込み量が少ないときは作動しません。

アクセルペダルを離す
安全のため、必要に応じてブレーキペダルを踏んでください。

誤発進抑制機能

レーダーセンサーの取り扱いについては下記を参照してください。

➡ **レーダーセンサー** P.317

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。

➡ **フロントセンサーカメラ** P.315

誤発進抑制機能が作動し、道路上の段差を乗り越えることができない場合には CMBS を OFF にしてください。

踏切内に閉じ込められたときは、遮断機を障害物として検知することがあります。そのときは、慌てずにアクセルペダルを踏み続けるか、CMBS を OFF にして遮断機を押しのけてください。

次ページに続く

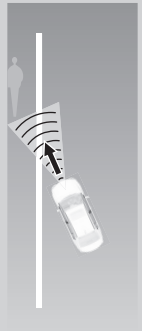
■作動解除の条件

- アクセルペダルを離したとき
- アクセルペダルを約 4 秒間踏み続けたとき
- ブレーキペダルを踏んだとき
- CMBS を OFF にしたとき
- ハンドルを操作して、衝突を避けようとしたとき

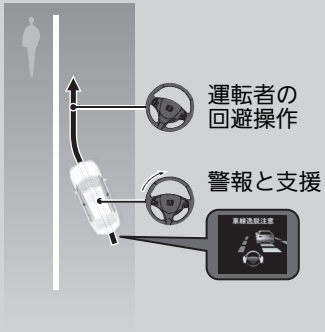
歩行者事故低減ステアリング

レーダーとカメラにより歩行者と白線(黄線)を検出し、ステアリング操作を支援することにより運転者の衝突回避操作を促します。

■システムの作動



カメラが車線を認識し、
レーダーとカメラにより
歩行者を検出します



路肩の歩行者との衝突のおそれがある場合、表示と警報音で警報し、さらにステアリング支援で回避操作を促すので、必ず回避行動をとってください。車両と歩行者の位置関係によってはCMBS の作動が優先される場合があります。

次ページに続く

歩行者事故低減ステアリング

⚠警告

歩行者事故低減ステアリング機能は、運転者の運転操作を支援するシステムです。
あらゆる状況での歩行者事故を、軽減したり回避できるものではありません。

取扱説明書に従い使用しないと、衝突などの事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

運転者は周囲の状況を確認し、歩行者と適切な距離を保ち安全運転を行ってください。

車線内を走行していないときは、歩行者事故低減ステアリング機能は作動しません。

レーダーセンサーの取り扱いについては下記を参照してください。
➡ **レーダーセンサー** P.317

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。
➡ **フロントセンサーカメラ** P.315

■システムの作動条件

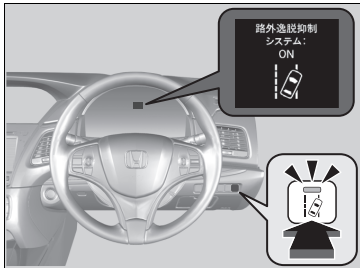
歩行者事故低減ステアリングは以下の状態で作動します。

- 歩行者が路肩を歩行しているときに、車両がその歩行者に向かって車線から逸脱していくとき
- 実線の白線(黄線)が連続しているとき
- 車速が約 10 ～ 40km/h で走行しているとき
- 直線の道路を走行しているとき

歩行者事故低減ステアリングは以下の状態では作動しません。

- ワイパーを連続で作動させているとき
- 方向指示器(ウィンカー)を出しているとき

■システムの ON と OFF



歩行者事故低減ステアリングは、路外逸脱抑制機能が ON のときに作動します。
路外逸脱抑制スイッチを押して、歩行者事故低減ステアリングの ON と OFF を切り替えてください。

▶ ON のときは、路外逸脱抑制スイッチのインジケーターが点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

システムの作動条件

運転者による操作が行われているときには支援が感じられないことがあります。

システムの ON と OFF

オーディオ / インフォメーション画面を使用し、路外逸脱抑制機能の設定をカスタマイズすることができます。
カスタマイズ機能で「操舵アシストなし　警報のみ」を選択した場合、歩行者事故低減ステアリングはステアリング制御を行いません。

➡ 別冊の Honda インターナビシステム取扱説明書

■歩行者事故低減ステアリングシステムの条件と制限

以下の条件で、歩行者事故低減ステアリングの支援が遅れたり、支援できない場合があります。
運転者が周囲の状況を確認し、歩行者と適切な距離を保ち安全運転を行ってください。

■環境によりレーダーセンサーやカメラが正しく検知できない事例

- 白線(黄線)と道路表面の区別ができないとき
- 天候(雨、霧、雪など)により、白線(黄線)や歩行者が見えにくいとき
- 路面に雪が残っていたり湿っているとき
- 夜明けや夕暮れ時の太陽に向かって走行するとき
- 強い光が歩行者や路面に反射しているとき
- トンネルの出入り口など、周辺の明るさが急に変わるとき
- 雨上がりなどで路面がぬれて光っているときや水たまりがあるとき
- 木々や建物の影を走行するとき
- ガードレールなどの影が、道路上に映っているとき
- 夜間やトンネル内などの暗いところ
- 前方の車両による水しぶきや雪の巻上げがあるとき

次ページに続く

■道路の状態によりレーダーセンサーやカメラが正しく検知できない事例

- 車線規制や仮設車線がある区間を走行するとき
- 道路の修復や古い白線（黄線）のため、かすれや重複、タイヤ痕、さまざまな白線（黄線）が道路にあるとき
- 交差点や横断歩道など車線の数が増減している区間や車線が複雑に交差している区間を走行するとき
- 車線の幅が極端に狭いときや広いとき、または変化しているとき
- 車両などが白線（黄線）の一部を隠しているとき
- 坂道や、丘の頂上に近づいているとき
- 段差などにより車両が大きく揺れたとき
- 路上のもの（縁石、ガードレール、パイロンなど）を白線（黄線）と認識したとき
- カーブ、うねった道路、坂道など、道路状況により白線（黄線）や歩行者を正しく認識できないとき
- 未舗装路やわだちのある道路を走行しているとき
- 狭い鉄橋を走行しているときなど、歩行者の周囲に電波を強く反射する物があるとき
- 車線が二重に描かれている道路を走行するとき
- 分岐・合流路などを走行するとき
- 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行するとき
- 雪上路や路上の雪・水溜まりなどで舗装路が部分的に見えているとき

■自車の状態によりレーダーセンサーやカメラが正しく検知できない事例

- フロントガラス外側が汚れ、泥、湿った雪などに覆われているとき
- フロントガラス内側が曇っているとき
- ワイパーの拭き残しがあるとき
- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれているとき
- トランクやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- 衝突を回避しようとして、運転者がブレーキやステアリングを操作したとき
- フロントグリルが汚れているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 先行車との車間距離が短いとき

■歩行者の状態によりレーダーセンサーやカメラが正しく検知できない事例

- 自車の前方に歩行者が飛び出すなど、歩行者が急に見え始めたとき
- 歩行者の一部(頭や手足など)が荷物などによりかくれているとき
- 歩行者が背景に紛れて、カメラが歩行者を検知できないとき
- 歩行者が前かがみやしゃがんだ姿勢をとっているとき、手を挙げたり、走っているとき
- 歩行者の身長が約 1m 以下、または約 2m 以上のとき
- 歩行者が集団で前方にいるとき

次ページに続く

■その他、作動できない事例

- 急加速やステアリング操作をしながら、前方の歩行者に接近したとき
- 歩行者のかたちとしてカメラが正しく検知できないとき
- 自転車や二輪車、車いす、特殊な形状の車両などのとき

渋滞追従機能付 ACC(アダプティブクルーズコントロール)

渋滞追従機能付 ACC は、フロントグリルの奥に設置してあるレーダーセンサーとフロントガラス上部に設置してあるカメラが先行車との車間距離を測定して、高速道路の渋滞時に適切な加減速を行い、設定車間距離を保持しながら、運転者がアクセルやブレーキを操作せずに走行、停車出来るよう支援するシステムです。

渋滞追従機能付 ACC によるブレーキが作動しているときは、制動灯が点灯します。

渋滞追従機能付 ACC を作動させるには：

渋滞追従機能付 ACC システムは、シフトポジションが D のときに使用することができます。

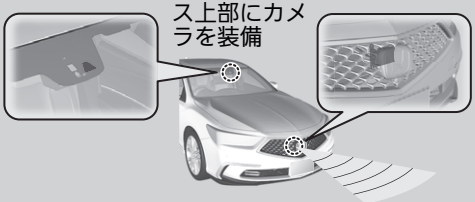
次ページに続く

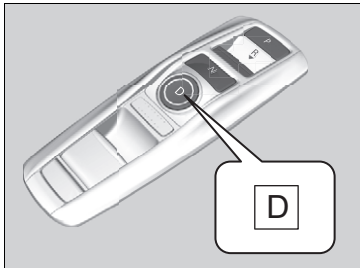
渋滞追従機能付ACC(アダプティブクルーズコントロール)

⚠警告

渋滞追従機能付 ACC の不適切な使用は事故につながります。取扱説明書の操作手順に従い操作してください。
高速道路や自動車専用道路でのみ使用してください。

■使用できるシフトポジション
D のとき





ブレーキペダルを操作しての減速中や、パーキングブレーキがかかっているときは、渋滞追従機能付 ACC は作動しません。悪天候などで、レーダーセンサーが先行車との車間距離を測定できないときは、システムが作動しないことがあります。

渋滞追従機能付 ACC（アダプティブクルーズコントロール）

⚠警告

渋滞追従機能付 ACC は、補助システムとして使用してください。渋滞追従機能付 ACC は、自動運転システムではありません。あくまでも運転者をアシストするためのシステムです。

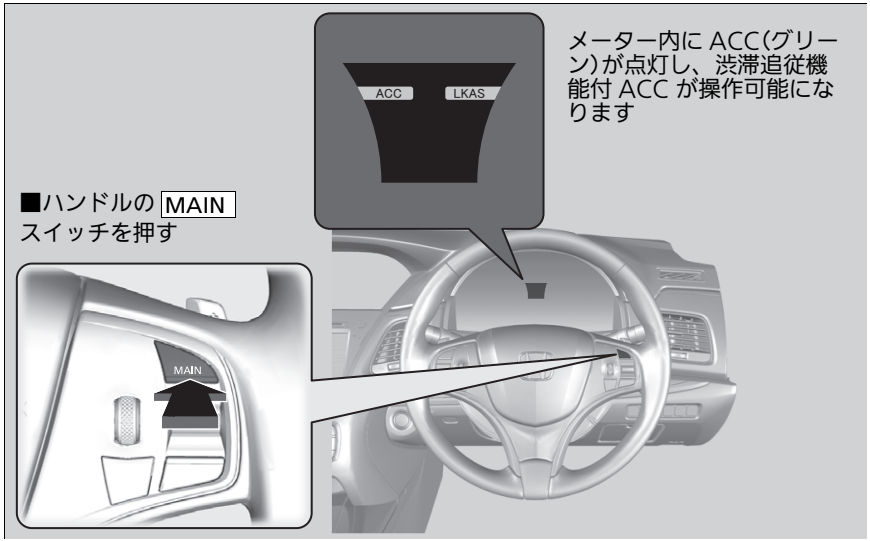
取扱説明書に従い使用しないと、思わぬ事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけ、走行してください。

⚠警告

渋滞追従機能付 ACC の作動中に停車した車両から、適切な駐車操作無しで外に出ると車両が操作無しで動き出す可能性があります。
適切な駐車操作無しで動く車両は、思わぬ事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。
渋滞追従機能付 ACC で停車した車両から絶対に外に出ないでください。

■システムを作動させるには



渋滞追従機能付　ACC(アダプティブクルーズコントロール)

使用上の注意：

渋滞追従機能付 ACC は、運転者を支援するシステムです。天候や環境などによって機能しないことあります。必要なときはブレーキペダルを使用し、常に安全な車間距離を保ってください。

レーダーセンサーの取り扱いについては下記を参照してください。

➔ **レーダーセンサー** P.317

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。

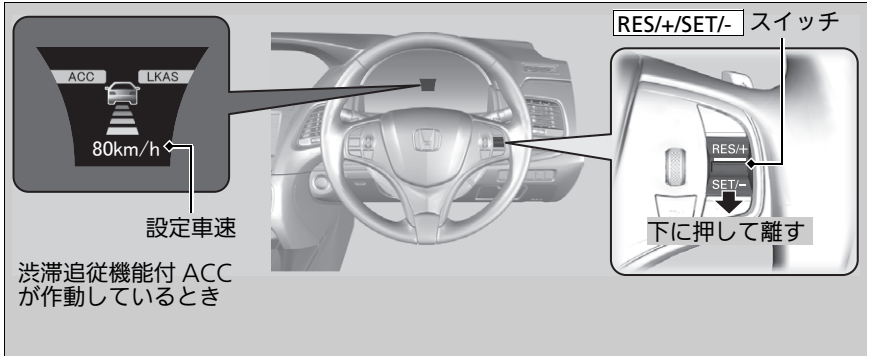
➔ **フロントセンサーカメラ** P.315

各機能のステアリングスイッチと表示については下記を参照してください。

➔ **各機能を作動させるためのスイッチと表示** P.237

次ページに続く

■車速をセットするには



ブレーキペダルを操作していないときに RES/+/SET/- スイッチを下に押して離すと現在の車速が設定車速とされ、渋滞追従機能付 ACC が作動し、マルチインフォメーションディスプレイにアイコンや設定車速が表示されます。

車速が 30km/h 以下で走行しているとき：

先行車を検知している場合のみ作動することができ、現在の車速にかかわらず設定車速が約 30km/h に設定されます。車両が動いていない場合は、ブレーキペダルを踏んでいても作動することができます。

車速をセットするには

MAIN スイッチを押すと、渋滞追従機能付 ACC と LKAS の両方が ON と OFF に切り換わります。

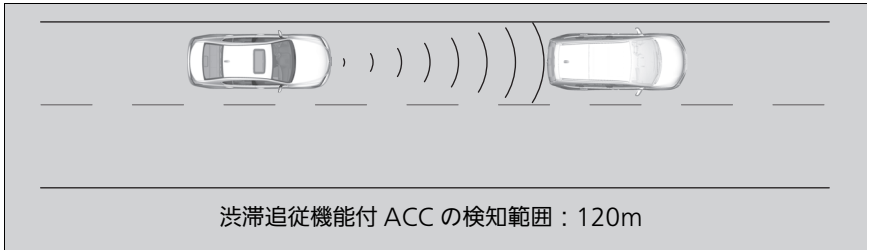
下記の状況のときは、渋滞追従機能付 ACC を使用しないでください。

- 交通量の多い道路や頻繁に加減速を繰り返すような交通状況では、交通状況にあった速度で走行できません。
- 急カーブのある道では道路状況にあった速度で走行できません。
- 急な下り坂では設定車速を超えてしまう場合があります。このような場合は、渋滞追従機能付 ACC によるブレーキは作動しません。
- 高速道路などで、料金所、インターチェンジ、サービスエリア、パーキングエリアに進入するときは、自車の前から先行車がいなくなることで設定車速まで加速を始めてしまいます。
- 悪天候（雨、霧、雪など）のときは先行車との車間距離を正確に測定できません。
- 凍結路や積雪路などの滑りやすい路面ではタイヤが空転して車のコントロールを失うおそれがあります。

■渋滞追従機能付 ACC の作動

■先行車がいるとき

渋滞追従機能付 ACC は先行車がレーダーセンサーの検知範囲に入ると、先行車の車速変化に合わせ、設定車速の範囲内で車間距離を保ちながら追従走行します。



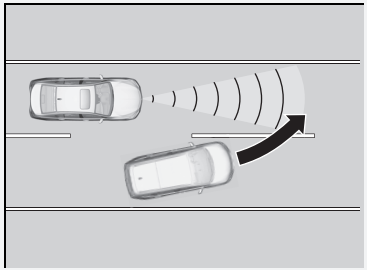
マルチインフォメーションディスプレイに車のアイコンが表示されます

設定車速より遅い速度で走行する先行車や割り込み車が前方にあらわれた場合、システムは減速制御を行います。

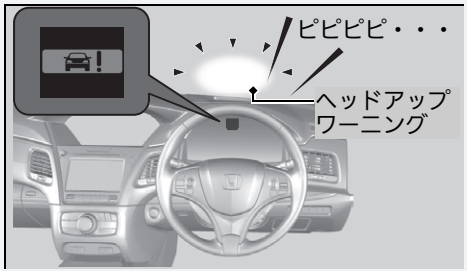
次ページに続く

渋滞追従機能付 ACC の作動

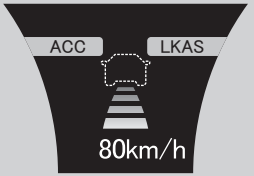
先行車が急減速したり、遅い車両が割り込んできたときは、警告音が鳴りマルチインフォメーションディスプレイの警告やヘッドアップワーニングで視覚への警告が表示されます。



ブレーキを踏み、適切な車間距離を保ってください。



■先行車がいないとき



マルチインフォメーションディスプレイに点線の車のアイコンが表示されます

先行車がいない場合、設定した車速で定速走行します。
先行車が車線変更などでいなくなると、設定車速までゆるやかに加速後、定速走行します。

■アクセルペダルを踏んだとき

- アクセルペダルを踏み込むと、渋滞追従機能付 ACC が一時的に解除され車速が上がります。このとき、渋滞追従機能付 ACC の警告範囲内に先行車がいても警告音やマルチインフォメーションディスプレイの警告表示はでません。
- アクセルペダルを少しだけ踏むと、車速が低下する場合があります。
- アクセルペダルを離すと、渋滞追従機能付 ACC が復帰し追従走行または定速走行を再開します。

渋滞追従機能付 ACC の作動

先行車または割り込み車の車速が自車よりも速く、次第に離れていく場合、先行車との距離が短くても警報が出ず、そのまま追従することがあります。

オーディオ / インフォメーション画面を使って先行車検知音の有り / 無しを設定できます。

➡ 別冊の Honda インターナビシステム取扱説明書

制限：
安全な車間距離を保つために、渋滞追従機能付 ACC を使用中でもブレーキペダルを使用しブレーキをかける必要があります。また、天候や環境などにより渋滞追従機能付 ACC が適切に作動しないことがあります。

➡ 渋滞追従機能付 ACC の条件と制限 P.263

■先行車が減速して停車するとき

先行車が停車すると、自車も自動で停車します。マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。
先行車が動き始めると、マルチインフォメーションディスプレイのアイコンが点滅します。 RES/+/SET/- を上か下に押すか、アクセルペダルを踏むことで発進し、以前の設定車速の範囲内で追従走行します。

■渋滞追従機能付 ACC の条件と制限

一定の条件でシステムは自動解除し、渋滞追従機能付 ACC 警告灯が点灯する場合があります。以下の条件では渋滞追従機能付 ACC の機能の一部を発揮できない場合があります。

➡ **フロントセンサーカメラ** P.315

■自車の状態によりレーダーセンサーが正しく検知できない事例

- フロントグリルが汚れているとき
- 適正なタイヤを使用していないとき
- トランクやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき

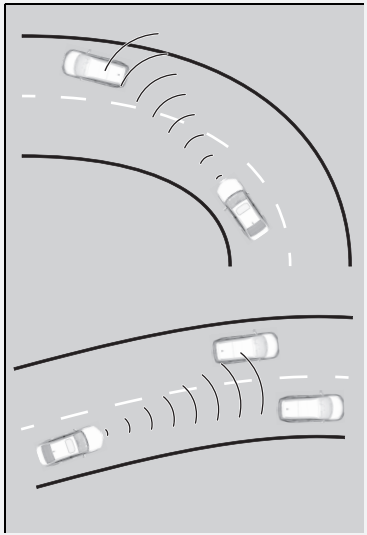
■環境によりレーダーセンサーが正しく検知できない事例

- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- 先行車による水しぶきや雪の巻上げがあるとき

次ページに続く

渋滞追従機能付 ACC の作動

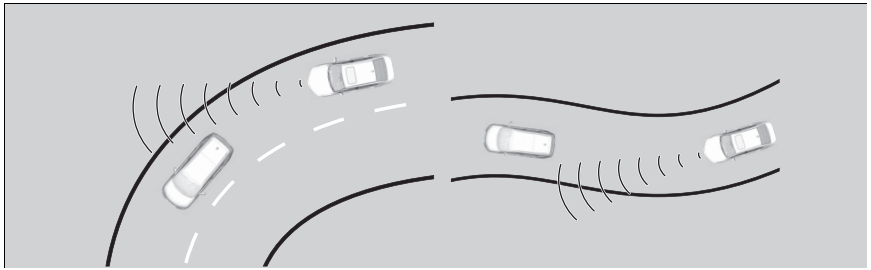
- 道路状況（カーブなど）や自車の状況（ハンドル操作や車線内の位置）によっては、一時的にとなりの車線の車や周囲の物に対して車間距離制御を行う場合があります。



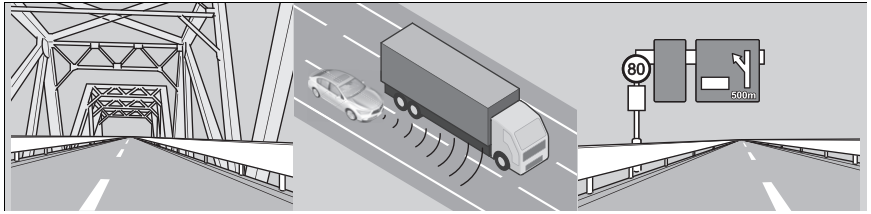
- 先行車がインターチェンジやサービスエリアなどに入る際、自車の前から先行車がいなくなるときは、車間距離制御が少しの間継続する場合があります。

■道路の状態によりレーダーセンサーが正しく検知できない事例

- カーブ、うねった道路、坂道などのとき



- 雪道や未舗装路などわだちのある道路
- 狭い鉄橋を走行しているときなど、車両の周囲に電波を強く反射する物があるとき

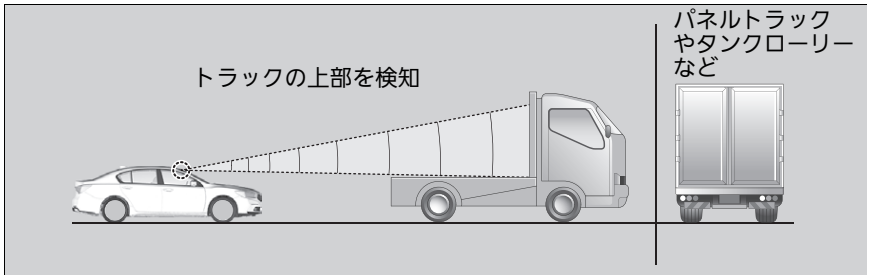


■前方の車両の状態によりレーダーセンサーが正しく検知できない事例

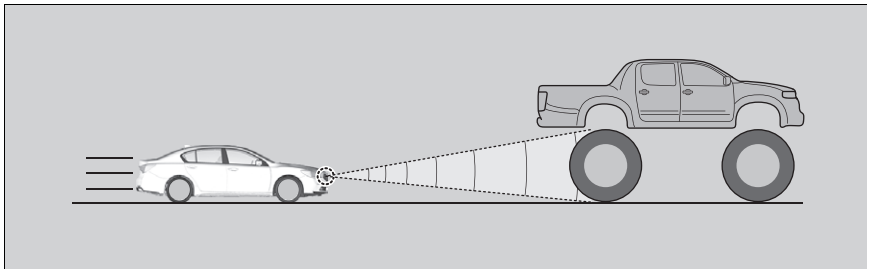
- 自車の前方に車両が急に割り込んだとき
- 前方の車両との距離が極端に短いとき

■その他、システムが正しく作動しない事例

- 前方の車両が駐停車していたり、自車との速度差が大きいとき
- 前方の車両が急減速したとき
- 前方の車両がパネルトラックや特殊な形状の車両のとき



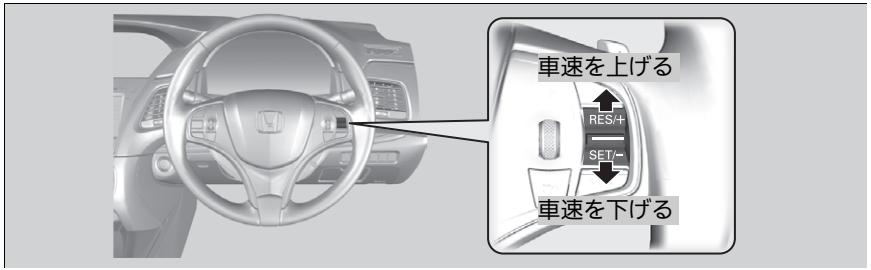
- 自車または前方の車両が、車線の片側にかたよって走行しているとき
- 前方の車両が二輪車など幅の狭い車両のとき
- 前方の車両の最低地上高が極端に高いとき



次ページに続く

■設定車速を調整するには

手元の RES/+/SET/- スイッチの操作で、設定車速を上げ / 下げすることができます。



RES/+ 側

- 1 回押すごとに 1km/h ずつ設定車速が上がる
- 押し続けると 10km/h ずつ設定車速が上がり、手を離したときの設定車速に固定

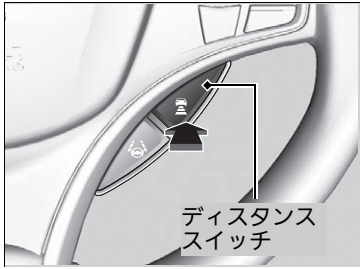
SET/- 側

- 1 回押すごとに 1km/h ずつ設定車速が下がる
- 押し続けると 10km/h ずつ設定車速が下がり、手を離したときの設定車速に固定

設定車速を調整するには

検知した先行車の車速が自車が上げた設定車速よりも遅い場合は、自車の車速を加速させない場合があります。
これは設定した先行車との車間距離を維持するためです。

■車間距離を設定するには



ディスタンススイッチを押し、車間距離を設定します。
先行車との車間距離設定は、4 段階に切り換えることができます。
ディスタンススイッチを押すごとに、最長→長→中→短と切り換わります。
適切な車間距離の設定を決定してください。

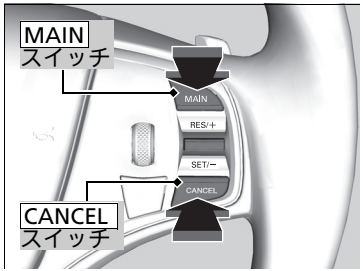
次ページに続く

車速が低くなるほど、車間距離は短くなります。車間距離の目安は以下の通りです。
常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけ、実際の交通状況に応じて車間距離を選択して、走行してください。

車間距離設定		時速 80km/h のとき	時速 100km/h のとき
短		約 25m	約 30m
中		約 33m	約 40m
長		約 47m	約 59m
最長		約 61m	約 78m

先行車が停車し、自車も自動で停車したときの車間は車間距離設定により変わります。

■解除するには



以下のいずれかの操作をすると、渋滞追従機能付 ACC が解除されます。

- CANCEL スイッチを押す
- MAIN スイッチを押す
  ▶ メーター内の ACC(グリーン)が消灯します。
- ブレーキペダルを踏む
  ▶ 停車している場合、ブレーキペダルを踏んでも渋滞追従機能付 ACC は解除しません。

■渋滞追従機能付 ACC の自動解除

次の場合は、マルチインフォメーションディスプレイに「ACC OFF」と表示され、「ピー」とブザーが鳴り、渋滞追従機能付 ACC が自動解除されます。

- 悪天候(雨、霧、雪など)のとき
- フロントグリルが汚れたとき
- 先行車を安定して検知できないとき
- タイヤの異常を検知したとき
- 山岳路や悪路を長時間走行したとき
- 急なハンドル操作をしたとき
- ABS や VSA、または CMBS が作動したとき
- VSA 警告灯が点灯したとき
- 急斜面で停車しているとき
- パーキングブレーキをかけたとき
- 検知した先行車との車間距離が短すぎるとき

次ページに続く

解除するには

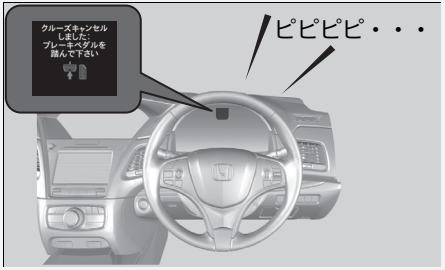
解除前の設定車速を復帰させるには：
渋滞追従機能付 ACC を解除したあと、停車状態でも RES/+/SET/- スイッチを上に押すと解除前の設定車速で作動を開始することができます。
ただし、以下の場合は復帰しません。

- MAIN スイッチを押して渋滞追従機能付 ACC を OFF したあと
- 30km/h 以下で先行車がいないとき

- 停車状態で先行車がいなくなったとき
- 急加速したとき
- フロントガラス上部のカメラまたはカメラ付近が汚れているとき
- 停車中に運転席のシートベルトを外したとき
- 車両が 10 分以上停車しているとき
- パワーモードを OFF モードにしたとき
- 電子制御パーキングブレーキシステム警告灯が点灯したとき

≫解除するには

停車中の解除：
渋滞追従機能付 ACC によって自車が自動的に停車しているときに渋滞追従機能付 ACC が解除された場合に、警告音が鳴りマルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されることがあります。

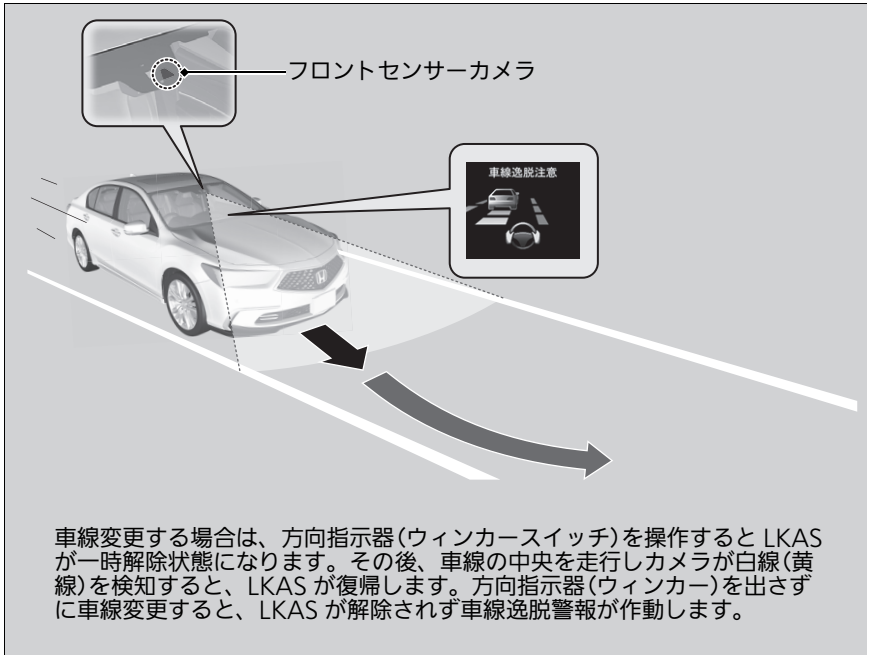


すみやかにブレーキを踏み、適切な車間距離を保ってください。

LKAS（車線維持支援システム）

LKAS は、フロントガラス上部に設置してあるカメラによって、左右の白線（黄線）をとらえ、電動パワーステアリングの動きをアシストし、車線維持走行を補助するためのシステムです。

■システムの作動



車線変更する場合は、方向指示器（ウィンカースイッチ）を操作すると LKAS が一時解除状態になります。その後、車線の中央を走行しカメラが白線（黄線）を検知すると、LKAS が復帰します。方向指示器（ウィンカー）を出さずに車線変更すると、LKAS が解除されず車線逸脱警報が作動します。

次ページに続く

LKAS（車線維持支援システム）

⚠警告

LKAS は補助システムとして使用してください。LKAS は、自動運転システムではありません。あくまでも運転者をアシストするためのシステムです。

取扱説明書に従い使用しないと、思わぬ事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけて走行してください。

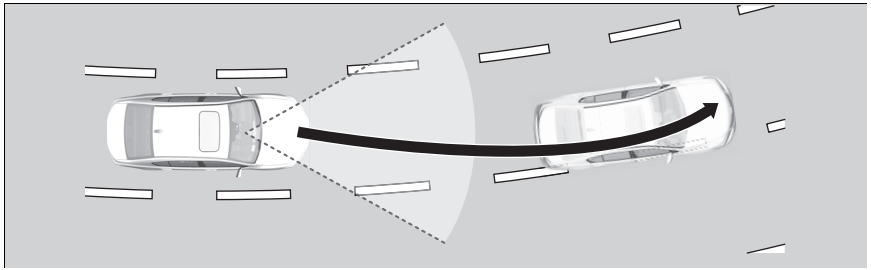
インストルメントパネル上部に物をおかないでください。物がフロントガラスに反射して車線を正確に検知できない場合があります。

LKAS は方向指示器（ウィンカー）を出さずに車線変更を検知した時のみ警告します。
LKAS は、すべての車線区画線や車線逸脱を検出できない場合があります。また天候や速度、路面状況によっては、システムが機能しないことがあります。
運転者が周囲の道路状況を確認し、安全運転を心がけて走行してください。

LKAS は、急なカーブや加速・減速の繰り返しが続く道路では、システムが正常に機能しないおそれがあります。LKAS は、高速道路や自動車専用道路などを運転するときに使用してください。

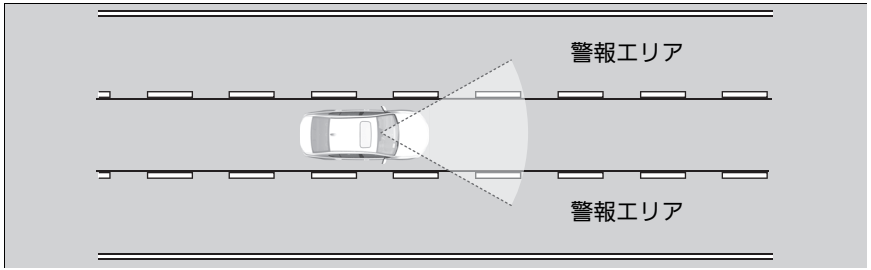
■車線維持支援機能

車が車線中央を走行するようにアシストし、白線(黄線)に近づくと電動パワーステアリングの操舵力が強くなります。



■車線逸脱警告機能

車が警報エリアに入ると車線逸脱の警報をハンドルの振動とディスプレイ表示で行います。



LKAS(車線維持支援システム)

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。

➔ **フロントセンサーカメラ** P.315

LKAS は条件により正常に作動しない場合があります。

➔ **LKAS の条件と制限** P.278

車線の検知ができないときは、一時的にシステムが解除されます。車線を検知するとシステムが自動復帰します。

■ LKAS を作動させるには

LKAS システムは、以下の条件で作動します。

- 車速が約 65 ～ 100km/h で走行しているとき
- 左右に白線（黄線）が引かれている車線の中央付近を走行しているとき
- 直線または半径 230m 以上のゆるやかなカーブの道路を走行しているとき
- ワイパーを連続で作動させていないとき
- ブレーキペダルを踏んでいないとき
- 方向指示器（ウィンカー）を出していないとき

LKAS を作動させるには

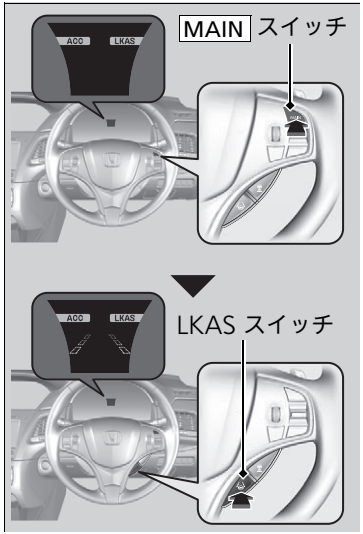
システムが作動しているときに、左右の白線（黄色線）に偏る場合は、システムを停止し指定の Honda 販売店で点検を受けてください。

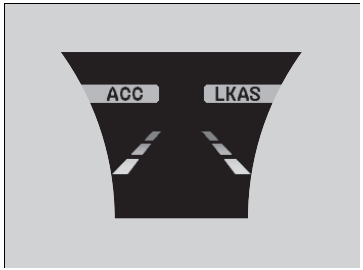
白線（黄線）を正しく検知できず走行位置を正しく設定できない場合があります。

➡ **LKAS の条件と制限** P.278

次ページに続く

■システムの作動方法





1. MAIN スイッチを押す。
▶ LKAS システムが ON になり、マルチインフォメーションディスプレイ内に LKAS 表示灯（グリーン）が点灯します。

2. LKAS スイッチを押す。
▶ LKAS システムが待機状態になります。マルチインフォメーションディスプレイに車線表示（点線）が点灯します。

3. 車線の中央付近を走行する。
▶ 車線中央付近を走行中にカメラが両側の白線（黄線）を検知すると、LKAS が制御を開始します。

LKAS を作動させるには

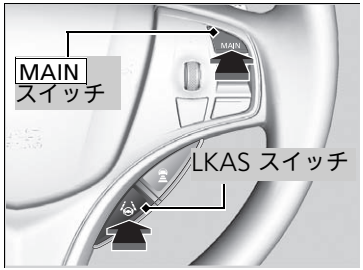
システムを正しく作動させるために、必ず次のことをお守りください。

- カメラ付近のガラスは常にきれいにしておく
- フロントガラスのお手入れをするときは、ガラスクリーナーなどがカメラのレンズに付着しないようにする
- カメラのレンズには触れない
- カメラ付近のガラスにステッカーを貼らない

各機能のステアリングスイッチと表示については下記を参照してください。

各機能を作動させるためのスイッチと表示 P.237

■解除するには



以下のいずれかの操作をすると、LKAS が解除されます。

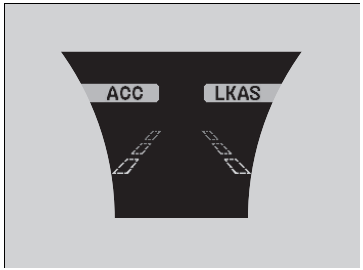
- MAIN スイッチを押す
- LKAS スイッチを押す

前回走行時にLKAS がON 状態でも、パワーモードをOFF モードにする度にLKASはOFF になります。

解除するには

MAIN スイッチを押すと、LKAS と同時に渋滞追従機能付 ACC も解除されます。

次ページに続く



■LKAS の自動解除

次の場合、マルチインフォメーションディスプレイに車線表示が点線で表示され、LKAS が自動解除されます。

- ブレーキ操作をしたとき
  ▶ 減速などでブレーキペダルを踏むと LKAS が解除され、待機状態になります。ブレーキペダルから足を離し、システムが左右の白線（黄線）を検知すると LKAS が自動で復帰します。
- 車速が 60km/h 以下になったとき
  ▶ 車速が 60km/h 以下になるとブザーが鳴り、LKAS は自動解除します。車速が 65km/h 以上になると、LKAS は復帰します。
- ワイパーを連続作動したとき
  ▶ ワイパーを OFF にすると、LKAS は復帰します。
- ワイパースイッチが AUTO のときにワイパーが連続作動した場合には、LKAS は自動解除されます。
  ワイパーの作動が停止、もしくは間欠作動になると、LKAS は復帰します。

LKAS の自動解除

オーディオ / インフォメーション画面を使って自動解除ブザーの ON/OFF を設定できます。

➡ 別冊の Honda インターナビシステム取扱説明書

■LKAS が自動的に一時解除されるとき

- 白線（黄線）を検知できないとき
- 急なハンドル操作をしたとき
- ハンドル操作をしていないとき
- 急なカーブを走行したとき
- 制限速度を超えた速度で走行したとき

これらの条件が長く続かなければ、システムは自動的に再開されます。

■LKAS が自動的にキャンセルされるとき

次の場合、マルチインフォメーションディスプレイに車線表示が点線で表示され、ブザーが鳴り、LKAS が自動的にキャンセルされる場合があります。

- カメラ内部の温度が一定以上高温になったとき
- カメラまたはカメラ付近のフロントガラスが汚れているとき
- ABS、VSA が作動しているとき

次ページに続く

■ LKAS の条件と制限

以下の条件では、システムは白線（黄線）を検知できず、LKAS が正しく機能しない場合があります。

■環境によりカメラが正しく検知できない事例

- 白線（黄線）と道路表面の区別ができないとき
- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- 路面に雪が残っていたり湿っているとき
- 夜明けや夕暮れ時の太陽に向かって走行するとき
- 強い光が道路に反射しているとき
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで明るさが変化したとき
- 雨上がりなどで路面がぬれて光っているときや水たまりがあるとき
- 白線（黄線）の付近に影が映っているとき（木々、建物、ガードレール、車両など）

■道路の状態によりカメラが正しく検知できない事例

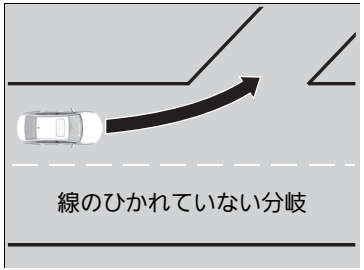
- 車線規制や仮設車線がある区間を走行するとき
- 道路の修復や古い白線（黄線）のため、かすれや重複、タイヤ痕、さまざまな白線（黄線）が道路にあるとき

- 交差点や横断歩道など車線の数が増減している区間や車線が複雑に交差している区間を走行するとき
- 車線の幅が極端に狭いときや広いとき、または変化しているとき

- 車両などが白線（黄線）の一部を隠しているとき
- 坂道や、丘の頂上に近づいているとき
- 段差などにより車両が大きく揺れたとき
- 路上のもの（縁石、ガードレール、パイロンなど）を白線（黄線）と認識したとき
- 道路がうねって車線がゆがんで見えるときや先が見通せないとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行するとき
- 車線が二重に描かれている道路を走行するとき

次ページに続く

- 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき
- 雪上路や路上の雪・水溜まりなどで舗装路が部分的に見えているとき
- 未舗装路やわだちのある道路を走行しているとき
- 分岐・合流路などを走行するとき



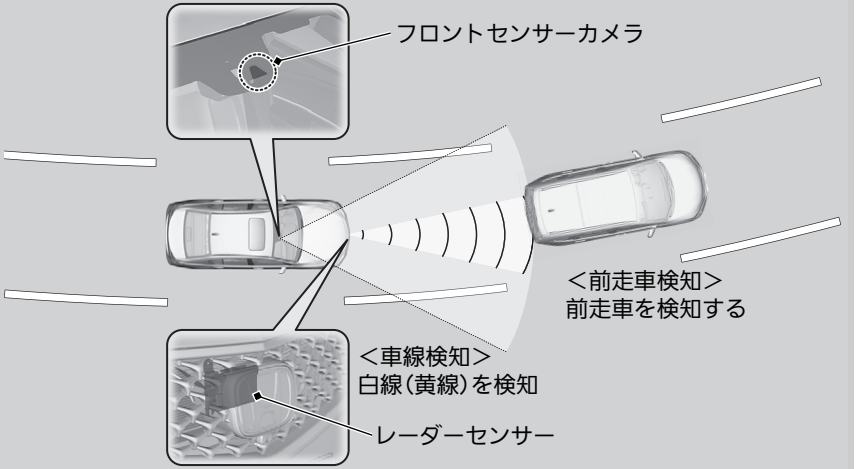
■自車の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- フロントガラス外側が汚れ、泥、湿った雪などに覆われているとき
- フロントガラス内側が曇っているとき
- ワイパーの拭き残しがあるとき
- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれているとき
- トランクやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- サスペンションを変更したとき
- 先行車との車間距離が短いとき
- タイヤチェーンを装着しているとき

トラフィックジャムアシスト(渋滞運転支援機能)

トラフィックジャムアシストは、渋滞追従機能付 ACC(アダプティブクルーズコントロール)作動中の渋滞時に、フロントグリルの奥に設置してあるレーダーセンサーとフロントガラス上部に設置してあるカメラによって、前走車と左右の白線(黄線)をとらえ、前走車の車速変化に合わせ、車間距離を保ちながら車線の中央を走行するようにハンドル操作をアシストし、高速道路の渋滞時に車線維持走行を補助するための機能です。

渋滞追従機能付 ACC 作動中の渋滞時に白線(黄線)と前走車を検知すると、前走車の車速変化に合わせ、車間距離を保ちながら車線の中央を走行するようにハンドル操作をアシストします。



車線変更する場合は、方向指示器(ウィンカースイッチ)を操作するとトラフィックジャムアシストが一時解除状態になります。その後、車線の中央を走行し白線(黄線)と前走車を検知すると機能が自動復帰します。白線(黄線)や前走車を検知できないときは、一時的に機能が解除されます。白線(黄線)と前走車を検知すると機能が自動復帰します。

トラフィックジャムアシスト(渋滞運転支援機能)

⚠警告

トラフィックジャムアシストは補助機能として使用してください。トラフィックジャムアシストは、自動運転システムではありません。あくまでも運転者をアシストするための機能です。

機能に頼った運転をすると、思わぬ事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけて走行してください。
高速道路や自動車専用道路でのみ使用してください。

機能の作動中に運転者が操作した場合は運転者の操作を優先します。
運転者による操作が行われているときや、路面の状況によってはアシストが感じられないことがあります。

トラフィックジャムアシスト（渋滞運転支援機能）

⚠警告

渋滞追従機能付 ACC の作動中に停車した車両から、適切な駐車操作無しで外に出ると車両が操作無しで動き出す可能性があります。
適切な駐車操作無しで動く車両は、思わぬ事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。
渋滞追従機能付 ACC で停車した車両から絶対に外に出ないでください。

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。
➔ **フロントセンサーカメラ** P.315

レーダーセンサーの取り扱いについては下記を参照してください。
➔ **レーダーセンサー** P.317

次ページに続く

トラフィックジャムアシスト（渋滞運転支援機能）

トラフィックジャムアシストは、すべての白線（黄線）や前走車を検知できない場合があります。また天候や環境、路面状況などによって正常に作動しないことがあります。
急なカーブや加速・減速の繰り返しが続く道路では、正常に作動しないことがあります。
運転者が周囲の道路状況を確認し、安全運転を心がけて走行してください。

トラフィックジャムアシストは条件により正常に作動しない場合があります。

トラフィックジャムアシストの条件と制限
P.291

■トラフィックジャムアシストを作動させるには

トラフィックジャムアシストは、以下の条件で作動します。

- LKAS が ON のとき
- 渋滞追従機能付 ACC が ON のとき
- 車速が約 0 ～ 65km/h で走行している、かつ前走車がいるとき
- 左右に白線（黄線）が引かれている車線の中央付近を走行しているとき
- 直線またはゆるやかなカーブの道路を走行しているとき
- ハンドル操作をしているとき

下記の状況のときは、トラフィックジャムアシストを使用しないでください。

- 急カーブのある道のとき
  ▶ 道路状況に応じた走行ができなくなることがあります。
- 高速道路などで、料金所、インターチェンジ、サービスエリア、パーキングエリアに進入するとき
  ▶ 自車の前から先行車がいなくなることで設定車速まで加速を始めてしまいます。
- 悪天候（雨、霧、雪など）のとき
  ▶ 前走車との車間距離を正確に測定できません。
- 凍結路や積雪路などの滑りやすい路面のとき
  ▶ タイヤが空転して車のコントロールを失うおそれがあります。

次ページに続く

トラフィックジャムアシストを作動させるには

渋滞追従機能付 ACC の取り扱いについては下記を参照してください。

➡ **渋滞追従機能付 ACC（アダプティブクルーズコントロール）** P.257

LKAS の取り扱いについては下記を参照してください。

➡ **LKAS（車線維持支援システム）** P.271

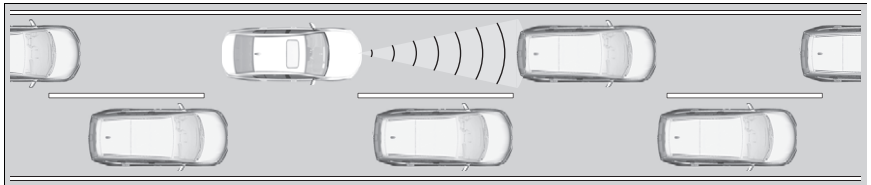
各機能のステアリングスイッチと表示については下記を参照してください。

➡ **各機能を作動させるためのスイッチと表示** P.237

■トラフィックジャムアシストの作動

■前走車がいるとき

トラフィックジャムアシストは前走車がトラフィックジャムアシストの検知範囲に入ると、前走車の車速変化に合わせ、作動車速の範囲内で車間距離を保ちながら車線の中央を走行するようにハンドル操作をアシストします。



トラフィックジャムアシストの検知範囲：60m

トラフィックジャムアシストの作動

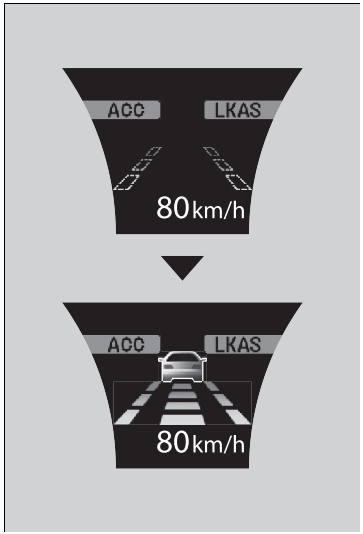
トラフィックジャムアシストが作動しているときに、白線(黄線)の左右に寄って走行してしまう場合は、トラフィックジャムアシストを停止し、Honda 販売店で点検を受けてください。

白線(黄線)を正しく検知できず走行位置を正しく設定できない場合があります。

トラフィックジャムアシストの条件と制限
P.291

作動中に運転者がハンドルから手を放したり、ハンドルの操作量が少ない場合は下記の警告を表示します。

繰り返し上記の警告が表示されても、運転者の操作がない場合は、警報音が鳴り作動が解除されます。



車線の中央付近を走行する。

▶ 車線中央付近を走行中にカメラが両側の白線（黄線）を検知し、レーダーセンサーとカメラにより前走車を検知すると、マルチインフォメーションディスプレイに車線表示（白線）と車のアイコンが表示され、制御を開始します。

トラフィックジャムアシストの作動

ヘッドアップディスプレイにトラフィックジャムアシストの現在の状態を表示させることができます。

ヘッドアップディスプレイ P.109

次ページに続く

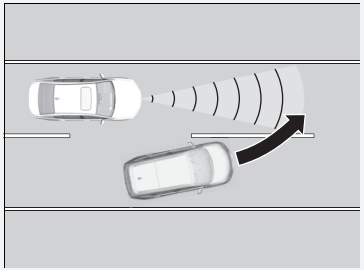
■前走車がいないとき

マルチインフォメーションディスプレイに点線の車両アイコンと車線(白抜き線)のアイコンが表示されます。

前走車が車線変更などでいなくなると、トラフィックジャムアシストは一時的に解除され、設定車速までゆるやかに加速後、定速走行します。

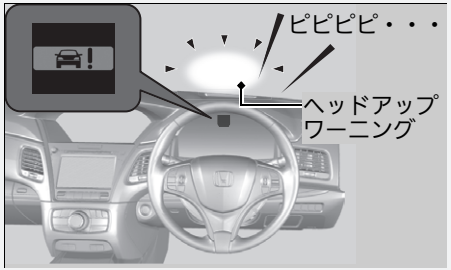
トラフィックジャムアシストの作動

前走車が急減速したり、遅い車両が割り込んできたときは、警告音が鳴りマルチインフォメーションディスプレイやヘッドアップワーニングで視覚への警告が表示されます。



ブレーキを踏み、適切なハンドル操作を行ってください。

トラフィックジャムアシストの作動



前走車または割り込み車の車速が自車よりも速く、次第に離れていく場合、先行車との距離が短くても警報が出ず、そのまま追従することがあります。

次ページに続く

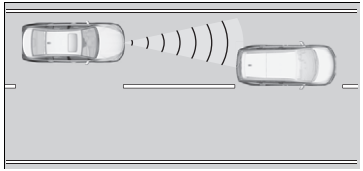
■解除するには

以下でトラフィックジャムアシストが解除されます。

- MAIN スイッチを押す
- LKAS スイッチを押す
- 渋滞追従機能付 ACC が OFF のとき

■トラフィックジャムアシストが自動的に一時解除されるとき

- 白線（黄線）を検知できないとき
- 前走車を検知できないとき
- 急なハンドル操作をしたとき
- 作動中に運転者がハンドルから手を放したり、ステアリングの操作量が少ないとき
- 急なカーブを走行したとき
- 前走車が極端に白線（黄線）に寄って走行しているとき



- ワイパーを高速作動させたとき
- 検知した前走車との車間距離が 60m 以上のとき

これらの条件が長く続かなければ、機能は自動的に再開されます。

解除するには

車速が 65km/h 以上になると、トラフィックジャムアシストから LKAS に切り替わり、LKAS が作動します。車速が 60km/h 以下になると、トラフィックジャムアシストは復帰します。

オーディオ / インフォメーション画面を使って自動解除ブザーの ON/OFF を設定できます。

➡ 別冊のHonda インターナビシステム取扱説明書

■トラフィックジャムアシストが自動的に解除されるとき

- カメラ内部の温度が一定以上高温になったとき
- カメラまたはカメラ付近のフロントガラスが汚れているとき

■トラフィックジャムアシストの条件と制限

以下の条件ではトラフィックジャムアシストが正しく作動しない場合があります。

■自車の状態によりレーダーセンサーやカメラが正しく検知できない事例

- フロントグリルが汚れているとき
- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれているとき
- フロントガラスが曇り、汚れ、泥、湿った雪などで覆われているとき
- ワイパーの拭き残しがあるとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- トランクやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- 前走車との車間距離が短いとき
- サスペンションを改造したとき
- タイヤチェーンを装着しているとき

次ページに続く

■環境によりレーダーセンサーやカメラが正しく検知できない事例

- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- 夜明けや夕暮れ時の太陽に向かって走行するとき
- 強い光が車両や道路に反射しているとき
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで明るさが変化したとき
- 雨上がりなどで路面がぬれて光っているときや水たまりがあるとき
- 白線（黄線）の付近に影が映っているとき（木々、建物、ガードレール、車両など）
- 前走車による水しぶきや雪の巻上げがあるとき
- 夜間やトンネル内などの暗いところ

■道路の状態によりレーダーセンサーやカメラが正しく検知できない事例

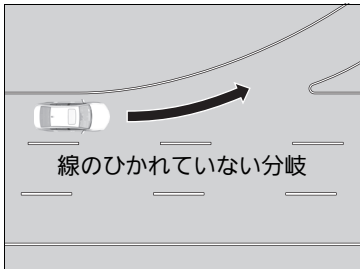
- 白線（黄線）と道路表面の区別ができないとき
- 車線規制や仮設車線がある区間を走行するとき
- 道路の修復や古い白線（黄線）のため、かすれや重複、タイヤ痕、さまざまな白線（黄線）が道路にあるとき

- 交差点や横断歩道など車線の数が増減している区間や車線が複雑に交差している区間を走行するとき
- 白線（黄線）の幅が極端に狭いときや広いとき、または変化しているとき

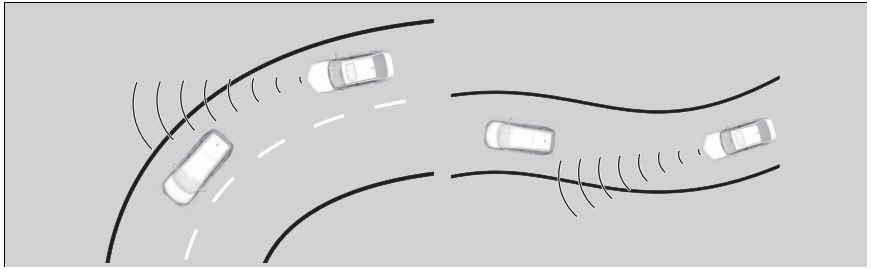
- 車両などが白線（黄線）の一部を隠しているとき
- 坂道や、丘の頂上に近づいているとき
- 段差などにより車両が大きく揺れたとき
- 路上のもの（縁石、ガードレール、パイロンなど）を白線（黄線）と認識したとき
- 道路がうねって車線がゆがんで見えるときや先が見通せないとき

次ページに続く

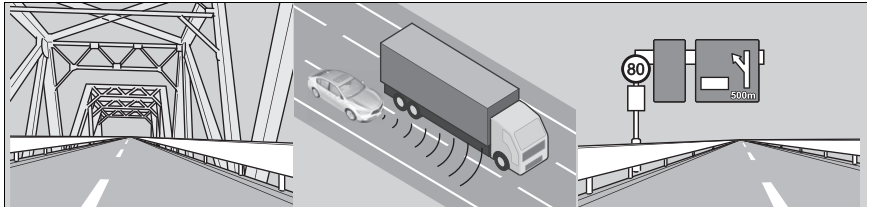
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行するとき
- 車線が二重に描かれている道路を走行するとき
- 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき
- 雪上路や路上の雪・水溜まりなどで舗装路が部分的に見えているとき
- わだちのある道路を走行しているとき
- 分岐・合流路などを走行するとき



- カーブ、うねった道路、坂道などのとき



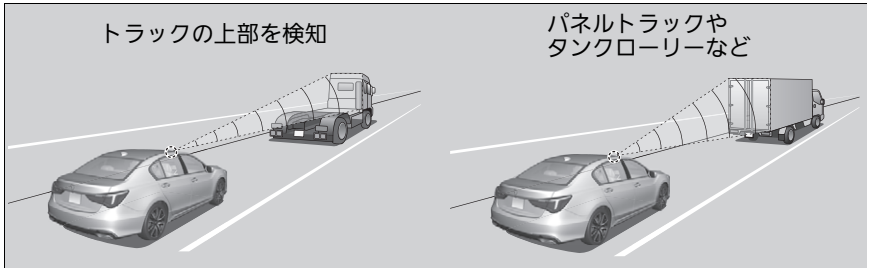
- 狭い鉄橋を走行しているときなど、車両の周囲に電波を強く反射する物があるとき



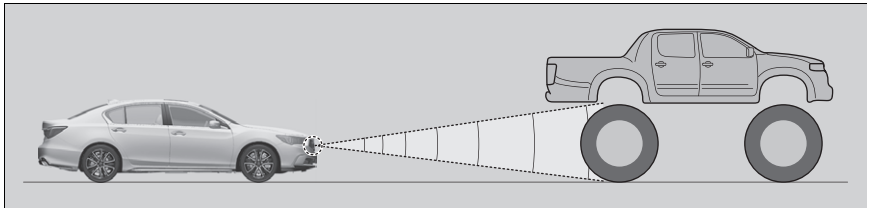
次ページに続く

■その他、システムが正しく作動しない事例

- 前走車が急減速したとき
- 前走車がパネルトラックや特殊な形状の車両のとき



- 前走車が二輪車など幅の狭い車両のとき
- 前走車の最低地上高が極端に高いとき

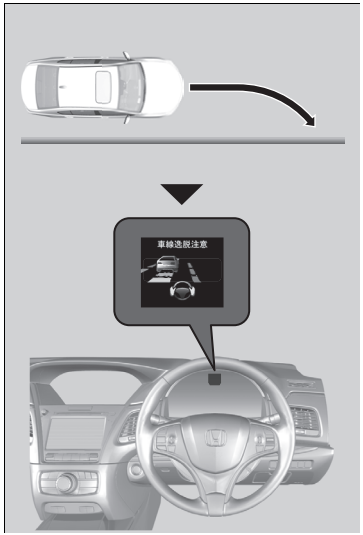


- 自車の前方に車両が急に割り込んだとき

路外逸脱抑制機能

路外逸脱抑制機能はシステムが車両の車線逸脱の可能性を検知すると、車線逸脱を回避するように運転を支援し警告で知らせる機能です。

■システムの作動



このシステムは、フロントガラス上部に設置されたカメラによって左右の白線または黄色線を検知し、方向指示器(ウィンカースイッチ)を使用せずに白線(黄線)を逸脱したことを判断したとき、作動します。
マルチインフォメーションディスプレイにより警告を行うとともに、ハンドルを短時間振動させることで運転者の操作を促し、さらに逸脱を防ぐ方向にハンドル操作を支援します。
また逸脱を回避するのに大きくハンドル操作が必要なときは、ハンドル操作の支援とともにブレーキ操作の支援も行います。
ブレーキ操作の支援は、検知した線が実線のときのみ行われます。

次ページに続く

≫路外逸脱抑制機能

⚠警告

路外逸脱抑制機能は、補助システムとして使用してください。路外逸脱抑制機能は、自動運転システムではなく、運転者のハンドル操作に代わるものではありません。あくまでも運転者をアシストするためのシステムです。

取扱説明書に従い使用しないと、思わぬ事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけて走行してください。

路外逸脱抑制機能は、方向指示器(ウィンカースイッチ)を使用しない車線逸脱を検知した時に警告します。
車線区画線(白線や黄線)や車線逸脱を検出できない場合があります。また、天候、速度や路面状況によっては、支援できない場合があります。

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。
➡ **フロントセンサーカメラ** P.315

システムの支援中に運転者が操作した場合は運転者の操作を優先します。
支援中に運転者が操作しなかった場合は左記の警告を表示します。

路外逸脱抑制機能

路外逸脱抑制機能は、正常に作動しないことがあります。
➔ 路外逸脱抑制機能の条件と制限 P.301

運転者による操作が行われているときや、路面の状況によっては支援が感じられないことがあります。

繰り返し左記の警告が表示されても、運転者の操作がない場合は、警報音が鳴り支援を中断します。

カスタマイズ機能で「アシストタイミング早め」を選択し、LKAS（車線維持支援システム）を作動させていない場合、車線逸脱の可能性を検知すると以下のメッセージが表示されます。
➔ 別冊のHonda インターナビシステム取扱説明書

■システムの作動条件

路外逸脱抑制機能は、以下の条件を満たすとき、作動します。

- 車速が約 60 ～ 100km/h で走行しているとき
- 直線またはゆるやかなカーブの道路を走行しているとき
- 方向指示器(ウィンカースイッチ)を使用していないとき
- ワイパーが連続で作動していないとき
- システムがアクセル、ブレーキ、ハンドルの操作の量と頻度から運転意志がないと判断したとき

システムの作動条件

路外逸脱抑制機能は自動的に OFF になり、 路外逸脱抑制機能警告灯が点灯する場合があります。

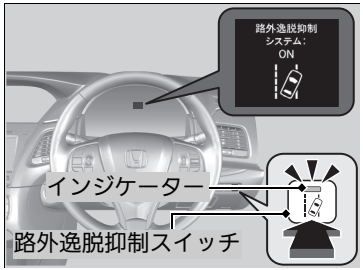
➔ **警告灯** P.66

下記の条件下では路外逸脱抑制機能を抑制しています。

- 車線内を走行していないとき
- カーブ内側に、はみ出して走行してしまっているとき
- 車線幅が狭いとき

次ページに続く

■システムの ON と OFF



路外逸脱抑制スイッチを押して、システムの ON と OFF を切り替えてください。

▶ システムが ON のときは、路外逸脱抑制スイッチのインジケーターが点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

システムの ON と OFF

オーディオ / インフォメーション画面を使用してシステムの設定をカスタマイズすることができます。

カスタマイズ機能で「操舵アシストなし　警報のみ」を選択した場合、システムはハンドル及びブレーキ制御を行いません。

➡ **別冊の Honda インターナビシステム取扱説明書**

■路外逸脱抑制機能の条件と制限

以下の条件では、システムは白線(黄線)を検知できず、システムが正しく機能しない場合があります。

■環境の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- 白線(黄線)と道路表面の区別ができないとき
- 天候(雨、霧、雪など)により、白線(黄線)が見えにくいとき
- 路面に雪が残っていたり湿っているとき
- 夜明けや夕暮れ時の太陽に向かって走行するとき
- 強い光が道路に反射しているとき
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで明るさが変化したとき
- 雨上がりなどで路面がぬれて光っているときや水たまりがあるとき
- 木々や建物の影を走行するとき
- ガードレールなどの影が、道路上に映っているとき

次ページに続く

■道路の状態によりカメラが正しく検知できない事例

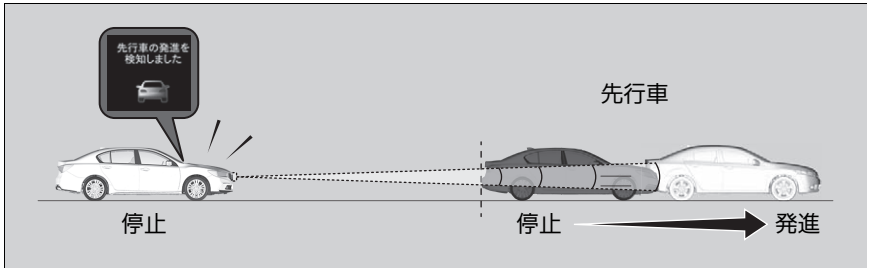
- 車線規制や仮設車線がある区間を走行するとき
- 道路の修復や古い白線（黄線）のため、かすれや重複、タイヤ痕、さまざまな白線（黄線）が道路にあるとき
- 交差点や横断歩道など車線の数が増減している区間や車線が複雑に交差している区間を走行するとき
- 車線の幅が極端に狭いときや広いとき、または変化しているとき
- 車両などが白線（黄線）の一部を隠しているとき
- 坂道や、丘の頂上に近づいているとき
- 段差などにより車両が大きく揺れたとき
- 路上のもの（縁石、ガードレール、パイロンなど）を白線（黄線）と認識したとき
- 道路がうねって車線がゆがんで見えるときや先が見通せないとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行するとき
- 車線が二重に描かれている道路を走行するとき
- 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき
- 分岐・合流路などを走行するとき
- 雪上路や路上の雪・水溜まりなどで舗装路が部分的に見えているとき
- 未舗装路やわだちのある道路を走行しているとき

■自車の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれているとき
- フロントガラス外側が汚れ、泥、湿った雪などに覆われているとき
- フロントガラス内側が曇っているとき
- ワイパーの拭き残しがあるとき
- カメラ温度が高温のとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- トランクやリヤシートに重い荷物を積んで車両が傾いているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 先行車との車間距離が短いとき
- サスペンションを変更したとき

先行車発進お知らせ機能

信号待ちなどで、先行車が発進したことに気づかず停止し続けたときに、音と表示で運転者に知らせるシステムです。



■システムの作動条件

先行車に続いて停車(停止状態での車間距離が約10m以内、かつ自車・先行車がしばらく停止)すると先行車を認識し続け、先行車の発進を検知しても自車が停止し続けたときに作動します。

■シフトポジションがDの場合

ブレーキペダルを踏んでいるまたはオートマチックブレーキホールドのブレーキ保持機能が作動している。

≫先行車発進お知らせ機能

⚠警告

先行車発進お知らせ機能は、運転者をアシストするための補助システムです。安全に発進できる状況を知らせるシステムではありません。

取扱説明書に従い使用しないと、思わぬ事故につながるおそれがあります。

発進するときは、運転者が目視で周囲と前方の安全を十分に確認し、適切な車間距離を保ち運転してください。

他の運転支援システムと同様に、先行車発進お知らせ機能は、天候や環境などによって機能しないことがあります。

先行車発進お知らせ機能を OFF にすることができます。

➡ **別冊のHondaインターナビシステム取扱説明書**

■シフトポジションがNの場合

ブレーキペダルを踏んでいるまたはパーキングブレーキが作動しているまたはオートマチックブレーキホールドのブレーキ保持機能が作動している。

システムの作動タイミングを標準・早めの2段階から選択することができます。

➡ **別冊の Honda インターナビシステム取扱説明書**

標準は先行車が停止状態から約 3m 以上進んだときに作動します。
早めは先行車の発進を検知したときに作動します。

先行車発進お知らせ機能

渋滞追従機能付 ACC（アダプティブクルーズコントロール）警告灯が点灯しているときは、先行車発進お知らせ機能は作動しません。

➡ **渋滞追従機能付 ACC（アダプティブクルーズコントロール）** P.257

レーダーセンサーの取り扱いについては下記を参照してください。

➡ **レーダーセンサー** P.317

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。

➡ **フロントセンサーカメラ** P.315

次ページに続く

■システムの作動状態

システムが作動すると、「ポーン」とブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■先行車発進お知らせ機能の条件と制限

次のような場合、先行車が発進していなくてもシステムが作動したり、先行車が発進していてもシステムが作動しないことがあります。

■自車の状態によりレーダーセンサーが正しく検知できない事例

- トランクやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- フロントグリルが汚れているとき
- 自車の停車している時間が短いとき

■環境によりレーダーセンサーが正しく検知できない事例

- 雨、霧、雪などの悪天候
- 前方の車両による水しぶきや雪の巻上げがあるとき

■道路の状態によりレーダーセンサーが正しく検知できない事例

- カーブ、うねった道路、坂道などのとき
- 狭い鉄橋を走行しているときなど、車両の周囲に電波を強く反射する物があるとき

■先行車の状態によりレーダーセンサーが正しく検知できない事例

- 先行車の停車している時間が短いとき
- 先行車との距離が極端に短いとき
- 先行車が極端に遅い速度で移動しているとき
- 先行車が右左折や急旋回したとき

■その他、レーダーセンサーが正しく検知できない事例

- 歩行者や自転車、二輪車、特殊な形状の車両など
- 自車と先行車の間に別の車両や歩行者、自転車などが割り込んできたとき
- 先行車が自車の正面にいないとき

標識認識機能

標識認識機能は走行中に認識した道路標識情報をマルチインフォメーションディスプレイまたはヘッドアップディスプレイに表示し、運転者にお知らせする機能です。
表示される道路標識は以下の４つです。

- 最高速度
- はみ出し通行禁止
- 一時停止
- 車両進入禁止

■作動のしかた

走行中にフロントガラス上部にあるカメラで特定の道路標識を認識し、マルチインフォメーションディスプレイまたはヘッドアップディスプレイに道路標識情報を表示します。

マルチインフォメーションディスプレイ

ヘッドアップディスプレイ

標識認識機能

⚠警告

標識認識機能は補助機能として使用する。
標識認識機能は、あらゆる状況で作動する機能ではありません。あくまでも、運転者をアシストするための機能です。
常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけ、走行してください。

この機能は、日本の道路標識を認識するよう設計されていますが、すべての標識が表示されるわけではありません。

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。

➔ **フロントセンサーカメラ** P.315

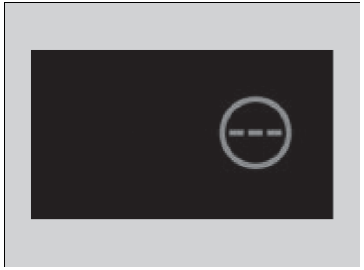
標識認識機能は以下の条件で作動します。
- 最高速度 / はみ出し通行禁止：速度に関係なく作動
- 一時停止 / 車両進入禁止：自車の速度が約 60km/h 以下のとき

以下のときは、道路標識情報が別のものに切り替わります。
- 表示中の最高速度と異なる最高速度標識を認識したとき
- 一時停止標識または、車両進入禁止標識を認識したとき

以下のときは道路標識情報が消えます。
- 最高速度とはみ出し通行禁止は、標識を通過してから標識ごとに設定された距離（数百～千数百 m）を走行したとき
- 一時停止は、標識を通過したとき
- 車両進入禁止は、進入せず標識を通過したとき
- 交差点で方向指示器（ウィンカー）を出しながら右左折したとき

次ページに続く

運転中に道路標識が認識されない場合や認識できない場合は以下の画面が表示されることがあります。



標識認識機能

マルチインフォメーションディスプレイに「運転支援システムの一部が使用できません　カメラが高温です」が表示されるとき、標識認識機能が作動せず、が表示されます。

- エアコンを使用して車内の温度を下げてください。窓ガラスが曇った場合、必要に応じて、デフロスターを使用してください。
- 車両を走行し、フロントガラスの温度を低下させ、カメラ周辺の温度を下げてください。

マルチインフォメーションディスプレイに「運転支援システムの一部が使用できません　フロントウインドウが汚れています」が表示されるとき、標識認識機能が作動せず、が表示されます。
安全な場所に車を駐車し、フロントガラスの汚れを落としてください。フロントガラスの汚れを落とし、しばらく走行した後でもメッセージが消えない場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。

■標識認識機能の条件と制限

以下の場合などにおいては、標識の認識が遅れたり、認識できない場合があります。

■自車の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれているとき
- フロントガラス外側が汚れ、泥、湿った雪などに覆われているとき
- フロントガラス内側が曇っているとき
- ワイパーの拭き残しがあるとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- トランクやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき

■環境によりカメラが正しく検知できない事例

- 夜明けや夕暮れ時の太陽に向かって走行するとき
- 強い光が道路に反射しているとき
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで明るさが変化したとき
- 夜間やトンネル内などの暗いところ
- 雨、霧、雪などの悪天候
- 前走車による水しぶきや雪の巻上げがあるとき

標識認識機能

標識認識機能が故障した場合はマルチインフォメーションディスプレイに⊘が表示されます。
⊘のメッセージが消えないときは、Honda 販売店で点検を受けてください。

次ページに続く

■標識の位置や状態によりカメラが正しく検知できない事例

- 標識の周囲が煩雑で標識を見つけにくい場合
- 自車から遠く離れた位置にある標識
- 自車のヘッドライトの光が届きにくい位置にある標識
- 曲がり角やカーブの先に設置された標識
- 色あせた標識や折れ曲がった標識
- 向きが変えられた標識や破損した標識
- 泥、雪、又は、霜で覆われた標識
- 一部が樹木などで隠れていたり、車両などの陰になった標識
- 標識の表面上に光(街灯など)や影が映り込んでいる場合
- 明るすぎたり、暗い標識(電光式標識)
- 小さいサイズの標識

■その他、カメラが正しく検知できない事例

- 高い速度で走行しているとき

以下の場合などにおいては、標識認識が正しく作動せず、自車の走路に対する規制内容とは異なる表示をしたり、実際には対象となる標識が無いのに表示したりすることがあります。
（最高速度標識においては、実際の規制速度よりも高い数値を表示したり、低い値を表示したりすることがあります。）

- 標識の上や下に、規制の地点（始まり、終りなど）や条件（曜日、時間帯など）を示す補助標識がある場合
- 数字の判別がつきにくい標識（電光式標識、数字がかすれた標識など）
- 自車の走路に対しての標識ではないが、自車の走路付近にあり、標識が自車の走路に向いている場合（側道が本線に合流する地点の一時停止標識など）
- 認識対象の標識の色、形、図形に似たものがある場合（類似の標識、電光掲示板、看板、のぼり旗、構造物など）

次ページに続く

■マルチインフォメーションディスプレイまたはヘッドアップディスプレイの表示

同時に二つまで道路標識情報を表示します。ディスプレイの右側には最高速度または一時停止標識、左側にははみ出し通行禁止または車両進入禁止標識を表示します。

選択表示モードのときの表示例（マルチインフォメーションディスプレイまたはヘッドアップディスプレイ）

常駐表示モードのときの表示例（ヘッドアップディスプレイ）

左側は車両進入禁止、右側は一時停止を優先表示します

マルチインフォメーションディスプレイまたはヘッドアップディスプレイの表示

車両進入禁止区域に進入すると車両進入禁止アイコンが点滅します。
約5秒間点滅したあと、車両進入禁止アイコンは消えます。

ヘッドアップディスプレイは、選択表示モードのほかに、常駐表示モードの選択ができます。

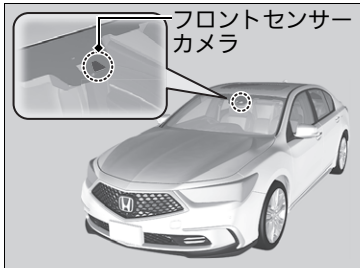
➡ **別冊のHondaインターナビシステム取扱説明書**

常駐表示モードの道路標識表示

常駐表示モード状態のときは、ヘッドアップディスプレイに縮小サイズの道路標識のアイコンを表示し続けることができます。

フロントセンサーカメラ

渋滞追従機能付 ACC(アダプティブクルーズコントロール)、LKAS(車線維持支援システム)、路外逸脱抑制機能、衝突軽減ブレーキ(CMBS)、誤発進抑制機能、歩行者事故低減ステアリング、先行車発進お知らせ機能、標識認識機能、トラフィックジャムアシストに使用するカメラを装備しています。



カメラはフロントガラス上部に設置されています。

炎天下に駐車したときなど、室内温度が高温になり、カメラ機能が一時停止する場合があります。一時停止を防ぐため、駐車時は太陽光を避けて日陰に駐車することをおすすめします。反射サンシェードを使用する場合、カメラを覆わないでください。覆うとカメラに熱を集中させてしまう可能性があります。

フロントセンサーカメラ

フロントガラスにフィルムを貼ったり、カメラの視野を遮るものを取り付けないでください。

カメラの視野内のフロントガラスにキズ、打痕、損傷があると、システムが正常に作動しなくなることがあります。この問題が発生した場合、フロントガラスの交換をお勧めします。
Honda 純正品以外のフロントガラスを使用するとシステムが正常に作動しなくなる場合があります。
フロントガラスの修理や交換をする場合は Honda 販売店にご相談ください。

カメラのレンズを汚したり傷つけたりしないでください。
➡ **車内の清掃** P.382

インストルメントパネル上部に物を置かないでください。
物がフロントガラスに反射してシステムが正常に作動しなくなる場合があります。

カメラを取り外さないでください。システムが正常に作動しなくなる場合があります。
次の場合は Honda 販売店にご相談ください。
- カメラ及び周辺部に衝撃が加わったとき

フロントガラスが曇った場合は曇りをとってください。
必要に応じてデフロスターを使用してください。

次ページに続く

フロントセンサーカメラ

ボンネットやフロントグリルの上にカメラの視野を妨げるものを装着しないでください。
カメラの視野を妨げシステムが正常に作動しない場合があります。

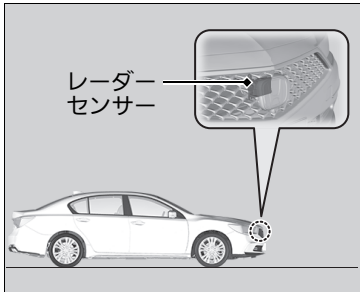
マルチインフォメーションディスプレイに「運転支援システムの一部が使用できません　カメラが高温です」が表示される場合：

- エアコンを使用して車内の温度を下げてください。必要に応じてデフロスターを使用し、風がカメラに向かうようにしてください。
- 車両を走行し、フロントガラスの温度を低下させ、センサーカメラ周辺の温度を下げてください。

マルチインフォメーションディスプレイに「運転支援システムの一部が使用できません　フロントウインドウが汚れています」が表示される場合：

- 安全な場所に車を駐車し、フロントガラスの汚れを落としてください。フロントガラスの汚れを落とし、しばらく走行した後でもメッセージが消えない場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。

レーダーセンサー



レーダーセンサーはフロントグリル内に設置されています。

レーダーセンサー

フロントグリルの周囲に強い衝撃を与えないようにしてください。

システムを正しく作動させるために、必ず次のことをお守りください。

- フロントグリルは常にきれいにしておく
- フロントグリルのお手入れにベンジン、シンナー類、クレンザーなどの磨き粉類を使わない
- フロントグリルを塗装したりステッカーを貼らない
- フロントグリルを交換しない

次の場合は、Honda 販売店にご相談ください。

- レーダーセンサーに衝撃が加わったとき
- フロントグリル周辺の修理を行うとき

以下のときは、レーダーセンサーが正常に作動しなくなる場合があるため、Honda 販売店で点検を受けてください。

- フロントグリルが段差、縁石、輪留め、盛り土などに接触したとき
- 深い水たまりに進入したとき
- 車両前方が衝突、接触したとき

パワーモードをONモードにするときは、車を静止させてください。駐車場のターンテーブル上など、車両が動いているときにパワーモードを ON モードにすると、各機能が作動しない場合があります。

ブレーキシステム

■電子制御パーキングブレーキ

主に停車中や駐車時に使用するブレーキです。自動での解除および手動での操作ができます。

■手動で操作するとき

パーキングブレーキスイッチの操作で、パーキングブレーキをかけたり解除したりできます。
急な下り坂の発進時などに、手動でパーキングブレーキを解除すると、スムーズな発進を行うことができます。

■手動でパーキングブレーキをかける

パーキングブレーキスイッチをゆっくりと確実に引き上げてください。

▶ パーキングブレーキが作動すると、電子制御パーキングブレーキ作動警告灯が点灯します。

■手動でパーキングブレーキを解除する

1. パワーモードがONモードのときに、右足でブレーキペダルをしっかりと踏む。
2. パーキングブレーキスイッチを押す。
   ▶ パーキングブレーキが解除され、電子制御パーキングブレーキ作動警告灯が消灯します。

ブレーキシステム

ブレーキペダルを踏んだとき、ブレーキ装置の作動のため、エンジンルームからモーター音などが聞こえることがありますが、異常ではありません。

電子制御パーキングブレーキ

**パーキングブレーキをかけたり解除したときに作動音が聞こえます。
これはブレーキシステムが作動している音で異常ではありません。**

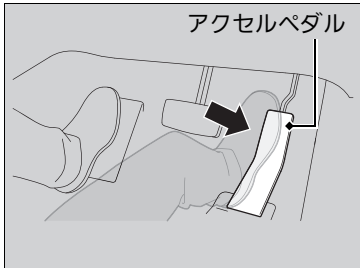
**パーキングブレーキをかけたり、解除するとブレーキペダルが動くことがあります。
これはブレーキシステムの作動によるもので異常ではありません。**

12V バッテリーがあがっているときは、パーキングブレーキをかけたり、解除することはできません。
➔ ジャンプスタート P.420

走行中にパーキングブレーキスイッチを引き続けると、その間はパーキングブレーキがかかります。

■自動解除するとき

アクセルペダルの操作とパーキングブレーキの解除が連動します。
渋滞や上り坂での発進に便利です。



アクセルペダルをゆっくりと踏んでください。

▶ パーキングブレーキが解除され、電子制御パーキングブレーキ作動警告灯が消灯します。

パーキングブレーキの自動解除は、次の条件が揃ったときに行えます。

- 運転席シートベルトを着用しているとき
- パワーシステムが起動しているとき
- シフトポジションが P 、 N 以外のとき

電子制御パーキングブレーキ

10 分以上渋滞追従機能付 ACC(アダプティブクルーズコントロール)またはオートマチックブレーキホールドシステムが作動している状態で停車していると、自動でパーキングブレーキがかかります。

渋滞追従機能付 ACC またはオートマチックブレーキホールドシステムが作動している状態でシートベルトを外したとき、自動でパーキングブレーキがかかります。

渋滞追従機能付 ACC またはオートマチックブレーキホールドシステムが作動している状態でパワーモードを OFF モードにしたとき、自動でパーキングブレーキがかかります。

パーキングブレーキを自動で解除できないときは、手動で解除してください。

次の警告灯が点灯しているときは、自動解除できません。

- PGM-FI 警告灯
- トランスミッション警告灯

次ページに続く

電子制御パーキングブレーキ

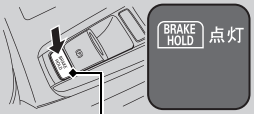
次の警告灯が点灯しているときは、自動解除できないことがあります。

- 電子制御パーキングブレーキシステム警告灯
- VSA 警告灯
- ABS 警告灯
- エアバッグシステム警告灯

■オートマチックブレーキホールド

停車中に、ブレーキペダルを踏み続けなくても、自動的にブレーキを保持する機能です。保持中にアクセルペダルを操作すると、自動でブレーキが解除され発進することができます。信号待ちなどの一時的に停止したいときの使用に適しています。

■機能を ON させるには

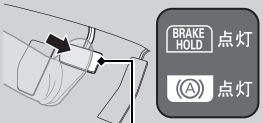


オートマチックブレーキホールドスイッチ

シートベルトを着用し、パワーシステムを起動してからオートマチックブレーキホールドスイッチを押す。

- オートマチックブレーキホールドシステム表示灯が点灯し、機能が ON になります。

■ブレーキを保持させるには

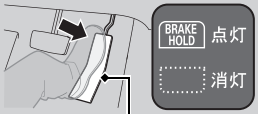


ブレーキペダル

シフトポジションが P R 以外のときにブレーキペダルを踏んで停車する。

- オートマチックブレーキホールド表示灯が点灯し、自動でブレーキが 10 分間保持されます。
- オートマチックブレーキホールド表示灯が点灯後、ブレーキペダルから足を離してください。

■車両を発進させるには



アクセルペダル

シフトポジションが P N 以外のときにアクセルペダルを踏むと機能が解除し、発進します。

- オートマチックブレーキホールド表示灯が消灯し、自動でブレーキが解除されます。

次ページに続く

オートマチックブレーキホールド

⚠警告

急な坂道やすべりやすい路面の場所では、ブレーキペダルから足を離さない。

急な坂道やすべりやすい路面の場所では、オートマチックブレーキホールドが作動していても、ブレーキペダルから足を離したときに車が動くことがあります。
不意に車が動くことにより衝突の原因となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠警告

駐車をする目的でオートマチックブレーキホールドを作動させない。

不意に車が動くことにより衝突の原因となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
オートマチックブレーキホールドシステム作動中は絶対に車から離れないでください。駐車する際はシフトポジションを P にしてパーキングブレーキをかけてください。

■ブレーキ保持機能が自動的に解除されるとき

- シフトポジションが P もしくは R で、ブレーキペダルを踏んでいるとき
- パーキングブレーキスイッチを引いたとき

以下の状態のときは、パーキングブレーキが自動で作動した後、オートマチックブレーキホールドシステムによるブレーキ保持が解除されます。

- 10 分以上ブレーキを保持したとき
- 運転席のシートベルトを外したとき
- パワーモードを OFF モードにしたとき
- オートマチックブレーキホールドシステムに問題が発生したとき

■機能を OFF させるには

機能が ON のときにオートマチックブレーキホールドスイッチを押します。

▶ オートマチックブレーキホールドシステム表示灯が消灯します。

オートマチックブレーキホールド表示灯が点灯中にOFFにしたいときは、ブレーキペダルを踏みながらオートマチックブレーキホールドスイッチを押します。

オートマチックブレーキホールド

⚠警告

オートマチックブレーキホールドを使用する際は、オートマチックブレーキホールド表示灯が点灯するまでブレーキペダルから足を離さない。

不意に車が動くことにより衝突の原因となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

オートマチックブレーキホールド表示灯が点灯した後にブレーキペダルから足を離してください。

システムが作動していても通常と同じ手順でパワーシステムの停止が行えます。

駐停車操作 P.327

パワーシステムを停止すると、システムは自動的に OFF になります。

自動洗車機を使用するときは、システムが OFF になっていることを確認してください。

ブレーキ保持中にタイヤの回転を検知すると、ブレーキ力を強めるために作動音が発生する場合があります。

■フットブレーキ

車の減速や停止をするためのメインのブレーキです。ブレーキペダルで操作します。

緊急制動時により大きな制動力を発生させる電子制御ブレーキアシストが装備されています。

➡ **電子制御ブレーキアシスト** P.325

また、ブレーキのロックを防止する ABS（アンチロックブレーキシステム）で、安全性の向上を図っています。

➡ **ABS（アンチロックブレーキシステム）** P.324

フットブレーキ

水たまりを走行したときは、ブレーキの効き具合を確認してください。
効きが悪いときは、効き具合が戻るまでブレーキペダルを何回か軽く踏んでください。

ブレーキを踏んでいる間、絶えず金属的な摩擦音が聞こえる場合はブレーキパッドを交換する必要があります。
Honda 販売店で点検を受けてください。

長い下り坂でブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキが過熱し、ブレーキの効きが悪くなり危険です。
そのため、長い下り坂などではエンジンブレーキを使用します。
アクセルペダルから足を離し、ギヤを低速にシフトすると、エンジンの回転抵抗で速度が落ちます。

ABS（アンチロックブレーキシステム）

■ ABS とは

ABS（アンチロックブレーキシステム）とは、急制動や滑りやすい路面で制動するとき、車輪のロックを防止することで車両の姿勢を安定させ、ハンドルの効きを確保しようとするための装置です。

■ABS の作動と警告灯

ブレーキペダルを踏んだとき、ブレーキペダルが小刻みに動くことがありますが、これは ABS の正常な動作です。そのままブレーキペダルを強く踏み続けてください。
なお、低速（車速約 10km/h 以下）では ABS は作動せず、通常のブレーキと同じ作動となります。

ABS 警告灯
パワーモードを ON モードにすると数秒間点灯し消灯するのが正常な状態。

⇒ABS（アンチロックブレーキシステム）

アドバイス
種類やサイズの異なるタイヤが混在していると、ABSが正常に機能しないことがあります。タイヤは必ず、同一指定サイズ、同一種類のタイヤを指定空気圧で使用してください。

ABS 警告灯が運転中に点灯するときは、システムの異常が考えられます。
通常のブレーキ操作には支障はありませんが、ABS が作動していない可能性があります。
ただちにHonda販売店で点検を受けてください。

ABS は、制動距離を短くするためのものではありません。
ABS を装備していない車両と同様に、路面が滑りやすいほど長い制動距離が必要になります。
ABS が作動した状態でも車両の姿勢やハンドルの効きには限界がありますので、安全運転に心がけてください。また、次のような場合、ABS の装着されていない車両に比べ、制動距離が長くなることがあります。
- 砂利道、深い新雪、凸凹路などの悪路
- 舗装の継ぎ目やマンホールなどの段差
- タイヤチェーン装着時

パワーシステムの起動直後や走行中、システムチェックのためエンジンルームからモーター音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

電子制御ブレーキアシスト

■電子制御ブレーキアシストとは

緊急制動時に、より大きな力を発生させ運転者のブレーキ操作を補助する装置です。

■電子制御ブレーキアシストの作動

ブレーキペダルを強く踏み込んだときに、ブレーキがより強く効くようになります。

ブレーキアシストが作動すると、ペダルが小刻みに動いたり、作動音が聞こえたりすることがあります。これはブレーキアシストが作動しているときの現象で異常ではありません。そのままブレーキペダルを強く踏み続けてください。

➔ **VSA（ビークルスタビリティアシスト）** P.226

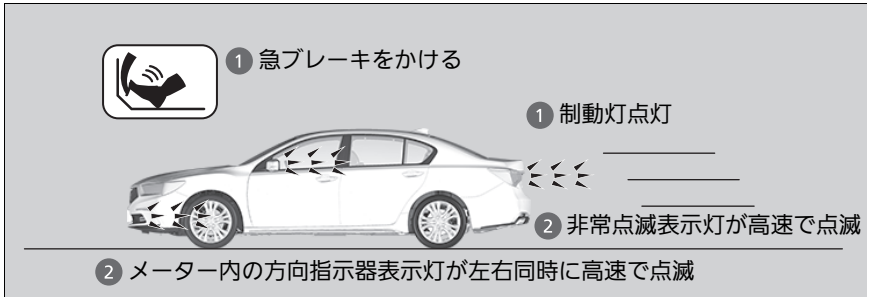
ブレーキアシストの作動と同時に運転席と助手席のシートベルトが引き込まれます。

➔ **E- プリテンショナー** P.31

エマージェンシーストップシグナル

エマージェンシーストップシグナルは、自車が急ブレーキをかけたことを非常点滅表示灯が自動的に高速で点滅して後続車に知らせ、追突される可能性を低減するシステムです。60 k m/ h 以上で走行しているときに急ブレーキをかけると作動します。

■作動のしくみ



エマージェンシーストップシグナルは、以下の状態になると作動が停止します。

- ブレーキペダルを離したとき
- ABS が停止したとき
- 急減速でなくなったとき
- ハザードスイッチを ON にしたとき

エマージェンシーストップシグナル

エマージェンシーストップシグナルは、追突されるおそれを低減するシステムであり、追突を完全に防ぐものではありません。運転するときは不必要な急ブレーキを避け、安全運転を心がけてください。

ハザードスイッチがONのときは、エマージェンシーストップシグナルは作動しません。

ABS が一定時間以上作動しないとき、システムが作動しない場合があります。

駐車する

1. シフトポジションは D のまま、ブレーキペダルをしっかり踏む。
2. ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキスイッチをゆっくりと確実に引き上げる。
3. パーキングスイッチを押す。
4. パワーシステムを停止する。
   ▶ 車から離れるときは必ず施錠してください。

坂道に駐車するときは、かならずパーキングブレーキをかけてください。

次ページに続く

駐停車操作

⚠注意

駐車時はパワーシステムを停止する。
万一、シフトポジションが P N 以外に入っていた場合、クリープ現象により車が動き出したり、乗り込む際に誤ってアクセルペダルを踏み、急発進するおそれがあります。

⚠注意

停車中の空ぶかしはしない。
万一、セレクトレバーが P N 以外に入っていた場合、思わぬ急発進のもとになります。

シフトポジションを N にすると同時に POWER スイッチを押さないでください。
N ポジションの状態になることがあります。
シフトポジションは P にしてください。

枯れ草や紙、油、木材など燃えやすい物があるところには駐停車しないでください。
排気管や排気ガスの熱により、着火するおそれがあります。

植え込みなどの近くに駐停車するときは、排気ガスが植え込みに当たらないように車の向きを決めてください。

仮眠するときは、パワーシステムを停止してください。
▶ 無意識にシフトポジションを操作したり、アクセルペダルを踏み込んだりして思わぬ事故につながるおそれがあります。

≫駐停車操作

アドバイス

アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。また、上り坂でPN以外に入れた状態で、アクセルを調節しながら、もしくはクリープ現象で車を停車させたりしないでください。
トランスミッションが過熱し、故障の原因となります。
➔ **クリープ現象** P.216

車が完全に止まらないうちにPに入れないでください。
トランスミッション破損の原因となります。

≫駐車する

車内の見えるところに貴重品などを置かないでください。

車内にライターや炭酸飲料缶を放置しないでください。
車内温度上昇によりライターなどの可燃物が自然発火したり、缶などは破裂したりするおそれがあります。

寒冷時に、パーキングブレーキをかけると、凍結することがあります。
パーキングブレーキをかけずに輪留めをしてください。
輪留めをしないと車が動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

後退出庫サポート

駐車場などから後退で出庫するときに、リヤバンパー左右にあるレーダーにより車両後方の左右から接近する他の車両を検知し、運転者に知らせる機能です。

後退出庫サポート

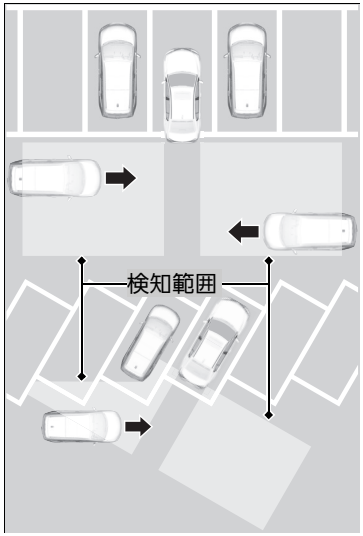
⚠警告

このシステムは出庫時の後方確認などをサポートするためのものであり、衝突を防止するためのシステムではありません。

後退時は、必ず目視やミラーなどで後方および周囲の安全を直接確認して運転してください。
状況によっては、検知のできない可能性があるため、ブザーや画面の表示やアクセルペダル反力のみを頼って後退すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

次ページに続く

■作動条件と作動タイミング



パワーモードがONモードでシフトポジションが R のときにシステムを ON にしていると、自車の車速が約 5km/h 以下の場合に車両後方の左右から接近する他の車両を検知し、ブザーと画面の表示とアクセルペダル反力でお知らせします。
自車の真後ろから接近する他の車両は検知しません。また、検知している他の車両が自車の真後ろまで到達した時点でお知らせを停止します。
自車から離れていく車両に対しては検知をしません。また、接近する歩行者、自転車、二輪車などに対して検知する場合があります。

後退出庫サポート

以下のような状況では、接近する車両を検知できなかったり、検知が遅くなったり、接近する車両がいないのに検知したりする場合があります。

- リヤバンパーの周囲に他の車両や壁などがあり、レーダーの検知範囲が影響を受けたとき
- 自車の車速が約 5km/h を越えているとき
- 接近する他の車両の車速が約 10 ～ 25km/h 以外のとき
- レーダーなどを装備した他の車両が近くにいるとき
- 近くに強い電波を発する設備があるとき
- リヤバンパー側面に雪や泥などが付着しているとき
- 悪天候で、接近する他の車両をシステムが認識できないとき
- 坂道またはカーゴスペースや座席に重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- 壁、ポール、他の車両などに近付くように後退したとき

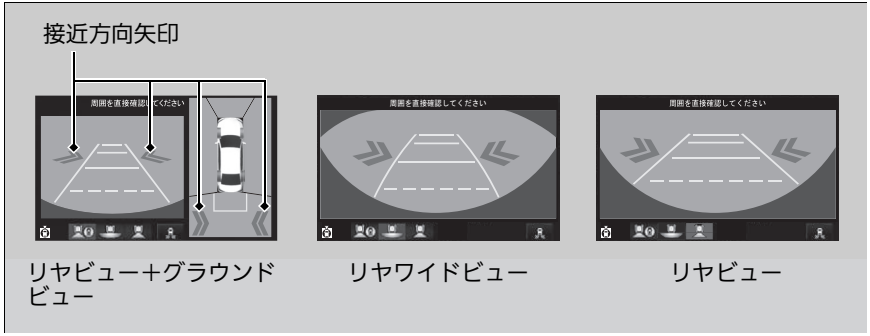
リヤバンパーに衝撃が加わったり、リヤバンパー周辺の修理を行ったときは、Honda 販売店で点検を受けてください。

リヤバンパー側面にシールなどを貼らないでください。レーダーの電波がさえぎられるため、他の車両を正しく検知できません。

システムを正しく作動させるために、リヤバンパー側面は常にきれいにしておいてください。

■画面表示について

接近してくる車両を検知している間は、接近方向矢印が表示されます。

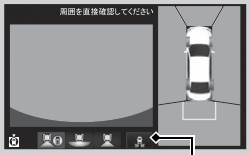


≫画面表示について

画面右下のアイコンが から (オレンジ)に変わったときは、リヤバンパー側面に雪や泥などが付着していることにより一時的にシステムが動作しません。リヤバンパー側面の付着物を取り除いてください。

次ページに続く

■後退出庫サポートの ON と OFF



後退出庫サポートアイコン

カスタマイズ機能を使用して、システムの ON/OFF を切り換えることができます。

➡ 別冊のHondaインターナビシステム取扱説明書

≫画面表示について

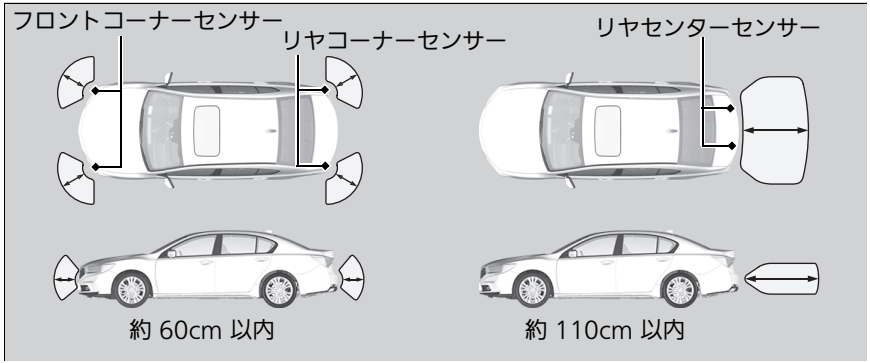
画面右下のアイコンが から (オレンジ) に変わったときは、システムに異常がありますので、システムを使用せず、Honda 販売店で点検を受けてください。

シフトポジションを R にしても画面が切り換わらないときは、カメラシステムに異常があります。このとき、後退出庫サポートも正常に作動できなくなります。Honda 販売店で点検を受けてください。

パーキングセンサーシステム

車両前方のフロントコーナーセンサーと車両後方のリヤセンターセンサーおよびリヤコーナーセンサーが障害物を検知し、障害物と車両の距離をブザーとオーディオ / インフォメーション画面で知らせます。

■パーキングセンサーの取付位置と検知範囲



パーキングセンサーシステム

駐車する前に車両の廻りに障害物がないことを確認してください。

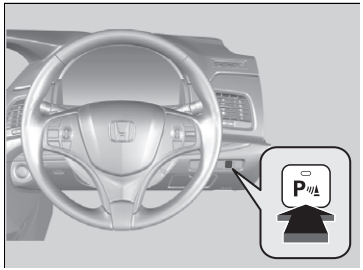
次のようなときは、システムが正常に働かないことがあります。
- センサーが雪、氷、泥などで覆われているとき
- 凸凹な路面や、草地、段差があるとき
- 車両が高温または低温の状況にあるとき
- 近くに超音波を発するものがあるとき
- 悪天候のとき

次のようなときは、システムが検知できないことがあります。
- 障害物が薄いとき、または低いとき
- 雪、布、スポンジなど吸音しやすい材質があるとき
- バンパーの真下に障害物があるとき

センサーの近くにアクセサリーを取り付けない。

次ページに続く

■パーキングセンサーの ON と OFF



パワーモードが ON モードのときに、パーキングセンサーシステムスイッチを押して、システムの ON と OFF を切り換えます。
パーキングセンサーシステムを ON にしたとき、スイッチのインジケーターが点灯します。

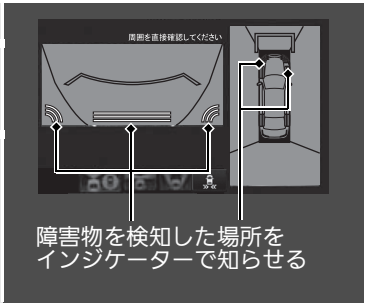
フロントコーナーセンサー、リヤセンターセンサーおよびリヤコーナーセンサーは、シフトポジションが R のとき障害物を検知します。

フロントコーナーセンサーは、シフトポジションが P 以外で、車速が8km/h以下のとき障害物を検知します。

パーキングセンサーの ON と OFF

パワーシステムを起動したときは、パワーモードを OFF する前の状態(ON または OFF)を保持します。

■障害物を検知したときの作動状態

ブザー音の間隔	障害物との距離		インジケーター	オーディオ / インフォメーション画面
	コーナーセンサー	リヤセンターセンサー		
長い	—	約 110-60 cm	点滅（イエロー）※	
短い	約 60-45 cm	約 60-45 cm	点滅（オレンジ）	
非常に短い	約 45-35 cm	約 45-35 cm		
連続	約 35 cm 以下	約 35 cm 以下	点滅（レッド）	

※：このときは、リヤセンターセンサーのみが障害物を検知します。

次ページに続く

■リヤセンサーの OFF

1. パーキングセンサーシステムが OFF になっていることを確認する。パワーモードを OFF モードにする。
2. パーキングセンサーシステムスイッチを押しながら、パワーモードを ON モードにする。
3. パーキングセンサーシステムスイッチを 10 秒間押し続け、スイッチのインジケーターが点滅したら手を離す。
4. 再度パーキングセンサーシステムスイッチを押すと、スイッチのインジケーターが消える。
▶ ブザーが 2 回鳴り、リヤセンサーが OFF になります。

リヤセンサーを再度ONにするときは、上記の手順を行ってください。センサーが ON になると、ブザーが 3 回鳴ります。

リヤセンサーの OFF

シフトポジションが R のとき、パーキングセンサーシステムスイッチのインジケーターが点滅し、リヤセンサーが OFF になっていることを知らせます。

マルチビューカメラシステム

マルチビューカメラシステムは、運転席から死角となる部分を、オーディオ / インフォメーション画面に映る画像で確認するシステムです。このシステムを補助的に使用することで、次のような場合に運転者の負担を軽減します。

- 見通しの悪い交差点で左右を確認する
  ➡ **見通しの悪い交差点で左右を確認するには** P.345

- 狭い道でのすれ違いや路肩への幅寄せ、車庫入れなどで前方の障害物を確認する
  ➡ **前方と前方側面の障害物を確認するには** P.344

- 後方の障害物を確認する
  ➡ **後方の障害物を確認するには** P.341

- 区画線のある駐車場にバックで駐車または縦列駐車する
  ➡ **区画線のある駐車場にバック駐車するには** P.342
  ➡ **区画線のある駐車場に縦列駐車するには** P.343

マルチビューカメラシステム

⚠警告

周囲の安全は、マルチビューカメラシステムの画像だけに頼らず、目視やミラーなどで直接確かめてください。

このシステムは運転者の操作をサポートするためのものであり、事故や衝突を防止するためのシステムではありません。

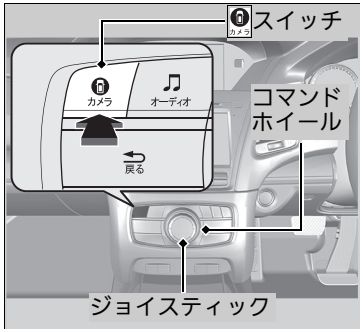
運転操作時は、必ず目視やミラーなどで後方および周囲の安全を直接確認して運転してください。

状況によっては、表示できない可能性があるため、画面の表示のみを頼って操作すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

事故防止のため、周囲の安全を確かめてご使用ください。

次ページに続く

■マルチビューカメラの画像を表示させるには



前方表示：

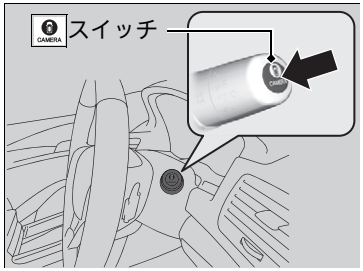
停車中または速度が 20km/h 以下のときに、カメラ/CAMERAスイッチを押します。

カメラ/CAMERAスイッチまたはジョイスティックを押すと画像が切り換わります。

後方表示：

停車中にシフトポジションをRにします。

カメラ/CAMERAスイッチまたはジョイスティックを押すと画像が切り換わります。



表示設定はカスタマイズできます。

マルチビューカメラシステムのカスタマイズ
P.347

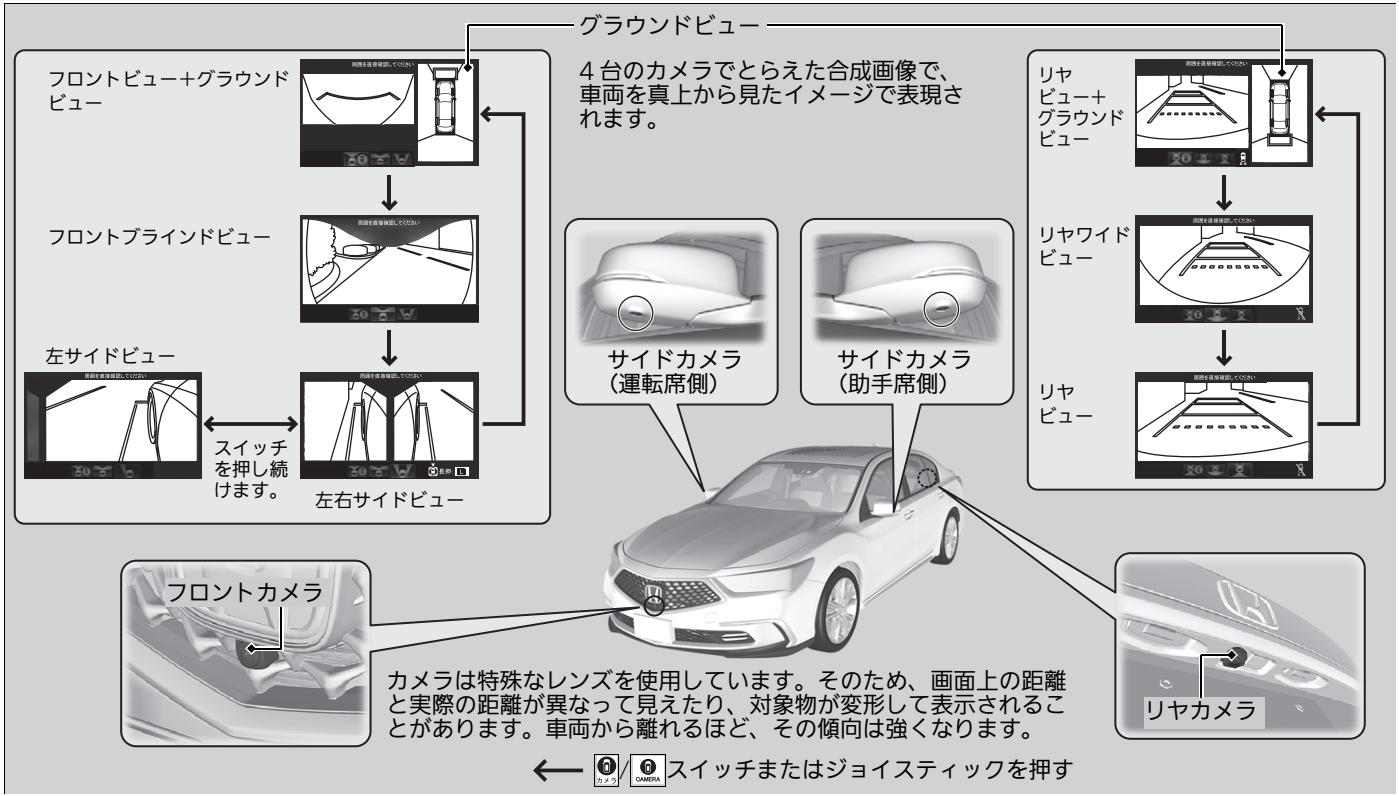
ガイド線の示す位置とカメラ映像の表示は、車高の変化や路面の状態の影響で、実際の距離と異なることがあります。あくまでも目安としてお使いください。

マルチビューカメラの画像を表示させるには

シフトポジションがRのときはナビゲーションシステムを操作できません。

■カメラの設置場所と画像について

車両には４台のカメラが取り付けられています。それぞれのカメラの画像と、４台のカメラの画像を合成したグラウンドビューがあります。



次ページに続く

■目安ガイド線と予測ガイド線表示

マルチビューカメラシステムが起動している状態のときに以下のガイド線を表示できます。

目安ガイド線： 車両からの距離を表示することができます。
この距離は、実際の距離とは異なる場合があります。

予測ガイド線： ハンドル操作に応じて、車両の動く方向を表示することができます。

■駐車ガイド線

メニュースイッチを押すと選択画面が表示され、駐車するときの状況に応じて、“左バックガイド線”、“右バックガイド線”、“左縦列ガイド線”、“右縦列ガイド線” のいずれかを画面から選択します。

起点ガイド：後退時、車両の向かう方向を示します。

アライメントガイド線：ハンドルの位置を変更するときに表示します。

マルチビューカメラの画像を表示させるには

速度が 25km/h 以上のときにカメラ/CAMERAスイッチを押すと、待機画面が表示されます。
速度が 20km/h 以下になると、画面がマルチビューカメラシステムの画像に切り換わります。

目安ガイド線と予測ガイド線表示

目安ガイド線および予測ガイド線とカメラ画像が示す距離は、車高の変化や路面の状態の影響などにより、実際の距離と異なることがあります。
目安ガイド線および予測ガイド線はあくまでも参考としてお使いください。

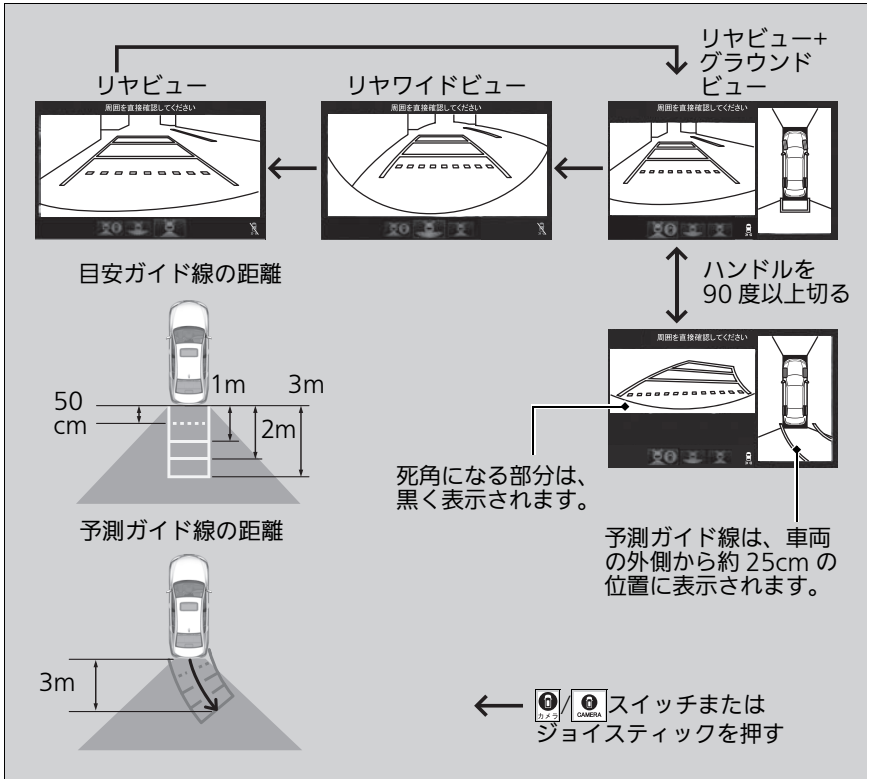
目安ガイド線および予測ガイド線はカスタマイズにより表示 / 非表示を切り換えることができます。
➡ **カスタマイズ項目** P.350

利用案内について、駐車ガイド線が画面に表示されているときに使い方画面を見るには、カメラ/CAMERAスイッチまたはジョイスティックを押し続けます。元の表示に戻すには、カメラ/CAMERAスイッチまたはジョイスティックをもう一度押し続けるか、戻るスイッチを押します。

■マルチビューカメラの使いかた

■後方の障害物を確認するには

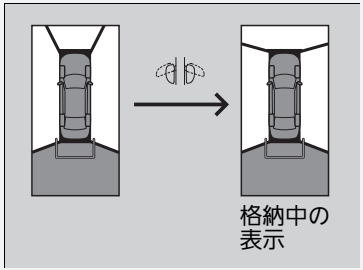
シフトポジションを R にすると、自動的に後方画面表示に切り換わります。



次ページに続く

マルチビューカメラの使いかた

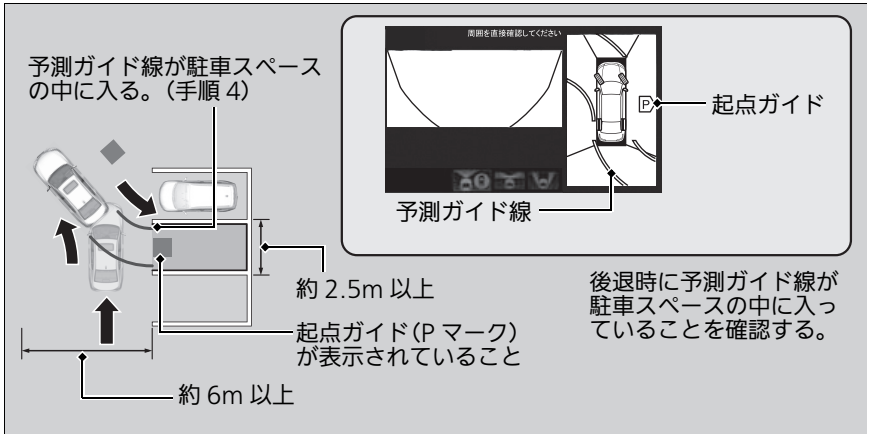
ドアミラーを格納してもグラウンドビューは表示されます。ただし、ドアミラー格納中は表示エリアおよび死角が異なりますので注意してください。



後方の障害物を確認するには

シフトポジションを R に切り換えたときに、後方表示画像が遅れて切り換わることがあります。

■区画線のある駐車場にバック駐車するには



1. 完全に停車させてから カメラ/ CAMERA スイッチを押し、次に メニュー スイッチを押す。コマンドホイールを回して “左バックガイド線” または “右バックガイド線” を選択してから、ジョイスティックを押す。

2. 駐車スペースと垂直方向に前進し、画面上に表示された起点ガイドが駐車スペースの中央に来たら停車する。

3. ハンドルを左いっぱいまで切る（駐車スペースが運転席側にある場合）。
▶ 予測ガイド線が表示されます。

4. ゆっくり前進する。
▶ 予測ガイド線が駐車スペースの中に入ったら停車します。

5. ハンドルを右いっぱいまで切り、ゆっくりと後退を始める。

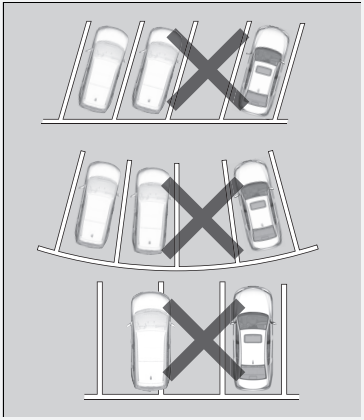
6. 車両が駐車枠と並行になったら停車する。

7. ハンドルをまっすぐにしてから、ゆっくりと後退して駐車する。

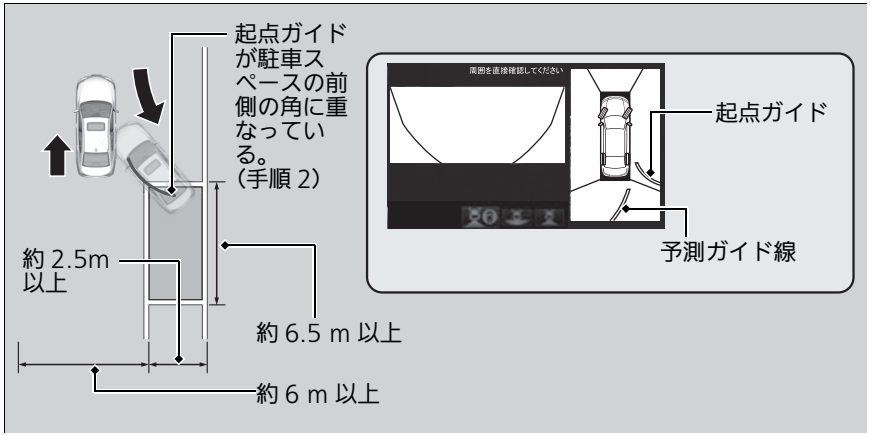
区画線のある駐車場にバック駐車するには

予測ガイド線が駐車枠の中に入らない場合は、駐車スペース不足のため駐車できません。

下記の条件でガイド線は使用できません。
- 駐車スペースが斜めになっている
- 周囲の車両が駐車枠からはみ出している



■区画線のある駐車場に縦列駐車するには



1. 完全に停車させてから カメラ/CAMERA スイッチを押し、次に メニュー スイッチを押す。コマンドホイールを回して “左縦列ガイド線” または “右縦列ガイド線” を選択してから、ジョイスティックを押す。

2. 駐車スペースと並行に前進し、画面上に表示された起点ガイドが駐車スペースの前側の角に重なったら停車する。

3. ハンドルを右いっぱいまで切る（駐車スペースが運転席側にある場合）。
▶ 予測ガイド線が表示されます。

4. ゆっくり後退する。
▶ 予測ガイド線が駐車スペースの区画線に重なったら停車します。

5. ハンドルを左いっぱいまで切り、ゆっくりと後退する。

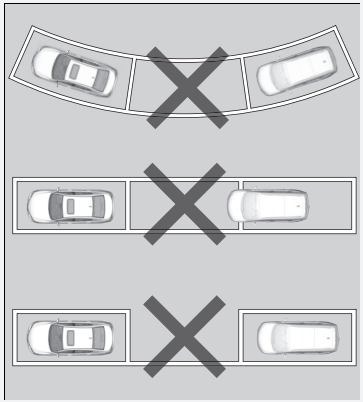
6. 車両が駐車枠と並行になったら停車する。

7. ハンドルをまっすぐにしてから、ゆっくりと後退して駐車する。

次ページに続く

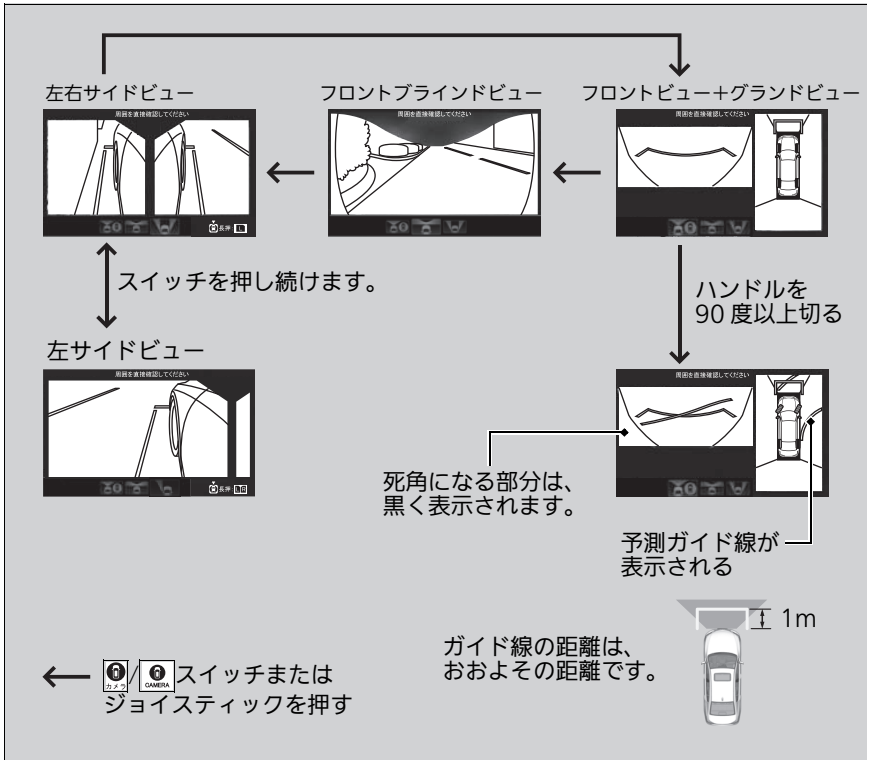
区画線のある駐車場に縦列駐車するには

ガイド線は、長方形かつ直線の駐車枠が付いている駐車スペースで、隣接するスペースに駐車している車両が駐車枠内に収まっている場合のみ使用できます。



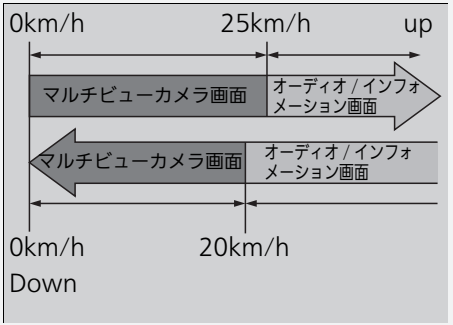
■前方と前方側面の障害物を確認するには

カメラ/CAMERAスイッチを押すと前方画面表示が表示できます。車速が 20km/h 以下のときにカメラ/CAMERAスイッチまたはジョイスティックを押すと、画像が以下のように切り換わります。



前方と前方側面の障害物を確認するには

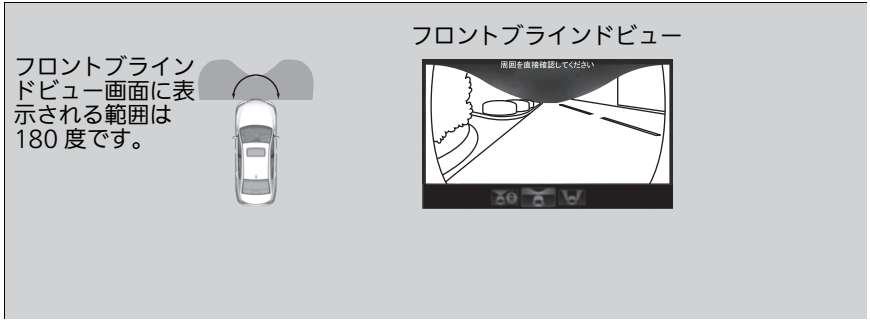
車速が 25km/h 以上になるとフロントビューまたはサイドビュー画面は自動的にオーディオ / インフォメーション画面に切り換わり、車速が 20km/h 以下になるとフロントビューまたはサイドビュー画面に切り替わります。



急減速で車速が 20km/h 以下になった場合、再度フロントビューまたはサイドビューが表示されることがあります。

■見通しの悪い交差点で左右を確認するには

フロントブラインドビュー画面は見通しの悪い交差点などで左右を確認する際に使用すると便利です。



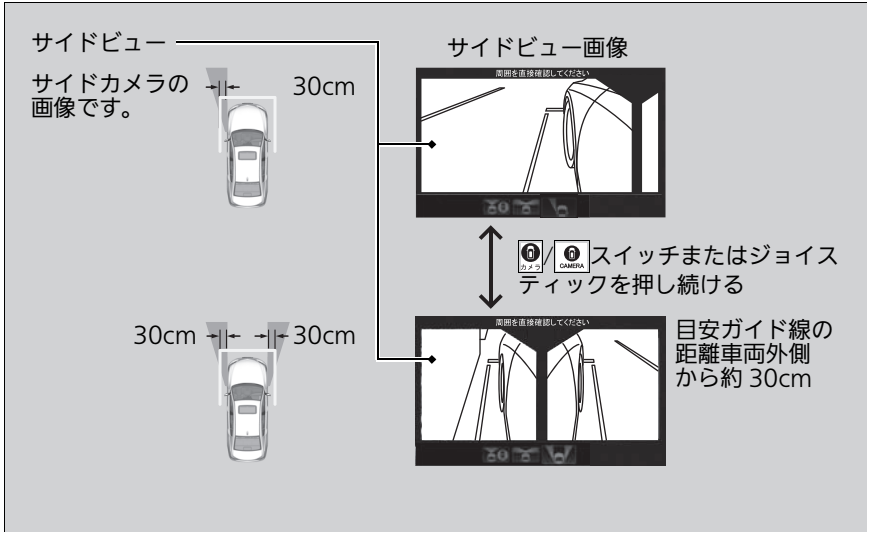
見通しの悪い交差点で左右を確認するには

フロントブラインドビュー画面は広い範囲を写すため、画像は大きくゆがんで表示されます。また障害物との距離が実際より近くまたは遠くに見えることがあります。

次ページに続く

■前方側面の障害物を確認するには

左右サイドビュー画面は路肩や料金所に幅寄せしたり、狭い道でのすれ違いの際に使用すると便利です。



≫前方側面の障害物を確認するには

左右サイドビューは、ドアミラーを格納しているときは表示されません。

■マルチビューカメラシステムのカスタマイズ

■ガイド線の表示 / 非表示

画面に目安ガイド線と予測ガイド線の表示 / 非表示を設定する操作です。

1. 停車中に 設定 スイッチを押す。
2. コマンドホイールを回して、「カメラ設定」を選択し、ジョイスティックの 実行 を押す。

次ページに続く

3. 「マルチビューカメラ」を選択し、ジョイスティックの 実行 を押す。

4. コマンドホイールを回し、変更する項目を選択し、ジョイスティックの 実行 を押す。

5. コマンドホイールを回して、「する」、「しない」のいずれかを選択し、ジョイスティックの 実行 を押す。

6. ジョイスティックを下に押し、「設定完了」を選択して、 実行 を押し、設定を完了する。

次ページに続く

■カスタマイズ項目

マルチビューカメラシステムの、下表の機能をお好みに合わせてカスタマイズ(設定変更)することができます。

カスタマイズ機能	機能の内容	選択できる設定内容
目安ガイド線表示 予測ガイド線表示	画面に目安ガイド線と予測ガイド線の表示 / 非表示を設定する画面	しない、する※1
後退から前進時自動表示	カメラ/CAMERAスイッチを押さずに、シフトポジションをRからDにしたときに、自動的にマルチビューカメラシステム画面を表示	しない※1、する
カメラ起動後の前進画面	パワーシステム起動後にカメラ/CAMERAスイッチを押したとき、最初に表示される画面	フロントビュー+グラウンドビュー※1、ラスト画面※2、フロントブラインドビュー、サイドビュー
カメラ起動後の後退画面	パワーシステム起動後にシフトポジションをRにしたとき、最初に表示される画面	リヤビュー+グラウンドビュー※1、ラスト画面、リヤワイドビュー、リヤビュー
減速時のカメラ自動表示	カメラ/CAMERAスイッチを押して、マルチビューカメラシステムを起動している状態のときに、速度が 20km/h 以下になると自動的にマルチビューカメラシステム画面を表示	しない※1、する
駐車ガイド線自動消去	駐車ガイド線表示後、3 分経過すると駐車ガイド線の表示OFF	しない、する※1

※1 ：工場出荷時の設定

※2 ：カメラ/CAMERAスイッチを押してマルチビューカメラシステムが起動している状態では、シフトポジションをRからDにしたときにフロントビュー+グラウンドビューを表示しますが、ラスト画面に設定したときは、ラスト画面が表示されます。

■カスタマイズ設定の例

例えば「後退から前進時自動表示」を「する」にする場合、下記の手順で設定します。「後退から前進時自動表示」は工場出荷時の設定では「しない」になっています。

1. 設定 スイッチを押す。
2. コマンドホイールを回して、「カメラ設定」を選択し、ジョイスティックの 実行 を押す。

次ページに続く

3.「マルチビューカメラ」を選択し、ジョイスティックの 実行 を押す。

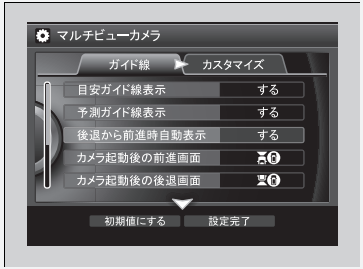
4. コマンドホイールを回して、「後退から前進時自動表示」を選択し、ジョイスティックの 実行 を押す。

5. コマンドホイールを回し、「する」を選択し、ジョイスティックの 実行 を押す。

6. ジョイスティックを下に押し、「設定完了」を選択して、 実行 を押し、設定を完了する。

カスタマイズ設定の例

手順 6 で「初期値にする」を選択して実行すると、カスタマイズした機能を初期値(工場出荷値)に戻すことができます。



「カメラ起動後の前進画面」と「カメラ起動後の後退画面」の設定完了後は、パワーモードをいったん OFF モードにしてから再度 ON モードすると、設定が反映されます。

次ページに続く

■こまったときは

■カメラ画像について

状態	考えられる原因	対処のしかた
カメラの画像が見えにくい	次の場合は、画像が見えにくいことがあります。 • 夜間や雨の日、および暗い場所 • カメラのレンズに水滴や虫などがついた場合 • カメラのレンズに傷がついた場合 • カメラが高温になった場合 • 太陽の光など強い光がカメラに直接差し込んだ場合※1 • オーディオ / インフォメーション画面が指紋などで汚れている場合	• オーディオ / インフォメーション画面の汚れを柔らかい布で拭き取ってください。
カメラの画像が不鮮明	カメラのレンズが汚れていると、鮮明な画像が表示されません。	• レンズが汚れたときは、水や中性洗剤、ガラスクリーナーなどで汚れを拭き取ってください。 なお、このときベンジンやシンナー、クレンザーなどの磨き粉類は絶対に使わないでください。レンズが損傷する原因となります。
カメラの位置がずれた	カメラの本体やその周辺部に、強い衝撃や力が加わったことが考えられます。	• 万一、衝撃が加わった場合は、カメラの使用をやめて Honda 販売店にご相談ください。
マルチビューカメラシステムの使用中にエラーメッセージが表示された		Honda 販売店にご相談ください。

※1 ：強い光がカメラに差し込んでいるときに、光源の周囲が白くぼやけるハレーション現象が起きることがあります。

指定燃料について

■指定燃料

無鉛プレミアムガソリン
プレミアムバイオ混合ガソリン（E10/ETBE22）

■タンク容量

57 リットル

指定燃料について

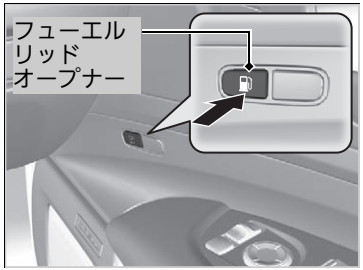
指定燃料以外の燃料（粗悪ガソリン、軽油、灯油など）を補給したり、不適切な燃料添加剤を使用しないでください。
以下のような状態になるおそれがあります。

- 触媒装置などの損傷
- エンジンや燃料系などの損傷
- エンジンなどへの悪影響

プレミアムガソリンが入手できない場合にはレギュラーガソリンをお使いになることもできますが、この場合、エンジンの性能を十分に発揮できません。さらにエンジン始動時やアクセルペダルを踏み込んだ時に、異音が聞こえることがあります。

給油のしかた

給油口にフューエルキャップがない燃料タンクです。フューエルリッドを開けて、給油ノズルを直接差し込むことにより給油することができます。給油ノズルを引き抜くと、給油口が密閉します。



1. 助手席側にガソリンスタンドの給油機がくるように車を停める。
2. パワーシステムを停止させる。
3. 運転席ドアにあるフューエルリッドオープナーを押してフューエルリッドを開ける。

給油のしかた

⚠警告

燃料補給時は火気厳禁。
燃料や燃料蒸気は引火しやすいため火災や爆発のおそれがあります。燃料を扱っているときは下記の項目を厳守してください。
- パワーシステムは常に停止させる
- 炎、火花を近づけない
- たばこを吸わない
- 燃料の取り扱いは屋外で行う
- こぼれた燃料はすみやかに拭き取る

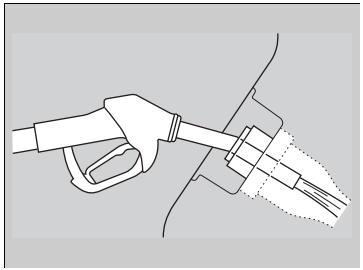
ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守ってください。

⚠警告

燃料補給作業は、フューエルリッドを開ける前に車体などの金属に触れて身体の静電気を除去してから行う。
静電気の放電による火花により気化したガソリンに引火し、やけどを負うおそれがあります。

燃料補給は、静電気を放電した人のみで行ってください。
燃料補給中に車内に戻ると、再び帯電することがあります。再度、静電気を放電してください。

燃料蒸気を吸わないでください。
燃料成分には有害物質を含んでいる場合があります。



4. 給油ノズルをゆっくりとしっかり奥まで差し込み、給油する。
▶ 給油中はノズルを動かさないでください。

5. 給油ノズルの自動停止後、約5秒待ってから給油ノズルを抜く。

6. フューエルリッドは、手で押さえ付けて閉める。

給油のしかた

⚠注意

給油ノズルの自動停止後は、追加補給しない。
気温などの変化により燃料があふれ、火災になるおそれがあります。

フューエルリッドが確実に閉まっていることを確認する。
閉まっていないと燃料がもれ、火災になるおそれがあります。

気温などの変化により燃料があふれないように、タンク容量に達すると燃料タンクに空間を残して給油ノズルの自動停止がはたらくようになっています。

自動停止後に追加補給をすると、燃料が満タン容量以上に入ることがあります。

携行缶を使って給油しなければならない場合は、工具セットに添えつけの給油用じょうごをお使いください。
➡ **携行缶から給油するとき** P.443

メンテナンス

この章では、基本的なメンテナンスについて記載しています。

メンテナンスの前に
点検整備について 359
メンテナンスを安全に行うために 360
メンテナンスに関する注意事項..... 361
エンジンルーム内のメンテナンス
エンジンルーム内のメンテナンス項目... 362
ボンネットを開ける..... 363
エンジンルームカバーの取り外し..... 364
推奨エンジンオイル..... 365
ウィンドウォッシャー液の補給..... 366
電球の交換..... 367
ワイパーブレードラバーの点検と整備 .. 370
タイヤの点検と整備
タイヤの点検 373
タイヤのローテーション 376
冬期のタイヤ 377
Honda スマートキー
Honda スマートキーの取り扱いと電池交換.....378
エアコンのお手入れ
エアクリーンフィルター 380
清掃
車内の清掃 382
車外の清掃 384
アクセサリーと改造 387

点検整備について

道路運送車両法により、法定点検と日常点検が義務づけられています。正しい点検整備で、車を安全・快適にお使いください。
普段と違う点(音、におい、ブレーキフルードの不足、地面に油のあとが残っているなど)に気づいたら、Honda 販売店で点検を受けてください。
点検整備の詳細については、別冊のメンテナンスノートも併せてご覧ください。

■点検整備の種類

■日常点検

長距離走行前や洗車・給油時などに、お客様自身の判断で行う点検です。

■定期点検

12か月および24か月ごとに実施する点検です。法律で定められているものと、Honda が指定するものがあります。

■その他

新車時の無料点検や定期交換、厳しい使われかたをしたときの点検整備があります。

点検整備について

作業に不慣れな場合や難しい場合は Honda 販売店にご相談ください。

メンテナンスを安全に行うために

メンテナンスを行う際は、メンテナンスノートと下記の安全に関する注意事項をよくお読みのうえ、安全を確保して行ってください。
お客さま自身でメンテナンスを実施したときは、メンテナンス点検整備記録簿のメンテナンスレコードに記録してください。

■メンテナンスを行う場所や備品についての安全事項

- 火災や爆発防止のため、タバコの火、火花、炎を引火性の液体やガスから遠ざける。
- エンジンルーム内の、タオルや可燃物の置き忘れに注意する。
  ▶ 火災などの思わぬ事故につながるおそれがあります。
- エンジンの排気ガスに含まれる一酸化炭素の毒作用に注意する。
  ▶ エンジンを始動するときは必ず十分な換気を行ってください。

■車についての安全事項

- エンジンルーム内を点検するときは、冷却ファンが止まってから行ってください。
  ▶ エンジンの温度が高い状態でエンジンを停止したとき、冷却ファンが自動的に作動することがあります。
- 熱くなった部品によるやけどに注意する。
  ▶ 部品に触れる前に、エンジンと排気システムを十分に冷やしてください。
- 可動部品によるけがに注意する。
  ▶ 指示されたとき以外は、パワーモードを OFF モードにして作業してください。ONモードでは、ガソリンエンジンが自動的に動き出したり、エンジン停止中でも冷却ファンが回りだすことがあります。

メンテナンスを安全に行うために

⚠警告

適切なメンテナンスを行い、走行前に故障がないようにする。
走行時に故障がある状態や、適切なメンテナンスがなされていないと、重大な傷害や死亡に至る事故を引き起こす可能性があります。
必ず、取扱説明書に記載されている点検とメンテナンスに関する注意事項や別冊のメンテナンスノートに記載の点検時期を守ってください。

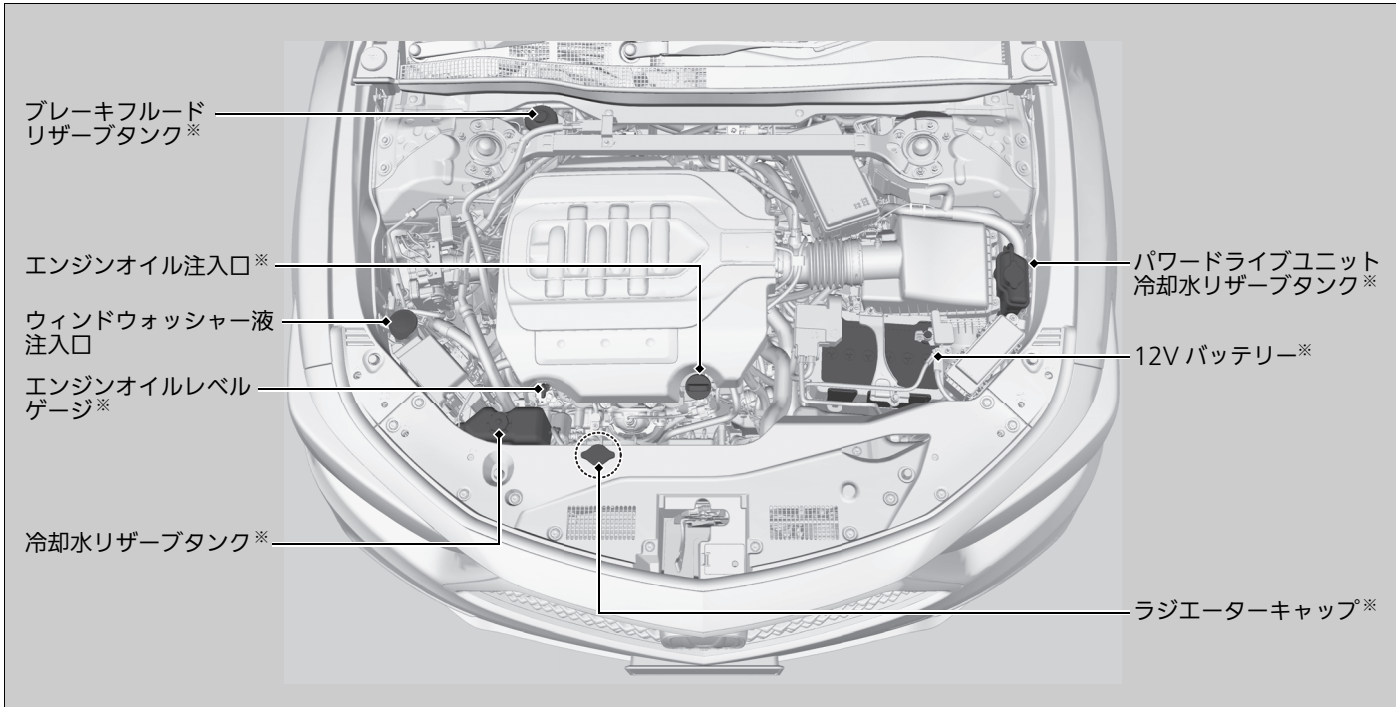
メンテナンスは、指示と注意事項を守って行う。
メンテナンスの指示と注意事項を守らないと重大な傷害や死亡のおそれがあります。
必ず、取扱説明書に記載されている手順と注意事項を守ってください。

メンテナンスに関する注意事項

■メンテナンスサービスで使用する部品やオイル

メンテナンスサービスを受けるときは、Honda 純正部品やオイル類を使用することをおすすめします。Honda 純正部品は、車で使われている部品と同じ高品質の基準に基づいて製造されているため、性能と耐久性の面で安心です。

エンジンルーム内のメンテナンス項目



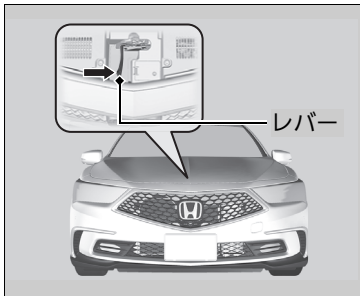
※：点検整備については、別冊の「メンテナンスノート点検整備について」をご覧ください。

ボンネットを開ける

1. 車を停め、パーキングブレーキをかける。

2. 運転席足元にある、ボンネット解除ノブを引く。

▶ ボンネットが少し浮き上がります。



3. ボンネット中央のレバーを右に押してロック機構を解除し、ボンネットを開ける。

4. HOOD を全開にする。

閉めるときは、ボンネットを下げ、ボンネット中央前端のロック部を手でおさえつけるように閉めます。

ボンネットを開ける

⚠注意

ボンネットを閉めるときは、手などをはさまないように注意する。

アドバイス

ワイパーアームを起こした状態で、ボンネットを開けないでください。

ボンネットがワイパーに当たり、ボンネットやワイパーが損傷することがあります。

ボンネットを閉めたときは、ボンネットが確実にロックされていることを確認してください。

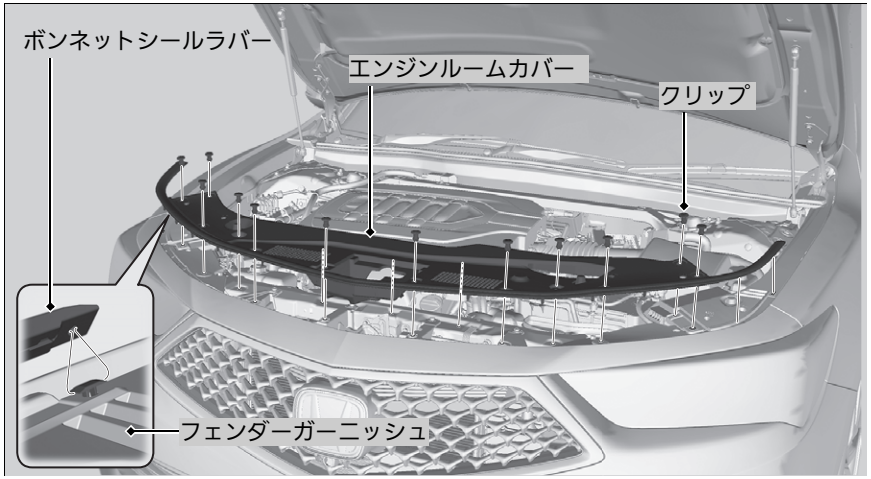
エンジンルームカバーの取り外し

エンジンルーム内の部品を保護するためにカバーがついています。メンテナンスを行う際に、カバーを取り外すことがあります。

■エンジンルームカバーの脱着方法

1. クリップを外します。
2. ボンネットシールラバーを前後に動かして、フェンダーガーニッシュから取り外します。
3. エンジンルームカバーを持ち上げ、ピンから取り外します。

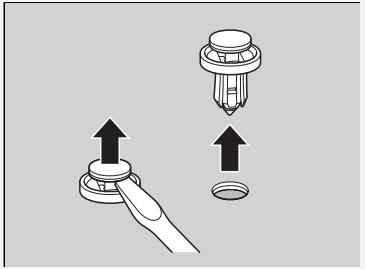
取り付ける際は、逆の手順で行ってください。



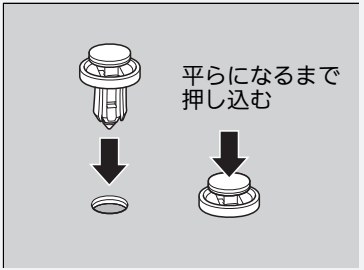
≫エンジンルームカバーの取り外し

クリップ

クリップを外すときは、マイナスドライバーを差し込んで、中央部のピンを起こして取り外します。



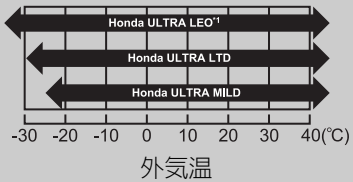
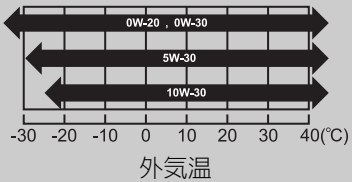
クリップを取り付けるときは、クリップ中央部のピンを起こしたまま差し込み、ピンを平らになるまで押してください。



推奨エンジンオイル

純正および市販のエンジンオイルは、外気温に応じた粘度のものを表にもとづきお使いください。

エンジンオイルは、量が少なかったり劣化したものを使用していると、エンジンの不調や破損につながることがあります。

純正エンジンオイル	市販エンジンオイル
Honda 純正油 • Honda ULTRA LEO*1 • Honda ULTRA LTD • Honda ULTRA MILD	API SM 級以上かオイル缶に APICERTIFICATION（エーピーアイサーティフィケーション）マークの入ったエンジンオイル
	

*1：最も省燃費性に優れた Honda 純正オイルです。

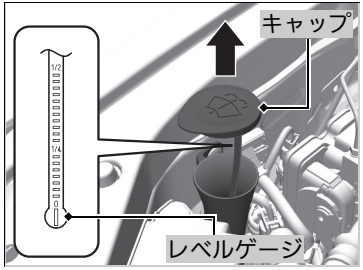
推奨エンジンオイル

冬期はエンジンオイルの劣化が激しくなります。
冬期に主として短距離、市街地を運転する場合は、早めに交換してください。

APICERTIFICATION（エーピーアイサーティフィケーション）マークは下記のとおりです。

ウィンドウォッシャー液の補給

ウォッシャー液の量は、キャップに付いているウォッシャー液レベルゲージにより確認します。



減っていた場合は、ウォッシャー液キャップを外し、ウォッシャータンクに補給します。

ウィンドウォッシャー液が少なくなると、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

ウィンドウォッシャー液の補給

ウォッシャー液以外の液体を、タンクに入れないでください。
ウォッシャー液は必要に応じて水(軟水)で薄めてください。

冬期はウォッシャー液の凍結を防ぐため、ウォッシャー液の濃度を上げてください。

ヘッドライト電球

ロービームヘッドライト、ハイビームヘッドライト、アクセサリーライトはLED を使用しています。点検、交換は Honda 販売店に依頼してください。

フロントサイドマーカーライト電球

フロントサイドマーカーライトは LED を使用しています。点検、交換は Honda 販売店に依頼してください。

前面方向指示器 / 前面非常点滅表示灯、車幅灯電球

前面方向指示器 / 前面非常点滅表示灯、車幅灯は LED を使用しています。点検、交換は Honda 販売店に依頼してください。

フォグライト電球

フォグライトはLED を使用しています。点検、交換はHonda 販売店に依頼してください。

側面方向指示器 / 側面非常点滅表示灯電球

側面方向指示器 / 側面非常点滅表示灯は LED を使用しています。点検、交換は Honda 販売店に依頼してください。

制動灯 / 尾灯、後面方向指示器 / 後面非常点滅表示灯、後部側方灯電球

制動灯 / 尾灯、後面方向指示器 / 後面非常点滅表示灯、後部側方灯は LED を使用しています。点検、交換は Honda 販売店に依頼してください。

尾灯、後退灯電球

尾灯、後退灯はLED を使用しています。点検、交換はHonda 販売店に依頼してください。

番号灯電球

番号灯はLED を使用しています。点検、交換はHonda 販売店に依頼してください。

ハイマウントストップランプ電球

ハイマウントストップランプはLED を使用しています。点検、交換はHonda 販売店に依頼してください。

車外ドアハンドルランプ電球

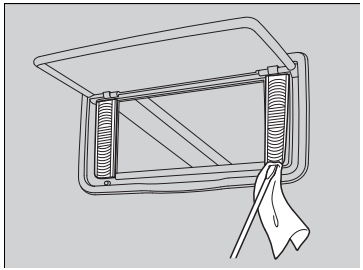
車外ドアハンドルランプはLED を使用しています。点検、交換はHonda 販売店に依頼してください。

その他の電球

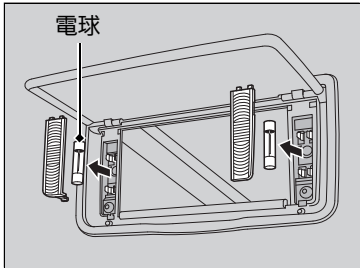
■バニティミラー照明灯電球

下記の電球をご使用ください。

バニティミラー照明灯：12V−1.4W



1. ランプ本体にマイナスドライバーの先端を差し込み、押し開ける。
▶ ランプが傷付かないよう、ドライバーに布などを巻き付けてください。

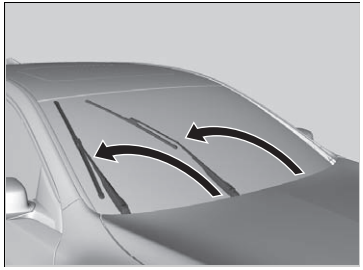


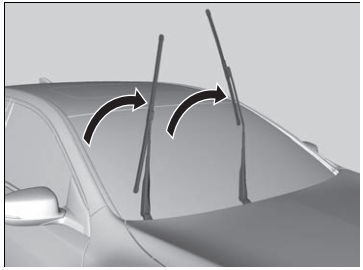
2. 古い電球を抜き取る。
3. 新しい電球を差し込む。

ワイパーブレードラバーの点検

ワイパーブレードラバーが傷んでいると、拭きムラになったり、ウィンドーガラスを傷つけたりします。定期的にワイパーブレードラバーの状態を点検し、傷んでいる場合は交換してください。

ワイパーブレードラバーの交換





1. パワーモードを OFF モードにする。

2. ワイパースイッチのレバーを**MIST**の位置に押し上げたまま、パワーモードを ON モードにし、すぐにパワーモードを OFF モードにする。

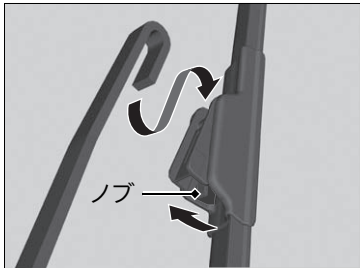
▶ 両方のワイパーアームが、ワイパーメンテナンスポジションにセットされます。

3. 両方のワイパーアームを起こす。

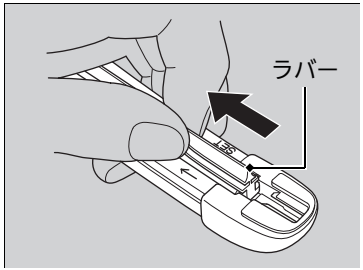
ワイパーブレードラバーの交換

アドバイス

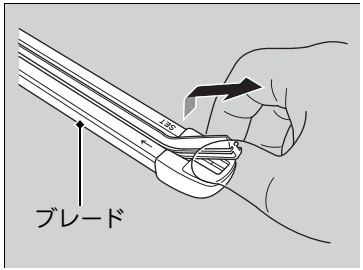
ワイパーアームを起こした状態でボンネットを開けたりワイパーを作動させたりすると、ボンネットとワイパーアームを損傷します。



4. ノブを押し上げながら、アームからブレードをスライドさせて外す。



5. ラバーのストッパーがブレードのツメから外れるまで引き、そのままラバーをブレードから引き抜く。

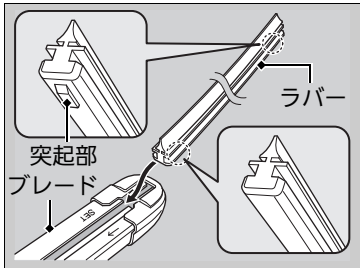


ワイパーブレードラバーの交換

アドバイス

ブレードを外した状態でワイパーアームが倒れると、ガラスが損傷するおそれがあります。

次ページに続く



6. ラバーを突起部のない側を下にしてブレードに沿って差し込む。
▶ ブレードをワイパーアームに取り付け、ラバーの突起部がブレード先端の溝に挿入されるまで差し込み、確実に固定します。

7. 両方のワイパーアームを戻す。

8. パワーモードを ON モードにする。

9. ワイパースイッチのレバーを**MIST**の位置に押し上げて、両方のワイパーアームを通常の位置に戻す。

タイヤの点検

■タイヤの点検について

タイヤが摩耗・損傷していたり、適正な空気圧でないと、安全な走行ができないばかりか乗り心地も損なわれます。
安全な走行のために求められるタイヤの条件は下記のとおりです。

- 種類とサイズが適正であること
- 接地面の状態が良好であること
- 空気圧が適正であること
- 摩耗、傷、亀裂、異物などがないこと

これらの条件を満たすために下記の点検を行い、常にタイヤを最適な状態に保ってください。

■日常的な点検

乗車前に必ず行う点検です。下記の項目を確認し、状況によってはメンテナンスをしてください。

- タイヤがつぶれているように見えないか？
  ▶ つぶれているように見えたら、すぐに空気圧をチェックしてください。
- 激しい摩耗、傷、亀裂、異物はないか？
  ▶ 状況に応じて、タイヤを交換してください。

次ページに続く

タイヤの点検について

⚠警告

摩耗が激しいタイヤ、空気圧が適正でないタイヤを使用しない。
不適切なタイヤを使用すると、重大な傷害や死亡に至る事故につながるおそれがあります。

指定空気圧は、運転席横の車体に貼ってあるラベルにも記載されています。
取扱説明書が手元にない場合は、車のラベルをご覧ください。

■空気圧測定器による点検

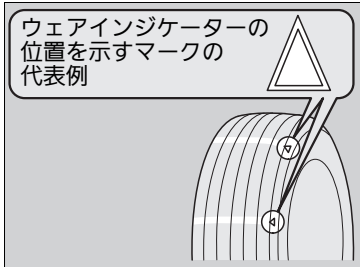
すべてのタイヤの空気圧を測定してください。空気圧が下がっている場合は、パンクを入念に調べます。
タイヤの指定空気圧は、巻末の資料を参照してください。

➔ 仕様 P.445

■損傷、異物、摩耗の点検

下記の項目を点検してください。

- タイヤの接地面と側面の突起、膨らみが正常か？
  ▶ 異常が見られた場合は、タイヤを交換する必要があります。
- タイヤ側面に、裂け目、亀裂がないか？
  ▶ 裂け目や亀裂がある場合は、タイヤを交換する必要があります。
- 接地面とウェアインジケーターが同じ高さになっていないか？



ウェアインジケーター（摩耗限界表示）

ウェアインジケーターはタイヤの接地面にあり、他の部分より溝が 1.6mm 浅くなっています。
接地面が摩耗して、ウェアインジケーターと同じ高さになったら、タイヤを交換してください。

タイヤの点検について

タイヤの空気圧は、タイヤ温度が低いときに測定してください。
必要な場合は、指定空気圧になるまで空気を注入または排出してください。
タイヤが高温のときに空気圧を測っても、低温のときより高めになるため正しく測定できません。

タイヤとホイールの交換

タイヤは、四輪とも同一指定サイズ、同一種類、同一銘柄および摩耗差のないタイヤをお使いください。サイズ、種類、銘柄や摩耗度合いの異なるタイヤを使用すると、運転に関わるシステムが正常に機能しなくなったり、動力伝達装置に悪影響を与えたりします。

同時にすべての４つのタイヤを交換することをお勧めします。それができない場合は、前輪または後輪タイヤの左右を一緒に交換してください。

専用のタイヤ空気圧警報システムセンサーを装備したホイールを使用していますので、純正ホイールを使用してください。
タイヤやホイールを交換するときは、付け替えたホイールにタイヤ空気圧警報システムセンサーを装着してください。
センサー装着に関しては販売店にご相談ください。

タイヤとホイールの交換

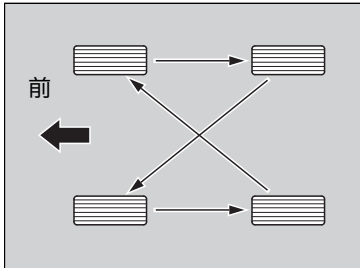
⚠警告

必ず、サイズと種類が適切なタイヤを使用する。
不適切なタイヤを使用すると、重大な傷害や死亡に至る事故につながるおそれがあります。

タイヤのローテーション

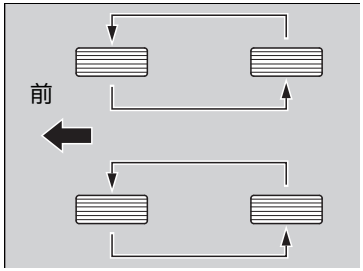
5,000km 走行したときタイヤローテーションをしてください。
タイヤローテーションを行うのは、特定のタイヤが摩耗するのを防ぐためです。

■回転指示マークがないタイヤの場合



図のように、タイヤをローテーションさせます。

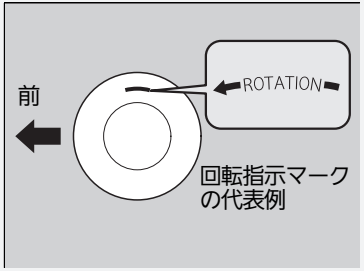
■回転指示マークがあるタイヤの場合



図のように、タイヤをローテーションさせます。

≫タイヤのローテーション

タイヤ回転方向が指定されているタイヤには、タイヤ回転指示マークがあります。
図のように回転指示マークが前へ向くように取り付けてください。



締め付けトルク：127 N・m（13 kgf・m）

冬期のタイヤ

雪道や凍結した道路を走行する場合は、スノータイヤやタイヤチェーンを装着し、速度を落として十分に車間距離をとって運転してください。
また、横滑りの原因となりますのでハンドルやブレーキの操作は、特に慎重に行ってください。

タイヤチェーンおよびスノータイヤは、走行条件や法令により装着が必要とされた場合に使用します。
装着する場合は、下記のポイントを参照してください。

■スノータイヤの場合：

- 四輪とも同じ種類、指定サイズのタイヤを選ぶ
- 四輪すべてにスノータイヤを装着する

■タイヤチェーンの場合：

- Honda 純正スチールチェーンを、付属の取扱説明書にしたがって前輪に装着する
- タイヤサイズに適合したチェーンを装着する
- ブレーキラインやサスペンションと接触していないか確認する
- ゆっくり走行する

冬期のタイヤ

アドバイス

サイズが不適切なチェーンを装着したり、装着のしかたが不適切だと、車のブレーキライン、サスペンション、ボディー、ホイールを損傷するおそれがあります。
チェーンが車のどこかに当たる場合、ただちに走行をやめてください。

タイヤチェーンは前輪に装着します。
後輪には、タイヤチェーンを装着しないでください。

タイヤチェーンを装着したときは、30km/h以下の速度で走行してください。
なお、乾燥路面ではタイヤチェーンを装着したまま走行するのは避けてください。タイヤチェーンの摩耗を早めます。

Honda スマートキーの取り扱いと電池交換

■取り扱いについて

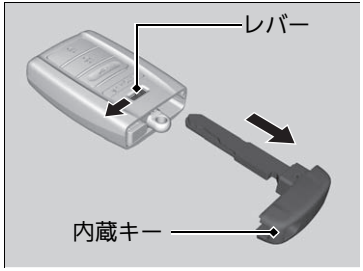
Honda スマートキーの取り扱いは、下記の点に注意してください。

- 発信器を落としたり投げたりしない
- 温度が極端に高い / 低い場所に置かない
- 液体にひたさない

■電池交換のしかた

作動距離が不安定になった場合は、電池の消耗が考えられます。
ボタンを押したときにインジケーターが点灯しない場合は、電池切れです。電池を交換してください。

■Honda スマートキー



ボタン電池 CR2032

1. レバーを引きながら、内蔵キーを取り出す。

≫取り扱いについて

Honda スマートキーをなくした場合は、Honda 販売店へご連絡ください。

≫電池交換のしかた

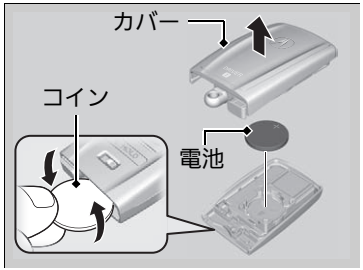
⚠警告

ボタン電池は、お子さまが飲み込まないように注意する。
重大な傷害を受けたり死亡したりするおそれがあります。
飲み込んだ時は、ただちに医師の診察を受けてください。

電池交換の際は、破損などのおそれがあるため、Honda 販売店での交換をおすすめします。

電池交換の際は、カバーを確実に取り付けてください。
確実に取り付けられていないと、耐水性能の低下や故障の原因となります。

電池は Honda 販売店または時計店、カメラ店などでお求めください。



2. カバーを外す。
- ▶ ボタンを紛失しないよう丁寧に取り外してください。
- ▶ カバーに傷が付かないように、コインに布などを巻いてカバーを取り外します。

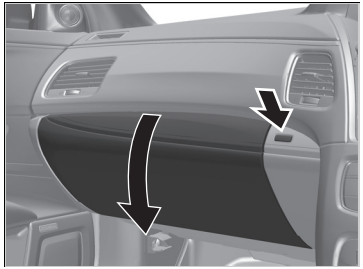
3. ⊕と⊖を間違えないよう、電池を交換する。

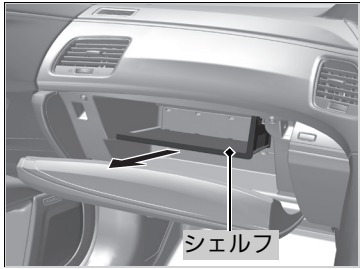
エアクリーンフィルター

■エアクリーンフィルターの交換時期

エアクリーンフィルターは、通常 1 年または 15,000km ごとに交換してください。
粉じんなどの多い場所で使用される場合は、早めの交換をおすすめします。

■エアクリーンフィルターの交換





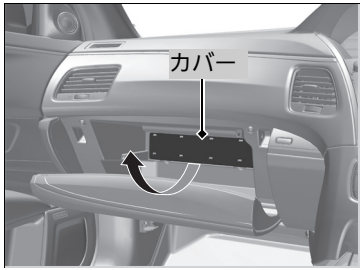
1. グローブボックスを開け、シェルフを外す。

≫エアクリーンフィルター

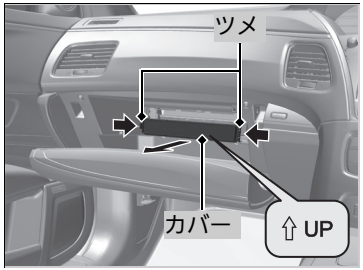
芳香剤を使用すると脱臭効果が弱くなり、脱臭寿命が短くなることがあります。

エアコンの風量が著しく減少したり、ガラスが曇りやすくなったときは、フィルターの目詰まりが考えられます。フィルターを交換してください。

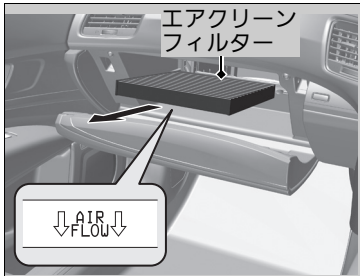
アレルフリー高性能脱臭フィルターは、空気中の花粉・粉じんを集じんし、アレルゲンを処理、排気ガス臭も低減します。



2. グローブボックスの内側に付いているカバーを外す。



3. 左右にあるツメを押しながら、エアクリーンフィルターケースのカバーを外す。



4. エアクリーンフィルターを引き出す。
5. 新品と交換する。
▶「AIR　FLOW」マークの矢印が、下向きになるように取り付けます。

車内の清掃

内装の清掃は、掃除機で塵やほこりを取り除いてから汚れを落としてください。
ぬるま湯に中性洗剤を溶かしたものを柔らかい布に軽く含ませ、固く絞って汚れを落とします。その後、真水を含ませたきれいな布で、洗剤分をきれいに落としてください。

■シートベルトの清掃

ぬるま湯に中性洗剤を溶かしたものをブラシにつけて清掃し、その後空気乾燥させます。

車内の清掃

室内に水をかけないでください。
オーディオやスイッチなどの電装品に水がかかると故障の原因となります。

オーディオ、スイッチなどの電装品にシリコン系のスプレーを塗布しないでください。
故障や車両火災の原因となるおそれがあります。万一、電装品にシリコン系のスプレーを塗布したときは、Honda 販売店にご相談ください。

ケミカル類、液体芳香剤は成分により、樹脂部品、布材の変色、しみ、ひび割れなどを起すことがあります。
ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤、酸、アルカリ性の溶剤は使用しないでください。

ケミカル類を使用したあとは、必ず乾いた布で軽く拭き取ってください。
使用した布をそのまま樹脂部品、布材の上に長時間放置しないでください。

液体芳香剤は、こぼさないよう確実に固定してください。

■ガラスのお手入れ

ガラスクリーナーなどで拭いてください。

■本革のお手入れ

塵やほこりを掃除機や乾いた布で取り除いてください。
ウール用中性洗剤の 10% 水溶液を柔らかい布に軽く含ませ汚れを落とします。その後、真水を含ませた柔らかい布を固く絞り、洗剤分をきれいに拭き取ります。乾いた布で水分を拭き取り、風通しをよくして日陰で乾燥させます。濃色のデニムなど、衣類の染料が本革に移ってしまうことがあります。
汚れが付着したらすぐに拭き取ってください。

ガラスのお手入れ

リヤガラスは、ガラスの内側に電熱線やアンテナ線が装着されています。
傷付けないよう、これに沿って柔らかい布で拭いてください。

フロントセンサーカメラのカバーや周辺に水やガラスクリーナーなどの液体がかからないようにしてください。
➔ **フロントセンサーカメラ** P.315

車外の清掃

走行後は、塗装面に付着したほこりなどを毛はたきなどで払い落としてください。飛び石などによる塗装面の傷は錆の原因になります。見つけたら早めに補修してください。

■洗車について

月に一度は洗車をするようにしてください。以下の場合は、必ず洗車をしてください。

- 凍結防止剤を散布した道路を走行したとき
- 海岸地帯を走行したとき
- コールタール、ばい煙、鳥のふん、虫、樹液などが付いたとき

■自動洗車機を使うとき

- 自動洗車機に記載されている指示にしたがう
- ドアミラーを格納する
- ワイパースイッチを OFF にする

■高圧洗浄機を使うとき

- 洗車ノズルと車体の距離を十分に離す
- ドアガラスやドアまわりなど開閉部分は、特に注意する
  ▶ 近づけすぎると室内に水が入ることがあります。
- エンジンルームには水をかけない。

≫車外の清掃

故意に空気取り入れ口に水をかけないでください。
故障の原因になります。

フューエルリッドを開けた状態で、給油口に水をかけないでください。
燃料システムもしくはエンジンを損傷する可能性があります。

ワイパーアームを起こす場合は、ワイパーアームをワイパーメンテナンスポジションにセットしてください。
➔ **ワイパーブレードラバーの交換** P.370

■ワックスをかけるとき

ワックスは、月に1回程度または水をはじかなくなったときにかけてください。洗車した後や、車体表面が体温以下に下がっているときにかけるようにしてください。

■バンパーなどの樹脂塗装部品のお手入れ

樹脂塗装部品に、ガソリン、オイル、ラジエーター液、バッテリー液などが付着するとしみや塗膜はがれの原因となります。付着した場合は、すぐに柔らかい布で拭き取ってください。

■ガラスのお手入れ

ガラスクリーナーなどで拭いてください。

■はっ水ガラスについて

前席ウィンドー(ドアガラス)にはっ水膜がコーティングしてあり、水滴をはじきます。水洗いするか、柔らかい湿った布などで拭き取ってください。

ガラスクリーナーを使うと一時的に水はじきが悪くなることがありますが、水洗いをすれば元に戻ります。水はじきが悪くなったときは、Honda 販売店にご相談ください。

次ページに続く

ワックスをかけるとき

アドバイス

みがき粉(コンパウンド)入りのワックスは、使わないでください。塗装面に細かい傷が残ることがあります。

ワックスは Honda 純正ケミカル用品をお使いください。

バンパーなどの樹脂塗装部品のお手入れ

樹脂塗装部品の補修をする場合は、Honda 販売店にご相談ください。

不適当な塗料を使うと塗膜を傷めます。

ガラスのお手入れ

水滴をはじく効果の持続時間には限りがあります。長持ちさせるために次のことをお守りください。

- 泥などの汚れがひどいときは、開閉をなるべく行わない
- みがき粉(コンパウンド)入りガラスクリーナーやワックス、洗剤等は使わない
- 金属製のもので霜取りなどを行わない
- 自動洗車機を使うときは、先に泥などの汚れを落とす

■アルミホイールのお手入れ

アルミは塩分や汚れを嫌います。道路凍結防止剤や海水が付いたときは、柔らかい布やスポンジに中性洗剤を含ませ汚れを早めに落としてください。
洗車後は、水が乾かないうちに拭きとってください。

■ヘッドライト、制動灯の曇り

ヘッドライト、制動灯などのランプは、雨天走行や洗車などにより、レンズ面が一時的に曇ることがあります。また、ランプ内と外気との温度差により、レンズ内面が結露することもあります。
これは雨天時などに窓ガラスが曇るのと同様の自然現象で、機能上の問題ではありません。
また、ランプの構造上、レンズの縁に水滴が付着することがありますが、機能上の問題ではありません。但し、ランプ内に水がたまっている場合や大粒の水滴が付いている場合は Honda 販売店で点検を受けてください。

アルミホイールのお手入れ

この車専用のホイールをお使いください。
専用以外のホイールを使うと、走行装置やブレーキ装置に支障をきたすおそれがあります。
ホイール交換は、Honda 販売店にご相談ください。

硬いブラシやコンパウンド(研磨剤)の入った洗剤などは使わない。
変色やしみ、光沢の変化の原因になったり、傷をつけるおそれがあります。

アクセサリー

アクセサリーを取り付ける場合は、下記の項目を確認してください。

- アクセサリーをフロントガラスに取り付けていないか？
  ▶ アクセサリーの揺れる動きが車外の状況認識を遅らせることがあります。
  また、吸盤がレンズのはたらきをして、火災につながるおそれがあります。
- フロントガラス、ドアガラスやフロント、センター、リヤの各ピラーまわりにアクセサリーを取り付けていないか？
  ▶ サイドカーテンエアバッグの作動の妨げになるので、上記の場所にはアクセサリーを取り付けないでください。

⚠警告

不正改造は、法律に触れることはもちろん、思わぬ事故につながる可能性があります。
適正な性能や機能を発揮しなかったり、思わぬ事故につながる可能性があります。
電装品の分解、改造は行わないでください。故障や火災など思わぬ事故につながる可能性があります。

⚠警告

高電圧バッテリーは、純正品の使用をおすすめします。純正品以外のバッテリーを使用した場合、過充電や火災など思わぬ事故につながる可能性があります。

改造や部品交換について

車の改造はしないでください。
Honda 純正部品以外の、車の性能や機能に適さない部品を使用しないでください。
Honda が国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、違反になることがあります。

診断コネクタ ー は、故障診断用の診断装置などの機器のみを接続するためのものです。
それ以外の機器を接続すると、車の電子機器に悪影響をおよぼしたり、バッテリーがあがるなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。

無線装置などの取り付けの際には、必ず Honda 販売店にご相談ください。装置や取り付け方法が適切でない場合、電子機器部品に悪影響をおよぼすことがあります。

アクセサリーと改造

車の性能、品質を維持するために、Honda 車に最も適した Honda 純正部品をお使いください。
純正部品には下記のマークが付いています。

HONDA
GENUINE PARTS

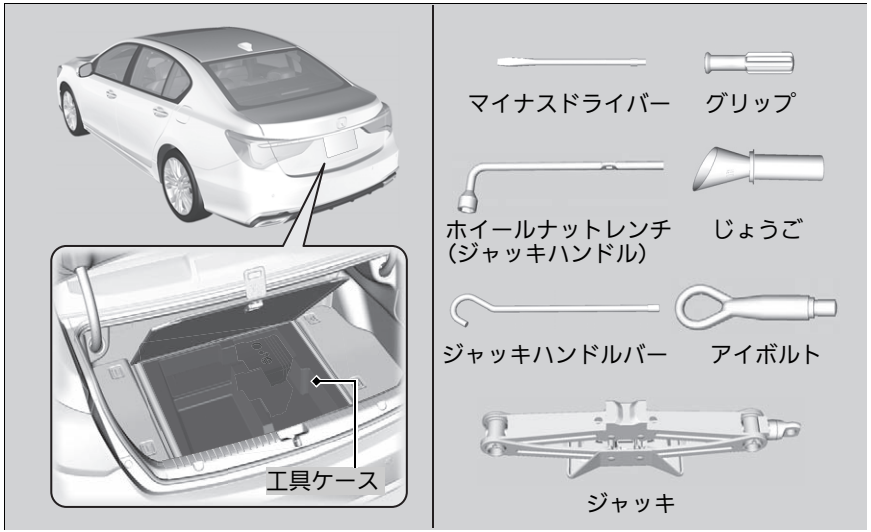
お求め、装着に際しては、Honda 販売店にご相談ください。

万一の場合には

この章では、万一の場合の対応方法について記載しています。

工具、発炎筒.....390
パンクしたとき.....391
ジャッキの取り扱い.....414
パワーシステムが起動しない
パワーシステムの確認.....416
Honda スマートキーの電池が切れたとき 418
緊急時のパワーシステム停止方法.....419
ジャンプスタート.....420
オーバーヒート.....423
警告灯の点灯 / 点滅.....425
ヒューズ
ヒューズの設置場所 432
ヒューズの点検と交換..... 439
けん引..... 440
フューエルリッドが解錠できないとき .. 441
トランクが開かないとき..... 442
給油 443

工具の種類



発炎筒

高速道路や踏切などの危険な場所で故障したときに使います。
発炎筒に記載されている次のことをよく読んであらかじめ確認しておいてください。

- 使いかた
- 使用上の注意
- 発炎時間
- 有効期限

➡ **発炎筒** P.2

工具の種類

工具はトランクルーム内に収納されています。

発炎筒

⚠警告

ガソリンなどの燃えやすいもののそばで使わない。
火災や爆発のおそれがあります。

⚠注意

発炎筒を使うときは、以下のことに注意する。

- お子さまにさわらせないでください。いたずらなどにより発炎筒が発火して思わぬ事故ややけどの原因になります。
- 顔や身体に向けないでください。思わぬ事故ややけどの原因になります。
- トンネル内では視界を悪くするので使用しないでください。トンネル内では非常点滅表示灯を使ってください。

パンクしたタイヤの応急修理

タイヤの損傷が激しい場合は、乗り物をけん引する必要があります。
単にタイヤに小さな穴がある場合、永久的な修理をするために最寄りの販売店へ運転することができるよう、損傷を一時的に補修するタイヤパンク応急修理キットで応急修理ができます。
パンクしたときは、ハンドルをしっかり握り徐々にブレーキをかけてスピードを落とし安全な場所に停車してください。

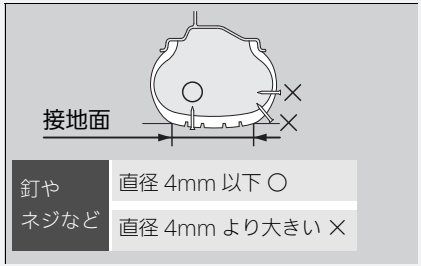
1. 地面が固く、滑らない、水平なところに車を停める。
2. シフトポジションを P にする。
3. パーキングブレーキをかける。
4. 非常点滅表示灯を点滅させ、パワーモードを OFF モードにする。

次ページに続く

パンクしたタイヤの応急修理

以下のような場合、タイヤパンク応急修理キットは使用できません。Honda販売店またはロードサービスにご連絡ください。

- 応急修理剤の有効期限が切れているとき
- タイヤが 2 本以上パンクしているとき
- 約 4mm 以上の切り傷や刺し傷によるパンクのとき
- 路面接地部以外が損傷を受けパンクしたとき

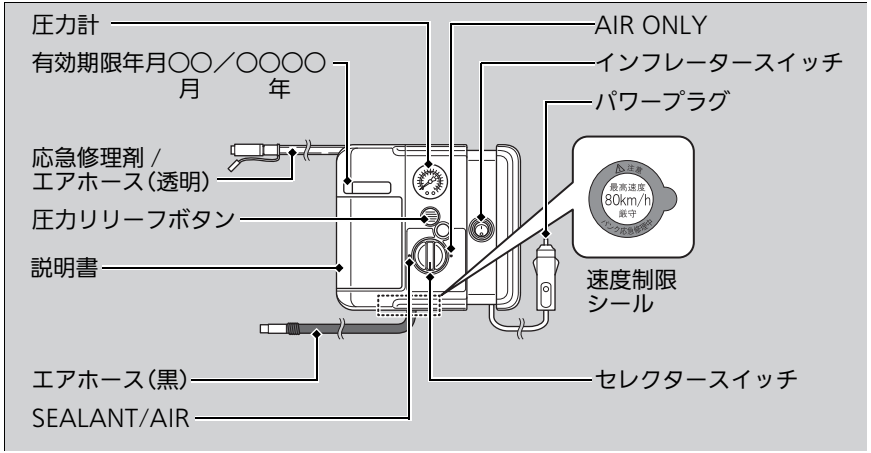


- ほとんど空気が抜けた状態で走行したとき
- タイヤがホイールから外れているとき
- ホイールが破損しているとき

タイヤに刺さったクギなどは抜かないでください。
抜いてしまうと、タイヤパンクの応急修理キットでは応急修理が不可能になる場合があります。

ホース 2 本タイプ

■タイヤ応急修理の準備

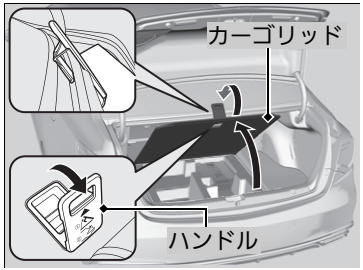


タイヤ応急修理の準備

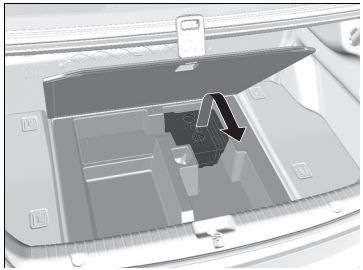
アドバイス

車両に付属した応急修理剤以外を使用しないでください。他の修理剤を使用するとタイヤ空気圧センサーを破損するおそれがあります。

応急修理をスムーズに行うため、タイヤパンク応急修理キットに付属の説明書をお読みください。



1. ハンドルを引き上げ、カーゴリッドを開ける。
2. ハンドルを図の位置にかける。

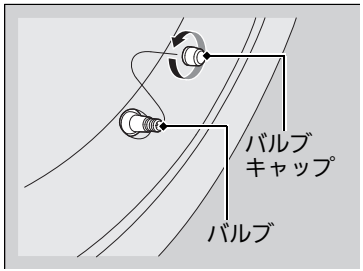


3. タイヤパンク応急修理キットを取り出す。
4. 交通から遠ざけ、パンクしたタイヤ付近にキットを水平に置く。
▶ キットの側面を立てて置かないでください。

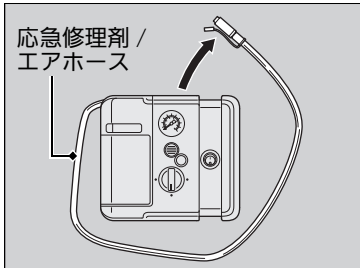
次ページに続く

ホース 2 本タイプ

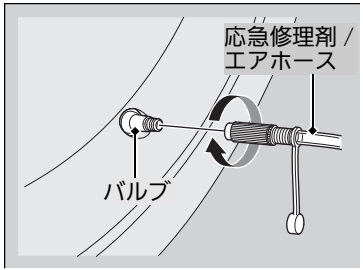
■応急修理剤とエアの注入



1. バルブからバルブキャップを取り外す。



2. 応急修理剤 / エアホースを応急修理キットから取り外す。



3. タイヤのバルブに応急修理剤 / エアホースをきつく締め付ける。

応急修理剤とエアの注入

⚠警告

応急用修理剤は、飲用すると有害で、致命的になりうる物質を含んでいます。

誤って飲用した場合、

- できるだけたくさんの水を飲んでください。
- ただちに医師の診察を受けてください。

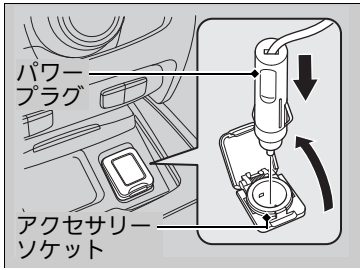
目に入ったり皮膚に付いた場合

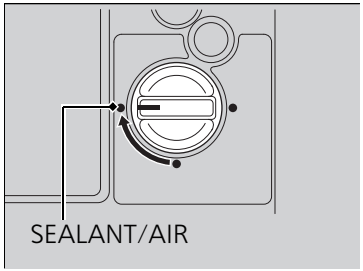
- 水でよく洗い流してください。
- 異常を感じたときはただちに医師の診察を受けてください。

お子さまが誤って手を触れないよう、保管、取り扱いに注意してください。

外気温が氷点下以下のときは応急修理剤は容易に流れないかもしれません。使用前に約5分間暖めてください。

応急修理剤が衣類などに付着すると、落ちないおそれがありますのでご注意ください。





4. エアコンプレッサーの電源コードのパワープラグを、アクセサリーソケットに差し込む。

▶ ドアや窓にコードをはさまないように注意してください。

5. パワーシステムを起動する。

▶ 応急修理剤 / エアを注入しているときはパワーシステムを停止しないでください。

➔ **一酸化炭素について** P.64

6. セレクタースイッチを「SEALANT/AIR」にする。

応急修理剤とエアの注入

⚠警告

一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業を避ける。

一酸化炭素は有毒です。一酸化炭素を吸い込むと意識不明になったり、死亡したりするおそれがあります。

密閉された場所での作業や、一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業はしないでください。

降雪時や積雪のある場所では、パワーシステムを起動したままにしない。

周囲に積もった雪により排気ガスが滞留し車内に入ってくると、重大な傷害や死亡にいたるおそれがあります。

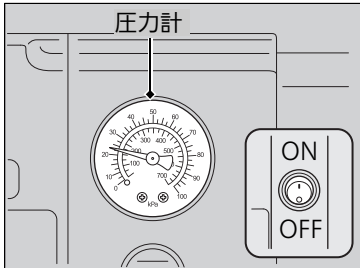
エンジンが始動している場合は、車両の周囲の雪を取り除くなどして下さい。

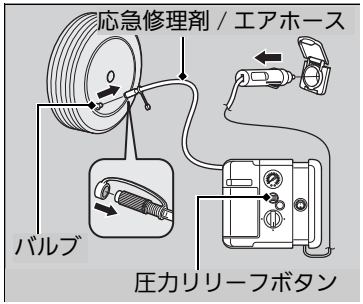
アドバイス

15分以上エアコンプレッサーを使用しないでください。

エアコンプレッサーは過熱し、破損するおそれがあります。

次ページに続く





7. エアコンプレッサーのインフレータースイッチを ON にする。
▶ エアコンプレッサーはタイヤに応急修理剤とエアを注入し始めます。
▶ 応急修理剤の注入が完了すると、エアのみ注入されます。

8. 空気圧を 250 kPa まで高め、エアコンプレッサーのインフレータースイッチを OFF にする。

9. エアコンプレッサーの電源コードのパワープラグを、アクセサリーソケットから外す。

10. タイヤバルブから応急修理剤 / エアホースを外しバルブキャップを取り付ける。

11. 圧力リリーフボタンを押して、圧力計が 0 kPa になるまでエアを抜く。

応急修理剤とエアの注入

アクセサリーパワーソケットは以下の 2 箇所にあります。
- コンソールコンパートメントの中
- フロントコンソール

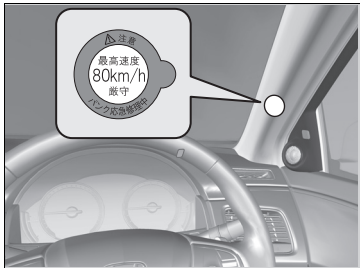
応急修理剤が注入されている間、圧力は一時的に高くなります。注入が完了すると圧力は落ちますが、再度上昇します。これは正常です。
正しい空気圧を測定するためには、応急修理剤が注入された後にエアコンプレッサーのインフレータースイッチを OFF にしてください。

10 分以内に指定空気圧にならないときは、応急修理剤による応急修理はできません。
Honda 販売店やロードサービスに連絡してください。

タイヤパンク応急修理剤の購入および空きボトルの適切な処分については Honda 販売店にお尋ねください。

ホース 2 本タイプ

■点検走行



1. 速度制限シールを、運転者のよく見える位置に貼る。
2. 点検走行を開始する。
   ▶ 法定速度を守ってください。高速道路では 80km/h 以下を厳守してください。
3. 10 分または 5km 走行したあと安全な場所に車を停める。
4. タイヤのバルブにエアホースをきつく締め付ける。

次ページに続く

点検走行

⚠警告

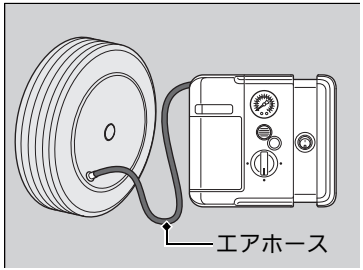
一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業を避ける。
一酸化炭素は有毒です。一酸化炭素を吸い込むと意識不明になったり、死亡したりするおそれがあります。
密閉された場所での作業や、一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業はしないでください。

降雪時や積雪のある場所では、パワーシステムを起動したままにしない。
周囲に積もった雪により排気ガスが滞留し車内に入ってくると、重大な傷害や死亡にいたるおそれがあります。
エンジンが始動している場合は、車両の周囲の雪を取り除くなどしてください。

⚠注意

ハンドルのパッドにシールを貼らない。
SRS エアバッグが正常に機能しなくなります。

警告灯やスピードメーターが見えない位置に貼らない。
安全運転の妨げとなります。



5. セレクタースイッチを「AIR ONLY」にする。
▶ エアコンプレッサーのインフレータースイッチを ON にしないでください。

6. エアコンプレッサーに付属の圧力計で空気圧を測定する。

7. 空気圧が 130 kPa 未満の場合：
応急修理剤では修理はできません。
運転を中止してHonda販売店またはロードサービスに連絡してください。
- 空気圧が 250 kPa の場合：
  応急修理は完了です。
- 空気圧が130 kPa以上、250 kPa以下の場合：
  エアコンプレッサーを使って指定空気圧まで高める。
  Honda 販売店または専門修理工場に到着するまで、ステップ 2 から 6 までを繰り返す。

▶ 高速道路では80km/h以下で、法定速度を守って指定の Honda 販売店または専門修理工場でタイヤの修理、交換を行ってください。

点検走行

走行前に、エアコンプレッサーなどの積み忘れがないか、しっかりと確認してください。

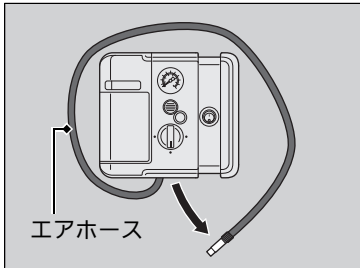
8. タイヤバルブからエアホースを外しバルブキャップを取り付ける。
9. 圧力リリーフボタンを押して、圧力計が 0 kPa になるまでエアを抜く。
10. キットを車両に戻す。

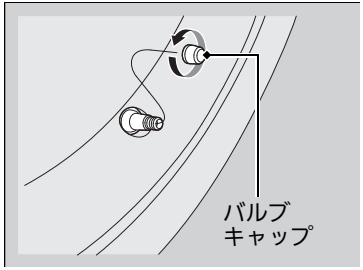
次ページに続く

ホース 2 本タイプ

■タイヤ空気圧の補充

装備されているエアコンプレッサーを使用して、パンクしていないタイヤの空気圧を補充することができます。





1. カーゴリッドを開ける。
2. タイヤパンク応急修理キットを取り出す。
3. 交通から遠ざけ、空気を補充するタイヤ付近にキットを水平に置く。
   ▶ キットの側面を立てて置かないでください。
4. エアホースをキットから取り外す。
5. バルブからバルブキャップを取り外す。

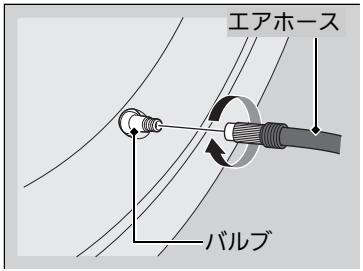
タイヤ空気圧の補充

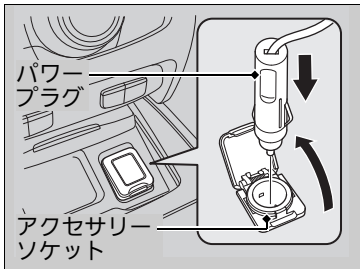
⚠警告

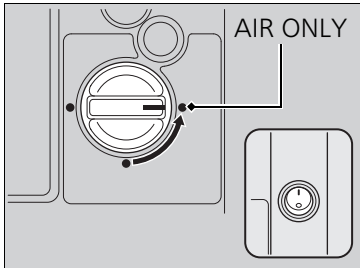
一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業を避ける。
一酸化炭素は有毒です。一酸化炭素を吸い込むと意識不明になったり、死亡したりするおそれがあります。
密閉された場所での作業や、一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業はしないでください。

降雪時や積雪のある場所では、パワーシステムを起動したままにしない。
周囲に積もった雪により排気ガスが滞留し車内に入ってくると、重大な傷害や死亡にいたるおそれがあります。
エンジンが始動している場合は、車両の周囲の雪を取り除くなどして下さい。

エアコンプレッサーの電源を ON にすると、振動して音が聞こえますが、故障ではありません。







6. エアコンプレッサーのエアホースをタイヤのバルブにきつく締め付ける。

7. エアコンプレッサーの電源コードのパワープラグを、アクセサリーソケットに差し込む。
▶ ドアや窓にコードをはさまないように注意してください。

8. パワーシステムを起動する。
▶ エアを注入しているときはパワーシステムを停止しないでください。

➡ **一酸化炭素について** P.64

9. セレクタースイッチを「AIR ONLY」にする。

10. エアコンプレッサーのインフレータースイッチを ON にする。
▶ エアコンプレッサーを起動すると、エアがタイヤに注入されます。

11. 指定空気圧になるまでエアの補充をする。

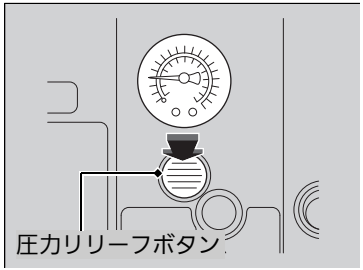
次ページに続く

タイヤ空気圧の補充

備え付けのコンプレッサーは、乗用車タイプの空気充填用です。取り扱いの際には、以下の点にご注意ください。

- エアコンプレッサーの電源は自動車用 12V 専用です。他の電源は使用しないでください。
- 使用中、エアコンプレッサーの表面が熱くなります。15 分以上は連続して使用しないでください。また、再使用する場合は、エアコンプレッサーが冷えてからお使いください。

タイヤの空気圧を空気圧計で確認するときは、エアコンプレッサーの電源を OFF にしてください。



12. エアコンプレッサーのインフレータースイッチを OFF にする。
▶ エアコンプレッサーの圧力計を確認してください。
▶ もし空気圧が高ければ、圧力リリーフボタンを押して減圧します。

13. エアコンプレッサーの電源コードのパワープラグを、アクセサリーソケットから外す。

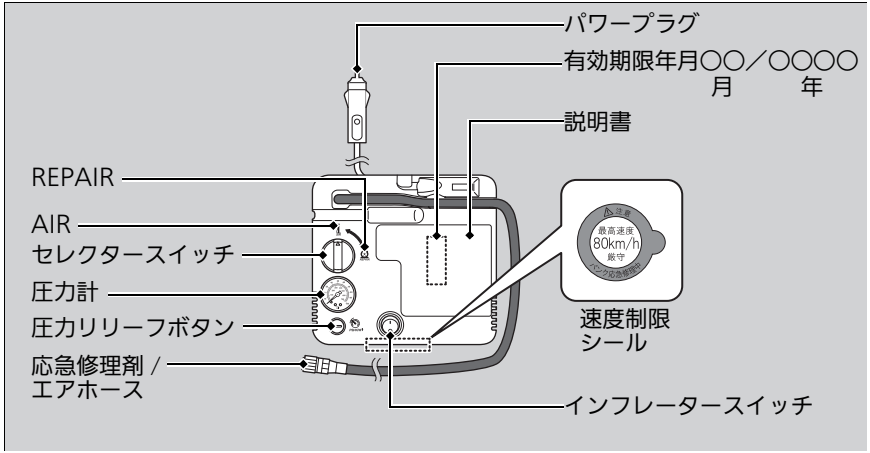
14. タイヤバルブからエアホースを外しバルブキャップを取り付ける。

15. 圧力リリーフボタンを押して圧力計が 0 kPa になるまで空気を抜く。

16. キットを車両に戻す。

ホース１本タイプ

■タイヤ応急修理の準備



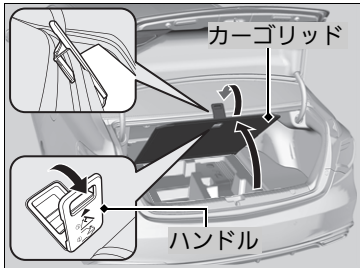
タイヤ応急修理の準備

アドバイス

車両に付属した応急修理剤以外を使用しないでください。他の修理剤を使用するとタイヤ空気圧センサーを破損するおそれがあります。

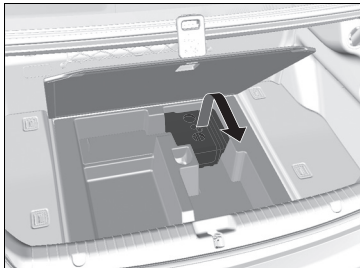
応急修理をスムーズに行うため、タイヤパンク応急修理キットに付属の説明書をお読みください。

次ページに続く



1. ハンドルを引き上げ、カーゴリッドを開ける。

2. ハンドルを図の位置にかける。



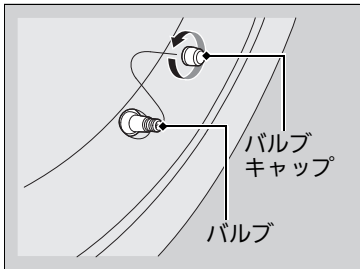
3. タイヤパンク応急修理キットを取り出す。

4. 交通から遠ざけ、パンクしたタイヤ付近にキットを水平に置く。

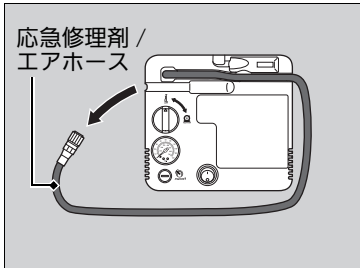
▶ キットの側面を立てて置かないでください。

ホース１本タイプ

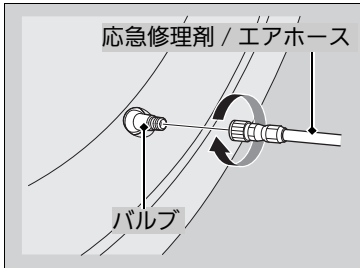
■応急修理剤とエアの注入



1. バルブからバルブキャップを取り外す。



2. 応急修理剤 / エアホースを応急修理キットから取り外す。



3. タイヤのバルブに応急修理剤 / エアホースをきつく締め付ける。

次ページに続く

≫応急修理剤とエアの注入

⚠警告

応急用修理剤は、飲用すると有害で、致命的になりうる物質を含んでいます。

誤って飲用した場合、

- できるだけたくさんの水を飲んでください。
- ただちに医師の診察を受けてください。

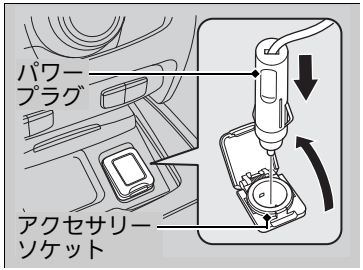
目に入ったり皮膚に付いた場合

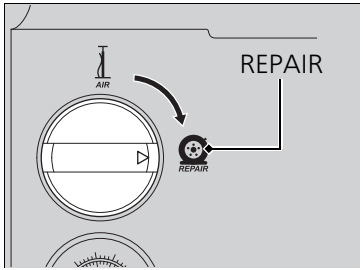
- 水でよく洗い流してください。
- 異常を感じたときはただちに医師の診察を受けてください。

お子さまが誤って手を触れないよう、保管、取り扱いに注意してください。

外気温が氷点下以下のときは応急修理剤は容易に流れないかもしれません。使用前に約5分間暖めてください。

応急修理剤が衣類などに付着すると、落ちないおそれがありますのでご注意ください。





4. エアコンプレッサーの電源コードのパワープラグを、アクセサリーソケットに差し込む。

▶ ドアや窓にコードをはさまないように注意してください。

5. パワーシステムを起動する。

▶ 応急修理剤 / エアを注入しているときはパワーシステムを停止しないでください。

➡ **一酸化炭素について** P.64

6. セレクタースイッチを「REPAIR」にする。

応急修理剤とエアの注入

⚠警告

一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業を避ける。

一酸化炭素は有毒です。一酸化炭素を吸い込むと意識不明になったり、死亡したりするおそれがあります。

密閉された場所での作業や、一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業はしないでください。

降雪時や積雪のある場所では、パワーシステムを起動したままにしない。

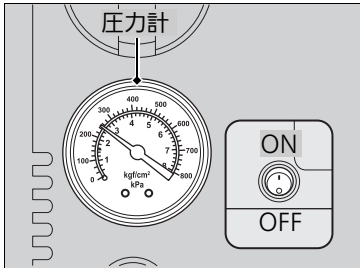
周囲に積もった雪により排気ガスが滞留し車内に入ってくると、重大な傷害や死亡にいたるおそれがあります。

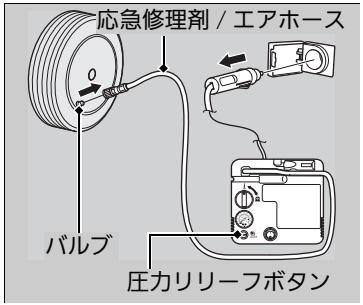
エンジンが始動している場合は、車両の周囲の雪を取り除くなどして下さい。

アドバイス

15分以上エアコンプレッサーを使用しないでください。

エアコンプレッサーは過熱し、破損するおそれがあります。





7. エアコンプレッサーのインフレータースイッチを ON にする。
▶ エアコンプレッサーはタイヤに応急修理剤とエアを注入し始めます。
▶ 応急修理剤の注入が完了すると、エアのみ注入されます。

8. 空気圧を 250 kPa まで高め、エアコンプレッサーのインフレータースイッチを OFF にする。

9. エアコンプレッサーの電源コードのパワープラグを、アクセサリーソケットから外す。

10. タイヤバルブから応急修理剤 / エアホースを外しバルブキャップを取り付ける。

11. 圧力リリーフボタンを押して、圧力計が 0 kPa になるまでエアを抜く。

次ページに続く

応急修理剤とエアの注入

アクセサリーパワーソケットは以下の 2 箇所にあります。
- コンソールコンパートメントの中
- フロントコンソール

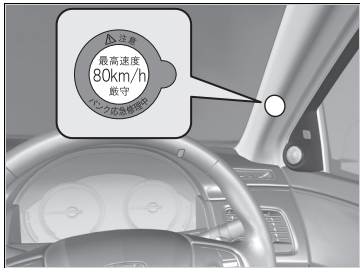
応急修理剤が注入されている間、圧力は一時的に高くなります。注入が完了すると圧力は落ちますが、再度上昇します。これは正常です。
正しい空気圧を測定するためには、応急修理剤が注入された後にエアコンプレッサーのインフレータースイッチを OFF にしてください。

10 分以内に指定空気圧にならないときは、応急修理剤による応急修理はできません。
Honda 販売店やロードサービスに連絡してください。

タイヤパンク応急修理剤の購入および空きボトルの適切な処分については Honda 販売店にお尋ねください。

ホース 1 本タイプ

■点検走行



1. 速度制限シールを、運転者のよく見える位置に貼る。

2. 点検走行を開始する。

▶ 法定速度を守ってください。高速道路では 80km/h 以下を厳守してください。

3. 10 分または 5km 走行したあと安全な場所に車を停める。

4. タイヤのバルブに応急修理剤 / エアホースをきつく締め付ける。

点検走行

⚠警告

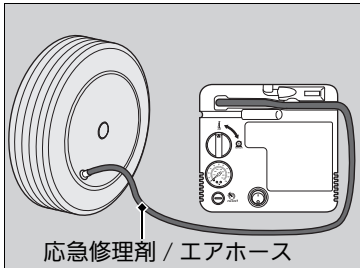
一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業を避ける。
一酸化炭素は有毒です。一酸化炭素を吸い込むと意識不明になったり、死亡したりするおそれがあります。
密閉された場所での作業や、一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業はしないでください。

降雪時や積雪のある場所では、パワーシステムを起動したままにしない。
周囲に積もった雪により排気ガスが滞留し車内に入ってくると、重大な傷害や死亡にいたるおそれがあります。
エンジンが始動している場合は、車両の周囲の雪を取り除くなどしてください。

⚠注意

ハンドルのパッドにシールを貼らない。
SRS エアバッグが正常に機能しなくなります。

警告灯やスピードメーターが見えない位置に貼らない。
安全運転の妨げとなります。



5. セレクタースイッチを「AIR」にする。

▶ エアコンプレッサーのインフレータースイッチを ON にしないでください。

6. エアコンプレッサーに付属の圧力計で空気圧を測定する。

7. 空気圧が 130 kPa 未満の場合：
応急修理剤では修理はできません。
運転を中止してHonda販売店またはロードサービスに連絡してください。

- 空気圧が 250 kPa の場合：
  応急修理は完了です。
- 空気圧が130 kPa以上、250 kPa以下の場合：
  エアコンプレッサーを使って指定空気圧まで高める。
  Honda 販売店または専門修理工場に到着するまで、ステップ 2 から 6 までを繰り返す。

▶ 高速道路では80km/h以下で、法定速度を守って指定の Honda 販売店または専門修理工場でタイヤの修理、交換を行ってください。

点検走行

走行前に、エアコンプレッサーなどの積み忘れがないか、しっかりと確認してください。

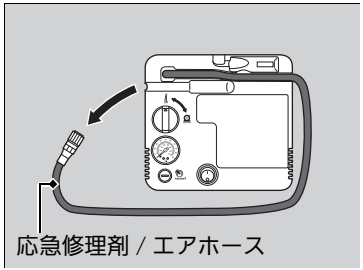
次ページに続く

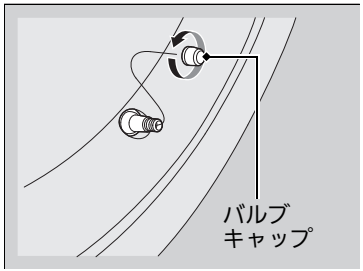
8. タイヤバルブから応急修理剤 / エアホースを外しバルブキャップを取り付ける。
9. 圧力リリーフボタンを押して、圧力計が 0 kPa になるまでエアを抜く。
10. キットを車両に戻す。

ホース１本タイプ

■タイヤ空気圧の補充

装備されているエアコンプレッサーを使用して、パンクしていないタイヤの空気圧を補充することができます。





1. カーゴリッドを開ける。
2. タイヤパンク応急修理キットを取り出す。
3. 交通から遠ざけ、空気を補充するタイヤ付近にキットを水平に置く。
   ▶ キットの側面を立てて置かないでください。
4. 応急修理剤 / エアホースをキットから取り外す。
5. バルブからバルブキャップを取り外す。

次ページに続く

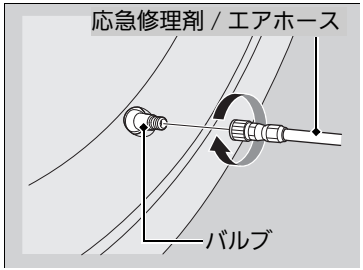
タイヤ空気圧の補充

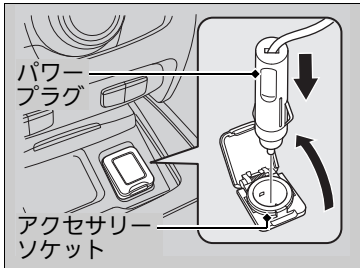
⚠警告

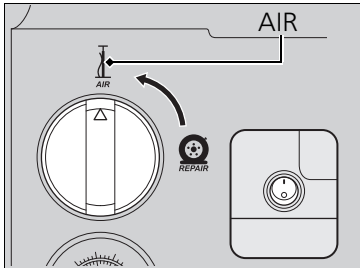
一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業を避ける。
一酸化炭素は有毒です。一酸化炭素を吸い込むと意識不明になったり、死亡したりするおそれがあります。
密閉された場所での作業や、一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業はしないでください。

降雪時や積雪のある場所では、パワーシステムを起動したままにしない。
周囲に積もった雪により排気ガスが滞留し車内に入ってくると、重大な傷害や死亡にいたるおそれがあります。
エンジンが始動している場合は、車両の周囲の雪を取り除くなどして下さい。

エアコンプレッサーの電源を ON にすると、振動して音が聞こえますが、故障ではありません。







6. エアコンプレッサーの応急修理剤 / エアホースをタイヤのバルブにきつく締め付ける。

7. エアコンプレッサーの電源コードのパワープラグを、アクセサリーソケットに差し込む。
▶ ドアや窓にコードをはさまないように注意してください。

8. パワーシステムを起動する。
▶ エアを注入しているときはパワーシステムを停止しないでください。

➔ **一酸化炭素について** P.64

9. セレクタースイッチを「AIR」にする。

10. エアコンプレッサーのインフレータースイッチを ON にする。
▶ エアコンプレッサーを起動すると、エアがタイヤに注入されます。

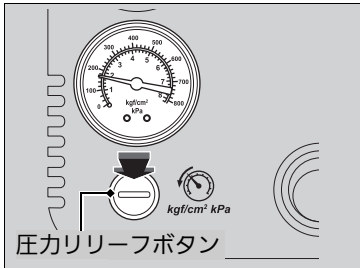
11. 指定空気圧になるまでエアの補充をする。

タイヤ空気圧の補充

備え付けのコンプレッサーは、乗用車タイプの空気充填用です。取り扱いの際には、以下の点にご注意ください。

- エアコンプレッサーの電源は自動車用　12V 専用です。他の電源は使用しないでください。
- 使用中、エアコンプレッサーの表面が熱くなります。15 分以上は連続して使用しないでください。また、再使用する場合は、エアコンプレッサーが冷えてからお使いください。

タイヤの空気圧を空気圧計で確認するときは、エアコンプレッサーの電源を OFF にしてください。



12. エアコンプレッサーのインフレータースイッチを OFF にする。
▶ エアコンプレッサーの圧力計を確認してください。
▶ もし空気圧が高ければ、圧力リリーフボタンを押して減圧します。

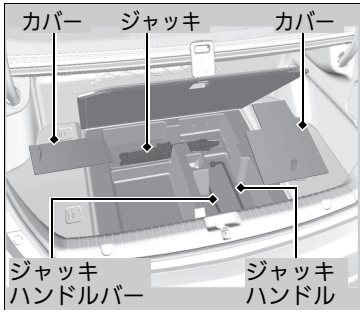
13. エアコンプレッサーの電源コードのパワープラグを、アクセサリーソケットから外す。

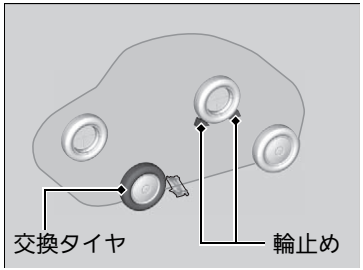
14. タイヤバルブから応急修理剤 / エアホースを外しバルブキャップを取り付ける。

15. 圧力リリーフボタンを押して圧力計が 0 kPa になるまで空気を抜く。

16. キットを車両に戻す。

ジャッキのかけかた





1. 地面が固く、滑らない、水平なところに車を停める。
2. シフトポジションを P にする。
3. パーキングブレーキをかける。
4. パワーモードを OFF モードにする。
5. カーゴリッドを開けてカバーを外し、ジャッキ、ジャッキハンドルバー、ジャッキハンドルを取り出す。
6. 交換するタイヤの対角線上にあるタイヤの前後に、石などで輪止めをする。
7. 交換するタイヤに最も近いジャッキポイントの下にジャッキを置く。

ジャッキのかけかた

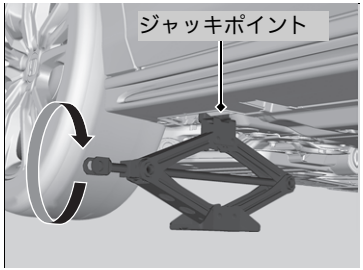
⚠警告

車がジャッキだけで支えられているときは、車の下に入らない。
車がジャッキから外れて、車の下にいる人が重大な傷害を負うおそれがあります。

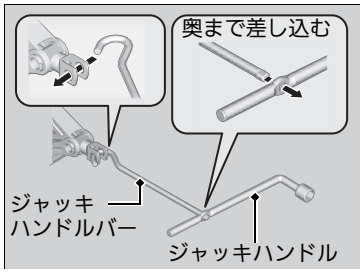
⚠注意

ジャッキを使うときは安全のため、次のことを必ず守る。
- パワーシステムを起動したままにしない
- 地面が固い平らなところ以外では使用しない
- ジャッキポイント以外にかけない
- 人や荷物を乗せたままにしない
- ジャッキ使用中に車内に入らない
- ジャッキの上や下に物を入れたりしない

この車に搭載されているジャッキをお使いください。
他のジャッキでは支えられる重量(呼荷重)が不足したり、形状が合わないことがあります。



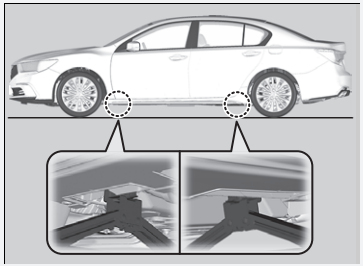
8. ジャッキの上部がジャッキポイントに接触するまで図の部分を矢印の方向に回す。
▶ ジャッキの溝にジャッキポイントがはまったことを確認します。



9. ジャッキハンドルとジャッキハンドルバーを使って、タイヤが地面から離れるまで車体を上げる。

ジャッキのかけかた

ジャッキポイントは、下記の通りです。



パワーシステムの確認

READY 表示灯が点灯せず、「READY TO DRIVE」がマルチインフォメーションディスプレイに表示されない場合、以下のことが考えられます。項目を確認し、適切な処置を行ってください。

パワーシステムの確認

すぐに車を動かす必要がある場合は、ブースターバッテリーを利用してジャンプスタートさせます。

ジャンプスタートの方法 P.420

項目	状況	対処のしかた
関連した警告灯か警告メッセージが表示されるかどうかを確認する	「外気温が低いために起動できません」と表示される	**マルチインフォメーションディスプレイのメッセージ** P.83
	「キーでスイッチに触れて下さい」と表示される ▶ Honda スマートキーの作動範囲を確認します。 **POWER スイッチの作動範囲** P.146	**Honda スマートキーの電池が切れたとき** P.418
	パワーシステム警告灯が点灯する	Honda 販売店で点検を受けてください。
	トランスミッション警告灯が点滅し、「トランスミッション点検 停車時はパーキングブレーキを確実にかけて下さい」のメッセージが表示されているとき	応急的にパワーシステムを起動できる場合があります。 **トランスミッション警告灯が点滅しメッセージが表示した** P.431
室内灯の明るさを確認する	室内灯などが非常に暗い、または全く点灯しない場合	Honda 販売店で 12V バッテリーの点検を受けてください。
	室内灯などの明るさに問題がない場合	全てのヒューズを確認するか、Honda 販売店で点検を受けてください。 **ヒューズの点検と交換** P.439
シフトポジションを確認する	P 以外のシフトポジションが選択されている	シフトポジションを P にしてください。

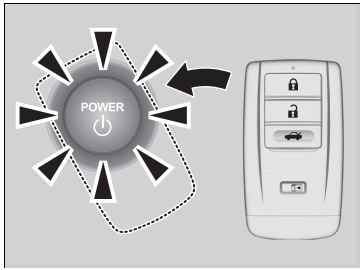
項目	状況	対処のしかた
イモビライザーシステム表示灯を確認する	イモビライザーシステム表示灯が点滅しているときは、パワーシステムの起動ができません。	➔ **イモビライザーシステム** P.138 ➔ **イモビライザーシステム表示灯** P.80

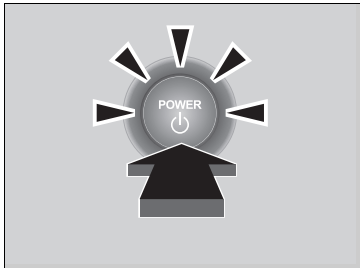
以上の確認をしてもパワーシステムが起動しない場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。

Honda スマートキーの電池が切れたとき

ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに「キーでスイッチに触れて下さい」とメッセージが表示されるか、 POWER が点滅しているときは、READY 表示灯が点灯しません。

以下の手順でパワーシステムを起動してください。





1. POWER を押す。
▶「ピーピーピーピーピーピー」とブザーが鳴り、 POWER が約 30 秒間点滅します。

2. POWER が点滅している間に、Honda スマートキーのHondaエンブレムをスイッチに接触させる。
▶「ピッ」とブザーが鳴り、 POWER が約 10 秒間点灯します。

3. POWER が点灯している間に、右足でブレーキペダルを踏みながら、 POWER を押す。
▶ ブレーキペダルを踏んでいないときは、アクセサリーモードになります。

緊急時のパワーシステム停止方法

POWER スイッチは走行中、緊急事態の場合にパワーシステムを停止するために使用することができます。
パワーシステムを停止しなければならない場合は、次のいずれかを行ってください：

- POWER を約 2 秒以上押す
- POWER を 3 回連続して押す

このときハンドルはロックしません。

パワーシステムが停止すると、パワーモードはアクセサリーモードになります。
車が停止すると、自動的にシフトポジションが P になり、パワーモードが OFF モードになります。

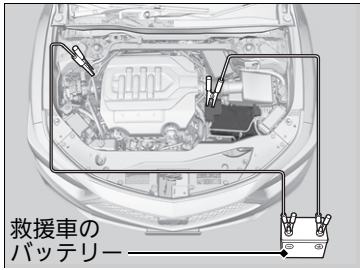
緊急時のパワーシステム停止方法

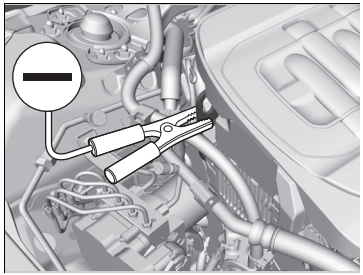
緊急時など必要な場合以外は、走行中に POWER を押さないでください。

ジャンプスタートの方法

■処置のしかた

まず、ボンネットを開け、12V バッテリーの状態を確認します。バッテリー液が凍っている場合はバッテリー液が溶けるまでジャンプスタートはできません。
次に、オーディオやライトなどの電源を OFF にしてください。
ブースターケーブルのクリップは、エンジンの振動などで外れないように確実に固定してください。また、ケーブルの巻き込みに注意してください。





1. 自車と救援車のパワーモードを OFF モードにする。
2. ブースターケーブルを、自車の12Vバッテリーの ⊕ 端子に接続する。
3. ケーブルの反対側を、救援車のバッテリーの ⊕ 端子に接続する。
   ▶ 救援車には、12V のバッテリーを装着している車を使用してください。
   ▶ 自動車用充電器を使用する場合は、電圧を 15V 以下に設定してください。
4. もう1本のブースターケーブルを、救援車のバッテリーの ⊖ 端子に接続する。
5. ケーブルの反対側を、自車のエンジンハンガーに接続する。
6. 救援車のエンジンを始動し、回転数を少し高めにする。
7. 自車のパワーシステムを起動する。

≫ジャンプスタートの方法

⚠警告

ジャンプスタートは、正しい手順で慎重に行う。
ジャンプスタートの操作を間違えると、12V バッテリーが爆発し、重大な傷害を受けるおそれがあります。
タバコの火、火花、炎を 12V バッテリーから遠ざけ、正しい手順で行ってください。

アドバイス

気温が極端に低い場所に 12V バッテリーを長時間にわたって置くと、内部のバッテリー液が凍結するおそれがあります。
バッテリー液が凍結した 12V バッテリーでジャンプスタートすると、12V バッテリーが壊れることがあります。

寒冷時は、12V バッテリーの性能が低下します。
エンジン始動に支障をきたすことがありますので、液量、比重の確認をし、必要に応じて液の補給や補充電をしてください。

ジャンプスタートの方法

金属どうしがきちんと接続されているか確認してください。

ケーブルをエンジンハンガー以外に接続しないでください。

バッテリー液が不足しているときは、使用しないでください。

12V バッテリー内部の劣化が進むおそれがあります。

次ページに続く

■システム起動後の作業

自車のパワーシステムが起動したら、下記の手順でブースターケーブルを取り外します。

1. 自車のエンジンハンガーからケーブルを外す。
2. ケーブルの反対側を、救援車のバッテリーの ⊖ 端子から外す。
3. 自車の 12V バッテリーの ⊕ 端子からケーブルを外す。
4. ケーブルの反対側を、救援車のバッテリーの ⊕ 端子から外す。
5. 12V バッテリーの電圧が回復するまでアイドリングしてください。
- ▶ READY 表示灯が点灯すれば走行可能です。
- ▶ ブレーキ、ブレーキシステム、ABS、VSA の警告灯が点灯し消灯しない場合は、パワーシステムを OFF にして、再度、自車のパワーシステムを起動してください。警告灯が消灯しない場合は、異常が考えられますので、Honda 販売店で点検してください。
- ▶ パワーシステムが起動しないときは、ジャンプスタートを繰り返してください。

Honda 販売店や最寄りのガソリンスタンドなどで点検を受けてください。

システム起動後の作業

⚠警告

12V バッテリーを扱うときは、火気を近づけない。
12V バッテリーから発生する可燃性のガスに引火すると、12V バッテリーが爆発し、重大な傷害を受けたり死亡したりするおそれがあります。
12V バッテリーを扱うときは、保護衣・保護面を着用するか、Honda 販売店で 12V バッテリーのメンテナンスを受けてください。

バッテリー液の取り扱いに注意する。
バッテリー液は希硫酸です。目や皮ふに付くとその部分が侵されますので十分注意してください。
- 万一、付着したときはすぐに多量の水で少なくとも 5 分間以上洗浄する
- 飲み込んだときはすぐに多量の飲料水を飲む

応急処置後は、専門医の診察を受けてください。

ブースターケーブルの端子どうしが接触しないよう注意してください。

オーバーヒートしたときの対処方法

次のようなときは、オーバーヒートです。

- 高水温警告灯が点灯したり、エンジンの力が急に落ちる
- マルチインフォメーションディスプレイに「エンジン冷却水高温」と表示される
- エンジンルームから蒸気が立ちのぼっている

■最初にすること

1. ただちに車を安全な場所に停める。
▶ パーキングスイッチを押し、パーキングブレーキをかけます。

2. すべてのアクセサリーの電源を切り、非常点滅表示灯を点滅させます。
蒸気が出ていない場合：パワーシステムを起動させたままボンネットを開ける。
蒸気が出ている場合：パワーシステムを停止させ、蒸気が出なくなってからボンネットを開ける。

次ページに続く

⚠警告

蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けない。
ラジエーターから噴き出る蒸気や熱湯に触れると、重大な傷害を受けるおそれがあります。

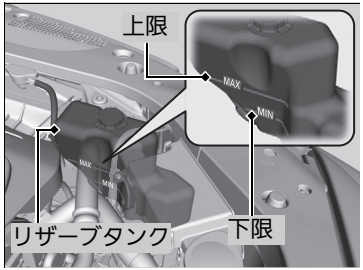
エンジンが熱いうちにラジエーターキャップを外さない。
冷却水が噴き出し、重大な傷害を受けるおそれがあります。必ずラジエーターが十分に冷えてからキャップを外してください。

アドバイス

高水温警告灯が点灯、またはマルチインフォメーションディスプレイに「エンジン冷却水高温」とメッセージが表示された状態で運転すると、エンジンを著しく損傷するおそれがあります。

冷却水がもれている場合は、Honda 販売店に修理を依頼してください。

■次にすること



1. 冷却ファンの作動を確認し、高水温警告灯が消灯し、マルチインフォメーションディスプレイに「エンジン冷却水高温」のメッセージが表示されなくなったらパワーシステムを停止させる。
▶ 冷却ファンが作動していない場合は、すぐにパワーシステムを停止します。

2. エンジンが冷えてから冷却水量、ホースなどからの水漏れを点検する。
▶ 冷却水量が不足していたら、ラジエーターとリザーブタンクに冷却水を補給します。冷却水がない場合は、応急的に水を補給します。

■最後にすること

- 十分にエンジンが冷えたら、パワーシステムを起動し高水温警告灯と、マルチインフォメーションディスプレイの表示を確認する。警告灯が消灯し、「エンジン冷却水高温」のメッセージが消えた場合は運転を再開します。消えない場合は、Honda 販売店に修理を依頼します。

油圧警告灯が点灯した

■点灯の理由

エンジン内部を潤滑しているオイルの油圧が低下すると点灯します。

■点灯したらすぐにすること

1. ただちに車を水平で安全な場所に停車する。
2. 非常点滅表示灯を点滅させる。

■車を停車してからすること

1. パワーシステムを停止し、3 分間ほど放置する。
2. ボンネットを開け、エンジンオイルの量を確認する。
▶ 必要に応じて、エンジンオイルを補給してください。
3. エンジンを始動し、油圧警告灯を確認する。
▶ **消灯した：**運転を再開してください。
▶ **10 秒以内に消灯しない：**パワーシステムを停止して、ただちに Honda 販売店に修理を依頼してください。

12V バッテリー充電警告灯が点灯した

■点灯の理由

12V バッテリーが充電されていないと点灯します。

■点灯したらすること

電気の消費を減らすため、エアコン、リヤデフロスターなどを OFF にして、ただちに Honda 販売店に修理を依頼してください。

油圧警告灯が点灯した

アドバイス

油圧が低い状態でエンジンを回転させると、エンジンが破損するおそれがあります。

12V バッテリー充電警告灯が点灯した

一時的に停車する場合は、パワーシステムを停止させないでください。
パワーシステムの起動は、12V バッテリーを使用しますので、再起動できなくなるおそれがあります。

外気温－ 30 ℃以下でパワーシステムを起動すると警告灯が点灯することがあります。高電圧バッテリーの温度が上がると消灯します。

PGM-FI 警告灯が点灯 / 点滅した

■点灯 / 点滅の理由

- エンジンの排気ガス制御システムが異常のとき点灯します。
- エンジン各気筒の失火状態を検知したときに点滅します。

■点灯したときは

高速走行を避けて、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

■点滅したときは

枯草などの可燃物のない安全な場所に停車し、10 分以上エンジンを停止して冷えるまでお待ちください。

PGM-FI 警告灯が点灯 / 点滅した

アドバイス

点灯したときは

PGM-FI 警告灯が点灯したまま運転すると、排気ガス制御システムとエンジンを損傷する場合があります。

点滅したときは

エンジン再始動後再び点滅するときは、50km/h 以下の速度で最寄りの Honda 販売店まで走行し点検を受けてください。

ブレーキ警告灯(レッド)が点灯した

■点灯の理由

- ブレーキフルードが減っているときに点灯します。
- ブレーキ配分機能が異常のときに点灯します。

■走行中に点灯したらすること

- ブレーキペダルを軽く踏んで、ペダルの圧力を確認する。
- ブレーキフルード量を確認する。

ブレーキ警告灯(レッド)が点灯した

ただちに、Honda 販売店に修理を依頼してください。
ブレーキフルードが減っている状態で運転することは危険です。

ブレーキペダルに抵抗がない場合は、ただちに安全な場所に車を停めてください。必要に応じて、ギヤを落とします。
ABS 警告灯と同時に点灯した場合は、急ブレーキ時に車両が不安定になる可能性があります。高速走行や急ブレーキを避けてください。ただちに、Honda 販売店に修理を依頼してください。

ブレーキシステム警告灯(オレンジ)と同時に点灯した場合は、ただちに安全な場所に停車し、Honda 販売店で点検を受けてください。

EPS（電動パワーステアリング）システム警告灯が点灯した

■点灯の理由

- EPS が異常のときに点灯します。
- 停車中にエンジンの空ぶかしを行うと点灯し、ハンドルが重くなる場合があります。

■点灯したらすること

- 安全な場所に停車し、パワーシステムを再起動する

その後も走行中に点灯する場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

電子制御パーキングブレーキシステム警告灯が点灯した

■点灯の理由

電子制御パーキングブレーキが異常のときに点灯します。

■点灯したときは

パーキングブレーキを使用せずに、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

■電子制御パーキングブレーキ作動警告灯の点灯または、点滅と同時に点灯したときは

手動または自動でパーキングブレーキを解除してください。パーキングブレーキが解除しないときは、ただちに安全な場所に停車して、Honda 販売店へご連絡ください。

電子制御パーキングブレーキ作動警告灯だけが消灯したときは、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

パーキングブレーキを解除しても、電子制御パーキングブレーキ作動警告灯が一緒に点灯または、点滅し続けているときは、ただちに安全な場所に停車して、Honda 販売店へご連絡ください。

タイヤ空気圧警報システム警告灯が点灯 / 点滅した

■点灯 / 点滅の理由

タイヤの空気圧が著しく低いときに点灯します。タイヤ空気圧警報システムに異常があるときに約 1 分間点滅したあと、点灯します。

■点灯したらすること

- 安全な場所に停車します。タイヤの空気圧を点検し、指定空気圧までエアを注入します。
- タイヤの指定空気圧は、巻末の資料を参照してください。

➡ **仕様** P.445

■点滅のあと点灯したらすること

ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

タイヤ空気圧警報システム警告灯が点灯 / 点滅した

アドバイス

タイヤの空気圧が低い状態で走行するとタイヤが過熱する場合があります。過熱した状態で走行を続けるとタイヤが損傷することがあります。タイヤは常に適正空気圧を保つようにしてください。

指定空気圧は、運転席横の車体に貼ってあるラベルにも記載されています。
この取扱説明書が手元にない場合は、車のラベルをご覧ください。

トランスミッション警告灯が点滅しメッセージが表示した

■点滅の理由

トランスミッションが故障すると表示します。

■点滅したらすること

- ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。
- パワーシステムを起動したときは、シフトポジションを N にします。
  ▶ 表示灯の N が点灯 / 点滅しているのを確認してください。
  ▶ パーキングブレーキがかかっていないと起動しません。
  ➔ **パワーシステムの起動** P.210

トランスミッション警告灯が点滅しメッセージが表示した

システムを起動できないことがあります。

停車するときは、確実にパーキングブレーキをかけてください。

走行できないときは、専門業者に連絡してください。

➔ **非常時のけん引** P.440

ヒューズの設置場所

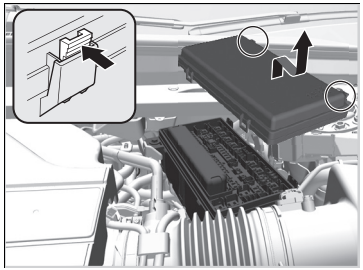
電気装置が作動しない場合、パワーモードをOFFモード にして、ヒューズが切れていないか確認します。ヒューズは、エンジンルームと室内のヒューズボックスに入っています。

■エンジンルーム内のヒューズボックス

■ヒューズボックス A

エンジンルーム内には 4 つのヒューズボックスがあります。
ヒューズボックスのフタに、ヒューズの場所が表示してあります。
ヒューズ番号とフタの表示で、該当するヒューズの位置を確認してください。

エンジンルーム内の助手席側に付いているエアクリーナーケースの後ろにあります。タブを押して開けてください。



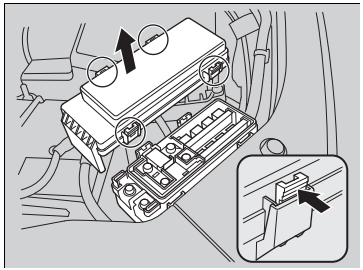
■各ヒューズの装備と容量

	表示	装備	容量
1		オルタネーター	15A
2		ミッション ソレノイド 1	10A
3	—	—	—
4	—	—	—
5	—	—	—
6		IG1 ECU FR	7.5A
7		IG1 OP	7.5A
8		IGP2	15A
9		ドライブバイ ワイヤー	15A
10		IGP	15A
11		イグニッション コイル	15A
12		ACM	20A
13		アクセサリー ライト	7.5A
14		室内灯	10A
15		ラジオバックアップ	10A
16		バックアップ	10A
17		AFP	10A

	表示	装備	容量
18		フロント ウォッシャー	15A
19		制動灯	7.5A
20	R	右側ヘッドライト ハイビーム	10A
21		トランク	10A
22		車幅灯	15A
23		フォグライト	7.5A
24	L	左側ヘッドライト ハイビーム	10A
25		IMA MTR	15A
26	R	右側ヘッドライト ロービーム	15A
27	L	左側ヘッドライト ロービーム	15A
28		IGP2 Sub	7.5A
29		リヤサンシェード	20A
30		フロントデアイサー	20A
31		ワイパー	30A

■ヒューズボックス B

エンジンルーム内の助手席側に付いている、12V バッテリーの隣にあります。タブを押して開けてください。



■各ヒューズの装備と容量

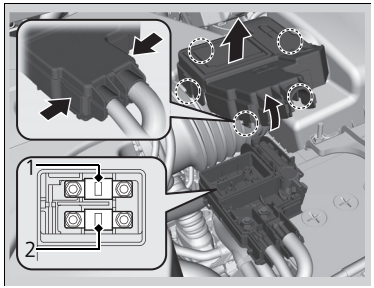
	表示	装備	容量
1		メインヒューズ	200A
2		パワートランク	40A
		リヤデフロスター	40A
		運転席側ヒューズボックスメイン 1	60A
		助手席側ヒューズボックスメイン 1	60A
		リレーボックスメイン 3	50A
		助手席側ヒューズボックスメイン 2	60A
		ABS/VSA リレー	30A
		ヒーターモーター	40A

次ページに続く

	表示	装備	容量
3		リレーボックス メイン 1	60A
		ESB	40A
		イグニッション メイン	60A
		運転席側ヒューズ ボックスメイン 2	60A
		シフトバイワイヤー	60A
		リレーボックス メイン 2	60A
		ホーン / 非常点滅表示灯	20A
		ABS/VSA モーター	40A
4		EOP	30A
5		左側電子制御 パーキングブレーキ	30A
6		右側電子制御 パーキングブレーキ	30A
7		インジェクター	20A
8		非常点滅表示灯	15A
9		IGA2 MONI	7.5A
10	—	—	—
11		ホーン	10A

■ヒューズボックス C

エンジンルーム内の助手席側に付いている、12Vバッテリーの⊕端子の隣にあります。タブを押して開けてください。

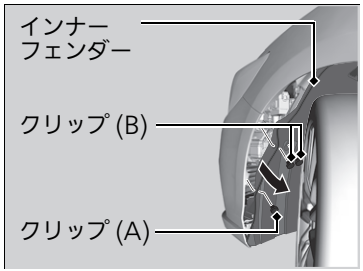


■各ヒューズの装備と容量

	表示	装備	容量
1		ラジエーターファン	50A
2		EPS	80A

■ヒューズボックス D

車体左側のフロントバンパー裏にあります。
以下の手順を参照し、ヒューズボックスを取り外してください。

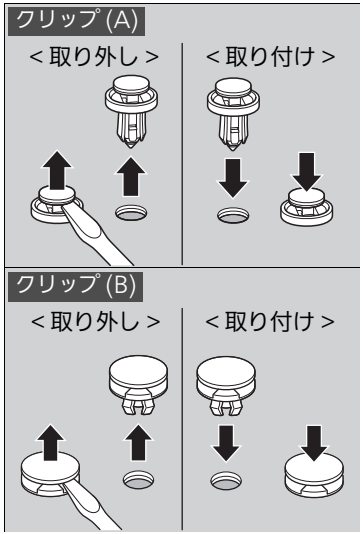


1. 右にハンドルをいっぱいに切る。

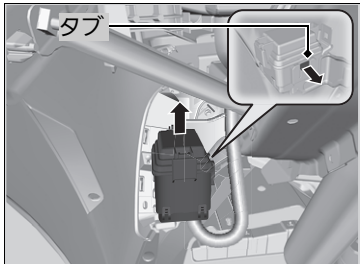
2. クリップの切り欠き部にマイナスドライバーを差し込み、中央部のピンを起こしクリップ(A)とクリップ(B)を取り外す。

▶ ヒューズを確認した後、クリップを取り付けてください。

▶ クリップを取り付けるときは、中央部のピンを起こしたまま差し込み、平らになるまで押してください。

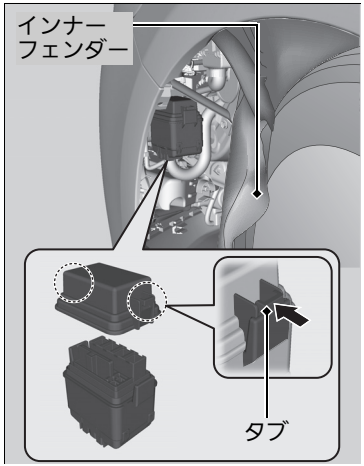


3. インナーフェンダーをめくる。



4. タブを引き、ヒューズボックスを取り外す。

5. ヒューズボックスをインナーフェンダーから手前に引き出し、タブを押してカバーを開ける。



■各ヒューズの装備と容量

	表示	装備	容量
1		TDU HC 1	20A
2		TDU GA 1	30A
3		TDU HC 2	20A
4		チルト / テレスコ 1	20A
5	—	—	—
6	—	—	—

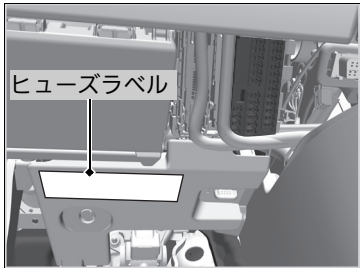
次ページに続く

■室内運転席側のヒューズボックス

運転席側には 2 つのヒューズボックスがあります。

■ヒューズボックス A

ダッシュボードの下にあります。



アンダーパネルに貼ってあるラベルに、ヒューズの場所が表示してあります。
ヒューズ番号とラベルの番号で、該当するヒューズの位置を確認してください。

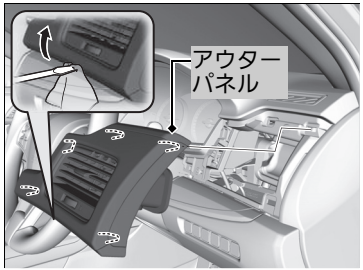
■各ヒューズの装備と容量

	表示	装備	容量
1	L SIDE	助手席側ドアロック	10A
2	R SIDE	運転席側ドアロック	10A
3	—	—	—
4	L SIDE	助手席側ドアアンロック	10A
5	R SIDE	運転席側ドアアンロック	10A
6	—	—	—
7	MAIN	ドアロック	20A
8	—	—	—
9		ハイブリッドシステム 1	10A
10		IG1 DR1	7.5A
11		IG1 Meter	10A
12		IG1 Box	20A
13		ACC	7.5A
14	—	—	—
15	DR	運転席パワーシート（前後スライド）	20A
16		サンルーフ	20A
17	RR DR	後席運転席側パワーウィンドー	20A
18		チルト / テレスコ 2	20A
19	DR	運転席側パワーウィンドー	20A
20		ハイブリッドシステム 2	15A
21		フューエルポンプ	20A
22		IG1 D/V	7.5A
23		スターターカット	7.5A
24		IG1 DR2	7.5A
25		Start DIAG	7.5A
26		エアコン	7.5A
27		アクセサリーライト	7.5A
28		ACC	7.5A
29	DR	運転席ランバーサポート	7.5A
30		Honda スマートキーシステム	10A
31	—	—	—
32	DR	運転席パワーシート（リクライニング）	20A
33		オーディオアンプ	40A
34		IG1 Box	30A

■ヒューズボックス B

運転席側アウターパネルの中にあります。

次の手順を参照し、アウターパネルを取り外してください。

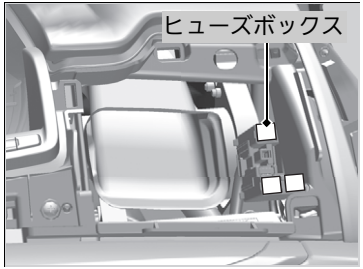


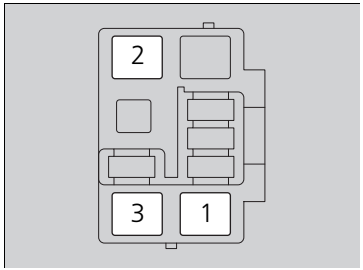
1. ⊖ ドライバーを使用し、アウターパネルの下端部を外す。

▶ 部品が傷付かないよう、ドライバーに布などを巻き付けてください。

2. アウターパネルを手前に引いて取り外す。

下図を参照し、該当するヒューズの位置を確認してください。





■各ヒューズの装備と容量

	装備	容量
1	イグニッションメイン 1	30A
2	スターターマグネチックスイッチ	30A
3	イグニッションメイン 2	30A

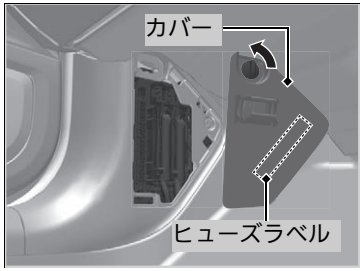
次ページに続く

■室内助手席側のヒューズボックス

助手席側ロアーサイドパネルにあります。

1. カバーから発炎筒を外し、ノブを左に回してロックを解除する。

2. カバーを手前に引いて取り外す。

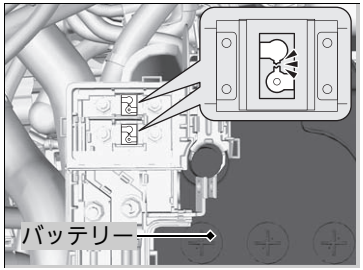


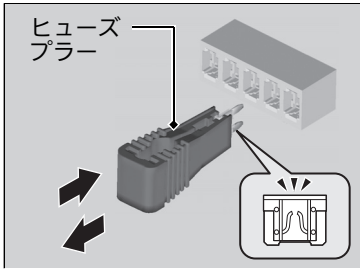
カバーに貼ってあるラベルに、ヒューズの場所が表示してあります。
ヒューズ番号とラベルの番号で、該当するヒューズの位置を確認してください。

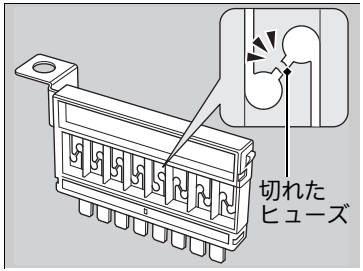
■各ヒューズの装備と容量

	表示	装備	容量
1	—	—	—
2	FR	フロントシートヒーター/AVS	20A
3	RR AS	後席助手席側パワーウィンドー	20A
4	AS	助手席ランバーサポート	7.5A
5		リヤアームレスト	7.5A
6		エアコンウォーターポンプ	10A
7	AS	助手席パワーシート（前後スライド）	20A
8	AS	助手席パワーシート（リクライニング）	20A
9	RR	リヤシートヒーター	20A
10		パワートランククローザー	20A
11		Fly Start	15A
12		アクセサリーソケット（センターコンソール内）	20A
13		アクセサリーソケット（センターポケット内）	20A
14		AS ECU	7.5A
15		グローブボックス	7.5A
16	—	—	—
17	—	—	—
18	AS	助手席側パワーウィンドー	20A
19		SRS エアバッグ	10A
20		ABS/VSA	7.5A
21		IG1 MONI	7.5A
22		E-プリテンショナー	7.5A
23	—	—	—
24	—	—	—
25	INTR	室内イルミネーション	7.5A
26		運転席側E-プリテンショナー	20A
27		ステアリングヒーター	10A
28		助手席側E-プリテンショナー	20A

ヒューズの点検と交換







1. パワーモードを OFF モードにし、ヘッドライトとすべてのアクセサリーを OFF にする。

2. ヒューズボックスのフタを取り外す。

3. エンジンルーム内の大きいヒューズを点検する。

▶ 切れているヒューズがあったら、プラスドライバーでネジを外し、新しいものと交換してください。

4. エンジンルーム内と、室内の小さいヒューズを点検する。

▶ 切れているヒューズがあったら、ヒューズプラーで引き抜き、新しいものと交換してください。

ヒューズの設置場所

アドバイス

規定容量より大きいヒューズに交換すると、電気系統を損傷する危険性が高くなります。交換したあと、すぐにヒューズが切れるような場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。

ヒューズは同じ規定容量のヒューズと交換してください。

規定容量はヒューズの設置場所に記載している一覧で確認してください。

➡ **各ヒューズの装備と容量** P.432、436

エンジンルーム内のヒューズボックスAには、中にヒューズプラーがついています。

ヒューズプラーは、切れている小さいヒューズを引き抜くときに使います。

非常時のけん引

けん引するときは、Honda 販売店にご連絡ください。

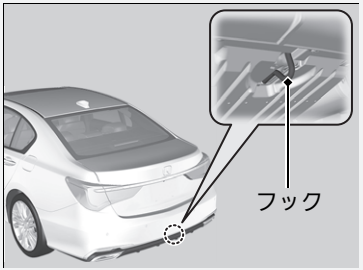
けん引は、専門業者に依頼して四輪を持ち上げて行ってください。

≫非常時のけん引

アドバイス

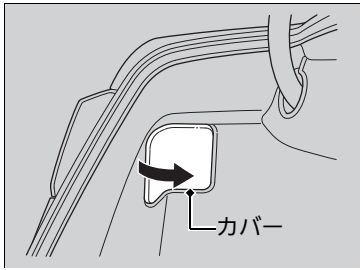
バンパーで車を持ち上げたり、けん引すると、バンパーがいちじるしく損傷します。
バンパーは車の重量を支えるようにはできていません。

車両後方についているフックを他車のけん引や緊急時の脱出に使用することはできません。
フックが破損するおそれがあります。後方からけん引する必要がある場合は、Honda 販売店やロードサービスに連絡してください。

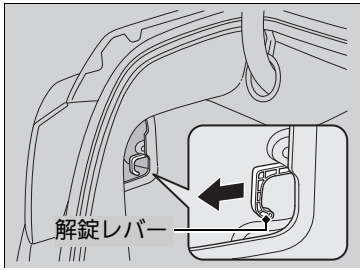


■解錠できないときの対処方法

万一、フューエルリッドが解錠できなくなったときは、応急処置として次の方法で解錠してください。



1. トランクを開け、左側面にあるカバーを開ける。



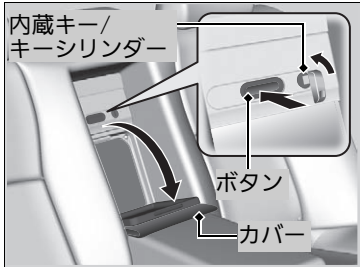
2. 解錠レバーを図の方向に引く。
▶ 解錠レバーを引くとフューエルリッドが開きます。

解錠できないときの対処方法

応急処置後は、Honda 販売店で点検を受けてください。

■開かないときの対処方法

万一、トランクを開けることができなくなったときは、応急処置として次の方法で開けてください。



1. リヤシートのアームレストを引き下げる。

2. 内蔵キーをキーシリンダーに差し込み、キーを左に回して解錠する。

3. ボタンを押し、カバーを開ける。

4. 仕切りを引き上げ、トランク解錠ハンドルを矢印の方向に引き下げる。

▶ トランクが開きます。

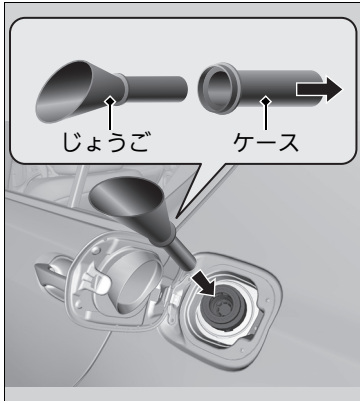
▶ カバーを閉めるときは、カバーが確実にロックされるまで押し込み、キーを右に回して施錠してください。

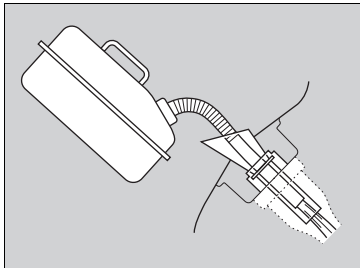
≫開かないときの対処方法

応急処置後は、Honda 販売店で点検を受けてください。

携行缶から給油するとき

携行缶を使って給油をするときは、車載のじょうごを使用してください。





1. パワーシステムを停止する。

2. 運転席ドアにあるフューエルリッドオープナーを押す。

▶ フューエルリッドが開きます。

3. 工具ケースから、じょうごを取り出す。

➡ **工具の種類** P.390

4. じょうごをケースから取り外す。

5. 図のようにじょうごを給油口へ差し込む。

▶ じょうごの先端が給油口の奥までしっかりと差し込まれていることを確認してください。

6. 携行缶から燃料を補給する。

▶ まわりにこぼさないように注意して補給してください。

7. 給油が終わったらじょうごを給油口から引き抜く。

▶ じょうごに付いた燃料はしっかり拭き取ってください。

8. フューエルリッドを手で閉める。

携行缶から給油するとき

⚠警告

燃料補給時は火気厳禁。

燃料や燃料蒸気は引火しやすいため火災や爆発のおそれがあります。燃料を扱っているときは下記の項目を厳守してください。

- エンジンは停止させる
- 炎、火花を近づけない
- たばこを吸わない
- 燃料の取り扱いは屋外で行う
- こぼれた燃料はすみやかに拭き取る

アドバイス

車載のじょうご以外を使用して給油しないでください。給油口を損傷することがあります。

工具などを使用して給油口やシールをこじ開けたり押し開けたりしないでください。

給油口やシールを損傷することがあります。

給油するときは、携行缶の中身がガソリンであることを確認してください。

資料

この章には、仕様に関する情報が記載されています。

仕様 445

■仕様

名称	LEGEND
排気量	3,471 cm^3
車体形状	4 ドアセダン
乗車定員	5 名

■調節

点火プラグ	NGK	DILZKR7B11G

点火プラグは、イリジウムプラグを使用しています。
・交換時期は「メンテナンスノート」をご覧ください。

■確認

ブレーキペダル	遊び	1-5mm
	床板とのすき間	136mm 以上 { 約 196N(20kgf)の力 }
	カーペットとのすき間(参考値)	118mm 以上 { 約 196N(20kgf)の力 }

■燃料

燃料種類	無鉛プレミアムガソリン プレミアムバイオ混合ガソリン (E10/ETBE22)
燃料タンク容量	57 ℓ

■エアクリーナーエレメント

タイプ	湿式

■ 12V バッテリー

容量 / タイプ	55Ah(5)/80D26L

■ウォッシャー液

タンク容量	2.5 ℓ

■電球

ヘッドライト(ロービーム)	LED
ヘッドライト(ハイビーム)	LED
アクセサリーライト	LED
フロントサイドマーカーライト	LED
フォグライト	LED
前面方向指示器 / 前面非常点滅表示灯	LED
車幅灯	LED
側面方向指示器 / 側面非常点滅表示灯	LED
尾灯 / 制動灯	LED
後面方向指示器 / 後面非常点滅表示灯	LED
後部側方灯	LED
尾灯	LED
後退灯	LED
ハイマウントストップランプ	LED
番号灯	LED
トランク照明灯	LED
前席室内灯 / 前席マップランプ	LED
後席室内灯 / 後席マップランプ	LED
アンビエントランプ	LED
バニティミラー照明灯	12V-1.4W
ドアポケットランプ	LED
センターポケットランプ	LED
ドリンクホルダーランプ	LED
ドア開閉灯	LED
コンソールボックスランプ	LED
グローブボックス照明灯	LED
前席 / 後席フットランプ	LED
車内ドアハンドルランプ	LED
車外ドアハンドルランプ	LED
コインポケットランプ	LED
スマートウェルカムランプ	LED

■ブレーキフルード

指定液	Honda 純正ウルトラ ブレーキフルード DOT3 または DOT4

■トランスミッションフルード

指定液	Honda 純正 ウルトラ ATF DW-1	3.5 ℓ (交換時)

■ツインモーターユニットフルード

指定液	Honda 純正ウルトラ ATF DW-1	
規定量	オイル交換時	2.42 ℓ

■エンジンオイル

推奨	・Honda ULTRA LEO※1 ・Honda ULTRA LTD ・Honda ULTRA MILD ・API SM 以上 0W-20, 0W-30, 5W-30, 10W-30	
規定量	オイル交換時	4.0 ℓ
	オイル、オイルフィルター同時交換時	4.3 ℓ

※1 ： 最も省燃費性に優れたオイルです。

■冷却水

指定液	Honda 純正ウルトラ e クーラント
規定濃度	50%
規定量	7.86 ℓ (交換時：リザーブタンク 0.85 ℓ 含む)

■パワードライブユニット冷却水

指定液	Honda 純正ウルトラ e クーラント
指定濃度	50%
規定量	1.23 ℓ (交換時：リザーブタンク 0.11 ℓ 含む)

■タイヤ

サイズ	245/40R19 94Y	
空気圧 (kPa[kgf/cm^2])	前輪	250 (2.5)
	後輪	250 (2.5)
リムサイズ	19X8J	

数字

12Vバッテリー充電警告灯 69, 425
7速マニュアルシフトモード 221
7速マニュアルシフトモード表示 114
7速マニュアルシフトモード表示灯 80

A

A/C(エアコン) 193
ABS(アンチロックブレーキシステム) 324
ABS警告灯 73, 324
ACC(アダプティブクルーズコントロール)
ACC警告灯 72
ACC表示灯 81

C

CMBS(衝突軽減ブレーキ) 240
CMBS警告灯 75

E

EPS警告灯 74, 428
ETC車載器 1

H

Hondaインターナビシステム ..... 別冊
Hondaスマートキー 119, 120, 121
Hondaスマートキーシステム警告灯 71
Hondaスマートキー持ち去り警告 148
POWERスイッチ 146
電池交換のしかた 378
Hondaスマートキーシステム警告灯 71

I

ISOFIX/i-Size チャイルドシート 53, 59

L

LKAS(車線維持支援システム) 271
LKAS警告灯 72
LKAS表示灯 81

M

M(7速マニュアルシフトモード)
M 表示 114
M 表示灯 80
MIST 156

P

PGM-FI警告灯 69, 426
POWERスイッチ 146

R

READY表示灯 82

S

SH-AWD駆動力配分表示 116
SPORT HYBRID SH-AWD (Super Handling All Wheel Drive) 5
SPORTモードスイッチ 223
SPORTモード表示灯 82
SRSエアバッグ 36
エアバッグシステム警告灯 45, 73

V

VSA(ビークルスタビリティアシスト) 226
VSA OFF警告灯 73
VSA OFFスイッチ 227
VSA警告灯 73

W

W(ワット数) 445

ア

アクセサリー 387
アクセサリーソケット 182
アクセサリーライト 367
アジャイルハンドリングアシストシステム 228
アダプティブクルーズコントロール(ACC)
ACC警告灯 72
ACC表示灯 81

安全に関する表示 23
安全のための確認事項 27
アンチロックブレーキシステム(ABS) 324
ABS警告灯 73, 324

イ

一酸化炭素の危険性 64
イモビライザーシステム 138
イモビライザーシステム表示灯 80
イルミネーションコントロール 159
インフォメーション表示灯 81

ウ

ウィンカースイッチ(方向指示器) 149
ウィンドーの開閉 141
ウィンドウォッシャー
ウィンドウォッシャー液の補給 366
ウィンドウォッシャースイッチ 156
ウェアインジケーター 374
運転
シフト操作 217
パワーシステムの起動 210
ブレーキ操作 318

エ

エアクリーナーエレメント 445
エアコン 192, 380
エアクリーンフィルター 380
エアコンの使いかた 193
後席エアコン 201, 203
窓の曇りや霜の取りかた 202
モード切り換えスイッチ 193
エアバッグ 36
SRSエアバッグ 36
運転席ニーエアバッグ 39
エアバッグシステム警告灯 45, 73
エアバッグシステム故障診断記録装置 23
エアバッグのお手入れ 45
サイドエアバッグ 41
サイドカーテンエアバッグ 43
エアバッグシステム故障診断記録装置 23
エマージェンシーストップシグナル 326
エンジンオイル 365, 445
推奨エンジンオイル 365, 445
油圧警告灯 69, 425
エンジンの始動
ジャンプスタート 420
エンジンルーム内のメンテナンス 362
ウィンドウォッシャー液の補給 366
エンジンルームカバーの取り外し 364
エンジンルーム内のメンテナンス項目 ... 362
推奨エンジンオイル 365, 445
ボンネットを開ける 363
冷却水の点検と補給 424
エンジン冷却水 445

オ

オートライトコントロール 150
追越合図(パッシング) 150
応急修理剤(タイヤパンク) 391
オーディオ装置 206
オートエアコン 193
オートハイビーム 153
オートハイビーム表示灯 82
オートマチックブレーキホールド 321
オートマチックブレーキホールド
システム表示灯 82
オートマチックブレーキホールド表示灯 .. 82
オートワイパー 157
オーバーヒート 423
オドメーター 103, 105
**オンデマンド・マルチユース・
ディスプレイ** 194
温度センサー 108

カ

カーゴフック 185
外気温表示 103, 108
鍵(かぎ) 119
ガソリン 355, 445

キ

キー
Hondaスマートキー 119, 120, 121
キー閉じ込み防止装置 127
キーナンバータグ 120
キーの種類と機能 119
キーレスエントリー 125
後席ドアが開かない 21
電池交換のしかた 378
ドアが開かない 21
内蔵キー 119
キー閉じ込み防止装置 127
キーナンバータグ 120
キーレスエントリー 125
電池交換のしかた 378
キックダウン 216
給油 355, 443
給油のしかた 356
携行缶から給油するとき 443
指定燃料 355, 445
燃料計 101
燃料残量警告灯 72

ク

空気圧 445
駆動力配分表示 115
グラブレール 3
クリープ現象 216
車の改造 388
グローブボックス 176
バレット機能 177

ケ

経過時間表示 103, 106
計器 65
警告灯 66
12Vバッテリー充電警告灯 69, 425
ABS警告灯 73, 324
ACC警告灯 72
CMBS警告灯 75
EPS警告灯 74, 428
Hondaスマートキーシステム警告灯 71
LKAS警告灯 72
PGM-FI警告灯 69, 426
VSA OFF警告灯 73
VSA警告灯 73
エアバッグシステム警告灯 45, 73
シートベルト非着用警告灯 71
電子制御パーキングブレーキシステム警告灯 429
トランスミッション警告灯 431
燃料残量警告灯 72
パワーシステム警告灯 69
ブレーキ警告灯（レッド） 66, 427
ブレーキシステム警告灯（オレンジ） 67
油圧警告灯 69, 425
路外逸脱抑制機能警告灯 77
けん引 440

コ

交換
後退灯電球 368
後部側方灯電球 368
後面方向指示器/後面非常点滅表示灯電球 368
車外ドアハンドルランプ電球 368
車幅灯電球 367
制動灯/尾灯電球 368
前面方向指示器/前面非常点滅表示灯電球 367
側面方向指示器/側面非常点滅表示灯電球 367
ハイマウントストップランプ電球 368
バニティミラー照明灯電球 369
番号灯電球 368
尾灯電球 368
フォグライト電球 367
フロントサイドマーカーライト電球 367
ヘッドライト電球 367
ワイパーブレードラバー 370
工具 390
交差点案内表示 107, 114
高水温警告灯 74
後席エアコン 201, 203
航続可能距離表示 103, 106

後退出庫サポート 329
後退灯 368
高電圧バッテリー 235
高電圧バッテリーの特性 235
高電圧バッテリー残量計 102
後部側方灯 368
後面方向指示器/後面非常点滅表示灯 368
コートフック 183
誤発進抑制機能 248
コンソール 179
コンパス表示 107, 114

サ

サービス診断記録装置 23
データの開示について 24
サイドエアバッグ 41
サイドカーテンエアバッグ 43
サングラスボックス 184
サンシェード 187
電動リヤサンシェード 187
リヤドアサンシェード 188
サンバイザー 3
サンルーフの開閉 144

シ

シートの調節
アームレスト 173
フロントシート 168
ヘッドレスト 171
メモリーボタン 163
シートヒーター 190
フロントシートヒーター/ベンチレーション 190
リヤシートヒーター(左右席) 191
シートベルト 28
E-プリテンショナー 31
シートベルトの着用 32
シートベルトの点検 35
シートベルト非着用警告灯 71
シートベルトプリテンショナー 30
シートベルトリマインダー 29
妊娠中のかたのシートベルト着用のしかた 34
時刻の設定 118
室内装備品 176
室内灯 174
指定燃料 445
自動格納/展開ドアミラー 167
シフトインジケーター 79, 114
シフトスイッチ 222
シフト操作 217
シフトポジション表示灯 79
車外ドアハンドルランプ 368
車外の清掃 384
車線維持支援システム(LKAS) 271
ジャッキ 414
ジャッキハンドル(ホイールナットレンチ) 414
ジャッキハンドルバー 414
車内の清掃 382
車幅灯 367
車両接近通報装置 225
ジャンプスタート 420
渋滞追従機能付ACC(アダプティブクルーズコントロール) 257
渋滞追従機能付ACC警告灯(オレンジ) 72
渋滞追従機能付ACC表示灯(グリーン) 81
渋滞追従機能付ACC(アダプティブクルーズコントロール)/LKAS表示 106, 114
収納スペース 186
瞬間燃費表示 103, 105
ショートカット 199
後席エアコン 201
前席エアコン 200
仕様 445
衝突軽減ブレーキ(CMBS) 240
CMBS警告灯 75
ショルダーアンカー 34

ス

スイッチ
SPORTモードスイッチ 223
オートマチックブレーキホールドスイッチ 321

パーキングブレーキスイッチ..... 318
スイッチ操作
イルミネーションコントロール..... 159
ヒーテッドドアミラースイッチ..... 161
フォグライトスイッチ..... 152
方向指示器(ウィンカー)スイッチ..... 149
リヤデフロスタースイッチ..... 161
ワイパー/ウォッシャースイッチ..... 156
ステアリング..... 164
ステアリングヒーター..... 189
スノータイヤ..... 377
スパークプラグ..... 445
スピードメーター..... 101, 114
スリーアクセスコンソール..... 179

セ

清掃..... 382
制動灯..... 368
セキュリティシステム..... 138
イモビライザーシステム..... 138
セキュリティアラームシステム..... 138
セキュリティアラームシステム作動表示灯..... 81
セレクトポジション..... 217
先行車発進お知らせ機能..... 304
センターポケット..... 180
前面方向指示器/ 前面非常点滅表示灯..... 367

ソ

側面方向指示器/側面非常点滅表示灯..... 367

タ

タイヤ..... 373
TPMS..... 233
ウェアインジケーター..... 374
空気圧警報システム空気圧モニター..... 107
空気圧警報システム警告灯..... 76, 430
指定空気圧..... 445
タイヤの点検..... 373
タイヤのローテーション..... 376
タイヤパンク応急修理キット..... 391
冬期のタイヤ..... 377
パンク..... 391
タイヤ空気圧警報システム(TPMS)..... 233
タイヤチェーン..... 377
タコメーター..... 101, 114

チ

チェーン..... 377
チャイルドシート..... 49
ジュニアシート..... 63
乳児のチャイルドシート..... 50
幼児のチャイルドシート..... 51
チャイルドプルーフ..... 130
駐停車操作..... 327
超音波センサー..... 140

テ

停止表示板入れ..... 180
低水温表示灯..... 80
データの開示について..... 24
デフロスター
リヤデフロスタースイッチ..... 161
点火プラグ..... 445
電子制御パーキングブレーキ..... 318
電子制御パーキングブレーキシステム警告灯..... 68, 429
電子制御ブレーキアシスト..... 325
電池交換..... 378
電動リヤサンシェード..... 187

ト

ドアの施錠と解錠
Hondaスマートキー..... 119, 120, 121
キー閉じ込み防止装置..... 127
キーナンバータグ..... 120
キーの種類と機能..... 119
キーレスエントリー..... 125
後席ドアが開かない..... 21
車外でのドアの施錠/解錠..... 122
車内での施錠/解錠..... 128
チャイルドプルーフ..... 130
ドアが開かない..... 21

ドアミラー 166
ドアミラーウィンカー 4
冬期のタイヤ 377
スノータイヤ 377
タイヤチェーン 377
時計 118
トップテザーアンカレッジ 60
トップテザーストラップ 60
ドライビングポジションシステム 162
トラフィックジャムアシスト(渋滞運転支援機能) 282
トラブルシューティング
アクセルペダルを踏んでもパーキングブレーキが自動で解除できない 22
運転席ドアを開けるとブザーが鳴る 21
オーバーヒートした 423
警告灯が点灯/点滅した 425
けん引してもらいたい 440
後席ドアが開かない 21
ジャンプスタートしたい 420
走行するとブザーが鳴る 21
ドアが開かない 21
パーキングブレーキスイッチを押してもパーキングブレーキが解除できない 22
パワーシステムが起動しない 416
パンクした 391
ヒューズが切れた 432
ブレーキを踏むと音がする 22
ブレーキを踏むと振動する 21
トランク
トランクオープナー 133
トランクが開かないとき 442
トランクの開閉 132
パワートランク 135
トランスミッション警告灯 70, 431
トランスミッションフルード 445
トリップメーター 103, 105
ドリンクホルダー 181

ナ

内蔵キー 119, 120

ニ

ニーエアバッグ 39

ネ

燃料 355, 445
燃料計 101
燃料残量警告灯 72

ハ

パーキングセンサーシステム 333
排気ガスの危険性 64
ハイビーム 150
電球の交換 367
ハイビーム表示灯 79
ハイマウントストップランプ 368
ハザードスイッチ ..... **表紙ウラ**
発炎筒 390
パッシング 150
バッテリー
12Vバッテリー充電警告灯 69, 425
高電圧バッテリー 235
ジャンプスタート 420
容量 445
発話スイッチ 1
バニティミラー 3
バニティミラー照明灯 369
バレット機能 177
パワーウィンドーの開閉 141
パワーシステム警告灯 69
パワーシステムの起動 210
パワーシステムが起動しない 416
パワートランク 135
パワーモード 146
パワーモード警告ブザー 147
パンク 391
番号灯 368
ハンドル 164
ハンドル位置調節スイッチ 164

ヒ

ヒーテッドドアミラー 161
非常点滅表示灯スイッチ ..... **表紙ウラ**
尾灯 368
ヒューズ
各ヒューズの装備と
容量 432, 433, 436, 437, 438
ヒューズの設置場所 432
ヒューズの点検と交換 439
標識認識機能 308
標識認識機能表示 106, 115
表示灯 79
ACC表示灯 81
LKAS表示灯 81
READY表示灯 82
イモビライザーシステム表示灯 80
インフォメーション表示灯 81
シフトポジション表示灯 79
セキュリティアラームシステム作動
表示灯 81
ハイビーム表示灯 79
フォグライト点灯表示灯 79
方向指示器表示灯 79
ライト点灯表示灯 79
表示灯(オートハイビーム表示灯) 82

フ

ブースターケーブル 420
フォグライト 152
電球の交換 367
フォグライト点灯表示灯 79
ブザー
運転席ドアを開けるとブザーが鳴る 21
走行するとブザーが鳴る 21
フューエルリッド
フューエルリッドが解錠できないとき ... 441
フューエルリッドの開けかた 356
フューエルリッドの開けかた 356
ブラインドスポットインフォメーション 230
ブラインドスポットインフォメーション
警告灯 78
ブレーキシステム 318
ABS(アンチロックブレーキシステム) ... 324
アクセルペダルを踏んでもパーキング
ブレーキが自動で解除できない 22
エマージェンシーストップシグナル 326
オートマチックブレーキホールド 321
電子制御パーキングブレーキ 318
電子制御ブレーキアシスト 325
パーキングブレーキスイッチを押しても
パーキングブレーキが解除できない 22
フットブレーキ 323
ブレーキ警告灯(レッド) 66, 427
ブレーキシステム警告灯(オレンジ) 67
ブレーキを踏むと音がする 22
ブレーキを踏むと振動する 21
ブレーキフルード 445
ブレーキ警告灯(レッド) 66, 427
ブレーキシステム警告灯(オレンジ) 67
フロントガラス熱線スイッチ 161
フロントサイドマーカーライト 367
フロントシートヒーター 190
フロントシート 168
フロントシートヒーター/
ベンチレーション 190
フロントシートヘッドレスト 168, 171
フロントパワーシート 168
フロントセンサーカメラ 315

ヘ

平均車速表示 103, 106
平均燃費表示 103
平均燃費履歴表示 103
ヘッドアップディスプレイ 109, 160
表示内容の切替 112
ヘッドアップディスプレイ表示選択 107
ヘッドライト
追越合図(パッシング) 150
電球の交換 367
ハイビーム 150
ハイビーム表示灯 79
ライトオフ 150
ライト点灯表示灯 79

ロービーム 150
ヘッドライト(ライトオフ) 150
ヘッドライトオートオフ機能 151
ヘッドレスト
フロントシート 168, 171
リヤシート 171, 172
ベンチレーション 190

ホ

ホーンスイッチ 1
ホイールサイズ 445
ホイールナットレンチ（ジャッキハンドル） 414
方向指示器(ウィンカースイッチ) 149
方向指示器表示灯 79
歩行者事故低減ステアリング 251
ポップアップフードシステム 46
ホンダセンシング 18

マ

マスタードアロックスイッチ 129
マップランプ 175
マルチインフォメーションディスプレイ 103
表示の切り換えかた 103
メッセージ 83
マルチビューカメラシステム 1, 337

ミ

ミラー 165
ドアミラー 166
バニティミラー 3
ルームミラー 165

メ

メーター 11, 101
高電圧バッテリー残量計 102
スピードメーター 101
燃料計 101
マルチインフォメーションディスプレイ 103
メモリーボタン 163
メンテナンス 358
Hondaスマートキー 378
エアコンのお手入れ 380
エンジンルーム内のメンテナンス 362
清掃 382
タイヤの点検と整備 373
メンテナンスに関する注意事項 361
メンテナンスを安全に行うために 360
ライト類の点検と整備 367
ワイパーブレードラバーの点検と整備 370

モ

モード切り換え(エアコン) 193

ユ

油圧警告灯 69, 425

ラ

ライトスイッチ 150
追越合図(パッシング) 150
ハイビーム 150
ハイビームサポートシステム 153
ハイビーム表示灯 79
フォグライト 152
ライトオフ 150
ライト点灯表示灯 79
ロービーム 150
ライトスイッチ(ライトオフ) 150
ライト類の点検と整備 367
後退灯電球 368
後部側方灯電球 368
後面方向指示器/後面非常点滅表示灯電球 368
車外ドアハンドルランプ電球 368
車幅灯電球 367
制動灯/尾灯電球 368
前面方向指示器/前面非常点滅表示灯電球 367
側面方向指示器/側面非常点滅表示灯電球 367
ハイマウントストップランプ電球 368
バニティミラー照明灯電球 369

番号灯電球 368
尾灯電球 368
フォグライト電球 367
フロントサイドマーカーライト電球 367
ヘッドライト電球 367
ラジエーター 423

リ

リアクティブフォースペダル 224
リザーブタンク 424
リバース連動ドアミラー 167
リムサイズ 445
リヤアームレスト内蔵コントロールパネル 203
リヤサンシェード 187
電動サンシェード 187
ドアサンシェード 188
リヤシートアームレスト 173
リヤシートヒーター 191
リヤデフロスタースイッチ 161

ル

ルームミラー 165

レ

冷却水 424, 445
オーバーヒート 423
補給 424
レーダーセンサー 317
レーンキープアシストシステム(LKAS)
LKAS警告灯 72
LKAS表示灯 81

ロ

ロアアンカレッジ 59
ロービーム 150
電球の交換 367
路外逸脱抑制機能 297
路外逸脱抑制機能警告灯 77

ワ

ワイパー/ウォッシャー 156
ワイパーブレードラバー 370

お車についてのお問い合わせ、ご相談は、まずHonda販売店にお気軽にご相談ください。
下記アドレスより最新のHonda販売店を検索することが可能です。
Hondaホームページ　http://www.honda.co.jp/
（Hondaホームページにある検索ボックスに『販売店』と入力してください）

携帯電話からは、携帯電話用Hondaホームページをご覧ください。
http://dream.honda.co.jp/dealerlocator/
※：QRコード読み取り機能付きの携帯電話をお持ちの場合は、右のQRコードをご利用ください。
ご利用にあたっては、お持ちの携帯電話取扱説明書をご確認ください。
QRコードは（株）デンソーウェーブの登録商標です。

お問い合わせ、ご相談は、全国共通のフリーダイヤルで下記のお客様相談センターでもお受け致します。

本田技研工業株式会社　お客様相談センター

フリーダイヤル　0120-112010（イイフレアイオ）

受付時間　9:00～12:00　13:00～17:00
〒351-0188　埼玉県和光市本町8ー1

所在地、電話番号などが変更になることがありますのでご了承ください。

お車に関してお問い合わせいただく際は、お客様へ正確、迅速に対応させていただくために、あらかじめ、お手元にお車の車検証をご準備いただき、下記の事項をご確認のうえ、ご相談ください。

① 車検証記載事項：車両型式、車台番号、エンジン型式、登録番号、登録年月日
② 車種名、タイプ名、走行距離　③ ご購入年月日　④ 販売店名